

2026 年
(令和 8 年度)

医学部医学科要覧

教育目的・履修要項・シラバスなど



大阪公立大学医学部医学科
大阪市立大学医学部医学科

目次

I. カリキュラムマップ

1. カリキュラムマップ、マイルストーン、ロードマップ-----
2. モデル・コア・カリキュラム（平成28年度、令和4年度改訂版）-----
3. 専門科目ナンバリングコード-----

II. 履修要項

1. 学科等の名称、卒業時の学位、入学定員-----
2. 学年・学期・授業期間等-----
3. 授業科目の種類-----
4. 授業科目の単位、単位制-----
5. 履修課程と履修上の注意-----
6. 科目ナンバリングのルール-----
7. 履修登録-----
8. 成績評価・試験-----
9. 成績評語とGPA制度・CAP制-----
10. 既修得単位等の認定-----
11. 定期試験受験心得-----
12. 成績評価についての異議申立-----
13. 休講・欠席について-----
14. 副専攻-----
15. 他大学との単位互換制度・単位互換科目-----
16. 学籍について-----
17. 修学上の配慮・支援について-----
18. 教育学習支援基盤「ていら・みす」での学修記録の記入-----

III. 履修規程

1. 学科目-----
2. 履修・評価-----
3. 再試験-----
4. 進級・留年-----
5. 在学年限-----
6. 卒業の認定-----

IV. 授業時間割表-----

V. 専門科目シラバス

第1学年科目

1. 医学のための統計学-----
2. 医療倫理学-----
3. 医学序論-----
4. 遺伝と遺伝子-----
5. 細胞生物学-----
6. 細胞と組織の基本構造と機能-----
7. 発生学-----
8. メディカル・データ・サイエンス1-----
9. 医学研究推進コース1-----
10. 物理学の臨床医学への応用-----
11. 早期臨床実習1-----
12. 早期臨床医学入門（早期診療所実習）-----

第1・4学年科目

1. 心肺蘇生法実習-----

第2学年科目

1. 生体物質代謝・生化学-----
2. 遺伝医学-----
3. 医学英語論文の読み方-----
4. 運動器系-----
5. 血液・造血器系-----
6. 循環器系-----
7. 神経解剖-----
8. 脳機能系-----
9. 呼吸器系-----
10. 免疫系-----
11. 消化器系-----
12. 感覚器・皮膚-----
13. 内分泌・代謝-----
14. 腎・泌尿器・生殖器-----
15. 医学研究推進コース2(基礎コース、蛋白質・酵素コース、遺伝子コース)-----
16. 機能系実習-----
17. 肉眼解剖学（マクロ）実習-----

18. 早期臨床実習2 (Second Exposure) -----
19. コミュニケーション -----

第3学年科目

1. 生体と薬物-----
2. 原因と病態1 -----
3. 原因と病態2 -----
4. 細菌・真菌感染症-----
5. ウイルス感染症 -----
6. メディカル・データ・サイエンス2-----
7. 産業医学1 -----
8. 公衆衛生学1 -----
9. 原虫・寄生虫感染症-----
10. 医学英語 -----
11. 医学研究推進コース3-----
12. 早期臨床実習3(Third Experience) -----

第4学年科目

1. ユニット型臨床臓器別講義-----
2. 臨床スターター実習 (OSCE) -----
3. プライマリケア医学 -----
4. 漢方医学入門-----
5. 産業医学2 -----
6. 公衆衛生学2 -----
7. 法医学 -----

第5学年科目

1. ユニット型CC-----
2. 外来型CC-----

大阪市立大学医学部医学科 (I~IIIについては、Moodleに掲載の市大生用を確認ください。)

第6学年科目

1. 選択型CC-----
2. 保健所・保健福祉センター実習-----

医学部は 1944 年 4 月に設立された大阪市立医学専門学校から始まり、大阪市立医科大学、大阪市立大学医学部を経て、大阪公立大学医学部となり、現在大阪市にある唯一の大学医学部です。最近の医学医療のめざましい進歩に対応するために、阿倍野キャンパスの整備・充実が行われ、1998 年の新学舎の完成とともに、医学部の専門教育に対する施設、設備が一新されました。基礎医学部門に関連した実習設備、臨床実習前に模擬的に医療体験、実習を行うスキルシミュレーションセンター(SSC)などは、全国でトップレベルに達しています。

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

ディプロマ・ポリシー（学位の授与基準）

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

医学部学舎玄関前には三女神像が並んでいます。この女神像は「智・仁・勇」の三つの基本理念を示しています。すなわち、本を抱く「智」の女神のように医学に対する旺盛な向学心を持ち、薬壺を持つ「仁」の女神のように人への尊厳を有し、月桂樹を手にする「勇」の女神のように医療を実践するための決断の勇気を持つ医療人を育成することが、本学の使命です。この「智・仁・勇」を有する医療人を育成するという使命を果たすために、大阪公立大学医学部卒業時に獲得すべき実践的能力を、以下の通りコンピテンスとして定めました。このコンピテンスを修得するものに、学士の学位が授与されます。

◆大阪公立大学医学部医学科コンピテンス

1	プロフェッショナリズム	(智・仁・勇)
2	医学知識と問題対応能力	(智・仁・勇)
3	診療技能と患者ケア	(智・仁・勇)
4	コミュニケーション能力	(智・仁・勇)
5	チーム医療の実践	(仁)
6	医療の質と安全の管理	(仁)
7	社会における医療の実践と大阪住民の幸福に貢献する力	(智・仁・勇)
8	科学的探究	(智)
9	生涯にわたって共に学ぶ姿勢	(智・仁・勇)

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

ディプロマ・ポリシーで定めたコンピテンスを獲得するために、医学部医学科では基幹教育・基礎医学教育（主に 1～3 年生）、社会医学教育ならびに臨床医学教育（主に 4～6 年生）を行っています。将来、「智・仁・勇」を備えた医師になることを自覚させるために、入学後早期から、医療現場に触れさせる機会を設けています（早期臨床実習）。低学年から臨床を意識した基礎・臨床統合教育を展開し、各教室の教員が連携して取り組みます。学年・科目を横断した一貫教育科目群を「医学研究推進コース」、「医療プロフェッショナルコース」として位置付けています。「医学研究推進コース」では、問題の本質を見抜き、自分で考え新たな知を創造できる人材を育成するため、第一線の研究者による最先端の研究内容に触れる機会を設け、基礎研究、臨床研究に必要な手法を学び、研究室配属では学生自らが研究に取り組みます。また、様々な患者と向き合いチーム医療を実践するためには豊かな人間力が必要です。「医療プロフェッショナルコース」では、倫理観、利他主義、コミュニケーション、行動科学、医療の質・安全について継続的に学んでいきます。4～6 年生には Clinical Clerkship (CC) を実施し、学生が医療チームの一員として実際の診療に参加し、より実践的な臨床能力を身に付け、科学的思考に基づいた判断力・問題解決能力を備えた医師を育成する事を目的としています。

医学部医学科で学ぶ学生の学修成果を適切に把握するため、「大阪公立大学における教育の内部質保証に関する方針」に従って、アセスメントポリシーとアセスメントリストを定め、複数の評価指標・方法を用いて定期的に、本学科の教育カリキュラムの学修成果の評価を行います。また各科目の学修成果は、科目の到達目標の達成状況を基準にした成績評価ガイドラインを定め、それに則した成績評価を行うことで評価することとし、科目の到達目標および評価方法・評価基準はシラバスに明記します。

（基幹教育）

基幹教育は将来、社会人として役立つ素養を身につける（プロフェッショナリズム【智・仁・勇】）とともに、専門教育に対応できる下地を学ぶものと位置付けています。

（基礎医学教育）

基礎医学では、まず人体の構造と機能のしくみを分子レベルから個体レベルまで総合的に学びます。次に病気の原因、本態やその機序を系統的に学習します（医学知識と問題対応能力【智・仁・勇】）。また、細菌、ウイルス、医動物などの病原性、その感染機序、ならびに生体の免疫機構を学び、さらに薬物療法の基礎を学びます（医学知識と問題対応能力【智・仁・勇】）。基礎・臨床統合教育を展開し、疾患を基礎的な概念から疫学・症候・診断・治療まで統合的に学習することができます。

（社会医学教育）

社会医学では、健康事象の地域的・経年的分布、生活環境要因の健康への影響、地域・国・世界の保健システムとその役割（生涯にわたって共に学ぶ姿勢【智・仁・勇】）、および法的問題と関わる心身の変化、反応、病的現象や障害などを学習します（医学知識と問題対応能力【智・仁・勇】）。さらに将来、医師として必要な幅広い知識と教養を身につけます（プロフェッショナリズム【智・仁・勇】）。

医学研究推進コース3は3年生の終わりの約3ヶ月、基礎・社会医学系教室や研究室に学生を配属して実施され、教員の指導のもとに、特定のテーマについて学生が自ら研究します（科学的探求【智】）。

（臨床医学教育）

臨床系の臓器別講義は4年生から始まります（医学知識と問題対応能力【智・仁・勇】）。ひとつの臓器を系統的に学べるよう基礎、内科、外科等にとらわれない統合型の授業、教え過ぎず学生が主体的に取り組む能動学習、問題解決型講義を積極的に導入しています。

臨床実習に必要とされる技能は、学生同士のロールプレイや聴診、エコーなどの豊富なシミュレーション教育を用いて学習し（診療技能と患者ケア【智・仁・勇】）、共用試験 CBT(知識を問う試験)、及び OSCE(態度、技能を問う試験)を受験します。

試験合格後、外来臨床実習（外来型 CC）に進みます（コミュニケーション能力【智・仁・勇】）。5年生では、全ての診療科を5つのユニットに分け、ローテートする参加型臨床実習（ユニット型 CC）を行います（診療技能と患者ケア【智・仁・勇】）。ユニット型 CC では、臨床研修医になった時に、少しでも臨床を円滑に実践できるように講義時間を最小限に留めて、実習時間を増やしています（コミュニケーション能力【智・仁・勇】）。診療技能や態度は mini CEX などの評価を用いて、適切にフィードバックを行い臨床現場で必要となる対応能力を養います。

6年生になると、さらに幅広い臨床技能を修得し、医療現場での経験を充実させるために、医学部附属病院、ならびに教育関連病院での選択型 CC があります（社会における医療の実践と大阪住民の幸福に貢献する力【智・仁・勇】）。選択型 CC は4週間 x5 クール（20 週間）実施しています。（生涯にわたって共に学ぶ姿勢【智・仁・勇】）。選択型 CC における教育関連病院および診療科の選択と調整に関しては、学生の自主性を尊重しています（プロフェッショナリズム【智・仁・勇】）。

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

医学科のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの基礎となっている、「智・仁・勇」の三つの基本理念を理解する素地を有する下記の学生を求めています。

- ・智は医学を推進する旺盛な向学心と知識を意味し、これらを有している人
- ・仁は人への博愛の心を意味し、人を包み込む広い心を有している人
- ・勇は医療を実践する決断の勇気を意味し、積極的な行動を起こせる人

これらの基本理念を有し、自ら学習課題を設定し、その課題に向かって勉学に励める人の入学を希望します。

<入学者選抜の基本方針>

【一般選抜（前期日程）】入学者選抜の基本方針 > 【一般入試（前期日程のみ）】

個別学力検査（数学・理科・外国語）では、医学科の学修に十分対応できる知識に基づいた思考力・判断力・表現力を確認します。さらに、個別面接を行い、「智・仁・勇」の基本理念を有する医師・医学研究者となりうる資質について確認します。

【学校推薦型選抜】

地域医療枠への入学を希望する人を対象に行います。すなわち大阪府出身者*で高等学校長の推薦を受けた人に対し、出願書類、面接・小論文等で、将来、大阪の医療・医学に貢献しようとする志と「智・仁・勇」の基本理念を有する医師・医学研究者となりうる資質について確認します。*大阪府出身者の定義については、募集要項で確認してください。

【総合型選抜】

医学・生命科学に深い関心を持つ人を対象に行います。出願書類、面接・口述試験等で、真理への強い探究心・高いコミュニケーション能力と「智・仁・勇」の基本理念を有する医師・医学研究者となりうる資質について確認します。

医師国家試験受験資格

	DP①(→CP①③④) プロフェSSIONナ リズム (智・仁・勇)	DP⑨(→CP③) 生涯にわたって 共に学ぶ姿勢 (智・仁)	DP⑧(→CP③) 科学的探求 (智)	DP②(→CP②③④) 医学知識と 問題対応能力 (智・仁・勇)	DP④(→CP④) コミュニケーション 能力 (智・仁・勇)	DP⑤(→CP④) チーム医療の実践 (仁)	DP③(→CP④) 診療技能と 患者ケア (智・仁・勇)	DP⑥(→CP④) 医療の質と 安全管理 (仁)	DP⑦(→CP④) 社会における医療の 実践と大阪住民の 幸福に貢献する力 (智・仁・勇)	【想定される進路】 医師として大学・医療機 関・研究機関・行政機関 へ
6年		指導実習★		診療参加型臨床実習 卒業総合試験・Post-CC OSCE	チーム医療B★		医療安全研修(医療安全・感染対策)★	保健所・保健福祉 センター実習	【6年次】 学外の医療施設も含め たさらに実践的な臨床 実習	
5年		教育分野FD講演会★		選択型CC(クリニカル・クラークシップ)★			感染症医療人材養成実習		【5年次】 全ての診療科をロー テートする診療参加型 臨床実習	
4年				外来型CC(クリニカル・クラークシップ)★			医療安全研修(医療安全・感染対策)★		【4年次】 診療科での授業科目 を通じた、より実践 的な臨床知識・手技の取 得	
3年	基礎医学	医学研究推進コース3☆		共用試験CBT・OSCE			心肺蘇生法実習	法医学	【3年次】 疾病の原因と機序、治 療、社会と医療の関わり 等、より医療に近い 授業科目の履修	
2年		教育分野FD講演会★	産業医学1★☆/公衆衛生学1★☆	医学英語★			早期臨床実習3★	産業医学1・2 公衆衛生学1・2	【2年次】 本格的な医学教育、及 び解剖等実習の開始	
1年		早期臨床実習2★	医学研究推進コース2☆/機能系実習☆	医学英語論文の読み方★☆	肉眼解剖学(マクロ)実習		感染症医療人材養成実習		【1年次】 医学教育の第一歩と、 専門学習の下地形成	

カリキュラムポリシー	CP①(→DP①) 将来、社会人として役立つ教養を身に着けるとともに、専門教育に対応できる下地を学ぶ。 【智・仁・勇】	CP③(→DP①②⑧⑨) 健康事象の地域的・経年的分布、生活環境要因の健康への影響、地域・国・世界の保健システムとその役割、および法的問題と関わる心身の変化、反応、病的現象や障害などを学習する。さらに将来、医師として必要な幅広い知識と教養を身につける。また、特定のテーマについて学生に自ら研究させる。 【智・仁・勇】	CP②(→DP②) 人体の構造と機能の仕組みを分子レベルから個体レベルまで総合的に学ぶ。次に病気の概念、本態やその機序を系統的に学習する。また、細菌、ウイルス、医動物などの病原性、感染機序、生体の免疫機構を学び、薬物療法の基礎を学ぶ。 【智・仁・勇】	CP④(→DP①②③④⑤⑥⑦) 基本的な知識や技術、臨床実習に必要な技能を学修する。修得した知識・技術を臨床の現場で実践し、実践的な医学知識・臨床推論法、技能、態度を身に着けさせる。さらに、幅広い臨床技能を習得し、学生の自主性を尊重しつつ医療現場での経験を充実させる。 【智・仁・勇】
アドミッションポリシー	AP② 仁は人への博愛の心を意味し、人を包み込む広い心を有する人(→CP①)	AP① 智は医学を推進する旺盛な向学心と知識を意味し、これらを有している人(→CP②③)		AP③ 勇は医療を実践する決断の勇気を意味し、積極的な行動を起こせる人(→CP④)

DP:ディプロマ・ポリシー
★:医療プロフェSSIONナルコース
☆:医学研究推進コース

医学部医学科のマイルストーン

コンピテンスの領域	コンピテンスの領域	コンピテンシー	Level 1	Level 2	Level 3 (卒業レベル)	Level 4 (advance)
1. プロフェッショナリズム	1. プロフェッショナリズム 大阪公立大学医学部学生は、卒業時に医療専門職としての自己の役割を理解し、高いモラルを持って患者中心の医療を実践できる。	1) 患者および家族のニーズを認識し、患者中心の医療を提示、実践することができる。	患者の基本的権利、自己決定権について説明できる。時代や社会の変革に伴い患者・家族の意識やニーズが常に変化していることが理解できる。	学内外において他者に対して、利他的、共感的、誠実な行動をとることができる。	診療の場において、患者および家族のニーズを理解し、患者中心の医療を提示することができる。患者の精神的、身体的苦痛、プライバシーに配慮した行動をとることができる。	患者および家族のニーズを認識し、患者中心の医療を提示、実践することができる。
		2) 医療専門職として社会における自己の役割を理解し、継続的に学修することができる。	医療専門職に課せられる法的・倫理的責務について概説することができる。個人の命と健康を守る医師の役割や果たすべき職員としての継続的に入ることができ。	最新・最善の医療の提供を社会から必要とされていることを理解できる。一般的な医者のみならず専門的な知識を入手でき、問題解決型の学習を行うことができる。	医療専門職として、自らの課題を明確にし、解決のプランを審察し、解決のための行動をとることができる。	学内に限らず、学外でも知識・技術の研鑽の場を求めて行動できる。
		3) 高いモラルを持ち、届性のある行動をとることができる。	社会人としての一般常識・倫理観を身に付け行動することができる。グループ学習等において、常に同僚や関係者に対して配慮した行動をとることができる。	規則的な生活習慣、時間管理を行うことができ、他者に対して感謝と敬意を払うことができる。	社会人・医療専門職としての一般常識、法的・倫理的責務に基づき行動できる。研究倫理についても学び、それに基づいた行動ができる。	
2. 医学知識と問題対応能力	2. 医学知識と問題対応能力 大阪公立大学医学部学生は、卒業時に必要な知識を身につけ、幅広い症候、病態、疾患に対応できる。	1) 診療や研究の基礎となる基礎医学の領域の基礎的知識を修得し、応用することができる。	各器官の正常な構造・機能とその成立・維持に関わる情報伝達機構を説明できる。病気の発症と進展に関わる病因・病態生理を説明できる。	医学研究の進歩に歩みを持ち、正確かつ最新の情報を新たに取り入れ、理解し活用することができる。	一般的な診療の場面で、基礎医学の知識をもとに症状・疾患を理解し説明することができる。	最新の基礎医学領域に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図ることができる。
		2) 診療や研究の基礎となる臨床医学の領域の基礎的知識を修得し、応用することができる。	社会医学領域の基礎的知識を有し、関連する法則や理論を説明することができる。	ライフステージや生活環境に応じた健康管理と環境・生活習慣改善について説明することができる。保健統計、医療・福祉、介護の制度、人の死に対する法則について概説できる。	地域医療、地域保健の活動に参画し、その必要性を理解し、社会医学の知識を地域や公衆衛生の現場において活用することができる。	複雑な病状の患者においても、疾患の病態・病態をベースに臨床医学知識と身体診察から得られた結果を統合して、予防、診断、治療に活用できる。
		3) 診療や研究の基礎となる社会医学の領域の基礎的知識を修得し、応用することができる。	生命現象の科学、個体の反応、基本的な病因と病態、人の行動と心理に関する基礎的知識を有し、概説することができる。	生命科学、行動科学などの関連知識をもとに症状・疾患を理解、説明することができる。	一般的な診療の場面で、生命科学、行動科学などの関連知識の基礎知識を活用することができる。	生命科学、行動科学などの関連領域の知識を日々アップデートし、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。
		4) 医療の基礎である生命科学、行動科学などの関連領域の知識と原則を理解し、医療の現場で実践することができる。	1) 論理的で体系的な医療面接、身体診察を行うことができる。 2) 頻度の高い疾患に関して、適切な鑑別診断と治療戦略を立てることができる。 3) 基本的な臨床手技や緊急救命処置を安全に実践することができる。	診療に必要な病態を構成する要素を提示できる。身体所見から得られた情報を病態を導き出すことができる。 主な症候の鑑別診断リストを挙げることができる。 臨床手技を行う適応と禁忌を挙げ、基本的な手技についての実施方法を述べることができる。	模擬患者に対して医療面接、身体診察を行うことができる。包括的な身体診察を行うことができる。 提示された臨床事例に対して臨床推論、判断、治療計画の立案を行うことができる。 診療参加型臨床実習に参加する学生に必要な手技に関する学習・評価項目に記載のある診療技術を模倣的に実行することができる。	一般的な診療の場面で、系統的かつ適切な医療面接、診断仮説に基づいた身体診察を行うことができる。得られた情報から検査計画を立案できる。 一般的な診療の場面で、収集した医学情報から適切な臨床推論、問題に即した検査計画、得られた情報を統合した診断・治療計画を行うことができる。また、それらの内容を適切に記録簿に記載することができる。 一般的な診療の場面で、診療チームの一員として基本的な臨床手技や緊急救命処置に参画し、指導者の監督のもと基本的な臨床手技を実行することができる。緊急性を評価し、適切な初期対応ができる。
3. 診療技能と患者ケア	大阪公立大学医学部学生は、卒業時に患者の苦痛や不安に配慮し、診療、臨床手技を実践することができる。	1) 論理的で体系的な医療面接、身体診察を行うことができる。	診療に必要な病態を構成する要素を提示できる。身体所見から得られた情報を病態を導き出すことができる。 主な症候の鑑別診断リストを挙げることができる。	模擬患者に対して医療面接、身体診察を行うことができる。包括的な身体診察を行うことができる。 提示された臨床事例に対して臨床推論、判断、治療計画の立案を行うことができる。	一般的な診療の場面で、系統的かつ適切な医療面接、診断仮説に基づいた身体診察を行うことができる。得られた情報から検査計画を立案できる。 一般的な診療の場面で、収集した医学情報から適切な臨床推論、問題に即した検査計画、得られた情報を統合した診断・治療計画を行うことができる。また、それらの内容を適切に記録簿に記載することができる。	複雑な背景を持った患者に対しても、問題解決型の医療面接、身体診察を行うことができる。得られた情報から検査計画を立案できる。 複雑な背景を持った患者に対しても、収集した医学情報から適切な臨床推論、問題に即した検査計画、得られた情報を統合した診断・治療計画を行うことができる。 基本的な臨床手技や緊急救命処置を的確に実施することができる。また、後進を指導することができる。
		2) 頻度の高い疾患に関して、適切な鑑別診断と治療戦略を立てることができる。	社会医学領域の基礎的知識を有し、関連する法則や理論を説明することができる。	ライフステージや生活環境に応じた健康管理と環境・生活習慣改善について説明することができる。保健統計、医療・福祉、介護の制度、人の死に対する法則について概説できる。	地域医療、地域保健の活動に参画し、その必要性を理解し、社会医学の知識を地域や公衆衛生の現場において活用することができる。	生命科学、行動科学などの関連領域の知識を日々アップデートし、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。
		3) 基本的な臨床手技や緊急救命処置を安全に実践することができる。	生命現象の科学、個体の反応、基本的な病因と病態、人の行動と心理に関する基礎的知識を有し、概説することができる。	生命科学、行動科学などの関連知識をもとに症状・疾患を理解、説明することができる。	一般的な診療の場面で、生命科学、行動科学などの関連知識の基礎知識を活用することができる。	生命科学、行動科学などの関連領域の知識を日々アップデートし、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。
		4) 医療の基礎である生命科学、行動科学などの関連領域の知識と原則を理解し、医療の現場で実践することができる。	1) 論理的で体系的な医療面接、身体診察を行うことができる。 2) 頻度の高い疾患に関して、適切な鑑別診断と治療戦略を立てることができる。 3) 基本的な臨床手技や緊急救命処置を安全に実践することができる。	診療に必要な病態を構成する要素を提示できる。身体所見から得られた情報を病態を導き出すことができる。 主な症候の鑑別診断リストを挙げることができる。 臨床手技を行う適応と禁忌を挙げ、基本的な手技についての実施方法を述べることができる。	模擬患者に対して医療面接、身体診察を行うことができる。包括的な身体診察を行うことができる。 提示された臨床事例に対して臨床推論、判断、治療計画の立案を行うことができる。 診療参加型臨床実習に参加する学生に必要な手技に関する学習・評価項目に記載のある診療技術を模倣的に実行することができる。	一般的な診療の場面で、系統的かつ適切な医療面接、診断仮説に基づいた身体診察を行うことができる。得られた情報から検査計画を立案できる。 一般的な診療の場面で、収集した医学情報から適切な臨床推論、問題に即した検査計画、得られた情報を統合した診断・治療計画を行うことができる。また、それらの内容を適切に記録簿に記載することができる。 一般的な診療の場面で、診療チームの一員として基本的な臨床手技や緊急救命処置に参画し、指導者の監督のもと基本的な臨床手技を実行することができる。緊急性を評価し、適切な初期対応ができる。
4. コミュニケーション能力	大阪公立大学医学部学生は、卒業時に患者の心理・社会的背景を踏まえ、患者や家族と良好な関係性を築くことができる。	1) 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援することができる。	コミュニケーションの方法と技術の基本。コミュニケーションが態度あるいは行動に及ぼす影響について概説できる。コミュニケーションを通じて良好な人間関係を構築することができる。	模擬患者に対して、患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援することができる。	患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援することができる。一般的な診療の場面で、診療チームの一員として患者からインフォームドコンセントを得ることができる。	複雑な背景を持った患者に対しても、患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援することができる。
		2) 患者や家族の抱える問題を身体・心理・社会的側面から把握することができる。	患者と良好な関係を築くためには、患者の個別的背景を理解することが重要であること、家族の持つ価値観や社会的背景が多様であり得ること、医師が患者中心の視点に立つて行われなければならないことについて理解することができる。	模擬患者に対して、患者や家族の抱える問題を身体・心理・社会的側面から把握し、抱える問題点を抽出、整理することができる。	患者とのコミュニケーションを通じて、患者や家族の抱える問題を身体・心理・社会的側面から把握することができる。	患者とのコミュニケーションを通じて、患者や家族の抱える問題を身体・心理・社会的側面から把握することができる。問題点の抽出、改善策の提示を行うことができる。
		3) 適切な症例プレゼンテーションを行える。	適切なプレゼンテーションの要点項目、基本について説明できる。	授業やワークショップ、実習などさまざまな場面で定型的なプレゼンテーションと質疑応答を行うことができる。	臨床現場において、担当患者の申し送り、適切な症例プレゼンテーションらに質疑応答を行うことができる。	学外においても、適切な症例プレゼンテーションと質疑応答を行うことができる。
		4) 患者の状態について、報告・連絡・相談ができる。	患者の状態について、報告・連絡・相談する必要性を理解できる。日常生活の中で、関係者に適切な報告・連絡、相談を行うことができる。	模擬患者の状態について、報告・連絡、相談すべき内容を説明できる。患者情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。	一般的な診療の場面で、診療チームの一員として患者の状態について、報告・連絡、相談することができる。正しい診療録を記載することができる。	複雑な背景を持った患者に対しても、患者の状態について、報告・連絡・相談をすることができる。正しい診療録を記載することができる。
5. チーム医療の実践	大阪公立大学医学部学生は、卒業時に医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人の役割を理解し、連携できる。	1) 医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。	チーム医療の意義、医療チームの構成や各構成員(医師、歯科医師、薬剤師、看護師、その他の医療職)の役割分担と連携・責任体制について説明することができる。	医療現場において、医療専門職間の連携の重要性、各医療職の役割、医師の役割について理解し説明することができる。	病棟、保険所、介護施設等の現場で、診療や業務チームに加わり、他のメンバーと情報共有し、連携を図ることができる。多職種チームで協働することができる。	医療の課題を設定し目標を明確化したうえで、多職種のチームで協働することができる。必要な職種を揃えてチームを結成することができる。
		2) チームの各構成員と情報を共有し、連携を図る。	医療の質と患者安全の重要性を理解する。	医療の質と患者安全確保のための基礎知識を説明できる。一般的な医療事故の発生メカニズムと防止策を説明できる。	診療や業務の場面で、患者の安全確保に基づいた行動および医療安全上の問題を報告・連絡・相談できる。	病棟、保険所、介護施設等の現場で、診療や業務チームに加わり、他のメンバーと情報共有し、連携を図ることができる。多職種チームで協働することができる。
6. 医療の質と安全の管理	大阪公立大学医学部学生は、卒業時に患者にとって良質かつ安全な医療を理解し、医療従事者の安全と健康に配慮できる。	1) 医療の質と患者安全の重要性を理解する。	医療の質と患者安全確保のための基礎知識を説明できる。一般的な医療事故の発生メカニズムと防止策を説明できる。	診療や業務の場面で、患者の安全確保に基づいた行動および医療安全上の問題を報告・連絡・相談できる。	医療現場における医療事故等の予防と事後の対応について説明することができる。医療安全管理者のチームに参加し意見を述べることができる。	医療の課題を設定し目標を明確化したうえで、多職種のチームで協働することができる。必要な職種を揃えてチームを結成することができる。
		2) 医療事故等の予防と事後の対応を知る。	労働者の三管理「作業環境管理」「作業管理」「健康管理」について説明することができる。	医療従事者における具体的な危険性を判別できる。標準予防策の必要性、針刺し事故等の対処方法を説明できる。	標準予防策を実践できる。一般的な診療の場面で、医療従事者の安全と健康管理を理解し、自らの安全と健康管理に努めることができる。	医療現場における労働環境の改善の必要性を説明できる。医療の質の向上に努めることができる。
		3) 医療従事者の安全と健康管理(予防接種や計画的事故への対応を含む。)を理解し、自らの安全と健康管理に努める。	1) 保健医療に関する法規、制度の目的と仕組みを理解する。	地域における保健・医療・福祉・介護の分野間および多職種間の連携の必要性を説明できる。	保健所、保健福祉センター等の現場に参加し、具体的な地域保健・福祉策について理解、議論することができる。	保健所、保健福祉センター等の現場に参加し、具体的な地域保健・福祉策について理解、議論することができる。
7. 社会における医療の実践と大卒生民の幸福に貢献する力	大阪公立大学医学部学生は、卒業時に医療人として求められる社会的役割を理解し、地域医療、大卒の医療に貢献する力を獲得する。	1) 保健医療に関する法規、制度の目的と仕組みを理解する。	地域における保健・医療・福祉・介護の分野間および多職種間の連携の必要性を説明できる。	保健所、保健福祉センター等の現場に参加し、具体的な地域保健・福祉策について理解、議論することができる。	保健所、保健福祉センター等の現場に参加し、具体的な地域保健・福祉策について理解、議論することができる。	
		2) 大阪の地域医療に携わり、指導/監督のもと診療に参加できる。	診療所見学等を通じて医療従事者と交流し、大阪の地域医療に携わり、地域医療の現状、プライマリケアの必要性を知ることができる。	本学附属病棟外において、指導者の問診やカルテ記載などの外業務の補綴を行うことができる。	大阪市消防局救急隊員と行動を共にし、大阪市における救急医療の実態を理解することができる。大阪府下の介護施設実習を通じて、地域医療の仕組み、実態について理解することができる。	大阪府の医療計画、地域医療構想について概説することができる。
		3) 大阪の医療の現状、課題を理解する。	大阪の医療の現状、特殊性、課題を理解し、それらの葛藤を引き起こす地域的課題と社会医療の実態を理解することができる。	地域包括ケアシステムの概念、地域における救急医療、在宅医療、へき地医療の現状と社会医療の実態を理解することができる。	大阪市消防局救急隊員と行動を共にし、大阪市における救急医療の実態を理解することができる。大阪府下の介護施設実習を通じて、地域医療の仕組み、実態について理解することができる。	大阪府の医療計画、地域医療構想について概説することができる。
8. 科学的探究	大阪公立大学医学部学生は、卒業時に医学及び医療における科学的アプローチを理解できる。	1) 医学及び医療上の疑問点を挙げることができ、適切にヒューズを収集できる。	提示された課題について図書館およびデータベースを利用して関連する文献の収集を適切に行うことができる。	事例学習を通じて、教科書・論文等から最新の情報を検索・整理統合し、疾患の理解・診断・治療の理解の深化につながる。提示された課題について、教員の指導のもと研究(実験)の目的を理解し、それを行うことができる。また、得られた結果について正しく解釈、評価することができる。	自ら課題を設定し、その課題について関連する国内外の文献を収集し、必要に応じて文献の内容が信頼できるものであるか吟味することができる。こうして得られた情報について結果を正しく解釈し、それが実際の医療にどう反映できるかを考察することができる。適切にヒューズを収集でき診療計画を立案できる。	臨床上の疑問点に関して、臨床研究を立案し、必要な情報収集を適切に行うことができる。また、結果をまとめ発信することができる。
		2) 科学的探究方法を理解する。	論文を読み解くための基本となる基礎知識を学習し、提示された文献を読み、内容を簡潔にまとめることができる。研究の計画から発表までの概要を説明することができる。	研究意義の重要性を理解し説明できる。実習において必要な作業を教員の指導のもと実習日に記載された手順に沿って行うことができる。	提示された課題について、教員の指導のもと研究(実験)を行うことができる。また、研究について内容を簡潔にまとめたレポートを作成することができる。	臨床上の疑問点に関して、臨床研究を立案し、必要な情報収集を適切に行うことができる。また、結果をまとめ発信することができる。
		3) 研究の意義を理解し、参加、協力できる。	1) 国際的な広い視野をもち、急速に変化・発展する医学知識を学び、吸収できる。	生涯学習の重要性を説明できる。各分野における国内外の最先端の研究について学び、生涯にわたる継続的学習に必要な情報を収集できる。	学習中に直面した疑問に対して、海外からの情報を収集し解決のために活用することができる。患者の文化的背景を尊重し、英語をはじめとした異なる言語を用いて、簡単な問診を行うことができる。	国際的な広い視野をもち、急速に変化・発展する医学知識を収集し医療に活用することができる。患者の文化的背景を尊重し、英語をはじめとした異なる言語を用いて、簡単な問診を行うことができる。
9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢	大阪公立大学医学部学生は、卒業時に生涯にわたって自律的に学び、共に研鑽し、相互に教育することができる。	1) 国際的な広い視野をもち、急速に変化・発展する医学知識を学び、吸収できる。	生涯学習の重要性を説明できる。各分野における国内外の最先端の研究について学び、生涯にわたる継続的学習に必要な情報を収集できる。	学習中に直面した疑問に対して、海外からの情報を収集し解決のために活用することができる。患者の文化的背景を尊重し、英語をはじめとした異なる言語を用いて、簡単な問診を行うことができる。	国際的な広い視野をもち、急速に変化・発展する医学知識を収集し医療に活用することができる。患者の文化的背景を尊重し、英語をはじめとした異なる言語を用いて、簡単な問診を行うことができる。	臨床上の疑問点に関して、臨床研究を立案し、必要な情報収集を適切に行うことができる。また、結果をまとめ発信することができる。
		2) 同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあうことができる。	同級生とのグループ学習において、自分の考えをメンバーに向けて提示することができる。また、自分の考えに対する他のメンバーからの指摘や意見を受け入れ、尊重することができる。	指導実習において後輩等に対して適切な指導を行うことができる。同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあうことの重要性に基づき行動できる。	指導実習において後輩等に対して適切な指導を行うことができる。同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあうことの重要性に基づき行動できる。	臨床上の疑問点に関して、臨床研究を立案し、必要な情報収集を適切に行うことができる。また、結果をまとめ発信することができる。

医学部医学科のカリキュラムロードマップ

No	学年	科目名	DP1 プロフェッショナル ナリズム	level	DP2 医学知識と問題 対応能力	level	DP3 診療技能と患者 ケア	level	DP4 コミュニケーション 能力	level	DP5 チーム医療の実 践	level	DP6 医療の質と安全 の管理	level	DP7 社会における医 療の実践と大阪 住民の幸福に貢 献する力	level	DP8 科学的探究	level	DP9 生涯にわたって 共に学ぶ姿勢	level	科目名		
1	6	選択型CC(クリニカル・クラークシップ)	○	3	○	3	○	3	○	3	○	3	○	3	○	3	○	3	○	3	○	3	選択型CC(クリニカル・クラークシップ)
2	6	保健所・保健福祉センター実習			○	3					○	3			○	3			○	3			保健所・保健福祉センター実習
3	6	指導実習	○	3	○	3	○	3	○	3	○	3	○	3						○	3		指導実習
4	6	チーム医療実習II	○	3			○	3	○	3	○	3	○	3									チーム医療実習II
5	6	医療安全研修(医療安全・感染対策)	○	3	○	3	○	3	○	3	○	3	○	3	○	3							医療安全研修(医療安全・感染対策)
6	5	ユニット型CC(クリニカル・クラークシップ)	○	3	○	3	○	3	○	3	○	3	○	3	○	3	○	3	○	3	○	3	ユニット型CC(クリニカル・クラークシップ)
7	5	教育分野FD講演会	○	3																	○	3	教育分野FD講演会
8	5	外来型CC(クリニカル・クラークシップ)	○	2	○	2	○	2	○	3	○	3	○	3	○	3	○	3	○	3	○	3	外来型CC(クリニカル・クラークシップ)
9	4	臨床スターター実習	○	2	○	2	○	2	○	3					○	3	○	3	○	3	○	3	臨床スターター実習
10	4	プライマリケア医学			○	1	○	1							○	2							プライマリケア医学
11	4	漢方医学入門			○	1	○	1															漢方医学入門
12	4	文献検索実習			○	1	○	1			○	2									○	2	文献検索実習
13	4	チーム医療実習I	○	2	○	1	○	1	○	2	○	2											チーム医療実習I
14	4	ユニット型臨床臓器別講義	○	2	○	1	○	1					○	2			○	2	○	2	○	2	ユニット型臨床臓器別講義
15	4	産業医学1・産業医学2	○	2	○	2							○	2			○	2	○	2	○	2	産業医学1・産業医学2
16	4	公衆衛生学1・公衆衛生学2	○	1	○	2									○	2	○	2	○	2	○	2	公衆衛生学1・公衆衛生学2
17	4	法医学													○	2	○	2	○	2	○	2	法医学
18	4	医療安全研修(医療安全・感染対策)									○	2	○	2									医療安全研修(医療安全・感染対策)
19	3	医学研究推進コース3	○	2	○	1			○	2	○	2					○	2	○	2	○	2	医学研究推進コース3
20	3	医学英語							○	2										○	2		医学英語
21	3	早期臨床実習3	○	2			○	1	○	2	○	2	○	2	○	1							早期臨床実習3
22	3	生体と薬物			○	1	○	1					○	1			○	1	○	2			生体と薬物
23	3	原因と病態1			○	1	○	1	○	1							○	1	○	2			原因と病態1
24	3	原因と病態2	○	2	○	1	○	1									○	1	○	2			原因と病態2
25	3	細菌・真菌感染症			○	1	○	1	○	1	○	1					○	1	○	2			細菌・真菌感染症
26	3	ウイルス感染症			○	1	○	1	○	1	○	1					○	1	○	2			ウイルス感染症
27	3	原虫・寄生虫感染症			○	1	○	1	○	1					○	1	○	1	○	2			原虫・寄生虫感染症
28	3	教育分野FD講演会	○	2																	○	2	教育分野FD講演会
29	2	肉眼解剖学(マクロ)実習			○	1											○	1	○	1			肉眼解剖学(マクロ)実習
30	2	早期臨床実習2	○	2			○	1	○	1	○	2			○	1							早期臨床実習2
31	2	医学英語論文の読み方			○	1											○	1	○	1			医学英語論文の読み方
32	2	医学研究推進コース2			○	1											○	1					医学研究推進コース2
33	2	機能系実習			○	1											○	1					機能系実習
34	2	情報リテラシー	○	2	○	1			○	1	○	1											情報リテラシー
35	2	コミュニケーション	○	2	○	1			○	1	○	1			○	1							コミュニケーション
36	2	ビジネスマナー	○	1	○	1			○	1	○	1	○	1									ビジネスマナー
37	2	メディカル・データ・サイエンス2															○	1	○	1			メディカル・データ・サイエンス2
38	2	生体物質代謝・生化学			○	1											○	1	○	1			生体物質代謝・生化学
39	2	遺伝医学	○	1	○	1			○	1					○	1	○	1	○	1			遺伝医学
40	2	運動器系	○	1	○	1	○	1									○	1	○	1			運動器系
41	2	血液・造血器系	○	1	○	1	○	1	○	1							○	1	○	1			血液・造血器系
42	2	循環器系	○	1	○	1	○	1	○	1							○	1	○	1			循環器系
43	2	神経解剖	○	1	○	1	○	1	○	1	○	1					○	1	○	1			神経解剖
44	2	脳機能系	○	1	○	1	○	1									○	1	○	1			脳機能系
45	2	呼吸器系	○	1	○	1	○	1									○	1	○	1			呼吸器系
46	2	免疫系			○	1	○	1							○	1	○	1	○	1			免疫系
47	2	消化器系	○	1	○	1	○	1	○	1							○	1	○	1			消化器系
48	2	感覚器・皮膚	○	1	○	1	○	1	○	1	○	1					○	1	○	1			感覚器・皮膚
49	2	内分泌・代謝	○	1	○	1	○	1	○	1	○	1					○	1	○	1			内分泌・代謝
50	2	腎・泌尿器系	○	1	○	1	○	1	○	1	○	1					○	1	○	1			腎・泌尿器系
51	2	生殖系	○	1	○	1	○	1	○	1	○	1					○	1	○	1			生殖系
52	1	早期診療所実習			○	1			○	1	○	1	○	1	○	1				○	1		早期診療所実習
53	1	早期臨床医学入門	○	1	○	1	○	1	○	1					○	1				○	1		早期臨床医学入門
54	1	医学研究推進コース1	○	1					○	1							○	1	○	1			医学研究推進コース1
55	1	心肺蘇生法実習					○	1			○	1								○	1		心肺蘇生法実習
56	1	医学序論	○	1	○	1			○	1	○	1	○	1			○	1	○	1			医学序論
57	1	医療倫理学	○	1	○	1					○	1	○	1									医療倫理学
58	1	情報リテラシー(全学)	○	2	○	1			○	1	○	1											情報リテラシー(全学)
59	1	メディカル・データ・サイエンス1															○	1	○	1			メディカル・データ・サイエンス1
60	1	遺伝と遺伝子	○	1	○	1											○	1	○	1			遺伝と遺伝子
61	1	細胞生物学			○	1											○	1	○	1			細胞生物学
62	1	細胞と組織の基本構造と機能	○	1	○	1											○	1	○	1			細胞と組織の基本構造と機能
63	1	発生学			○	1											○	1	○	1			発生学
64	1	物理学の臨床医学への応用			○	1							○	1	○	1	○	1	○	1			物理学の臨床医学への応用
65	1	早期臨床実習1	○	1			○	1	○	1	○	1	○	1	○	1	○	1	○	1			早期臨床実習1
66	1	医学のための統計学															○	1	○	1			医学のための統計学

モデル・コア・カリキュラム（平成 28 年度改訂版）

A 医師として求められる基本的な資質・能力

A-1 プロフェッショナリズム

A-1-1) 医の倫理と生命倫理

A-1-2) 患者中心の視点

A-1-3) 医師としての責務と裁量権

A-2 医学知識と問題対応能力

A-2-1) 課題探求・解決能力

A-2-2) 学修の在り方

A-3 診療技能と患者ケア

A-3-1) 全人的実践的能力

A-4 コミュニケーション能力

A-4-1) コミュニケーション

A-4-2) 患者と医師の関係

A-5 チーム医療の実践

A-5-1) 患者中心のチーム医療

A-6 医療の質と安全の管理

A-6-1) 安全性の確保

A-6-2) 医療上の事故等への対処と予防

A-6-3) 医療従事者の健康と安全

A-7 社会における医療の実践

A-7-1) 地域医療への貢献

A-7-2) 国際医療への貢献

A-8 科学的探究

A-8-1) 医学研究への志向の涵養

A-9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

A-9-1) 生涯学習への準備

B社会と医学・医療

B-1 集団に対する医療

B-1-1) 統計の基礎

B-1-2) 統計手法の適用

B-1-3) 根拠に基づいた医療<EBM>

B-1-4) 疫学と予防医学

B-1-5) 生活習慣とリスク

B-1-6) 社会・環境と健康

【参考資料】

- B-1-7) 地域医療・地域保健
- B-1-8) 保健・医療・福祉・介護の制度
- B-1-9) 国際保健
- B-2 法医学と関連法規
 - B-2-1) 死と法
 - B-2-2) 診療情報と諸証明書
- B-3 医学研究と倫理
 - B-3-1) 倫理規範と実践倫理
- B-4 医療に関連のある社会科学領域
 - B-4-1) 医師に求められる社会性
- C 医学一般
 - C-1 生命現象の科学
 - C-1-1) 生命の最小単位－細胞
 - C-1-2) 生物の進化
 - C-2 個体の構成と機能
 - C-2-1) 細胞の構成と機能
 - C-2-2) 組織・各臓器の構成、機能と位置関係
 - C-2-3) 個体の調節機能とホメオスタシス
 - C-2-4) 個体の発生
 - C-2-5) 生体物質の代謝
 - C-3 個体の反応
 - C-3-1) 生体と微生物
 - C-3-2) 免疫と生体防御
 - C-3-3) 生体と薬物
 - C-4 病因と病態
 - C-4-1) 遺伝的多様性と疾患
 - C-4-2) 細胞傷害・変性と細胞死
 - C-4-3) 代謝障害
 - C-4-4) 循環障害、臓器不全
 - C-4-5) 炎症と創傷治癒
 - C-4-6) 腫瘍
 - C-5 人の行動と心理
 - C-5-1) 人の行動
 - C-5-2) 行動の成り立ち
 - C-5-3) 動機付け
 - C-5-4) ストレス

【参考資料】

- C-5-5) 生涯発達
- C-5-6) 個人差
- C-5-7) 対人関係と対人コミュニケーション
- C-5-8) 行動変容における理論と技法
- D 人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療
 - D-1 血液・造血器・リンパ系
 - D-1-1) 構造と機能
 - D-1-2) 診断と検査の基本
 - D-1-3) 症候
 - D-1-4) 疾患
 - D-2 神経系
 - D-2-1) 構造と機能
 - D-2-2) 診断と検査の基本
 - D-2-3) 症候
 - D-2-4) 疾患
 - D-3 皮膚系
 - D-3-1) 構造と機能
 - D-3-2) 診断と検査の基本
 - D-3-3) 症候
 - D-3-4) 疾患
 - D-4 運動器（筋骨格）系
 - D-4-1) 構造と機能
 - D-4-2) 診断と検査の基本
 - D-4-3) 症候
 - D-4-4) 疾患
 - D-5 循環器系
 - D-5-1) 構造と機能
 - D-5-2) 診断と検査の基本
 - D-5-3) 症候
 - D-5-4) 疾患
 - D-6 呼吸器系
 - D-6-1) 構造と機能
 - D-6-2) 診断と検査の基本
 - D-6-3) 症候
 - D-6-4) 疾患
 - D-7 消化器系

【参考資料】

- D-7-1) 構造と機能
- D-7-2) 診断と検査の基本
- D-7-3) 症候
- D-7-4) 疾患
- D-8 腎・尿路系（体液・電解質バランスを含む）
 - D-8-1) 構造と機能
 - D-8-2) 診断と検査の基本
 - D-8-3) 症候
 - D-8-4) 疾患
- D-9 生殖機能
 - D-9-1) 構造と機能
 - D-9-2) 診断と検査の基本
 - D-9-3) 症候
 - D-9-4) 疾患
- D-10 妊娠と分娩
 - D-10-1) 構造と機能
 - D-10-2) 診断と検査の基本
 - D-10-3) 症候
 - D-10-4) 疾患
 - D-10-5) 産科手術
- D-11 乳房
 - D-11-1) 構造と機能
 - D-11-2) 診断と検査の基本
 - D-11-3) 症候
 - D-11-4) 疾患
- D-12 内分泌・栄養・代謝系
 - D-12-1) 構造と機能
 - D-12-2) 診断と検査の基本
 - D-12-3) 症候
 - D-12-4) 疾患
- D-13 眼・視覚系
 - D-13-1) 構造と機能
 - D-13-2) 診断と検査の基本
 - D-13-3) 症候
 - D-13-4) 疾患
- D-14 耳鼻・咽喉・口腔系

【参考資料】

- D-14-1) 構造と機能
- D-14-2) 診断と検査の基本
- D-14-3) 症候
- D-14-4) 疾患
- D-15 精神系
 - D-15-1) 診断と検査の基本
 - D-15-2) 症候
 - D-15-3) 疾患
- E 全身に及ぶ生理的变化、病態、診断、治療
 - E-1 遺伝医療・ゲノム医療
 - E-1-1) 遺伝医療・ゲノム医療と情報の特性
 - E-2 感染症
 - E-2-1) 病態
 - E-2-2) 診断・検査・治療の基本
 - E-2-3) 症候
 - E-2-4) 疾患
 - E-3 腫瘍
 - E-3-1) 定義・病態
 - E-3-2) 診断
 - E-3-3) 治療
 - E-3-4) 診療の基本的事項
 - E-3-5) 各論
 - E-4 免疫・アレルギー
 - E-4-1) 診断と検査の基本
 - E-4-2) 症候
 - E-4-3) 病態と疾患
 - E-5 物理・化学的因子による疾患
 - E-5-1) 診断と検査の基本
 - E-5-2) 症候
 - E-5-3) 疾患
 - E-6 放射線の生体影響と放射線障害
 - E-6-1) 生体と放射線
 - E-6-2) 医療放射線と生体影響
 - E-6-3) 放射線リスクコミュニケーション
 - E-6-4) 放射線災害医療
 - E-7 成長と発達

【参考資料】

- E-7-1) 胎児・新生児
- E-7-2) 乳幼児
- E-7-3) 小児期全般
- E-7-4) 思春期
- E-8 加齢と老化
 - E-8-1) 老化と高齢者の特徴
- E-9 人の死
 - E-9-1) 生物的死と社会的死
- F 診療の基本
 - F-1 症候・病態からのアプローチ
 - F-1-1) 発熱
 - F-1-2) 全身倦怠感
 - F-1-3) 食思(欲)不振
 - F-1-4) 体重減少・体重増加
 - F-1-5) ショック
 - F-1-6) 心停止
 - F-1-7) 意識障害・失神
 - F-1-8) けいれん
 - F-1-9) めまい
 - F-1-10) 脱水
 - F-1-11) 浮腫
 - F-1-12) 発疹
 - F-1-13) 咳・痰
 - F-1-14) 血痰・喀血
 - F-1-15) 呼吸困難
 - F-1-16) 胸痛
 - F-1-17) 動悸
 - F-1-18) 胸水
 - F-1-19) 嚥下困難・障害
 - F-1-20) 腹痛
 - F-1-21) 悪心・嘔吐
 - F-1-22) 吐血・下血
 - F-1-23) 便秘・下痢
 - F-1-24) 黄疸
 - F-1-25) 腹部膨隆（腹水を含む）・腫瘤
 - F-1-26) 貧血

【参考資料】

F-1-27) リンパ節腫脹

F-1-28) 尿量・排尿の異常

F-1-29) 血尿・タンパク尿

F-1-30) 月経異常

F-1-31) 不安・抑うつ

F-1-32) もの忘れ

F-1-33) 頭痛

F-1-34) 運動麻痺・筋力低下

F-1-35) 腰背部痛

F-1-36) 関節痛・関節腫脹

F-1-37) 外傷・熱傷

F-2 基本的診療知識

F-2-1) 臨床推論

F-2-2) 根拠に基づいた医療<EBM>

F-2-3) 臨床検査

F-2-4) 病理診断

F-2-5) 放射線等を用いる診断と治療

F-2-6) 内視鏡を用いる診断と治療

F-2-7) 超音波を用いる診断と治療

F-2-8) 薬物治療の基本原則

F-2-9) 外科的治療と周術期管理

F-2-10) 麻酔

F-2-11) 食事・栄養療法と輸液療法

F-2-12) 医療機器と人工臓器

F-2-13) 輸血と移植

F-2-14) リハビリテーション

F-2-15) 在宅医療と介護

F-2-16) 緩和ケア

F-3 基本的診療技能

F-3-1) 問題志向型システムと臨床診断推論

F-3-2) 医療面接

F-3-3) 診療録（カルテ）

F-3-4) 臨床判断

F-3-5) 身体診察

F-3-6) 基本的臨床手技

G 臨床実習

【参考資料】

G-1 診療の基本

G-1-1) 臨床実習

G-2 臨床推論

G-2-1) 発熱

G-2-2) 全身倦怠感

G-2-3) 食思(欲)不振

G-2-4) 体重減少・体重増加

G-2-5) ショック

G-2-6) 心停止

G-2-7) 意識障害・失神

G-2-8) けいれん

G-2-9) めまい

G-2-10) 脱水

G-2-11) 浮腫

G-2-12) 発疹

G-2-13) 咳・痰

G-2-14) 血痰・喀血

G-2-15) 呼吸困難

G-2-16) 胸痛

G-2-17) 動悸

G-2-18) 胸水

G-2-19) 嚥下困難・障害

G-2-20) 腹痛

G-2-21) 悪心・嘔吐

G-2-22) 吐血・下血

G-2-23) 便秘・下痢

G-2-24) 黄疸

G-2-25) 腹部膨隆（腹水を含む）・腫瘍

G-2-26) 貧血

G-2-27) リンパ節腫脹

G-2-28) 尿量・排尿の異常

G-2-29) 血尿・タンパク尿

G-2-30) 月経異常

G-2-31) 不安・抑うつ

G-2-32) もの忘れ

G-2-33) 頭痛

【参考資料】

- G-2-34) 運動麻痺・筋力低下
- G-2-35) 腰背部痛
- G-2-36) 関節痛・関節腫脹
- G-2-37) 外傷・熱傷
- G-3 基本的臨床手技
 - G-3-1) 一般手技
 - G-3-2) 検査手技
 - G-3-3) 外科手技
 - G-3-4) 救命処置
- G-4 診療科臨床実習
 - G-4-1) 必ず経験すべき診療科
 - G-4-2) 上記以外の診療科
 - G-4-3) 地域医療実習
 - G-4-4) シミュレーション教育

モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）

○教育医師として求められる基本的な資質・能力

- PR: プロフェッショナリズム
- GE: 総合的に患者・生活者をみる姿勢
- LL: 生涯にわたって共に学ぶ姿勢
- RE: 科学的探究
- PS: 専門知識に基づいた問題解決能力
- IT: 情報・科学技術を活かす能力
- CS: 患者ケアのための診療技能
- CM: コミュニケーション能力
- IP: 多職種連携能力
- SO: 社会における医療の役割の理解

○学習目標

- PR: プロフェッショナリズム
 - PR-01: 信頼
 - PR-01-01: 誠実さ
 - PR-02: 思いやり
 - PR-03: 教養
 - PR-04: 生命倫理
- GE: 総合的に患者・生活者をみる姿勢
 - GE-01: 全人的な視点とアプローチ
 - GE-01-01: 臓器横断的な診療
 - GE-01-02: 生物・心理・社会的な問題への包括的な視点
 - GE-01-03: 患者中心の医療
 - GE-01-04: 根拠に基づいた医療（EBM）
 - GE-01-05: 行動科学
 - GE-01-06: 緩和ケア
 - GE-02: 地域の視点とアプローチ
 - GE-02-01: プライマリ・ケアにおける基本概念
 - GE-02-02: 地域におけるプライマリ・ケア
 - GE-02-03: 医療資源に応じたプライマリ・ケア
 - GE-02-04: 在宅におけるプライマリ・ケア
 - GE-03: 人生の視点とアプローチ

【参考資料】

- GE-03-01: 人生のプロセス
- GE-03-02: 小児期全般
- GE-03-04: 学童期、思春期、青年期、成人期
- GE-03-05: 老年期
- GE-03-06: 終末期
- GE-04: 社会の視点とアプローチ
 - GE-04-01: 医学的・文化的・社会的文脈における健康
 - GE-04-02: 社会科学
- LL: 生涯にわたって共に学ぶ姿勢
 - LL-01: 生涯学習
 - LL-01-02: キャリア開発
- RE: 科学的探究
 - RE-01: リサーチマインド
 - RE-01-01: 能動的姿勢
 - RE-01-02: 探究心
 - RE-02: 既知の知
 - RE-02-01: 医学と医療
 - RE-02-02: 論文読解
 - RE-03: 研究の実施
 - RE-03-01: 問い
 - RE-03-02: 研究計画
 - RE-03-03: 研究手法
 - RE-03-04: 研究結果
 - RE-04: 研究の発信
 - RE-04-01: 研究発表
 - RE-05: 研究倫理
 - RE-05-01: 適切な研究遂行
 - RE-05-02: 対象者の保護
- PS: 専門知識に基づいた問題解決能力
 - PS-01: 基礎医学
 - PS-01-01: 生命現象の科学
 - PS-01-02: 個体の構成と機能
 - PS-01-03: 個体の反応
 - PS-01-04: 病因と病態
 - PS-02: 人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療
 - PS-02-01: 総論

【参考資料】

- PS-02-02: 血液・造血器・リンパ系
- PS-02-03: 神経系
- PS-02-04: 皮膚系
- PS-02-05: 運動器(筋骨格)系
- PS-02-06: 循環器系
- PS-02-07: 呼吸器系
- PS-02-08: 消化器系
- PS-02-09: 腎・尿路系(体液・電解質バランスを含む)
- PS-02-10: 生殖器系
- PS-02-11: 妊娠と分娩
- PS-02-12: 小児
- PS-02-13: 乳房
- PS-02-14: 内分泌・栄養・代謝系
- PS-02-15: 眼・視覚系
- PS-02-16: 耳鼻・咽喉・口腔系
- PS-02-17: 精神系
- PS-03: 全身に及ぶ生理的变化、病態、診断、治療
 - PS-03-01: 遺伝医療・ゲノム医療
 - PS-03-02: 免疫・アレルギー
 - PS-03-03: 感染症
 - PS-03-04: 腫瘍
 - PS-03-05: 救急・集中治療
 - PS-03-06: 放射線の生体影響と適切な利用、放射線障害
- IT: 情報・科学技術を活かす能力
 - IT-01: 情報・科学技術に向き合うための倫理観とルール
 - IT-01-01: 情報・科学技術に向き合うための準備
 - IT-01-02: 情報・科学技術利用にあたっての倫理観とルール
 - IT-02: 医療とそれを取り巻く社会に必要な情報・科学技術の原理
 - IT-02-01: 情報・科学技術を活用した医療
 - IT-02-02: 情報・科学技術の先端知識
 - IT-03: 診療現場における情報・科学技術の活用
 - IT-03-01: 情報・科学技術を活用したコミュニケーションスキル
 - IT-03-02: 情報・科学技術を活用した学習スキル
- CS: 患者ケアのための診療技能
 - CS-01: 患者の情報収集
 - CS-01-01: 医療面接

【参考資料】

- CS-01-02: 身体所見
- CS-02: 患者情報の統合、分析と評価、診療計画
 - CS-02-01: 診療録記載
 - CS-02-02: 臨床推論
 - CS-02-03: 検査(計画、分析評価)
 - CS-02-04: 治療(計画、経過の評価)
 - CS-02-05: 教育計画
- CS-03: 治療を含む対応の実施
 - CS-03-01: 検査手技
 - CS-03-02: 治療手技
 - CS-03-03: 救急・初期対応
 - CS-03-04: 書類の作成
 - CS-03-05: 患者ケアに必要な連携
 - CS-03-06: 診療計画カンファレンス
- CS-04: 診療経過の振り返りと改善
 - CS-04-01: 振り返りカンファレンス
- CS-05: 医療の質と患者安全
 - CS-05-01: 医療の質向上
 - CS-05-02: 医療従事者の健康管理
 - CS-05-03: 安全管理体制
 - CS-05-04: 感染制御
 - CS-05-05: 患者安全の配慮と促進
 - CS-05-06: 患者安全の実践
- CM: コミュニケーション能力
 - CM-01: 患者に接する言葉遣い・態度・身だしなみ・配慮
 - CM-01-01: 患者・家族への適切なコミュニケーションスキルの活用
 - CM-01-02: 患者の立場の尊重と苦痛への配慮
 - CM-02: 患者の意思決定の支援とそのため情報収集・わかりやすい説明
 - CM-02-01: 患者へのわかりやすい言葉の説明
 - CM-02-02: 患者への行動変容の促し
 - CM-02-03: 患者の意思決定の支援
 - CM-03: 患者や家族のニーズの把握と配慮
 - CM-03-01: 患者・家族の課題の把握と必要な情報の取得
 - CM-03-02: 患者・家族の心理・社会的背景に配慮した診療
- IP: 多職種連携能力
 - IP-01: 連携の基盤

【参考資料】

- IP-01-01: 患者中心の保健医療福祉
- IP-01-02: 職種間コミュニケーション
- IP-01-03: 医師間の紹介と相談
- IP-02: 協働実践
 - IP-02-01: 職種役割
 - IP-02-02: 関係性への働きかけ
 - IP-02-03: 自職種の省察
 - IP-02-04: 他職種の理解

- SO: 社会における医療の役割の理解
 - SO-01: 社会保障
 - SO-01-01: 公衆衛生
 - SO-01-02: 社会保険、公的扶助、社会福祉
 - SO-01-03: 地域保健
 - SO-01-04: 産業保健・環境保健
 - SO-01-05: 健康危機管理
 - SO-02: 疫学・医学統計
 - SO-02-01: 保健統計
 - SO-02-02: 疫学
 - SO-02-03: データ解析と統計手法
 - SO-03: 法医学
 - SO-03-01: 死と法
 - SO-04: 社会の構造や変化から捉える医療
 - SO-04-01: 健康と医療
 - SO-04-02: ジェンダーと医療
 - SO-04-03: 気候変動と医療
 - SO-04-04: 哲学と医療
 - SO-04-05: 歴史と医学・医療
 - SO-04-06: 医療経済
 - SO-04-07: 社会的公正
 - SO-05: 国内外の視点から捉える医療
 - SO-05-01: 国内の医療職の役割や医療体制
 - SO-05-02: グローバルヘルスの役割や医療体制
 - SO-06: 社会科学の視点から捉える医療
 - SO-06-01: 社会科学と医療との関係

2025年 医学部医学科 専門科目ナンバリングコード

4～6桁目(分野):BAM…Basic Medicine、SOM…Social Medicine、CLM…Clinical Medicine

1桁目	2～3桁目	4～6桁目	7桁目	8桁目	9～10桁目	11桁目	12桁目		
部局コード 学士課程:A	部局コード 医学部:MX 医学部医学科: MA	学問分野	レベルコード (1～4)	科目区分	連番	使用言語 日本語:J	授業形態 講義:1 実習:4	授業科目	
A	MA	BAM	1	1	01	J	1	医療倫理学	
			1	1	02		1	医学のための統計学	
			1	1	03		1	遺伝と遺伝子	
			1	1	04		1	細胞生物学	
			1	1	05		4	細胞と組織の基本構造と機能	
			1	1	06		1	発生学	
			1	1	07		1	医学研究推進コース1	
			2	1	08		1	生体物質代謝・生化学	
			2	1	09		4	医学英語論文の読み方	
			2	1	10		1	遺伝医学	
			2	1	11		4	運動器系	
			2	1	12		1	血液・造血器系	
			2	1	13		1	循環器系	
			2	1	14		1	神経解剖	
			2	1	15		1	脳機能系	
			2	1	16		4	医学研究推進コース2	
			2	1	17		1	呼吸器系	
			2	1	18		1	免疫系	
			2	1	19		1	消化器系	
			2	1	20		4	感覚器・皮膚	
			2	1	21		1	内分泌・代謝	
			2	1	22		1	腎・泌尿器系	
			2	1	23		4	生殖器系	
			2	1	24		4	肉眼解剖学(マクロ)実習	
			2	1	25		4	機能系実習	
			3	1	26		1	生体と薬物	
			3	1	27		1	原因と病態1	
			3	1	28		1	原因と病態2	
			3	1	29		1	細菌・真菌感染症	
			3	1	30		1	ウイルス感染症	
			3	1	31		1	原虫・寄生虫感染症	
			3	1	32		4	医学研究推進コース3	
	3	1	33	4	メディカル・データ・サイエンス1				
	3	1	34	1	メディカル・データ・サイエンス2				
	3	1	35	1	産業医学1				
	3	1	36	1	産業医学2				
	3	1	37	1	公衆衛生学1				
	3	1	38	1	公衆衛生学2				
	3	1	39	1	法医学				
	MX			1	1		01	1	医学序論
	MA			1	1		40	1	物理学の臨床医学への応用
	MX			1	1		02	4	心肺蘇生法実習
	MA	CLM	1	1	41		1	1	早期臨床医学入門
			1	1	42		4	4	早期臨床実習1
			2	1	43		4	4	早期臨床実習2
			3	1	44		4	4	早期臨床実習3
			2	1	45		4	4	コミュニケーション
			3	1	46		1	1	医学英語
			3	1	47		1	1	ユニット型臨床臓器別講義
			4	1	48		4	4	臨床スターター実習
			4	1	49		1	1	プライマリケア医学
			4	1	50		4	4	外来型CC(クリニカル・クラークシップ)
			4	1	51		4	4	ユニット型CC(クリニカル・クラークシップ)
4	1	52	4	4	選択型CC(クリニカル・クラークシップ)				
4	1	53	4	4	保健所・保健福祉センター実習				

II. 履修要項

1. 学科等の名称、卒業時の学位、入学定員

学科	学位	定員
医学部医学科	学士（医学） (Bachelor of Medicine)	90名※

※2026年度は大阪府指定医療卒3名を加えた93名

2. 学年・学期・授業期間等

学 年	1年次	4月1日～翌年3月31日
	2年次	4月1日～12月31日
	3年次	1月1日～12月31日
	4年次	1月1日～12月31日
	5年次	1月1日～12月31日
学 期	1年次	前期：4月1日～9月23日、後期：9月24日～翌年3月31日
	2年次	前期：4月1日～9月23日、後期：9月24日～12月31日
	3年次	前期：1月1日～9月23日、後期：9月24日～12月31日
	4年次	前期：1月1日～9月23日、後期：9月24日～12月31日
	5年次	前期：1月1日～9月23日、後期：9月24日～12月31日

休業日：

- ① 日曜日および土曜日（授業調整日除く）
- ② 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日（祝日授業日を除く）
- ③ 「授業時間割表」に記載の休業日
- ④ その他学長が必要と認めた日

詳しい授業期間および試験期間等は、各年度当初に定められる「学事日程」によります。「学事日程」は、毎年度、本学Webサイト [\(ホーム>教育・学生生活>授業・履修>学事日程・授業関係\)](#) などで確認してください。

ただし、担当教員が必要と認めたときは、その他の期間に授業や試験が行われることがあります。

3. 授業科目の種類

授業科目は、基幹教育科目、専門科目、資格科目および副専攻科目に区分されています。基幹教育科目は主に1年次・2年次において学び、多くの専門科目は2年次以降に学びます。

全学部・学域に共通した基幹教育科目は総合教養科目、ゼミナール科目、情報科目、外国語科目、健康・スポーツ科学科目、基礎教育科目に分かれます。

○科目区分および開設部局（特例科目を除く）

科目区分		開設部局
基幹教育科目	総合教養科目	
	ゼミナール科目	プロジェクト
		高年次ゼミナール
		初年次ゼミナール
	情報科目	
	外国語科目	英語
		初修外国語
健康・スポーツ科学科目		
基礎教育科目		
専門科目		各学部・学域
資格科目	教職科目	国際基幹教育機構※
副専攻科目		各学部・学域 国際基幹教育機構

（１）専門科目の科目名、単位数、配当年次および必修・選択の区分は、各学科の標準履修課程表を参照してください。

（２）基幹教育科目の履修については、「国際基幹教育機構開設科目要覧（学部・学域生用）」等を参照してください。

（３）資格科目の履修については「教職課程の手引」、副専攻科目の履修については、「副専攻ガイド」等を参照してください。

※資格科目の授業科目は、国際基幹教育機構が開設するほか各学部・学域が開設する場合があります。

4. 授業科目の単位、単位制

大学における授業科目の単位においては、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。単位の計算方法は、授業の方法（講義・演習、実験・実習・実技）に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮しておおむね15時間から45時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位として単位数を計算します。また、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して単位数を算定します。

（例）講義・演習、実験・実習・実技の場合

学修時間数	単位数
授業時間 30 時間（毎週 2 時間 15 週） 事前事後学修 60 時間（毎週 4 時間 15 週）	2 単位

授業時間 30 時間（毎週 2 時間 15 週） 事前事後学修 15 時間（毎週 1 時間 15 週）	1 単位
--	------

※大学において 1 単位の修得には「45 時間」の学修が必要であり、その際の「1 時間」は実際の 45 分に相当します。すなわち、「2 時間」は 90 分授業（1 時限）に相当します。

上記の表のとおり、2 単位の修得には、毎週「2 時間」の講義の前後に事前学修（予習）と事後学修（復習）を「4 時間」（例：事前学修「2 時間」＋事後学修「2 時間」）することが前提となっています。この前提に基づいて、授業では多くの課題（宿題）が課せられることがあります。大学では、常に事前・事後学修を行いながら授業を受けることが履修の基本であることを忘れないでください。

5. 履修課程と履修上の注意

（1）基幹教育科目

基幹教育科目は、総合教養科目、ゼミナール科目、情報科目、外国語科目、健康・スポーツ科学科目、基礎教育科目に分かれています。科目名や単位数、必修・選択・自由の区分、配当年次等については、「国際基幹教育機構開設科目要覧（学部・学域生用）」および本要覧に記載されています。

① 総合教養科目

総合教養科目は、思考力、表現力、判断力の基盤の上に、幅広い知識を総合的に活用できる能力を身に付けることを目的としています。

② ゼミナール科目

ゼミナール科目には、「プロジェクト」、「高年次ゼミナール」及び「初年次ゼミナール」があります。プロジェクト科目は、知識を受け身で学ぶだけでなく、学生が能動的に課題に関わりながら学ぶことを重視しており、多様なプロジェクトや課題に取り組む中で、学んだ知識を活用しつつ仲間と協働し、自ら考え行動する姿勢を養います。これらの取り組みを通じて、社会に出て活躍するための基礎的な力やキャリア意識を培うことを目的としています。

高年次ゼミナールは、3 年生以上を対象とし、講義に加え、異なる学部・学域に所属する履修生同士のディスカッションやプロジェクトの実施・発表を通して、他者の「問い」の視点も参考にしながら自身の専門性に立脚した「問う力」を高めるとともに、社会の諸課題の解決に必要な基礎的な知識・技能・態度を身につけることを目的としています。

初年次ゼミナールは、高等教育での主体的な学びを大学入学直後に身に付けることを目的としています。グループディスカッションを通じた課題発表等の自発的学修、プレゼンテーションやレポートによる自己表現の経験、異なる視点との出会いによる自己の振り返り、他の専門分野の複数の学生と教員とによる多様な視点の交換を行うことで、能動的な学びの姿勢を身に付けることを目的としています。

③ 情報科目

情報科目は、情報機器を利活用する際に必要となる情報処理の基礎的な知識と技能に加え、インターネットによるコミュニケーション手法や情報化社会に参画するための情報倫理、情報機器によるプレゼンテーション等のスキルを身に付けることを目的としています。

④ 外国語科目

外国語科目には、「英語科目」と、「初修外国語科目」（朝鮮語・中国語・ロシア語・ドイツ語・フランス語）があります。初修外国語について詳しくは、「国際基幹教育機構開設科目要覧（学部・学域生用）」および「初修外国語履修ガイド」を参照してください。

自分の第1言語（母語）を初修外国語科目として履修することはできません。日本語を第1言語（母語）としない学生は、特例科目（外国人留学生および日本語を母語としない学生を対象にした日本語科目）を履修し単位を修得した場合、初修外国語の単位として認定されます。

⑤ 健康・スポーツ科学科目

生涯にわたり心身の健康を維持し、より健康的な状態を得るために必要な知識や方法について、主としてスポーツを中心とした行動を通じて具体的、学術的に修得するとともに、健康科学やスポーツ文化が果たすべき役割について、理論と実践を通し理解を深めることを目的としています。

⑥ 基礎教育科目

それぞれの学問領域の基礎教育の中で、基幹教育として提供することが相応しい自然科学系科目を基礎教育科目として提供しています。学士課程教育において、科学の基本的能力として必要とされる学力と能力を養成するために、1・2年次に「数学」・「物理学」・「化学」・「生物学」・「地学」の基礎教育（講義・演習・実験）を実施します。それぞれの科目では、学士課程において必要な科学的基盤を身に付けるのみでなく、専門教育へもスムーズに接続できる知識・技能の修得を目的としています。

また、「情報」の基礎教育科目として、コンピュータやネットワークの動作原理、大量のデータを効率的に蓄積・検索するためのデータベースと、情報検索のしくみ等の修得を目的としています。

（2）専門科目

専門科目においては、各学部・学科、学域・学類の専門科目に加えて、学部・学域によっては共通科目を置き、それぞれの学問分野で共通に求められる知識や思考法等の知的な技法の修得等を目指します。専門科目の科目名、単位数、配当年次および必修・選択・自由の区分は、所属学科等の標準履修課程表を参照してください。

（3）資格科目

教育職員免許状の取得に必要な科目を資格科目といいます。この科目の単位を進級要件や卒業要件の所要単位に含めることはできない場合があるので注意してください。教

育職員免許状の取得を希望する学生は、教職課程に関する説明会に必ず出席し、「教職課程の手引」等を熟読してください。

(4) 副専攻科目

副専攻のために特別に開設した科目として副専攻科目があります。副専攻科目の履修については、「副専攻ガイド」等を参照してください。

(5) 必修、選択および自由科目の区分

科目は必修、選択、自由科目の種類に区別され、各学部・学科等の定める要件を満たして履修する必要があります。

- ・ 「必修科目」…当該学科等の教育目的を達成するため、卒業要件として修得を必要としている科目。
- ・ 「選択科目」…学生の履修目的に応じて選択し、修得単位を卒業要件に算入する科目。(選択必修科目を含む。)
- ・ 「自由科目」…履修できるが卒業要件に算入しない科目。

(6) 遠隔授業について

一部授業は、授業支援システム (Moodle) 等によりオンラインで行うことがあります。

(7) 集中講義について

週1回の授業ではなく、短期間で授業を行う集中講義を開講することがあります。集中講義の開講日については学生ポータル (UNIPA) により事前に周知します。集中講義の履修登録については、それぞれ前期・後期の履修登録期間中に登録してください。履修登録期間の時点で希望する集中講義の開講日が未定の場合でも、履修希望者は必ず登録してください。

(8) 履修に関する相談について

① オフィスアワー

各授業担当教員は、オフィスアワーを設定しています。これは、指定された曜日・時間には、事前に予約なしでも学生が授業担当教員を訪問し、履修に関することや授業中の疑問などを解決するための相談ができる時間のことです。大いに活用してください。(オフィスアワーについては、シラバスを参照してください。)

② その他相談窓口について

履修にあたっては、授業科目の内容説明(「国際基幹教育機構開設科目要覧(学部・学域生用)」やシラバス)を参考にし、標準履修課程表を十分に参照するとともに、履修や進路に関し相談等がある場合は、各学部・学域教務担当または担当教員等に相談してください。

(9) 他学部・学域履修

他学部・学域で開講されている科目を履修することができる場合があります。卒業要件に含めることができるかどうかなどの詳細は所属学科等の卒業要件を確認してください。また、履修できる科目については大学 Web サイト [\(ホーム>教育・学生生活>授業・履修>要覧\)](#) に掲載されている「他学部・他学域学生が履修可能な科目一覧」を確認したうえで、履修登録の方法は「履修登録の手引」を参照してください。

(10) 科目名称について

科目名称の末尾に数字あるいは英字等の表現がある場合は、以下のルールを表しています。

- ・ 「〇〇論 1、2～」

科目内容に順序性がある科目群について使用します。ただし、必ずしも 1 の履修が 2 の履修の前提条件になっているとは限りません。

- ・ 「〇〇論 A、B～」

科目内容に順序性がない科目群について使用します。

(11) キャンパスをまたぐ授業の履修について

原則として、各学部・学域の主な学びのキャンパスで開講される科目を履修してください。ただし、再履修科目、資格科目、副専攻科目、他学部・学域（他学科・学類）科目、その他各学部・学域において必要と認められる科目については、主な学びのキャンパス以外のキャンパスでの履修が許可されることがあります。なお、個人的都合による理由で主な学びのキャンパス以外の科目を履修することはできません。

〇〇学部（学域）の主な学びのキャンパスについては、大学 Web サイト [\(ホーム>大阪公立大学について>キャンパス案内>主な学びのキャンパス\)](#) を参照してください。

6. 科目ナンバリング

科目ナンバリングは、教育課程の体系性を示すために、科目に記号と番号を組みあわせて付与することによって、科目の学問分野、カリキュラム内での位置づけを示す仕組みです。本学では、科目の属性に応じて、アルファベットと数字を組み合わせた 13 桁で構成された番号を、下記のとおり①開設部局・②学問分野・③科目レベル・④科目区分・⑤連番・⑥使用言語・⑦授業形態として各科目に付番しています。各授業科目の科目ナンバリングは、シラバスをご確認ください。詳細は大学 Web サイト [\(ホーム>教育・学生生活>授業・履修>シラバス・履修案内\)](#) をご覧ください。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
A	A	A	A	A	A	0	0	0	0	0	-	J 1
└──┬──┘		└──┬──┘			└──┘	└──┘	└──┘	└──┬──┘		└──┘		
①		②			③	④	⑤	⑥		⑦		

7. 履修登録

(1) 履修登録

① 学生ポータル (UNIPA) による履修登録

科目を履修するにあたっては、各学期はじめの定める期日まで（4月上旬・9月中旬）に学生ポータル（UNIPA）より履修登録をする必要があります。

履修を考えている科目は全て履修登録期間に登録してください。

② 登録上の諸注意

- ・ 標準履修課程表にある配当年次などによく注意して登録してください。試験で不合格となった科目の再履修は原則として次年度以降となりますが、一部の前期開講科目については、同一年度の後期に再履修できる場合があります。
- ・ 配当年次に満たない年次の学生は、その科目を履修することはできませんが、配当年次を越える年次の学生は履修が可能です。ただし、所属する学科・学類によっては、履修年次を指定している場合があるので、注意してください。
- ・ 同一曜日に複数キャンパスで授業を履修する場合、キャンパス間移動の時間が確保できないと判断される場合は履修エラーとなりますので注意してください。
- ・ 同一曜日時限に、2科目以上を重複して履修登録することはできません。
- ・ 既に単位を修得した科目を再び履修することはできません。
- ・ 履修登録できる単位数には上限が設定される場合があります。詳しくは「10. 成績評語とGPA制度・CAP制」の項目を確認してください。
- ・ 卒業・進級予定者が集中講義・単位互換科目等を履修する場合、開講日により卒業・進級判定の際の単位に含むことができない場合があるので、履修登録時に教務担当窓口にご相談してください。

③ 履修登録の確認

履修登録の締め切り後の履修登録確認日・抽選結果発表日に、学生ポータル（UNIPA）の「抽選希望登録対象一覧」画面および「学生時間割表」画面上にて抽選科目の抽選結果および履修登録内容の確認が可能になります。履修登録確認日・抽選結果発表日に登録内容を点検し、希望どおり正しく登録されているか確認してください。特に、エラーが出ている科目については、履修登録修正期間内に修正してください。

※履修登録について、詳しくは「履修登録の手引」を参照してください。

(2) シラバス

シラバスには、各学部・学域のカリキュラムにおける科目の位置付けや授業の方法、授業概要、到達目標、授業計画、成績評価の方法等が記載されています。履修登録にあたっては、授業時間割やシラバス等を確認し、自身の学習計画を立ててください。

8. 成績評価・試験

(1) 成績評価方法・単位の修得

履修科目の成績は、シラバスで授業科目ごとに示されている方法で各授業担当教員によって評価され、合格した科目に単位が与えられます。成績の評語については「9. 成績評語と GPA 制度・CAP 制」で記載します。成績は学生ポータル (UNIPA) で確認することができます (定められた期間を除く)。

(2) 定期試験

単位の認定は基本的に試験の成績によって行われますが、試験を行わず、レポートや平常の成績等によって単位認定が行われることもあります。試験を実施する場合は、原則として、授業期間終了後 (試験期間) に実施します。試験の時間割は学生ポータル (UNIPA) を確認してください。

(3) 追試験・再試験

試験を欠席した理由が以下の項目に該当する場合には、教授会の認定する場合に限り追・再試験を行うことがあります。ただし、基幹教育科目については、再試験を実施しません。

- ① 学生が病気または負傷した場合
- ② 学生の親族が死亡した場合 (2 親等以内の親族または同居の親族に限る。)
- ③ 公共交通機関の遅延による場合
- ④ 学生が国家試験等を受験する場合
- ⑤ 学生が裁判員裁判へ参加する場合
- ⑥ その他やむを得ないものと認められた場合

追試験の受験を希望する者は、所定の期間内に信憑書類を添えて科目の開設部局に願い出る必要があります。追試験の実施有無や受験方法等については科目の開設部局に問い合わせてください。

9. 成績評語と GPA 制度・CAP 制

(1) 成績評語と GPA 制度

履修科目の成績は、定められた基準にもとづき評価され、発表は評語により行います。各評語の評価基準などは大学 Web サイト [\(ホーム>教育・学生生活>授業・履修>シラバス・履修案内\)](#) を確認してください。

履修登録した各科目の成績に GP (Grade Point) を割り当てて、その平均を取ったものを GPA (Grade Point Average) といいます。学修の達成度を客観的に評価するための指標として学期ごとに算出され、卒業するために必要な単位をただ修得するのではなく、学生が主体的にかつ充実した学習効果をあげることを目的としています。GPA は学期ごとに算出されます。GPA の算出方法は大学 Web サイト [\(ホーム>教育・学生生活>授業・](#)

[履修>シラバス・履修案内](#) から確認してください。

GPAの対象となる科目は、原則として履修登録した全ての科目です。ただし、卒業の所要単位に算入されない科目（資格科目等の自由科目）、評語「N（認定）」の「単位認定された科目」、評語「P（合格）」の「成績評価基準にもとづく評価をしない科目で合格となった科目」はGPAから除かれます。また、成績証明書には、発行した時点での通算GPAが記載されます。

なお、履修登録の締め切り以降は、原則として変更はできません。ただし、以下に示す条件により履修を続けることが困難な場合、特別に履修中止を認める場合があります。

- ① 実際の授業の内容が公開されている『シラバス』と本質的に異なっている場合
- ② 授業についていけないだけの知識不足が発覚した場合

手続きの時期や方法など詳細については「履修登録の手引」を確認してください。

（2）CAP制

学期内で履修する科目について事前・事後学修の時間を確保するために、各年度・各学期に履修登録できる総単位数には、上限が設けられています。このことをCAP制（キャップ制）といいます。

1年次の履修上限は年間○単位未満、前期○単位以下、後期○単位以下と定められています。また、2年次以降は年間○単位未満、前期○単位以下、後期○単位以下と定められています。

通年科目の単位数を計算するときは、通年科目の単位数を開講学期数で割ってそれぞれの学期に振り分けられます。

年次	登録できる単位数		
	前期	後期	年
1年次	○単位以下	○単位以下	○単位未満
2年次以降	○単位以下	○単位以下	○単位未満

原則として、卒業の所要単位に算入されない科目（資格科目等の自由科目）はCAP制の対象外となります。卒業の所要単位に算入される科目の中で、例外的にCAP制対象外となる科目もあります。詳しくは標準履修課程表を確認してください。

各学部等のCAP上限説明

成績優秀者には、CAP制限が緩和されます。[履修規程第6条の範囲](#)で各学部等における緩和条件記載

10. 既修得単位等の認定

(1) 既修得単位の認定（編入学および再入学の場合を除く）

入学する前に大学、短期大学（外国の大学等を含む）または大学以外の教育施設において科目を履修し、修得した単位については、学部・学域の履修課程に照らして有益と認められる場合に限り、合計 60 単位を超えない範囲で本学において修得したものとして認定されることがあります。該当者は、入学前までに各学部・学域教務担当へ申し出てください。

なお、他大学との単位互換・単位認定制度により修得した単位数と合わせて 60 単位を超えることはできません。

(2) 外部試験等による外国語の単位認定

高い英語能力を持った学生を対象に、外国語科目（英語）の単位認定を行う制度があります。詳細については、「国際基幹教育機構開設科目要覧（学部・学域生用）」を参照してください。

なお、認定された科目を履修することはできないので注意してください。

11. 定期試験受験心得

試験を受ける際には、次の点を遵守してください。

（ただし、基幹教育科目、共用試験等別に定めているものは除きます。）

1. 受験に際しては、必ず学生証（デジタル学生証は認められません（以下同様））を持参し、着席した机上（通路側）に置いてください。学生証を忘れた場合は、事前に学務課窓口で仮受験票の交付を受けてください。これを怠った場合は、受験を許可しません。
2. 集合時間・試験時間は各試験において指定された時間を厳守してください。試験を開始して 30 分経過後の遅刻者は受験を許可されません。交通機関の事故等による延着については、延着証明を試験監督者に提出してください。
3. 試験開始後、30 分を経過しなければ退出はできません。なお、途中退室した場合に、廊下での私語は、近隣で実施されている試験の妨害になりますので厳禁です。
4. 机上には、持ち込みを許可されたもの（教科書、ノートなど）がある場合を除いて、学生証、筆記具以外を置いてはいけません。
5. 電子機器類（携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末、タブレット端末、電子辞書、IC レコーダー、イヤホン、音楽プレーヤー等の電子機器類）は教室前方の壇上、または試験監督者が指定する場所に置いてください。所持していた場合は不正行為とみなします。
6. 受験中、学生相互間の物品（筆記具を含む）の貸借は一切認められません。また、私語をしてはいけません。

7. 座席が指定されていますので、監督者の許可無く指定された席以外で受験した場合は失格とします。
8. 机の中に物が入っていないことを確認してください。物を入れていると不正行為とみなします。
9. 配付された答案用紙には、所定の箇所に、学籍番号、氏名などを必ず記入してください。答案用紙は監督者から配付されたものを使用し、書き損じた答案用紙もすべて提出してください。配付されたものは、許可されたものの以外は持ち帰ってはいけません。
10. 試験監督者が不正行為を認めた場合には、受験の停止、退室などを命ずることがあり、受験者はこれに従わなければいけません。また、所持品や携帯品を没収することがあるので、速やかに指示に従うこと。
11. 試験（遠隔試験、レポート試験も含む）で不正行為を行った学生に対しては、教務委員会及び教授会の認定により、原則としてその試験実施日が属する学期に履修中の科目の成績を全て無効とし、進級を認めません。
12. 不正行為を行った学生は、学則に基づいた懲戒処分（訓告、停学、退学）の対象になる事もあります。
13. いかなる試験においても、自己または他人のために不正行為をしてはいけません。また、不正行為につながる恐れのある素振りなど、行わないように十分に注意してください。
14. 試験監督の指示には適切に従ってください。指示に従わない場合も不正行為とみなすことがあります。

尚、試験によっては、独自の注意事項を定めている場合があるため、そちらも必ず確認すること。また、事前説明をする場合があるため、時間に余裕をもって着席しておくこと。

12. 成績評価についての異議申立

学生は、その学期の成績評価について、次のような場合に異議を申し立てることができます。

- (1) 成績の誤記入等、担当教員の誤りであると思われるもの
- (2) シラバス等により周知している成績評価の方法に照らして、評価結果等について疑義があるもの

異議申立を行う場合、学生ポータル（UNIPA）に掲載する申立期間内に、各科目の開設部局（各学部・学域教務担当または基幹教育担当）へ申し出てください。

なお、これは成績評価に納得がいけない者が、問い合わせ、また異議申立を行う制度ではないので、注意してください。

13. 休講・欠席について

(1) 気象条件の悪化、交通機関の運休等による授業の休講および定期試験の延期措置について

取り扱いの詳細は、以下のリンクより大学 Web サイトを確認してください。

[\(ホーム>教育・学生生活>気象条件の悪化、交通機関の運休等による授業の休講および定期試験の延期措置について\)](#)

(2) 授業欠席時の取扱いについて

・基幹教育科目：授業を欠席する場合は、大学 Web サイト [\(ホーム>教育・学生生活>授業・履修>学事日程・授業関係\)](#) を確認のうえ、所定の手続きを行ってください。欠席理由（病気、各種実習、介護等体験、クラブ活動、忌引等）の如何を問わず原則として「欠席届」を授業担当教員に、コピーを学務課に提出してください。授業科目の成績評価等の配慮については、授業担当教員の判断によります。

・専門科目：授業及び試験をやむを得ない理由により受けることができなかった場合は、その理由を明記して「欠席届」と「診断書等」を学務課に欠席から1週間以内に提出してください。授業科目の成績評価等の配慮については、授業担当教員の判断によります。試験の場合は、上記に加えて「追試験願」も併せて提出してください。

なお、以下の場合は特例として通常と対応が異なります。

- 学校感染症に指定されている感染症（季節性インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症等）に罹患した場合

大学 Web サイト [\(ホーム>教育・学生生活>授業・履修>学事日程・授業関係\)](#) を確認してください。

裁判員制度に伴う裁判に出席する場合

大学 Web サイト [\(ホーム>教育・学生生活>授業・履修>学事日程・授業関係\)](#) を確認してください。

14. 副専攻

副専攻とは、所属する学部・学科／学域・学類で卒業をめざす主専攻に加え、学部・学科／学域・学類課程の区分を超えて、一人ひとりが主体的に興味関心のある分野を学修する制度です。所属する学部・学科／学域・学類により履修可能な副専攻が変わります。詳細は、「副専攻ガイド」を参照してください。ただし、副専攻のために修得した単位については、進級要件および卒業要件に含まれないことがあるので注意してください。

15. 他大学との単位互換・単位認定制度

(1) 大学コンソーシアム大阪等との単位互換協定に基づいて、他大学の授業を履修することができます。毎年度教育推進課から募集の案内があります。詳細は各コンソ

- ーシアム等の Web サイトを確認してください。なお、修得した科目および単位は、本学で履修し、単位を修得したものとみなし、単位が認定される場合があります。
- (2) 本学に在学中に外国の大学との協議等に基づき、当該大学の科目を履修し、単位を修得した場合は、教授会等の承認を経て本学において修得したものとみなし、単位が認定される場合があります。
- (3) 他大学との単位互換および単位認定により認定される単位の上限は 60 単位までです。また、入学前の既修得単位制度により修得した単位数と合わせて 60 単位を超えることはできません。

16. 学籍について

(1) 休学

病気その他やむを得ない理由で引き続き 2 ヶ月以上修学できない場合は、「休学願」を提出することにより、休学が認められることがあります。ただし、休学はやむを得ない事由により復学を前提として行うものです。なお、「休学願」の提出は休学を開始する日の前日（前期からの休学の場合は 3 月 31 日、後期からの休学の場合は 9 月 23 日）までに行わなければなりません。また、休学を延長する場合も、上記と同様の手続きをおこなう必要があります。

休学期間は、通算して 2 年を超えることができません。休学期間は在学年数に算入しません。

(2) 復学

休学期間中にその事由が消滅した場合は、申し出て復学することができます。復学するためにはその学期の授業料を納入しなければなりません。

(3) 留学

留学を願い出る場合は、担当教員等による指導助言を受けた上で、留学を開始する日の前日までに「留学願」を提出しなければなりません。

(4) 退学

退学を希望する場合は、前期をもって退学する場合は前期末、後期をもって退学する場合は後期末までに「退学願」を提出しなければなりません。学期開始後に提出した場合は、その学期の授業料を納入しなければなりません。

(5) 除籍

指定された期日までに授業料を納入しなかった場合、あるいは在学年限内に所定の単位を修得できなかった場合で「退学願」の提出のないとき等は除籍となります。

(6) 再入学

退学または除籍された者が、再入学を願い出た場合には、教授会の選考を経て再入学が許可されることがあります。ただし、再入学の願い出は、退学または除籍の日から 2 年以内に限ります。

原則、休学、復学、退学は学期末の 1 か月前までに、担当教員等による指導助言を受

けたうえで願い出るようにしてください。急な事情により願い出が必要となった場合は、すみやかに各学部・学域教務担当へご相談ください。

17. 修学上の配慮・支援について

疾病・障がいおよび社会的障壁を有する学生で個別具体的な修学上の配慮・支援を必要とする場合は、アクセシビリティセンターまたは各部局アクセシビリティ支援委員に申し出てください。

18. 教育学習支援基盤「ていら・みす」について

学ぶ力（学習自己管理能力）を高めること、すなわち、

- ・ 目標を意識しながら、学ぶこと
- ・ 自分自身の学びを見つめる（振り返る）目を養うこと
- ・ 学びについて得た気づきを、次の学修に生かすこと

を主な目的として、半期ごとに、教育学習支援基盤「ていら・みす」において、ポートフォリオ（学修記録）への記入を行ってください。「ていら・みす」へは、学生ポータル（UNIPA）からアクセスしてください。

II. 履修要項

1. 学科等の名称、卒業時の学位、入学定員

学科	学位	定員
医学部医学科	学士（医学） (Bachelor of Medicine)	90 名※

※2026 年度は大阪府指定医療卒 3 名を加えた 93 名

2. 学年・学期・授業期間等

学 年	1 年次	4 月 1 日～翌年 3 月 31 日
	2 年次	4 月 1 日～12 月 31 日
	3 年次	1 月 1 日～12 月 31 日
	4 年次	1 月 1 日～12 月 31 日
	5 年次	1 月 1 日～12 月 31 日
学 期	1 年次	前期：4 月 1 日～9 月 23 日、後期：9 月 24 日～翌年 3 月 31 日
	2 年次	前期：4 月 1 日～9 月 23 日、後期：9 月 24 日～12 月 31 日
	3 年次	前期：1 月 1 日～9 月 23 日、後期：9 月 24 日～12 月 31 日
	4 年次	前期：1 月 1 日～9 月 23 日、後期：9 月 24 日～12 月 31 日
	5 年次	前期：1 月 1 日～9 月 23 日、後期：9 月 24 日～12 月 31 日

休業日：

- ① 日曜日および土曜日（授業調整日除く）
- ② 国民の祝日に関する法律(昭和 23 年法律第 178 号)に規定する休日（祝日授業日を除く）
- ③ 「授業時間割表」に記載の休業日
- ④ その他学長が必要と認めた日

詳しい授業期間および試験期間等は、各年度当初に定められる「学事日程」によります。「学事日程」は、毎年度、本学 Web サイト [\(ホーム>教育・学生生活>授業・履修>学事日程・授業関係\)](#) などで確認してください。

ただし、担当教員が必要と認めたときは、その他の期間に授業や試験が行われることがあります。

3. 授業科目の種類

授業科目は、基幹教育科目、専門科目、資格科目および副専攻科目に区分されています。基幹教育科目は主に 1 年次・2 年次において学び、多くの専門科目は 2 年次以降に学びます。

全学部・学域に共通した基幹教育科目は総合教養科目、ゼミナール科目、情報科目、外国語科目、健康・スポーツ科学科目、基礎教育科目に分かれます。

○科目区分および開設部局（特例科目を除く）

科目区分		開設部局
基幹教育科目	総合教養科目	
	ゼミナール科目	プロジェクト
		高年次ゼミナール
		初年次ゼミナール
	情報科目	
	外国語科目	英語
		初修外国語
健康・スポーツ科学科目		
基礎教育科目		
専門科目		各学部・学域
資格科目	教職科目	国際基幹教育機構※
副専攻科目		各学部・学域 国際基幹教育機構

（１）専門科目の科目名、単位数、配当年次および必修・選択の区分は、各学科の標準履修課程表を参照してください。

（２）基幹教育科目の履修については、「国際基幹教育機構開設科目要覧（学部・学域生用）」等を参照してください。

（３）資格科目の履修については「教職課程の手引」、副専攻科目の履修については、「副専攻ガイド」等を参照してください。

※資格科目の授業科目は、国際基幹教育機構が開設するほか各学部・学域が開設する場合があります。

4. 授業科目の単位、単位制

大学における授業科目の単位においては、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。単位の計算方法は、授業の方法（講義・演習、実験・実習・実技）に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮しておおむね15時間から45時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位として単位数を計算します。また、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して単位数を算定します。

（例）講義・演習、実験・実習・実技の場合

学修時間数	単位数
授業時間 30 時間（毎週 2 時間 15 週） 事前事後学修 60 時間（毎週 4 時間 15 週）	2 単位

授業時間 30 時間（毎週 2 時間 15 週） 事前事後学修 15 時間（毎週 1 時間 15 週）	1 単位
--	------

※大学において 1 単位の修得には「45 時間」の学修が必要であり、その際の「1 時間」は実際の 45 分に相当します。すなわち、「2 時間」は 90 分授業（1 時限）に相当します。

上記の表のとおり、2 単位の修得には、毎週「2 時間」の講義の前後に事前学修（予習）と事後学修（復習）を「4 時間」（例：事前学修「2 時間」＋事後学修「2 時間」）することが前提となっています。この前提に基づいて、授業では多くの課題（宿題）が課せられることがあります。大学では、常に事前・事後学修を行いながら授業を受けることが履修の基本であることを忘れないでください。

5. 履修課程と履修上の注意

（1）基幹教育科目

基幹教育科目は、総合教養科目、ゼミナール科目、情報科目、外国語科目、健康・スポーツ科学科目、基礎教育科目に分かれています。科目名や単位数、必修・選択・自由の区分、配当年次等については、「国際基幹教育機構開設科目要覧（学部・学域生用）」および本要覧に記載されています。

① 総合教養科目

総合教養科目は、思考力、表現力、判断力の基盤の上に、幅広い知識を総合的に活用できる能力を身に付けることを目的としています。

② ゼミナール科目

ゼミナール科目には、「プロジェクト」、「高年次ゼミナール」及び「初年次ゼミナール」があります。プロジェクト科目は、知識を受け身で学ぶだけでなく、学生が能動的に課題に関わりながら学ぶことを重視しており、多様なプロジェクトや課題に取り組む中で、学んだ知識を活用しつつ仲間と協働し、自ら考え行動する姿勢を養います。これらの取り組みを通じて、社会に出て活躍するための基礎的な力やキャリア意識を培うことを目的としています。

高年次ゼミナールは、3 年生以上を対象とし、講義に加え、異なる学部・学域に所属する履修生同士のディスカッションやプロジェクトの実施・発表を通して、他者の「問い」の視点も参考にしながら自身の専門性に立脚した「問う力」を高めるとともに、社会の諸課題の解決に必要な基礎的な知識・技能・態度を身につけることを目的としています。

初年次ゼミナールは、高等教育での主体的な学びを大学入学直後に身に付けることを目的としています。グループディスカッションを通じた課題発表等の自発的学修、プレゼンテーションやレポートによる自己表現の経験、異なる視点との出会いによる自己の振り返り、他の専門分野の複数の学生と教員とによる多様な視点の交換を行うことで、能動的な学びの姿勢を身に付けることを目的としています。

③ 情報科目

情報科目は、情報機器を利活用する際に必要となる情報処理の基礎的な知識と技能に加え、インターネットによるコミュニケーション手法や情報化社会に参画するための情報倫理、情報機器によるプレゼンテーション等のスキルを身に付けることを目的としています。

④ 外国語科目

外国語科目には、「英語科目」と、「初修外国語科目」（朝鮮語・中国語・ロシア語・ドイツ語・フランス語）があります。初修外国語について詳しくは、「国際基幹教育機構開設科目要覧（学部・学域生用）」および「初修外国語履修ガイド」を参照してください。

自分の第1言語（母語）を初修外国語科目として履修することはできません。日本語を第1言語（母語）としない学生は、特例科目（外国人留学生および日本語を母語としない学生を対象にした日本語科目）を履修し単位を修得した場合、初修外国語の単位として認定されます。

⑤ 健康・スポーツ科学科目

生涯にわたり心身の健康を維持し、より健康的な状態を得るために必要な知識や方法について、主としてスポーツを中心とした行動を通じて具体的、学術的に修得するとともに、健康科学やスポーツ文化が果たすべき役割について、理論と実践を通し理解を深めることを目的としています。

⑥ 基礎教育科目

それぞれの学問領域の基礎教育の中で、基幹教育として提供することが相応しい自然科学系科目を基礎教育科目として提供しています。学士課程教育において、科学の基本的能力として必要とされる学力と能力を養成するために、1・2年次に「数学」・「物理学」・「化学」・「生物学」・「地学」の基礎教育（講義・演習・実験）を実施します。それぞれの科目では、学士課程において必要な科学的基盤を身に付けるのみでなく、専門教育へもスムーズに接続できる知識・技能の修得を目的としています。

また、「情報」の基礎教育科目として、コンピュータやネットワークの動作原理、大量のデータを効率的に蓄積・検索するためのデータベースと、情報検索のしくみ等の修得を目的としています。

（2）専門科目

専門科目においては、各学部・学科、学域・学類の専門科目に加えて、学部・学域によっては共通科目を置き、それぞれの学問分野で共通に求められる知識や思考法等の知的な技法の修得等を目指します。専門科目の科目名、単位数、配当年次および必修・選択・自由の区分は、所属学科等の標準履修課程表を参照してください。

（3）資格科目

教育職員免許状の取得に必要な科目を資格科目といいます。この科目の単位を進級要件や卒業要件の所要単位に含めることはできない場合があるので注意してください。教

育職員免許状の取得を希望する学生は、教職課程に関する説明会に必ず出席し、「教職課程の手引」等を熟読してください。

(4) 副専攻科目

副専攻のために特別に開設した科目として副専攻科目があります。副専攻科目の履修については、「副専攻ガイド」等を参照してください。

(5) 必修、選択および自由科目の区分

科目は必修、選択、自由科目の種類に区別され、各学部・学科等の定める要件を満たして履修する必要があります。

- ・ 「必修科目」…当該学科等の教育目的を達成するため、卒業要件として修得を必要としている科目。
- ・ 「選択科目」…学生の履修目的に応じて選択し、修得単位を卒業要件に算入する科目。(選択必修科目を含む。)
- ・ 「自由科目」…履修できるが卒業要件に算入しない科目。

(6) 遠隔授業について

一部授業は、授業支援システム (Moodle) 等によりオンラインで行うことがあります。

(7) 集中講義について

週1回の授業ではなく、短期間で授業を行う集中講義を開講することがあります。集中講義の開講日については学生ポータル (UNIPA) により事前に周知します。集中講義の履修登録については、それぞれ前期・後期の履修登録期間中に登録してください。履修登録期間の時点で希望する集中講義の開講日が未定の場合でも、履修希望者は必ず登録してください。

(8) 履修に関する相談について

① オフィスアワー

各授業担当教員は、オフィスアワーを設定しています。これは、指定された曜日・時間には、事前に予約なしでも学生が授業担当教員を訪問し、履修に関することや授業中の疑問などを解決するための相談ができる時間のことです。大いに活用してください。(オフィスアワーについては、シラバスを参照してください。)

② その他相談窓口について

履修にあたっては、授業科目の内容説明(「国際基幹教育機構開設科目要覧(学部・学域生用)」やシラバス)を参考にし、標準履修課程表を十分に参照するとともに、履修や進路に関し相談等がある場合は、各学部・学域教務担当または担当教員等に相談してください。

(9) 他学部・学域履修

他学部・学域で開講されている科目を履修することができる場合があります。卒業要件に含めることができるかどうかなどの詳細は所属学科等の卒業要件を確認してください。また、履修できる科目については大学 Web サイト [\(ホーム>教育・学生生活>授業・履修>要覧\)](#) に掲載されている「他学部・他学域学生が履修可能な科目一覧」を確認したうえで、履修登録の方法は「履修登録の手引」を参照してください。

(10) 科目名称について

科目名称の末尾に数字あるいは英字等の表現がある場合は、以下のルールを表しています。

- ・ 「〇〇論 1、2～」

科目内容に順序性がある科目群について使用します。ただし、必ずしも 1 の履修が 2 の履修の前提条件になっているとは限りません。

- ・ 「〇〇論 A、B～」

科目内容に順序性がない科目群について使用します。

(11) キャンパスをまたぐ授業の履修について

原則として、各学部・学域の主な学びのキャンパスで開講される科目を履修してください。ただし、再履修科目、資格科目、副専攻科目、他学部・学域（他学科・学類）科目、その他各学部・学域において必要と認められる科目については、主な学びのキャンパス以外のキャンパスでの履修が許可されることがあります。なお、個人的都合による理由で主な学びのキャンパス以外の科目を履修することはできません。

〇〇学部（学域）の主な学びのキャンパスについては、大学 Web サイト [\(ホーム>大阪公立大学について>キャンパス案内>主な学びのキャンパス\)](#) を参照してください。

6. 科目ナンバリング

科目ナンバリングは、教育課程の体系性を示すために、科目に記号と番号を組みあわせて付与することによって、科目の学問分野、カリキュラム内での位置づけを示す仕組みです。本学では、科目の属性に応じて、アルファベットと数字を組み合わせた 13 桁で構成された番号を、下記のとおり①開設部局・②学問分野・③科目レベル・④科目区分・⑤連番・⑥使用言語・⑦授業形態として各科目に付番しています。各授業科目の科目ナンバリングは、シラバスをご確認ください。詳細は大学 Web サイト [\(ホーム>教育・学生生活>授業・履修>シラバス・履修案内\)](#) をご覧ください。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
A	A	A	A	A	A	0	0	0	0	0	-	J 1
└──┬──┘		└──┬──┘			└──┘	└──┘	└──┘	└──┘		└──┘		└──┘
①		②			③	④	⑤		⑥		⑦	

7. 履修登録

(1) 履修登録

① 学生ポータル (UNIPA) による履修登録

科目を履修するにあたっては、各学期はじめの定める期日まで（4月上旬・9月中旬）に学生ポータル（UNIPA）より履修登録をする必要があります。

履修を考えている科目は全て履修登録期間に登録してください。

② 登録上の諸注意

- ・ 標準履修課程表にある配当年次などによく注意して登録してください。試験で不合格となった科目の再履修は原則として次年度以降となりますが、一部の前期開講科目については、同一年度の後期に再履修できる場合があります。
- ・ 配当年次に満たない年次の学生は、その科目を履修することはできませんが、配当年次を越える年次の学生は履修が可能です。ただし、所属する学科・学類によっては、履修年次を指定している場合があるので、注意してください。
- ・ 同一曜日に複数キャンパスで授業を履修する場合、キャンパス間移動の時間が確保できないと判断される場合は履修エラーとなりますので注意してください。
- ・ 同一曜日時限に、2科目以上を重複して履修登録することはできません。
- ・ 既に単位を修得した科目を再び履修することはできません。
- ・ 履修登録できる単位数には上限が設定される場合があります。詳しくは「10. 成績評語と GPA 制度・CAP 制」の項目を確認してください。
- ・ 卒業・進級予定者が集中講義・単位互換科目等を履修する場合、開講日により卒業・進級判定の際の単位に含むことができない場合があるので、履修登録時に教務担当窓口にご相談してください。

③ 履修登録の確認

履修登録の締め切り後の履修登録確認日・抽選結果発表日に、学生ポータル（UNIPA）の「抽選希望登録対象一覧」画面および「学生時間割表」画面上にて抽選科目の抽選結果および履修登録内容の確認が可能になります。履修登録確認日・抽選結果発表日に登録内容を点検し、希望どおり正しく登録されているか確認してください。特に、エラーが出ている科目については、履修登録修正期間内に修正してください。

※履修登録について、詳しくは「履修登録の手引」を参照してください。

(2) シラバス

シラバスには、各学部・学域のカリキュラムにおける科目の位置付けや授業の方法、授業概要、到達目標、授業計画、成績評価の方法等が記載されています。履修登録にあたっては、授業時間割やシラバス等を確認し、自身の学習計画を立ててください。

8. 成績評価・試験

(1) 成績評価方法・単位の修得

履修科目の成績は、シラバスで授業科目ごとに示されている方法で各授業担当教員によって評価され、合格した科目に単位が与えられます。成績の評語については「9. 成績評語と GPA 制度・CAP 制」で記載します。成績は学生ポータル (UNIPA) で確認することができます (定められた期間を除く)。

(2) 定期試験

単位の認定は基本的に試験の成績によって行われますが、試験を行わず、レポートや平常の成績等によって単位認定が行われることもあります。試験を実施する場合は、原則として、授業期間終了後 (試験期間) に実施します。試験の時間割は学生ポータル (UNIPA) を確認してください。

(3) 追試験・再試験

試験を欠席した理由が以下の項目に該当する場合には、教授会の認定する場合に限り追・再試験を行うことがあります。ただし、基幹教育科目については、再試験を実施しません。

- ① 学生が病気または負傷した場合
- ② 学生の親族が死亡した場合 (2 親等以内の親族または同居の親族に限る。)
- ③ 公共交通機関の遅延による場合
- ④ 学生が国家試験等を受験する場合
- ⑤ 学生が裁判員裁判へ参加する場合
- ⑥ その他やむを得ないものと認められた場合

追試験の受験を希望する者は、所定の期間内に信憑書類を添えて科目の開設部局に願い出る必要があります。追試験の実施有無や受験方法等については科目の開設部局に問い合わせてください。

9. 成績評語と GPA 制度・CAP 制

(1) 成績評語と GPA 制度

履修科目の成績は、定められた基準にもとづき評価され、発表は評語により行います。各評語の評価基準などは大学 Web サイト [\(ホーム>教育・学生生活>授業・履修>シラバス・履修案内\)](#) を確認してください。

履修登録した各科目の成績に GP (Grade Point) を割り当てて、その平均を取ったものを GPA (Grade Point Average) といいます。学修の達成度を客観的に評価するための指標として学期ごとに算出され、卒業するために必要な単位をただ修得するのではなく、学生が主体的にかつ充実した学習効果をあげることを目的としています。GPA は学期ごとに算出されます。GPA の算出方法は大学 Web サイト [\(ホーム>教育・学生生活>授業・](#)

[履修>シラバス・履修案内](#) から確認してください。

GPAの対象となる科目は、原則として履修登録した全ての科目です。ただし、卒業の所要単位に算入されない科目（資格科目等の自由科目）、評語「N（認定）」の「単位認定された科目」、評語「P（合格）」の「成績評価基準にもとづく評価をしない科目で合格となった科目」はGPAから除かれます。また、成績証明書には、発行した時点での通算GPAが記載されます。

なお、履修登録の締め切り以降は、原則として変更はできません。ただし、以下に示す条件により履修を続けることが困難な場合、特別に履修中止を認める場合があります。

- ① 実際の授業の内容が公開されている『シラバス』と本質的に異なっている場合
- ② 授業についていけないだけの知識不足が発覚した場合

手続きの時期や方法など詳細については「履修登録の手引」を確認してください。

（2）CAP制

学期内で履修する科目について事前・事後学修の時間を確保するために、各年度・各学期に履修登録できる総単位数には、上限が設けられています。このことをCAP制（キャップ制）といいます。

1年次の履修上限は年間○単位未満、前期○単位以下、後期○単位以下と定められています。また、2年次以降は年間○単位未満、前期○単位以下、後期○単位以下と定められています。

通年科目の単位数を計算するときは、通年科目の単位数を開講学期数で割ってそれぞれの学期に振り分けされます。

年次	登録できる単位数		
	前期	後期	年
1年次	○単位以下	○単位以下	○単位未満
2年次以降	○単位以下	○単位以下	○単位未満

原則として、卒業の所要単位に算入されない科目（資格科目等の自由科目）はCAP制の対象外となります。卒業の所要単位に算入される科目の中で、例外的にCAP制対象外となる科目もあります。詳しくは標準履修課程表を確認してください。

各学部等のCAP上限説明

成績優秀者には、CAP制限が緩和されます。[履修規程第6条の範囲](#)で各学部等における緩和条件記載

10. 既修得単位等の認定

(1) 既修得単位の認定（編入学および再入学の場合を除く）

入学する前に大学、短期大学（外国の大学等を含む）または大学以外の教育施設において科目を履修し、修得した単位については、学部・学域の履修課程に照らして有益と認められる場合に限り、合計 60 単位を超えない範囲で本学において修得したものとして認定されることがあります。該当者は、入学前までに各学部・学域教務担当へ申し出てください。

なお、他大学との単位互換・単位認定制度により修得した単位数と合わせて 60 単位を超えることはできません。

(2) 外部試験等による外国語の単位認定

高い英語能力を持った学生を対象に、外国語科目（英語）の単位認定を行う制度があります。詳細については、「国際基幹教育機構開設科目要覧（学部・学域生用）」を参照してください。

なお、認定された科目を履修することはできないので注意してください。

11. 定期試験受験心得

試験を受ける際には、次の点を遵守してください。

（ただし、基幹教育科目、共用試験等別に定めているものは除きます。）

1. 受験に際しては、必ず学生証（デジタル学生証は認められません（以下同様））を持参し、着席した机上（通路側）に置いてください。学生証を忘れた場合は、事前に学務課窓口で仮受験票の交付を受けてください。これを怠った場合は、受験を許可しません。
2. 集合時間・試験時間は各試験において指定された時間を厳守してください。試験を開始して 30 分経過後の遅刻者は受験を許可されません。交通機関の事故等による延着については、延着証明を試験監督者に提出してください。
3. 試験開始後、30 分を経過しなければ退出はできません。なお、途中退室した場合に、廊下での私語は、近隣で実施されている試験の妨害になりますので厳禁です。
4. 机上には、持ち込みを許可されたもの（教科書、ノートなど）がある場合を除いて、学生証、筆記具以外を置いてはいけません。
5. 電子機器類（携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末、タブレット端末、電子辞書、IC レコーダー、イヤホン、音楽プレーヤー等の電子機器類）は教室前方の壇上、または試験監督者が指定する場所に置いてください。所持していた場合は不正行為とみなします。
6. 受験中、学生相互間の物品（筆記具を含む）の貸借は一切認められません。また、私語をしてはいけません。

7. 座席が指定されていますので、監督者の許可無く指定された席以外で受験した場合は失格とします。
8. 机の中に物が入っていないことを確認してください。物を入れていると不正行為とみなします。
9. 配付された答案用紙には、所定の箇所に、学籍番号、氏名などを必ず記入してください。答案用紙は監督者から配付されたものを使用し、書き損じた答案用紙もすべて提出してください。配付されたものは、許可されたものの以外は持ち帰ってはいけません。
10. 試験監督者が不正行為を認めた場合には、受験の停止、退室などを命ずることがあり、受験者はこれに従わなければいけません。また、所持品や携帯品を没収することがあるので、速やかに指示に従うこと。
11. 試験（遠隔試験、レポート試験も含む）で不正行為を行った学生に対しては、教務委員会及び教授会の認定により、原則としてその試験実施日が属する学期に履修中の科目の成績を全て無効とし、進級を認めません。
12. 不正行為を行った学生は、学則に基づいた懲戒処分（訓告、停学、退学）の対象になる事もあります。
13. いかなる試験においても、自己または他人のために不正行為をしてはいけません。また、不正行為につながる恐れのある素振りなど、行わないように十分に注意してください。
14. 試験監督の指示には適切に従ってください。指示に従わない場合も不正行為とみなすことがあります。

尚、試験によっては、独自の注意事項を定めている場合があるため、そちらも必ず確認すること。また、事前説明をする場合があるため、時間に余裕をもって着席しておくこと。

12. 成績評価についての異議申立

学生は、その学期の成績評価について、次のような場合に異議を申し立てることができます。

- (1) 成績の誤記入等、担当教員の誤りであると思われるもの
- (2) シラバス等により周知している成績評価の方法に照らして、評価結果等について疑義があるもの

異議申立を行う場合、学生ポータル（UNIPA）に掲載する申立期間内に、各科目の開設部局（各学部・学域教務担当または基幹教育担当）へ申し出てください。

なお、これは成績評価に納得がいけない者が、問い合わせ、また異議申立を行う制度ではないので、注意してください。

13. 休講・欠席について

(1) 気象条件の悪化、交通機関の運休等による授業の休講および定期試験の延期措置について

取り扱いの詳細は、以下のリンクより大学 Web サイトを確認してください。

[\(ホーム>教育・学生生活>気象条件の悪化、交通機関の運休等による授業の休講および定期試験の延期措置について\)](#)

(2) 授業欠席時の取扱いについて

・基幹教育科目：授業を欠席する場合は、大学 Web サイト [\(ホーム>教育・学生生活>授業・履修>学事日程・授業関係\)](#) を確認のうえ、所定の手続きを行ってください。欠席理由（病気、各種実習、介護等体験、クラブ活動、忌引等）の如何を問わず原則として「欠席届」を授業担当教員に、コピーを学務課に提出してください。授業科目の成績評価等の配慮については、授業担当教員の判断によります。

・専門科目：授業及び試験をやむを得ない理由により受けることができなかった場合は、その理由を明記して「欠席届」と「診断書等」を学務課に欠席から1週間以内に提出してください。授業科目の成績評価等の配慮については、授業担当教員の判断によります。試験の場合は、上記に加えて「追試験願」も併せて提出してください。

なお、以下の場合は特例として通常と対応が異なります。

- 学校感染症に指定されている感染症（季節性インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症等）に罹患した場合

大学 Web サイト [\(ホーム>教育・学生生活>授業・履修>学事日程・授業関係\)](#) を確認してください。

裁判員制度に伴う裁判に出席する場合

大学 Web サイト [\(ホーム>教育・学生生活>授業・履修>学事日程・授業関係\)](#) を確認してください。

14. 副専攻

副専攻とは、所属する学部・学科／学域・学類で卒業をめざす主専攻に加え、学部・学科／学域・学類課程の区分を超えて、一人ひとりが主体的に興味関心のある分野を学修する制度です。所属する学部・学科／学域・学類により履修可能な副専攻が変わります。詳細は、「副専攻ガイド」を参照してください。ただし、副専攻のために修得した単位については、進級要件および卒業要件に含まれないことがあるので注意してください。

15. 他大学との単位互換・単位認定制度

(1) 大学コンソーシアム大阪等との単位互換協定に基づいて、他大学の授業を履修することができます。毎年度教育推進課から募集の案内があります。詳細は各コンソ

- ーシウム等の Web サイトを確認してください。なお、修得した科目および単位は、本学で履修し、単位を修得したものとみなし、単位が認定される場合があります。
- (2) 本学に在学中に外国の大学との協議等に基づき、当該大学の科目を履修し、単位を修得した場合は、教授会等の承認を経て本学において修得したものとみなし、単位が認定される場合があります。
- (3) 他大学との単位互換および単位認定により認定される単位の上限は 60 単位までです。また、入学前の既修得単位制度により修得した単位数と合わせて 60 単位を超えることはできません。

16. 学籍について

(1) 休学

病気その他やむを得ない理由で引き続き 2 ヶ月以上修学できない場合は、「休学願」を提出することにより、休学が認められることがあります。ただし、休学はやむを得ない事由により復学を前提として行うものです。なお、「休学願」の提出は休学を開始する日の前日（前期からの休学の場合は 3 月 31 日、後期からの休学の場合は 9 月 23 日）までに行わなければなりません。また、休学を延長する場合も、上記と同様の手続きをおこなう必要があります。

休学期間は、通算して 2 年を超えることができません。休学期間は在学年数に算入しません。

(2) 復学

休学期間中にその事由が消滅した場合は、申し出て復学することができます。復学するためにはその学期の授業料を納入しなければなりません。

(3) 留学

留学を願い出る場合は、担当教員等による指導助言を受けた上で、留学を開始する日の前日までに「留学願」を提出しなければなりません。

(4) 退学

退学を希望する場合は、前期をもって退学する場合は前期末、後期をもって退学する場合は後期末までに「退学願」を提出しなければなりません。学期開始後に提出した場合は、その学期の授業料を納入しなければなりません。

(5) 除籍

指定された期日までに授業料を納入しなかった場合、あるいは在学年限内に所定の単位を修得できなかった場合で「退学願」の提出のないとき等は除籍となります。

(6) 再入学

退学または除籍された者が、再入学を願い出た場合には、教授会の選考を経て再入学が許可されることがあります。ただし、再入学の願い出は、退学または除籍の日から 2 年以内に限ります。

原則、休学、復学、退学は学期末の 1 か月前までに、担当教員等による指導助言を受

けたうえで願い出るようにしてください。急な事情により願い出が必要となった場合は、すみやかに各学部・学域教務担当へご相談ください。

17. 修学上の配慮・支援について

疾病・障がいおよび社会的障壁を有する学生で個別具体的な修学上の配慮・支援を必要とする場合は、アクセシビリティセンターまたは各部局アクセシビリティ支援委員に申し出てください。

18. 教育学習支援基盤「ていら・みす」について

学ぶ力（学習自己管理能力）を高めること、すなわち、

- ・ 目標を意識しながら、学ぶこと
- ・ 自分自身の学びを見つめる（振り返る）目を養うこと
- ・ 学びについて得た気づきを、次の学修に生かすこと

を主な目的として、半期ごとに、教育学習支援基盤「ていら・みす」において、ポートフォリオ（学修記録）への記入を行ってください。「ていら・みす」へは、学生ポータル（UNIPA）からアクセスしてください。

学校において予防すべき感染症」における出席停止と手続きについて

学校感染症に指定されている感染症に罹患した場合(季節性インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症等)」

学校保健安全法施行規則第18条に基づく第一種・第二種・第三種感染症に罹患またはその疑いがある場合は出席停止(公的欠席)扱いとなります。その場合は、速やかに学務課に連絡し、主治医又は学校医等の指示に従い出席停止(自宅療養)してください。

感染症罹患報告アドレス(学務課)【gr-a-gakumu-med@omu.ac.jp】

「学校において予防すべき感染症」に、罹患または罹患した疑いがある場合

▶ 発熱 37.0℃以上 ▶ 感冒症状(咳、鼻汁、咽頭痛) ▶ 全身症状(悪寒、頭痛、関節痛、全身倦怠感) ▶ 嘔気、嘔吐、下痢、血便 ▶ 目の充血、多量の眼脂 ▶ 皮疹・頸部腫脹等

- ① 医療機関を受診
- ② 該当の感染症であることの診断を受ける→この時点で出席停止となります。
- ③ 医療機関で必要な治療を受け、医師に『「学校において予防すべき感染症」罹患証明書』(学生Naviからダウンロード)に記載を依頼する。

必ず医学部学務課に
連絡すること

- ① 治癒した後に登校
- ② 『「学校において予防すべき感染症」罹患証明書』と「出席停止措置による欠席科目報告書」を医学部学務課に提出

- 『「学校において予防すべき感染症」罹患証明書』には、診断名、出席停止期間が明記されていること。
- 上記内容が明記されていれば、医師による診断書で代用することが可能です。
- 出席停止期間における授業・試験等の取り扱いについては、各所属の決定に従ってください。また、出席停止期間に対する取扱いは、各所属や科目によって異なりますのでご注意ください。
- インフルエンザが疑われる場合、本学の保健管理センターの内科診察でインフルエンザの診断及び治療が可能です。
- 感染症緊急対策本部が設置された場合においては、別途の対応を行う場合があるのでその指示に従ってください。

医療・健康に関すること

保健管理センター

06-6605-2108

授業・試験等に関すること

医学部医学科

06-6645-3611

裁判員制度の実施に伴う修学上の措置について

平成21年5月21日からの裁判員制度の実施に伴い、皆さんが裁判所からの呼出状に基づき裁判所に出頭する場合や裁判員として裁判に参加する場合は予想されます。裁判員等に選任された皆さんが修学上安心して参加出来るように、次のとおりの措置することとなりましたので、お知らせします。

記

1 裁判員等に選任された場合（本人の意志により辞退しない場合）

① 「欠席届」を提出してください。

所定用紙の配付・提出先：医学部医学科学務課

※ 全学共通科目については、学生支援課にて手続きを行ってください。

2 措置内容

① 授業の欠席により皆さんに不利益を与えないよう、授業担当教員の判断により措置を行います。

② 定期試験期間中の場合は、追試験の対象とします。

3 その他

裁判員候補者の内、裁判員または補充裁判員に選任されなかった場合は、それ以降「欠席届」の提出はできません。

平成21年4月22日

教務担当部長通知

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMABAM11002-J1
授業科目名	医学のための統計学		
担当教員氏名	◎新谷歩, 河合稜太 (医療統計学教室)		
開講年度・学期	2026	前期	曜日・時限
授業形態	講義		
科目分類			
配当年次	1年	単位数	2.6

【シラバス情報】

授業概要	実験あるいは調査によって得られたデータの統計的考察は、医学を学んでいく上での素養となる。本講義では統計的考察を行なう上で必要な基礎的な概念と、推定・検定の概念を習得するとともに、実際の問題に適応する統計的手法の習得を目標とする
到達目標	次の各項目を身につけることを目標とする 1. 標本調査の概念を理解する 2. 1変量・2変量の記述統計を理解し、作表・作図・計算ができる 3. 確率分布の概念を理解し、正規分布・二項分布の確率計算ができる 4. 仮説検定、信頼区間の概念を理解する 5. 1変量および2変量データについての基本的な検定・推定手法について理解し、データに応じて正しく使用できる

授業回		各回の授業内容		アクティブラーニング	事前・事後学習の内容
第1回	4/14・2限	新谷歩 河合稜太	医学統計とは	1	授業内容についてレポート提出(800字程度)
第2回	4/21・2限	新谷歩 河合稜太	記述統計 平均中央値Z値 パーセンタイル	1	事前: 授業前までにエクセルをPC上で開けるようにしておくこと 事後: 授業中に配布する問題について回答し、提出
第3回	4/28・2限	新谷歩 河合稜太	エクセルの使い方 EZRのダウンロード	1	エクセルを使って、平均、分散、標準偏差、中央値、四分位範囲、ヒストグラムを計算計算する。EZRにデータを読み込む
第4回	5/12・2限	新谷歩 河合稜太	統計的推測とは 2項分布 正規近似 信頼区間	1	授業中に配布する問題について回答し、提出
第5回	5/19・2限	新谷歩 河合稜太	EZRの使い方	1	授業中に配布する問題について回答し、提出
第6回	5/26・2限	新谷歩 河合稜太	統計的推測 Part2 点推計 値と区間推定帰無仮説両側 検定 優越性同等性非劣性 の考え方	1	授業中に配布する問題について回答し、提出
第7回	6/2・2限	新谷歩 河合稜太	統計検定の選び方	1	授業中に配布する問題について回答し、提出
第8回	6/9・2限	新谷歩 河合稜太	1群のT検定 2群のT検定	1	授業中に配布する問題について回答し、提出
第9回	6/16・2限	新谷歩 河合稜太	1元配置分散分析 クルス カルワリス検定 反復測定 ANOVA フリードマン検定	1	授業中に配布する問題について回答し、提出
第10回	6/23・1限	新谷歩 河合稜太	ゲストレクチャー / 予備日	1	授業内容についてレポート提出(800字程度)
第11回	6/23・2限	新谷歩 河合稜太	線形回帰とピアソンの相関 スピアマンの相関	1	授業中に配布する問題について回答し、提出
第12回	6/30・1限	新谷歩 河合稜太	線形回帰との関連性 T検定、1元配置分散分析、 2元配置の分散分析	1	授業中に配布する問題について回答し、提出

第13回	6/30・2限	新谷 歩 河合稜太	ゲストレクチャー / 予備日	1	授業内容についてレポート提出（800字程度）
第14回	7/7・1限	新谷 歩 河合稜太	リスク レート リスク比 NNT レート比	1	授業中に配布する問題について回答し、提出
第15回	7/7・2限	新谷 歩 河合稜太	ゲストレクチャー / 予備日	1	授業内容についてレポート提出（800字程度）
第16回	7/14・1限	新谷 歩 河合稜太	オッズ比	1	授業中に配布する問題について回答し、提出
第17回	7/14・2限	新谷 歩 河合稜太	ロジスティック回帰 Part1	1	授業中に配布する問題について回答し、提出
第18回	7/21・1限	新谷 歩 河合稜太	ゲストレクチャー / 予備日	1	授業内容についてレポート提出（800字程度）
第19回	7/21・2限	新谷 歩 河合稜太	ロジスティック回帰（タイタニック）	1	授業中に配布する問題について回答し、提出
第20回	7/28・2限	新谷 歩 河合稜太	生存率解析 カプランマイヤー曲線 ログランク検定	1	授業中に配布する問題について回答し、提出

成績評価方法	(1) 講義内で提示した課題および試験によって学修達成度を測る。 (2) 講義内課題の成績 30%、試験 70%。 (3) 原則、合格には、総合して 60%以上の成績が必要である。
履修上の注意	医学部規則により、原則すべての実習に参加しない限り、単位認定されない。 学修態度が著しく悪い時、その授業への参加を認めないため、不合格になる ノートパソコンを用いた実習を行うため、事前指示に従って準備すること。
教科書	必携：新谷歩著『みんなの医療統計 12 日間で基礎理論と EZR を完全マスター！』 講談社
参考文献	新谷歩著『みんなの医療統計 多変量解析編 10 日間で基礎理論と EZR を完全マスター！』 新谷歩著『今日から使える医療統計』 医学書院 新谷歩著『あなたの臨床研究応援します』 羊土社
オフィスアワー	授業のある日 午後 4 時から 6 時まで
教員への連絡方法	E-mail : med-statacademy@ml.omu.ac.jp
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● コアカリキュラムへの対応 H28 旧 B-1-1) 統計の基礎 B-1-2) 統計手法の適用 R4 新 S0-02-02) 疫学 S0-02-03) データ解析と統計手法 ● 該当するコンピテンスおよびマイルストーンへの対応 8. 科学的探究 (智) level 1 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 (智・仁・勇) level 1

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMABAM11001-J1
授業科目名	医療倫理学		
担当教員氏名	服部 俊子（経営学研究科）		
開講年度・学期	2026	前期	曜日・時限
授業形態	講義		
科目分類			
配当年次	1年	単位数	0.9

【シラバス情報】

授業概要	近代医療そのものが患者の人権を脅かす可能性がある。そうした状況下で、医師は、多様な価値観・思想や患者のおかれた状況を考慮したうえで、ここで・いま、何をなすべきかの倫理的判断が求められる。医療倫理の議論を踏まえ医師が直面する倫理的問題の検討方法を学ぶ。
到達目標	医療倫理学の基礎的概念を理解し、医療現場で遭遇する事例に即した倫理的な検討を、他者が理解できるよう明晰に説明できる。

授業回		各回の授業内容		アクティビティ・ラーニング	事前・事後学習の内容
第1回	4/28・4限	服部 俊子	現代の倫理 医療倫理学 近代医学と医療 インフォームド・コンセント 疾患・病気・病い 臨床倫理、ナラティブ	1	事後学習 ・授業中に示されたレポート課題に取り組む。なお、これはすべての授業回に該当する。
第2回	4/28・5限				
第3回	5/12・4限	服部 俊子	倫理的判断の方法	2	事前：第2回授業で指示された課題に取り組む
第4回	5/19・4限	服部 俊子	安楽死・尊厳死	2	事前：第3回授業で指示された課題に取り組む
第5回	5/26・4限	服部 俊子	生殖補助医療	2	事前：第4回授業で指示された課題に取り組む
第6回	6/2・4限	服部 俊子	輸血拒否	2	事前：第5回授業で指示された課題に取り組む
第7回	6/9・4限	服部 俊子	公衆衛生・まとめ	2	事前：第6回授業で指示された課題に取り組む
第8回		服部 俊子	試験		

成績評価方法	(1) 到達目標の達成度は、試験の評価基準に応じて判定する。 (2) 評価方法は、試験 100% とする。 (3) 合格には 60% 以上の成績が必要である。
履修上の注意	5回以上の出席があれば試験を受けることができる。 遅刻は全体で合計 60 分以上になれば 1 回欠席とする。
教科書	なし。適宜、資料を配布
参考文献	アンソニー・ウエストン『ここからはじまる倫理』野矢茂樹ほか訳、春秋社、2004年 霜田求編『テキストブック 生命倫理（第2版）』法律文化社、2022年 香川知晶『命は誰のものか 増補改訂版』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2021年 リュック・ペリノ『0番目の患者 逆説の医学史』広野和美・金丸啓子訳、柏書房、2020年 World Medical Association Ethics Manual, WMA, 2007(日本医師会訳) マイケル・ダン、トニー・ホープ『医療倫理超入門』児玉聡、赤林朗訳、岩波書店、2021年
オフィスアワー	適宜（メールで連絡のこと）
教員への連絡方法	Moodle 上のメッセージ機能を使って教員に連絡すること

<p>その他</p>	<p>● コアカリキュラムへの対応 H28 (旧):A-1 プロフェッショナリズム、A-1-1) 医の倫理と生命倫理、A-1-2) 患者中心の視点、A-1-3) 医師としての責務と裁量権、B-3 医学研究と倫理、B-3-1) 倫理規範と実践倫理 R4 (新):PR-01: 信頼 PR-02: 思いやり PR-04: 生命倫理 GE-01: 全人的な視点とアプローチ</p> <p>● 該当するコンピテンス</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プロフェッショナリズム (智・仁・勇) level1 2. 医学知識と問題対応能力 (智・仁・勇) level1 5. チーム医療の実践 (仁) level1 6. 医療の質と安全の管理 (仁) level1
------------	--

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMXCLM11001-J1
授業科目名	医学序論		
担当教員氏名	◎首藤 太一（教務委員長、総合医学教育学）、福田大受（循環器内科学）、濱崎 孝史（発達小児医学）、横井賀津志（リハビリテーション学）、角南貴司子（耳鼻咽喉病態学）、掛屋 弘（感染制御学）、橘大介（女性生涯医学）、寺井秀富（整形外科学）		
開講年度・学期	2026	前期	曜日・時限
			木曜 4限
授業形態	講義		
科目分類			
配当年次	1年	単位数	1

【シラバス情報】

授業概要	1年生が受講する科目の大部分は総合教育科目（一般教養）、基礎教育科目（物理、化学、推計学等）と外国語科目からなる全学共通教育である。これらは良き医療人となるための基盤形成に重要なものであるが、受動的な学習に慣れた学生にとって、その意義を見失いがちである。将来、「智・仁・勇」を兼ね備えた医師となるために必要な点について、医学部臨床系教授陣を中心にオムニバスで医学・医療に関連するさまざまな話題を提供する。
到達目標	医学・医療を学ぶ上で、ともすれば無意味に感じられることの中に、如何に重要な考え方が含まれているかに気づかせ、能動的な姿勢を萌芽させたい。

授業回		各回の授業内容		アクティブラーニング	事前・事後学習の内容
第1回	4/9・4限	首藤 太一	自分が診てもらいたい医師を目指せ！	0	全講義を聴講後に、「自身の目指す医師像、理学療法士像、作業療法士像」に関するレポートをMoodle上で提出する
第2回	4/16・4限	福田大受	現代の内科医とは（内科医でもこんなことをします）	0	
第3回	4/23・4限	濱崎考史	こどもを診るということ	0	
第4回	6/4・4限	横井 賀津志	リハビリテーションが描く回復への道	0	
第5回	5/7・4限	角南貴司子	近未来の医療＋医師の働き方について	0	
第6回	5/14・4限	掛屋弘	医師になるために知っておきたい感染症の基礎知識	0	
第7回	5/21・4限	橘 大介	生命の誕生：受精から出産までの物語	0	
第8回	5/28・4限	寺井秀富	切って治す！どこまで出来るのか？	0	

成績評価方法	各講義はオムニバス形式であるので、成績評価は講義の出席とレポートにより行われる。
履修上の注意	
教科書	特になし
参考文献	特になし
オフィスアワー	9:00-17:00
教員への連絡方法	学務課 (gr-a-gakumu-med@omu.ac.jp)

その他

● コアカリキュラムへの対応

H28(旧) :

A 医師として求められる基本的な資質・能力

A-4 コミュニケーション能力

A-4-1) コミュニケーション

A-4-2) 患者と医師の関係

B 社会と医学・医療

B-2 法医学と関連法規

B-2-1) 死と法

R4(新) :

CM-01, 02, 03

SO-03-01

● 該当するコンピテンスおよびマイルストーンへの対応

1. プロフェッショナリズム (智・仁・勇) level1

2. 医学知識と問題対応能力 (智・仁・勇) level1

4. コミュニケーション能力 (智・仁・勇) level1

5. チーム医療の実践 (仁) level1

6. 医療の質と安全の管理 (仁) level1

8. 科学的探究 (智) level1

9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 (智・仁・勇) level1

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMABAM11003-J1
授業科目名	遺伝と遺伝子		
担当教員氏名	◎及川 大輔、清水 康平、永井 正義（医化学）、塩田 正之（分子制御生物学）、小島裕正、國本浩之（免疫制御学）		
開講年度・学期	2026	前期	曜日・時限
授業形態	講義		
科目分類			
配当年次	1年	単位数	2

【シラバス情報】

授業概要	1953年にワトソンとクリックによってDNAの二重らせん構造が解明され、遺伝情報の仕組みが解明された以降、「遺伝と遺伝子」に関する分子レベルの研究は最も目覚ましく進展を遂げている学術領域である。近年、多くの疾患に遺伝子レベルの異常が明らかにされ、臨床医学においても重要性は増している。本コースでは、生命の設計図である遺伝子の構造を理解し、生体におけるその役割を分子レベルから、細胞、個体、さらに、進化のレベルまで理解できるよう指導する。講義では、テキストとして「Essential 細胞生物学（原書第5版）」を用いて内容を分かりやすく解説し、遺伝子に関する基本的な概念を正しく十分理解させ、医学・生物学の分野における理解を深めることにも貢献できるように行う。
到達目標	<p>主要な到達目標は以下の通りである。個別の到達目標については、別途記載する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 核酸の構造と機能について説明できる ・ 遺伝子と染色体の構造について説明できる ・ 遺伝子の複製、修復について説明できる ・ プロモーター、転写因子等による遺伝子発現調節について説明できる ・ DNA から RNA を経てタンパク質合成に至る遺伝情報の変換過程について説明できる ・ 遺伝子の解析技法について説明できる

授業回		各回の授業内容		アクティビティ・ナンバリング	事前・事後学習の内容
第1回	4/14・3限	及川 大輔	タンパク質	1	Essential 細胞生物学 4章の学習内容の定着
第2回	4/21・3限	國本 浩之	メンデルの法則	1	Essential 細胞生物学 19章の学習内容の定着
第3回	4/28・3限	小島 裕正	核酸の化学	1	Essential 細胞生物学 5章の学習内容の定着
第4回	5/12・3限	小島 裕正	染色体の構造と機能	1	Essential 細胞生物学 5章の学習内容の定着
第5回	5/19・3限	國本 浩之	DNA 複製	1	Essential 細胞生物学 6章の学習内容の定着
第6回	5/26・3限	國本 浩之	DNA 修復	1	Essential 細胞生物学 6章の学習内容の定着
第7回	6/2・3限	及川 大輔	DNA から RNA へ	1	Essential 細胞生物学 7章の学習内容の定着
第8回	6/9・3限	及川 大輔	RNA からタンパク質へ	1	Essential 細胞生物学 7章の学習内容の定着
第9回	6/16・3限	及川 大輔	原核細胞の遺伝子転写	1	Essential 細胞生物学 8章の学習内容の定着
第10回	6/23・3限	清水 康平	真核細胞の遺伝子転写 1	1	Essential 細胞生物学 8章の学習内容の定着

第 11 回	6/30・3 限	清水 康平	真核細胞の遺伝子転写 2	1	Essential 細胞生物学 8 章の学習内容の定着
第 12 回	7/7・3 限	及川 大輔	遺伝子とゲノム進化	1	Essential 細胞生物学 9 章の学習内容の定着
第 13 回	7/14・3 限	塩田 正之	遺伝子クローニング技術	1	Essential 細胞生物学 10 章の学習内容の定着
第 14 回	7/21・3 限	塩田 正之	DNA・RNA の解析	1	Essential 細胞生物学 10 章の学習内容の定着
第 15 回	7/28・3 限	永井 正義	モデル生物	1	Essential 細胞生物学 1 章の学習内容の定着
第 16 回	8/4・3 限		遺伝と遺伝子コース試験		

成績評価方法	到達目標の達成度をコース終了時の筆記試験 (90%) と講義時の態度・小テスト (10%) を総合して評価し、60%以上の成績が必要である。
履修上の注意	医学部医学科履修規程に従い、所定の出席がなければ試験を受けることができない。
教科書	必携：Essential 細胞生物学 原書第 5 版 (南江堂)
参考文献	The Cell 細胞の分子生物学 第 7 版 (ニュートンプレス) ワトソン 遺伝子の分子生物学 第 7 版 (東京電機大学出版局)
オフィスアワー	10:00-16:00 (会議や出張で対応できない場合があるので、急用でない限り事前にアポイントメントをとること)。
教員への連絡方法	Moodle 上のメッセージ機能を使って教員に連絡すること。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●コアカリキュラムへの対応 H28(旧)：C-1-1)-(1), C-1-1)-(2), C-2-5), C-4-1) R4(新)：PS-01-01、PS-01-04-01 ●該当するコンピテンスおよびマイルストーンへの対応 1. プロフェッショナリズム (智・仁・勇) level 1 2. 医学知識と問題対応能力 (智・仁・勇) level 1 8. 科学的探究 (智) level 1 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 (智・仁・勇) level 1

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMABAM11004-J1
授業科目名	細胞生物学		
担当教員氏名	◎及川 大輔、清水 康平、永井 正義（医化学）、水関 健司、宮脇 寛行（神経生理学）、塩田 正之（分子制御生物学）、越前 佳奈恵（病態生理学）		
開講年度・学期	2026	後期	曜日・時限
授業形態	講義		
科目分類			
配当年次	1年	単位数	2

【シラバス情報】

授業概要	ヒトの体は約 60 兆個の細胞から構成され、これらが集積することで組織・器官を形成する。一つの細胞には多様な細胞小器官が存在し、それぞれ重要な役割を果たす。細胞は外界からの刺激に応答して遺伝子発現を変化させ、形態や運動性を変化させる。また、細胞分裂によって増殖するが、最終的に細胞死に至る経路も明らかになってきた。本講義では、細胞を動的な生体単位として捉え、基礎から疾患との関連性を理解できるように指導する。講義では、テキストとして「Essential 細胞生物学（原書第 5 版）」を用いて内容を分かりやすく解説し、細胞生物学に関する基本的な概念を正しく十分理解させる。
到達目標	<p>主要な到達目標は以下の通りである。個別の到達目標については、別途記載する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 細胞の構造と細胞小器官の機能を説明できる 細胞外からの情報伝達機構を説明できる 細胞膜の機能分子の多様性とその機能を説明できる イオンチャネル、神経・筋で発生する活動電位の発生・伝播機序について説明できる 細胞内タンパク質分解とその制御について説明できる 細胞骨格、モータータンパク質、細胞内物質輸送について説明できる 細胞周期の制御機構と有性生殖、細胞死経路について説明できる 細胞接着因子、細胞外マトリックスの構造と機能を説明できる 成体組織の恒常性維持における幹細胞の役割を説明できる

授業回		各回の授業内容		アクティビティ・ナンバリング	事前・事後学習の内容
第 1 回	9/24・3 限	及川 大輔	細胞構造	1	Essential 細胞生物学 1 章の学習内容の定着
第 2 回	10/1・3 限	及川 大輔	細胞内区画と選別輸送、分解	1	Essential 細胞生物学 15 章の学習内容の定着
第 3 回	10/8・3 限	及川 大輔	小胞輸送	1	Essential 細胞生物学 15 章の学習内容の定着
第 4 回	10/15・3 限	宮脇 寛行	細胞膜、輸送体、膜電位	1	Essential 細胞生物学 11 章の学習内容の定着
第 5 回	11/5・3 限	塩田 正之	シグナル伝達一般原理	1	Essential 細胞生物学 16 章の学習内容の定着
第 6 回	11/6・3 限	水関 健司	イオンチャネルシグナル	1	Essential 細胞生物学 12 章の学習内容の定着
第 7 回	11/6・4 限	水関 健司	神経系の情報伝達	1	Essential 細胞生物学 12 章の学習内容の定着
第 8 回	11/19・3 限	塩田 正之	G タンパク質共役型受容体	1	Essential 細胞生物学 16 章の学習内容の定着
第 9 回	11/26・3 限	塩田 正之	酵素共役型受容体	1	Essential 細胞生物学 16 章の学習内容の定着
第 10 回	12/3・3 限	塩田 正之	細胞骨格と運動	1	Essential 細胞生物学 17 章の学習内容の定着

第 11 回	12/10・3 限	塩田 正之	細胞外マトリックス	1	Essential 細胞生物学 20 章の学習内容の定着
第 12 回	12/17・3 限	塩田 正之	細胞接着と情報伝達	1	Essential 細胞生物学 20 章の学習内容の定着
第 13 回	12/17・4 限	永井 正義	細胞周期	1	Essential 細胞生物学 18 章の学習内容の定着
第 14 回	12/24・3 限	越前 佳奈恵	細胞死	1	Essential 細胞生物学 18 章の学習内容の定着
第 15 回	12/24・4 限	清水 康平	幹細胞、がん	1	Essential 細胞生物学 20 章の学習内容の定着
第 16 回	1/28・3 限		細胞生物学コース試験		

成績評価方法	到達目標の達成度をコース終了時の筆記試験 (90%) と講義時の態度・小テスト (10%) を総合して評価し、60%以上の成績が必要である。
履修上の注意	医学部医学科履修規程に従い、所定の出席がなければ試験を受けることができない。
教科書	必携：Essential 細胞生物学 原書第 5 版 (南江堂)
参考文献	The Cell 細胞の分子生物学 第 7 版 (ニュートンプレス) シグナル伝達 第 2 版 (メディカル・サイエンス・インターナショナル)
オフィスアワー	10:00-16:00 (会議や出張で対応できない場合があるので、急用でない限り事前にアポイントメントをとること)。
教員への連絡方法	Moodle 上のメッセージ機能を使って教員に連絡すること。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●コアカリキュラムへの対応 H28(旧)：C-1-1)-(1), C-2-1)-(1), C-2-1)-(2), C-2-3)-(1), C-2-3)-(2), C-4-2) R4(新)：PS-01-01、PS-01-02、PS-01-04-05 ●該当するコンピテンスおよびマイルストーンへの対応 2. 医学知識と問題対応能力 (智・仁・勇) level 1 8. 科学的探究 (智) level 1 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 (智・仁・勇) level 1

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMABAM11005-J4
授業科目名	細胞と組織の基本構造と機能		
担当教員氏名	◎松原 勤、宇留島 隼人、湯浅 秀人（機能細胞形態学）		
開講年度・学期	2026 後期	曜日・時限	その他
授業形態	混合		
科目分類			
配当年次	1年	単位数	1.6

【シラバス情報】

授業概要	本コースは、正常な細胞についての形態・微細形態・基本的な機能について学び、また、その多様性を理解する。さらに細胞の集団である組織についての総論を学ぶ（組織学総論）。光学顕微鏡を用いた正常組織総論の実習を同時に行う。本コースは系統別（臓器別）に展開される各論コースの基盤として位置づけられる。
到達目標	生物学、生命科学を理解するための基礎である組織学総論を学び、上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織の機能と構造が説明できるようになる。

授業回		各回の授業内容		アクティビティ・ラーニング	事前・事後学習の内容
第1回	11/13・3限	松原 勤	上皮組織	1	Ross 組織学で、「上皮組織」に関する学習内容の知識を定着させる。
第2回	11/20・3限	松原 勤	組織学実習（上皮組織）	1	
第3回	11/20・4限	宇留島 隼人 湯浅 秀人			
第4回	11/27・3限	松原 勤	結合組織	1	Ross 組織学で、「結合組織」に関する学習内容の知識を定着させる。
第5回	11/27・4限	松原 勤	組織学実習（結合組織）	1	
第6回	11/27・5限	宇留島 隼人 湯浅 秀人			
第7回	12/ 4・3限	湯浅 秀人	骨格系組織	1	Ross 組織学で、「骨格系組織」に関する学習内容の知識を定着させる。
第8回	12/ 4・4限	湯浅 秀人	組織学実習（骨格系組織）	1	
第9回	12/ 4・5限	松原 勤 宇留島 隼人			
第10回	12/11・3限	湯浅 秀人	血液	1	Ross 組織学で、「血液」に関する学習内容の知識を定着させる。
第11回	12/11・4限	湯浅 秀人	組織学実習（血液）	1	
第12回	12/11・5限	松原 勤 宇留島 隼人			
第13回	12/18・3限	宇留島 隼人	神経組織	0	Ross 組織学で、「神経組織」に関する学習内容の知識を定着させる。
第14回	12/18・4限	宇留島 隼人	組織学実習（神経組織）	1	
第15回	12/18・5限	松原 勤 湯浅 秀人			
第16回	1/14・3限	宇留島 隼人	筋組織	0	人体の正常構造と機能 第4版「11 運動器 筋系 p.758-770」ならびに Ross 組織学で、「筋組織」に関する学習内容の知識を定着させる。
第17回	1/14・4限	宇留島 隼人	組織学実習（筋組織）	1	
第18回	1/14・5限	松原 勤 湯浅 秀人			

	1/21・3限	松原 勤 宇留島 隼人 湯浅 秀人	組織学実習予備日		
	1/21・4限				
	1/21・5限				
	1/22・3限	松原 勤 宇留島 隼人 湯浅 秀人	試験		

成績評価方法	(1) 小テストを含む試験ならびにレポート等によって各単元の学修達成度を測る。 (2) 原則、試験 70%、学習態度やレポート等 30%で評価する。 (3) 合格には、総合して 60%以上の成績が必要である。
履修上の注意	医学部規則により、原則すべての実習に参加しない限り、単位認定されない。 学修態度が著しく悪い時、その授業への参加を認めないため、不合格になる場合がある。
教科書	必携：Ross 組織学（南江堂）、人体の正常構造と機能（日本医事新報社）、組織学カラーアトラス ガートナー/ハイアット（メディカルインターナショナル）
参考文献	参考：ジュンケイラ組織学（丸善出版）、標準組織学（医学書院）、入門組織学（南江堂）
オフィスアワー	10:00-16:00 （対応できない場合があるので、急用でない限り事前にアポイントメントをとること）
教員への連絡方法	Moodle 上のメッセージ機能を使って教員に連絡すること
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●コアカリキュラムへの対応 R4（新）：PS-01-01-01, PS-01-01-02, PS-01-02-10, PS-01-02-11, PSPS-01-02-12, PS-01-02-13, PS-01-02-14 ●該当するコンピテンスおよびマイルストーンへの対応 <ol style="list-style-type: none"> 1. プロフェッショナルリズム（智・仁・勇） level 1 2. 医学知識と問題対応能力（智・仁・勇） level 1 8. 科学的探究（智） level 1 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢（智・仁・勇） level 1

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMABAM11006-J1
授業科目名	発生学		
担当教員氏名	【基礎】◎近藤 誠、甲斐 理武、河合 洋幸（脳神経機能形態学）、栗屋 智就（機能細胞形態学）【臨床】橘 大介（女性生涯医学）、濱崎 考史（発達小児医学）、瀬戸 俊之（臨床遺伝学）、中岡 達雄（小児外科学）		
開講年度・学期	2026	後期	曜日・時限
授業形態	講義		
科目分類			
配当年次	1年	単位数	1.3

※垂直統合型講義を実施しています

【シラバス情報】

授業概要	基礎と臨床（産科、小児科、小児外科、臨床遺伝学）の視点から受精卵からヒトになる発生過程を学習する。
到達目標	1. 受精卵からヒトになる発生過程を説明できる。 2. 器官形成メカニズムを説明できる。

授業回		各回の授業内容		アクティビティ・シグ	事前・事後学習の内容
第1-2回	9/25・1-2限	甲斐 理武 近藤 誠	発生学の基礎 1	1	教科書などで予習・復習を行う。
第3-4回	10/2・1-2限	河合 洋幸 近藤 誠	発生学の基礎 2（神経系）	1	
第5回	10/8・4限	瀬戸 俊之	発生学の臨床 1（臨床遺伝学）	1	
第6回	10/8・5限	中岡 達雄	発生学の臨床 2（小児外科）	1	
第7回	10/9・2限	栗屋 智就	発生学の臨床 3	1	
第8回	10/23・1限	濱崎 考史	発生学の臨床 4（小児科）	1	
第9回	10/23・2限	橘 大介	発生学の臨床 5（産科）	1	
第10回	11/5・4限	近藤 誠	発生学のまとめ	1	
第11回	11/27・2限	脳神経機能形態学	試験		

成績評価方法	試験で評価する。合格には総合 60%以上の成績が必要。
履修上の注意	教科書、講義資料などで予習・復習を行うこと。
教科書	ムーア人体発生学（医歯薬出版）、ラングマン人体発生学（MEDSI）
参考文献	ゲノム医療からみえてくる病気のすがた 病気や障がいにはなぜあるのか（瀬戸俊之 著、川島書店）
オフィスアワー	10:00-16:00（事前にアポイントメントを取る）
教員への連絡方法	学舎 12 階研究室、電話：06-6645-3706
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●コアカリキュラムへの対応 H28(旧)：C-2-4) R4(新)：PS-01-02 ●該当するコンピテンスおよびマイルストーンへの対応 <ol style="list-style-type: none"> 2. 医学知識と問題対応能力（智・仁・勇） level 1 8. 科学的探究（智） level 1 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢（智・仁・勇） level 1

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMASOM1133-J4
授業科目名	メディカル・データ・サイエンス 1		
担当教員氏名	◎新谷歩, 河合稜太 (医療統計学教室)		
開講年度・学期	2026	後期	曜日・時限
授業形態	混合		
科目分類			
配当年次	1年	単位数	0.7

【シラバス情報】

授業概要	本講義では、医学のための統計学を学んだ内容を基盤として、人を対象とした医学研究を実施する上で重要となる、臨床疫学と医療統計学の発展的事項を学ぶ。実例を交えながら、患者さんからデータを頂いて実施する臨床研究において、科学的に妥当と考えられる結果を導くための根本的な考え方を身に着けることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 臨床研究において妥当性の高い結果を得るための条件やデザイン、統計解析手法について説明できる。 臨床研究において利用される評価指標について、自分の言葉で説明できる。 Rプログラミングを習得し、解析結果を報告することができる

授業回	各回の授業内容	アクティビティ・ラーニング	事前・事後学習の内容
第1-2回 12/・1-2限	新谷 歩 河合 稜太 記述統計	1	課題を期限内に提出すること。講義後テキスト・講義資料等で学習内容を確認すること。
第3-4回 12/・1-2限	新谷 歩 河合 稜太 背景表、図の作成、仮説検定	1	
第5-6回 12/・1-2限	新谷 歩 河合 稜太 相関係数と線形回帰分析	1	
第7-8回 1/・1-2限	新谷 歩 河合 稜太 Rmarkdown のレポートの出力方法、試験	1	

成績評価方法	(1) 講義内で提示した課題および試験によって学修達成度を測る。 (2) 講義内課題 30%、試験の成績 70%。 (3) 原則、合格には、総合して 60%以上の成績が必要である。
履修上の注意	医学部規則により、原則すべての実習に参加しない限り、単位認定されない。学修態度が著しく悪い時、その授業への参加を認めないため、不合格になる ノートパソコンを用いた実習を行うため、事前指示に従って準備すること。
教科書	必携：新谷歩著『みんなの医療統計 12 日間で基礎理論と EZR を完全マスター！』 講談社
参考文献	加葉田大志朗著、新谷歩監修『医学研究のための R による統計解析入門』オーム社 新谷歩著『みんなの医療統計 多変量解析編 10 日間で基礎理論と EZR を完全マスター！』講談社 新谷歩著『今日から使える医療統計』医学書院 新谷歩著『あなたの臨床研究応援します』羊土社
オフィスアワー	事前に連絡し、面談日時を設定すること
教員への連絡方法	E-mail : med-statacademy@ml.omu.ac.jp
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●コアカリキュラムへの対応 H28(旧): B-1-1) 統計の基礎 B-1-2) 統計手法の適用 R4(新): S0-02-02) 疫学 S0-02-03) データ解析と統計手法 ●該当するコンピテンスおよびマイルストーンへの対応 8. 科学的探究(智) level 1 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢(智・仁・勇) level 1

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMABAM11007-J1
授業科目名	医学研究推進コース 1		
担当教員氏名	金子 幸弘 (教務委員会 副委員長) / Le Thi Thanh Thuy (グローバル教育・医療学) 他		
開講年度・学期	2026	通年	曜日・時限
授業形態	講義		
科目分類			
配当年次	1年	単位数	1.4

【シラバス情報】

授業概要	<p>特に昨今は根拠に基づいた医療 (evidence-based medicine, EBM) が求められており、科学的視点は基礎研究者だけでなく日常診療に当たる医師にも期待されている能力である。課題を発見し、批判的に吟味し、正しい方法で解決するといった科学的視点を養成するための医学プログラムは発展途上にあり、探究心を持つことの重要性も、コアカリキュラムで述べられているものの、研究を促進するための方策面の課題は取り残された状態にある。</p> <p>本コースは各教室で行っている研究を分かりやすく説明し、その魅力を伝えるべく 2016 年度より設けられたものであり、医学研究の第一線の研究者による最先端の内容を講義するものである。また、研究室探訪により、研究の場を直接体験する。</p> <p>また、2022 年度より本コースは「基礎医学研究推進コース」から「医学研究推進コース 1」へと名称を変更し、同コース 2 および 3 へと連続的につながる体系的なプログラムとして再編された。さらに、2024 年度からは一部の授業に英語を導入し、2025 年度からはプログラミング教育および発表の機会を新たに取り入れるなど、時代の要請に応じた内容の充実を図っている。</p>
到達目標	<p>修得してほしい能力は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> □原著論文、総説、図書などの相違を説明できる。 □ CiNii、PubMed、UpToDate などを用いて、医学文献を検索し、収集することができる。 □医学文献を批判的に吟味し、課題を発見・設定することができる。 □論文の作成方法や論文審査の流れについて理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・英語による自己紹介や簡単なディスカッションを通じて、正確さにとらわれず、英語で自分の考えを伝えることに慣れる。 ・簡単な医学・医療関連ツールや学習用ゲーム等を作成し、プログラミングを「考えを形にする手段」として活用できる。 ・発表を通じて他者に分かりやすく伝えることができる。

授業回		各回の授業内容		アクティブラーニング	事前・事後学習の内容
第 1 回	4/9・5 限	金子 幸弘 仁木 満美子 Le Thuy	オリエンテーション	1	指定日までに課題を提出すること
第 2 回	4/14・4 限	金子 幸弘 Le Thuy	プログラミングの基本	1	指定日までに課題を提出すること
第 3 回	4/14・5 限	金子 幸弘 Le Thuy	研究室探訪	1	指定日までに課題を提出すること
第 4 回	4/21・4 限	図書館 金子 幸弘	文献検索の方法 1・2	1	指定日までに課題を提出すること
第 5 回	4/21・5 限	金子 幸弘	研究室探訪	1	指定日までに課題を提出すること
第 6 回	5/12・5 限	水関 健司 金子 幸弘	海馬の空間表象 / 研究室探訪	1	指定日までに課題を提出すること
第 7 回	5/19・5 限	福島 若葉	ワクチンの疫学研究 / 研究室探訪	1	指定日までに課題を提出すること
第 8 回	5/26・5 限	鈴木 周五	環境病理学の醍醐味 / 研究室探訪	1	指定日までに課題を提出すること

第9回	6/2・5限	城戸 康年 大谷 直子	Beyond Tropical Medicine/ 生体の恒常性維持機構とその破綻	1	指定日までに課題を提出すること
第10回	6/9・5限	金子 幸弘	学生発表 / 研究室探訪	3	指定日までに課題を提出すること
第11回	6/23・5限	金子 幸弘	学生発表 / 研究室探訪	3	指定日までに課題を提出すること
第12回	6/30・5限	林 朝茂	生活習慣病発症の危険因子 の探究 / 医学英語論文の必 要性	1	指定日までに課題を提出すること
第13回	7/7・5限	吉川 貴仁	健康科学領域のヒト脳機能 イメージング研究（食欲や 疲労、運動 / 研究室探訪）	1	指定日までに課題を提出すること
第14回	7/14・4限	金子 幸弘	学生発表 / 研究室探訪	3	指定日までに課題を提出すること
第15回	9/15・3限	金子 幸弘	学生発表	3	指定日までに課題を提出すること
第16回	9/18・5限	金子 幸弘	学生発表・総評・解説	3	指定日までに課題を提出すること

成績評価方法	授業参加度（発表など）、コース内で実施するアンケートへの回答、課題の提出、レポートなどのプロダクトの提出を評価する。 詳細は初回オリエンテーション時に周知する。
履修上の注意	週によって開催次限が異なるので注意すること。 持参可能なパソコンが必要となるので、各自準備すること。スペックは大学での推奨と同一。 パソコンが苦手、もしくは初めて使用する学生は別途指導するので申し出ること。
教科書	文献検索に関する推奨テキスト □ PICO から始める医学文献検索のすすめ：書籍／南江堂
参考文献	レポート作成に関する参考図書 □黒木 登志夫．知的文章術入門 □都筑 学．大学1年生のための 伝わるレポートの書き方 □河本 健，石井 達也．トップジャーナル395編の「型」で書く医学英語論文～言語学的 Move 分析が明かした執筆の武器になるパターンと頻出表現 □田村 房子．アクセプトされる英語医学論文作成術―最新の臨床研究から学ぼう！ □酒井 聡樹．これからレポート・卒論を書く若者のために 第2版 □木下 是雄．理科系の作文技術 □井下 千以子．思考を鍛えるレポート・論文作成法（第2版） 以上のいずれかは必ず読んでおくこと。 参考になる URL □ ICMJE 統一投稿規定 http://www.icmje.org/ その他、教員の指示がある場合には従うこと。
オフィスアワー	10:00-16:00（会議や出張で対応できない場合があるので、急用でない限り事前にアポイントメントをとること）
教員への連絡方法	Moodle 上のメッセージ機能を使って教員に連絡すること
その他	● コアカリキュラムへの対応 LL-01-01-02 level 1 LL-02-01-01 level 1 RE-01-02-02, RE-03-01-01, RE-05-02-01, CS-02 level 1 LL-01-01-01, LL-01-02-01 level 1 ● 該当するコンピテンス 1. プロフェッショナルリズム（智・仁・勇）level1 4. コミュニケーション能力（智・仁・勇）level1 8. 科学的探究（智）level1 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢（智・仁・勇）level1

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMACLM1140-J1
授業科目名	物理学の臨床医学への応用		
担当教員氏名	三木幸雄 放射線画像診断：大阪公立大学大学院医学研究科 放射線診断学・IVR 学 米田哲也 医学科生のためのMRIの原理：熊本大学生命科学研究部・医療技術科学分野 吉田敦史 核医学：大阪公立大学大学院医学研究科 核医学 ◎澁谷景子 放射線治療：大阪公立大学大学院医学研究科 放射線腫瘍学		
開講年度・学期	2026	前期	曜日・時限
授業形態	講義		
科目分類			
配当年次	1年	単位数	0.4

【シラバス情報】

授業概要	本コースは物理学の系統授業の中に含まれるが、履修中の物理学の延長線上に放射線医学があることを知るための講義として位置する。全4回の授業において、様々な病状診断や、がん治療において重要な役割を果たしている最先端の放射線医学の知見を得ながら、放射線医学の基礎となる物理学を学ぶ。
到達目標	臨床画像診断に重要な役割を担うCT・MRIを用いた画像診断、核医学による画像診断、放射線治療および放射線内用療法などに触れながらMRIの原理などを含め医学物理を学ぶことで、放射線医学に興味を持つ。

授業回	各回の授業内容	アクティブラーニング	事前・事後学習の内容
第1回 6/16 4限	米田哲也	1	事前に大阪公立大学大学院医学研究科の放射線診断学・IVR学、放射線腫瘍学、核医学のホームページを閲覧し放射線診断、放射線治療、核医学が、どのような学問であるかをイメージしてから授業に望む事。
第2回 6/16 5限	三木幸雄	1	
第3回 7/2 4限	吉田敦史	1	
第4回 7/9 4限	澁谷景子	1	

成績評価方法	1) 現在履修中の物理学の延長上に放射線医学があることを知り、放射線医学に興味を持つことが本講義の目的である。 2) 全4回の授業に対するアンケートの提出を成績評価方法とする。 3) アンケートの提出が著しく悪い場合は、不合格となる場合がある。
履修上の注意	医学部規則により、学修態度が著しく悪い時、その授業への参加を認めないため、不合格になる場合がある。
教科書	必携の教科書はないが、事前に大阪公立大学大学院医学研究科の放射線診断学・IVR学、放射線腫瘍学、核医学のホームページを閲覧し放射線診断、放射線治療、核医学が、どのような学問であるかをイメージしてから授業に望む事が望ましい。
参考文献	特になし
オフィスアワー	10:00-16:00 (会議や出張で対応できない場合があるので、急用でない限り事前にアポイントメントをとること)
教員への連絡方法	Moodle上のメッセージ機能を使って教員に連絡すること
その他	●コアカリキュラムへの対応 H28(旧): E-6-1) ①, ④, ⑤ E-6-2) ②, ③ F-2-5) ①, ③ R4(新): PS-03-06-01, 04, 05, 06, 07, 08 ●該当するコンピテンスおよびマイルストーンへの対応 2. 医学知識と問題対応能力(智・仁・勇) level1 6. 医療の質と安全の管理 (仁) level1 7. 社会における医療の実践と大阪住民の幸福に貢献する力(智・仁・勇) level1 8. 科学的探究 (智) level1 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢(智・仁・勇) level1

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMACLM1142-J4
授業科目名	早期臨床実習 1		
担当教員氏名	教務委員会		
開講年度・学期	2026	曜日・時限	その他
授業形態	実習		
科目分類			
配当年次	1年	単位数	0.4

【シラバス情報】

授業概要	医療チームの一員として、将来共に働いていく看護職の役割と患者の入院環境を知る。
到達目標	専門的な知識や手技の修得を目的としたものではなく、患者に対する看護、介護を通してひとりの人間として患者の環境・立場を理解し、その中から、将来医師となるべき自分が今後何をなすべきかを自覚すること。働くうえで、患者－医療職間のコミュニケーションの重要性を理解する。

授業内容	8月 2日間（オリエンテーション含め3日間になる病院もあり）。 協力病院：本学医学部附属病院・大阪市立総合医療センター・東住吉森本病院、馬場記念病院 ほか
事前・事後学習の内容	事前ガイダンスにて指示する。

成績評価方法	<p>実習終了後レポートの提出（レポートの提出がない場合は、実習出席と認めない）。</p> <p>(1) テーマ 「早期臨床実習 1に参加して」(次の事柄を含めて書くこと)。</p> <p>① 感想</p> <p>② 特に勉強になった点</p> <p>③ 今回の経験をふまえた今後の指針</p> <p>(2) 提出様式 用紙サイズ・・・A4（縦長で使用し横書きすること） その他・・・テーマ・学籍番号・氏名は最初の2～3行で記入 表紙は付けないこと</p> <p>※レポートは各実習先に送付する為、PCで作成すること。</p> <p>(3) 提出方法 ウェブサイトを使用して提出。方法は、別途指示をする。 実習態度（実習前後の成績状況、生活態度等も含む）</p>
履修上の注意	<p>注意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 白衣・名札を持参し、着用すること。 2. 病院の担当者・引率の教員の指示に従うこと。 3. 病院の規律と秩序を乱さないこと。 4. 私語を慎むこと。 5. 身だしなみは、将来医師となる者として、ふさわしいものを選ぶこと。 6. 手荷物は最小限にすること。 7. 実習中、携帯電話は持ち歩かないこと。 8. 欠席・遅刻・早退は原則として修了と認めない。 9. 実習に行く際の交通費は自己負担となる。 10. 抗体検査で陰性だった学生は、実習までに小児感染症ワクチンの接種を完了しておくこと。 未接種の場合実習に参加することができない。 <p>※将来医師になる者、また医学科生として求められる基本的な資質・能力に疑義がある場合は、実習参加を認めない。</p>
教科書	特になし
参考文献	特になし
オフィスアワー	9:00-17:00
教員への連絡方法	学務課（gr-a-gakumu-med@omu.ac.jp）

その他

各病院業務多忙のなか実習協力が得られたものであるため、本学医学部生として節度を保ち、真摯な態度で実習に臨むこと。

● コアカリキュラムへの対応

H28 (旧):

A 医師として求められる基本的な資質・能力

A-4 コミュニケーション能力

A-5 チーム医療の実践

A-6 医療の質と安全の管理

R4 (新):

CM-01, 02, 03

IP-01, 02

CS-05

● 該当するコンピテンスおよびマイルストーンへの対応

1. プロフェッショナリズム (智・仁・勇) level1

3. 診療技能と患者ケア (智・仁・勇) level1

4. コミュニケーション能力 (智・仁・勇) level1

5. チーム医療の実践 (仁) level1

6. 医療の質と安全の管理 (仁) level1

7. 社会における医療の実践と大阪住民の幸福に貢献する力 (智・仁・勇) level1

8. 科学的探究 (智) level1

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMACLM1141-J1
授業科目名	早期臨床医学入門（早期診療所実習）		
担当教員氏名	早期臨床医学入門： 教務委員会 担当教員： 板金広（いたがねファミリークリニック）、藤岡雅司（ふじおか小児科）、 桜井隆（さくらいクリニック） 谷口恭（谷口医院）、香月憲一（学園南クリニック）、 谷知子（神戸市看護大学 専門基礎科学領域 医科学分野）、 佐田竜一（亀田総合病院総合内科）、小林正宜（葛西医院）、 奥知久（おく内科・在宅クリニック） 早期診療所実習： 教務委員会、医学部同窓会員		
開講年度・学期	2026	曜日・時限	その他
授業形態	混合		
科目分類			
配当年次	1年	単位数	1.9

【シラバス情報】

授業概要	<p>早期臨床医学入門：症候診断学だけでなく、予防接種や認知症や終末期診療などを通してチーム医療や医療連携、あるいは患者中心の医療に必要な医師の素養（リーダーシップ、人間力、プロフェッショナルリズムなど）についても触れる。また実際の臨床場面において必要な基礎医学（解剖学、生理学、病理学など）との関連を示し、今後学ぶ基礎医学の重要性を理解する。</p> <p>早期診療所実習：地域医療の特性ならびに予防医療、福祉連携等を体験するために、医学部同窓会協力のもと、地域の診療所における実習を行う。</p>
到達目標	<p>早期臨床医学入門：前半の授業では、夏期に行われる早期診療所実習のオリエンテーションを行う。プライマリケアの最前線ともいえる診療所での見学実習・研修を通して、診療所医療の独自性・重要性、医師のやりがいや醍醐味が体験できるように必要な準備知識を培う。 秋季の授業では、地域医療で必ず出会う頭痛や風邪などの普遍的症候から診断を行う過程を疑似経験し、医師として基本的に必要な技能である①患者の観察能力、②医療面接の基本、③臨床推論、④患者とのコミュニケーション、⑤身体診察法、⑥鑑別診断の考え方を学ぶ。</p> <p>早期診療所実習：医師として備えるべき基本姿勢を身につけるとともに、医師・患者関係を理解することを目標とする。</p>
授業内容	<p>早期臨床医学入門：5月～1月（日程詳細はMoodleにて通知する）</p> <p>早期診療所実習：各診療所の指導医に委ねる。</p> <p>8月～9月の夏期休業中1日。空きがあれば複数の診療所に行っても構わない。</p>
事前・事後学習の内容	<p>早期臨床医学入門：授業内およびガイダンスで早期診療所実習の心構え・患者とのコミュニケーション等の説明を行う。</p>
成績評価方法	<p>早期臨床医学入門：授業参加度（発表など）、コース内で実施するアンケートへの回答、課題提出、レポートなどのプロダクトの提出、試験で評価する。。</p> <p>早期診療所実習： ①時間厳守 ②身だしなみ ③あいさつ を評価表にて指導医に評価いただく。 学生は実習前にプレアンケート、実習終了後にポストアンケートを学務課宛提出する。実習態度（実習前後の成績状況、生活態度等も含む）</p>
履修上の注意	<p>早期臨床医学入門：この講義では学生諸君を社会人として扱うので、授業への遅刻、途中退室、授業中の携帯操作、飲食、私語などを認めない。</p> <p>早期診療所実習： 業務多忙の中、実習協力が得られたものであるため、御厚意に感謝することを忘れず、真摯な態度で実習に臨むこと。 実習先の医師（指導医）は、君たち学生に有意義な体験をしてもらいたいと思っています。実習先のスタッフや、患者さんも協力的に接してくれるでしょう。</p>

履修上の注意	<p>もちろん君たちの熱意があつてのことです。君たちはそのような期待を裏切らないような言葉、行動につとめてください。</p> <p>注意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習の数日前（少なくとも5日前まで）に、診療所に電話連絡し、自己紹介した上で、実習をしていただけることに対してお礼を述べる。当日の来院時刻と場所を再確認する。 2. 実習当日は来院時刻を厳守すること（基本は10分前到着）。 3. 身だしなみは、将来医師となる者として、ふさわしいものを選ぶこと。 4. 名札・白衣を持参し着用すること。 5. 指導医の指示に従うこと。 6. 診療所の規律と秩序を乱さないこと。 7. 患者様の前では私語を慎むこと。 8. 実習中携帯電話は持ち歩かないこと。 9. 欠席、遅刻、早退は原則として修了と認めない。 10. 各診療所への交通費は自己負担となる。 11. 抗体検査で陰性だった学生は、実習前に小児感染症ワクチン接種を完了しておくこと。ワクチン未接種の場合実習には行くことができない。 <p>※将来医師になる者、また医学科生として求められる基本的な資質・能力に疑義がある場合は、実習参加を認めない。</p>
教科書	早期臨床医学入門：講義開始30日前までに学務課を通じて通知する。
参考文献	特になし
オフィスアワー	9:00-17:00
教員への連絡方法	学務課（gr-a-gakumu-med@omu.ac.jp）
その他	<p>早期臨床医学入門：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● コアカリキュラムへの対応 <p>H28（旧）：</p> <ul style="list-style-type: none"> A 基本事項 A-4 コミュニケーション能力 A-5 チーム医療 B 社会と医学・医療 <p>R4（新）：</p> <p>CM-01, 02, 03 IP-01, 02 GE-02 SO-01, 02, 03, 04, 05, 06</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 該当するコンピテンスおよびマイルストーンへの対応 <ol style="list-style-type: none"> 1. プロフェッショナリズム（智・仁・勇）level1 2. 医学知識と問題対応能力（智・仁・勇）level1 3. 診療技能と患者ケア（智・仁・勇）level1 4. コミュニケーション能力（智・仁・勇）level1 7. 社会における医療の実践と大阪住民の幸福に貢献する力（智・仁・勇）level1 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢（智・仁）level1 <p>早期診療所実習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● コアカリキュラムへの対応 <p>H28（旧）：</p> <ul style="list-style-type: none"> G 臨床実習 G-4 診療科臨床実習 G-4-3) 地域医療実習 <p>R4（新）：</p> <p>GE-01, 02, 03, 04</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 該当するコンピテンスおよびマイルストーンへの対応 <ol style="list-style-type: none"> 1. プロフェッショナリズム（智・仁・勇）level1 2. 医学知識と問題対応能力（智・仁・勇）level1 3. 診療技能と患者ケア（智・仁・勇）level1 4. コミュニケーション能力（智・仁・勇）level1 5. チーム医療の実践（仁）level1 6. 医療の質と安全の管理（仁）level1 7. 社会における医療の実践と大阪住民の幸福に貢献する力（智・仁・勇）level1 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢（智・仁・勇）level1

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMABAM21008-J1
授業科目名	生体物質代謝・生化学		
担当教員氏名	◎広常 真治、王 晟明、上垣 哲心、笠井 大司（細胞機能制御学）		
開講年度・学期	2026	曜日・時限	その他
授業形態	講義		
科目分類			
配当年次	2年	単位数	1.5

【シラバス情報】

授業概要	本コースは、基礎教育科目で学んだ生物学・化学的基礎知識を土台に、正常な細胞や組織での基本的な物質代謝について学ぶ。また、物質代謝の多様性と相互関係を理解する。さらに、分子機構の破綻に伴う疾患のメカニズムについての理解を深める。
到達目標	<input type="checkbox"/> 生命機構を分子レベルで理解する <input type="checkbox"/> 生命現象を支える代謝の全体像を理解する <input type="checkbox"/> 医学における生化学の役割を説明できる <input type="checkbox"/> 蛋白質・酵素の構造と機能について理解する <input type="checkbox"/> ビタミンの構造と生理機能またその欠乏症・過剰症を理解する <input type="checkbox"/> アミノ酸代謝について理解する <input type="checkbox"/> 糖質の代謝について理解する <input type="checkbox"/> 脂質の代謝について理解する

授業回	各回の授業内容	アクティブラーニング	事前・事後学習の内容
第1回	4/2・1限 広常 真治 エネルギー代謝総論	0	授業の細胞生物学の中における位置づけを理解するため生化学の教科書を通読すること。 個別の事前学習・事後学習については講義毎に指示する。
第2回	4/2・2限 広常 真治 エネルギー代謝 1, 2	1	
第3回	4/2・3限 広常 真治 エネルギー代謝 1, 2	1	
第4回	4/6・2限 王 晟明 タンパク質の構造と機能 1, 2	1	
第5回	4/6・3限 王 晟明 タンパク質の構造と機能 1, 2	1	
第6回	4/7・2限 広常 真治 酵素反応の機構 1, 2	1	
第7回	4/7・3限 広常 真治 酵素反応の機構 1, 2	1	
第8回	4/8・2限 王 晟明 ビタミンの構造と機能 1, 2	1	
第9回	4/8・3限 王 晟明 ビタミンの構造と機能 1, 2	1	
第10回	4/9・2限 笠井 大司 アミノ酸代謝 1, 2	1	
第11回	4/9・3限 笠井 大司 アミノ酸代謝 1, 2	1	
第12回	4/10・2限 笠井 大司 アミノ酸代謝 3, 4	1	
第13回	4/10・3限 笠井 大司 アミノ酸代謝 3, 4	1	
第14回	4/13・2限 王 晟明 糖質の代謝 1, 2	1	
第15回	4/13・3限 王 晟明 糖質の代謝 1, 2	1	
第16回	4/14・2限 王 晟明 糖質の代謝 3, 4	1	
第17回	4/14・3限 王 晟明 糖質の代謝 3, 4	1	
第18回	4/15・2限 上垣 哲心 核酸の合成、異化、再利用代謝 1, 2	1	
第19回	4/15・3限 上垣 哲心 核酸の合成、異化、再利用代謝 1, 2	1	
第20回	4/16・2限 上垣 哲心 脂質の代謝 1, 2	1	
第21回	4/16・3限 上垣 哲心 脂質の代謝 1, 2	1	
第22回	4/17・2限 上垣 哲心 脂質の代謝 1, 2	1	
第23回	4/17・3限 上垣 哲心 脂質の代謝 3, 4	1	
第24回	4/28・4-6限 広常 真治 生化学試験	1	

成績評価方法	出席、レポート提出および試験（定期試験 70%、レポート提出 30%） 講義は 2/3 以上、実習は 4/5 以上出席しなければ、受験資格はない。到達目標の達成度について評価を行う。合格には総合で 60 点以上とする。
履修上の注意	授業の細胞生物学の中における位置づけを理解するため細胞生物学の教科書を通読すること。 個別の事前学習・事後学習については講義毎に指示する。
教科書	<input type="checkbox"/> ヴォート 生化学（東京化学同人）
参考文献	<input type="checkbox"/> ハーパー・生化学（丸善）講義．第一版． <input type="checkbox"/> ヒトの分子遺伝学（MEDSi） <input type="checkbox"/> Essential 細胞生物学（南江堂）
オフィスアワー	事前にアポイントメントをとること
教員への連絡方法	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● コアカリキュラムへの対応 全体を通じた対応は以下の通り。 R28（旧）C 医学一般 C-2 個体の構成と機能 C-2-3) 個体の調節機構とホメオスタシス C-2-3-(1) 情報伝達の基本 C-2-5) 生体物質の代謝 C-4 病因と病態 C-4-1) 遺伝的多様性と疾患、C-4-2) 細胞障害・変性と細胞死、C-4-3) 代謝障害 R4（新）：PS-01-02：個体の構成と機能 ● 該当するコンピテンスおよびマイルストーンへの対応 2. 医学知識と問題解決能力（智・仁・勇）level1 8. 科学的探究（智）level1 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢（智・仁・勇）level1

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMABAM2110-J1
授業科目名	遺伝医学		
担当教員氏名	【基礎】◎及川大輔、清水康平、永井正義（医化学）、塩田正之（分子制御生物学）、植松智、植松未帆（ゲノム免疫学）、八代正和（癌分子病態制御学）、【臨床】伊藤 義彰（脳神経内科学）、中前 博久（血液腫瘍制御学）、田原 三枝（女性生涯医学）、瀬戸 俊之（臨床遺伝学）、野村 みゆき（ふくろうの会）、加藤 和人（大阪大学大学院医学系研究科医の倫理と公共政策学）		
開講年度・学期	2026	前期	曜日・時限
授業形態	講義		
科目分類			
配当年次	2年	単位数	1.6

※垂直統合講義を実施しています

【シラバス情報】

授業概要	<p>現在、ヒトの全ゲノム配列が解明され、ポストゲノムと呼ばれる時代に入っており、次世代シーケンシング法やゲノム編集など革新的技術も開発され、目覚ましく変革している。これからの診療を担う医師にとって、ヒト遺伝学の根本原理と臨床に関わる遺伝医学を体系的に学ぶことは必須である。本コースは垂直統合型授業として、前半に臨床遺伝学の基礎について学習する。講義では、テキストとして「ゲノム医学（著：Tom Strachan、監訳：菅野純夫、福嶋義光）」を用いて内容を解説する。後半では、癌の個別化医療、神経難病、後天性血液疾患、出生前診断、遺伝子治療など、遺伝子変異が関連する疾患の診断、治療について各臨床科から指導する。テキスト「ゲノム医療からみえてくる病気のすがた」を参照されたい。さらに、遺伝カウンセリング、患者講義、ヒトゲノム研究倫理についても学習する。</p>
到達目標	<p>主要な到達目標は以下の通りである。個別の到達目標については、別途記載する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンデル遺伝、ミトコンドリア遺伝、インプリンティング及び多因子遺伝を説明できる ・ゲノム解析技術を説明できる ・先天性または後天性遺伝子変異と各種疾患との関連を説明できる ・遺伝情報に基づく治療や予防をはじめとする適切な対処法を概説できる ・遺伝カウンセリングの意義と方法を説明できる ・選択肢が多様な場合でも適切に説明を行い患者の価値観を理解して、患者の自己決定を支援することができる ・ヒトゲノム研究倫理における個人情報保護について説明できる

授業回		各回の授業内容		アクティブラーニング	事前・事後学習の内容
第1回	4/1・4限	及川 大輔	遺伝医学総論：ヒトゲノムの構成と進化	1	事前にMoodleに掲載した講義資料や教科書を精読し、講義内容を把握すること、また事後にはMoodleでの小テスト・レポート等を行うことで学習内容の知識を定着させる。
第2回	4/1・5限	及川 大輔	遺伝子発現制御	1	
第3回	4/1・6限	及川 大輔	エピジェネティック制御	1	
第4回	4/7・4限	清水 康平	幹細胞、iPS細胞、転写因子と細胞分化	1	
第5回	4/7・5限	塩田 正之	変異と多型、家系図	1	
第6回	4/7・6限	永井 正義	疾患原因遺伝子の同定法、ゲノム編集	1	
第7回	4/8・4限	清水 康平	単一遺伝子疾患：常染色体顕性・潜性遺伝	1	
第8回	4/8・5限	塩田 正之	性染色体関連遺伝	1	
第9回	4/8・6限	清水 康平	ミトコンドリア母系遺伝、染色体異常症多因子疾患	1	
第10回	4/13・4限	永井 正義	多因子疾患	1	
第11回	4/13・5限	永井 正義	集団における遺伝的多様性	1	
第12回	4/14・4限	植松 智、植松 未帆	次世代シーケンサーを用いた各種解析法の原理と応用	1	

第13回	4/14・5限	瀬戸 俊之	遺伝子治療	1	事前に Moodle に掲載した講義資料や教科書を精読し、講義内容を把握すること、また事後には Moodle での小テスト・レポート等を行うことで学習内容の知識を定着させる。
第14回	4/14・6限	野村 みゆき、 瀬戸 俊之	患者講義1：ファブリー病	1	
第15回	4/15・4限	瀬戸 俊之	遺伝カウンセリング・リスク評価の基礎	2	
第16回	4/15・5限	瀬戸 俊之	遺伝カウンセリング・ロールプレイ実習	3	
第17回	4/17・6限	伊藤 義彰	遺伝性神経難病の発生機序と病態	1	
第18回	4/20・4限	田原 三枝	遺伝子検査・治療、出生前診断	1	
第19回	4/20・5限	中前 博久	後天性遺伝子異常と血液疾患	1	
第20回	4/22・4限	加藤 和人	ゲノム医療の倫理的課題と対応1	1	
第21回	4/22・5限	加藤 和人	ゲノム医療の倫理的課題と対応2	3	
第22回	4/22・6限	加藤 和人	ヒトゲノム編集の倫理的・社会的課題	3	
第23回	5/1・4限	八代 正和	がん遺伝子と腫瘍ゲノム学	1	
第24回	5/1・5限	八代 正和	がんゲノム医療、癌遺伝子パネル検査と2次の所見	1	
第25回	5/7・2～3限		試験		

成績評価方法	成績評価はコース終了時に行われる筆記試験の成績と講義の出席を総合して採点し、60%以上の成績が必要である。
履修上の注意	講義への出席、講義中の態度も評価対象であり、必要に応じて加点・減点する。
教科書	ゲノム医学（メディカル・サイエンス・インターナショナル） ゲノム医療からみえてくる病気のすがた 病気や障がいとはなぜあるのか（川島書店）
参考文献	トンプソン＆トンプソン遺伝医学・ゲノム医学 第3版（メディカル・サイエンス・インターナショナル）
オフィスアワー	10:00-16:00 （会議や出張で対応できない場合があるので、急用でない限り事前にアポイントメントをとること）
教員への連絡方法	Moodle 上のメッセージ機能を使って教員に連絡すること
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● コアカリキュラムへの対応 全体を通じた対応は以下の通り。尚、講義毎のカリキュラムへの対応については別途記す。 H28(旧)：A-1、A-4、C-1-1)-(2)、C-4-1)、E-1-1) R4(新)：PR-01~04、RE-05、PS-01-01、PS-01-04、PS-03-01、PS-03-04、IT-02-01、CM-01~03 ● 該当するコンピテンス <ol style="list-style-type: none"> 1. プロフェッショナリズム（智、仁、勇） 2. 医学知識と問題対応能力（智、仁、勇） 4. コミュニケーション能力（智、仁、勇） 7. 社会における医療の実践と大阪住民の幸福に貢献する力（智、仁、勇） 8. 科学的探究（智）

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMABAM21009-J4
授業科目名	医学英語論文の読み方		
担当教員氏名	【基礎】◎林 朝茂、佐藤 恭子、宮川 秀男、柴田 幹子（産業医学）【臨床】首藤 太一、並川 浩己（総合医学教育学）		
開講年度・学期	2026	曜日・時限	その他
授業形態	実習		
科目分類			
配当年次	2年	単位数	0.1

※垂直統合型講義を実施しています

【シラバス情報】

授業概要	<p>大学入学までの英語教育は、English for general purposesとしての教育である。本講座ではEnglish for specific purposesあるいはEnglish for academic purposesとして医師として習得すべき医学英語に触れる端緒とする。医学英語論文を正確に読み解くには、①英語を読み解く力、②疫学の知識の習得、③医療統計学の知識の習得は必須である。本講座では、どのようなスキルを卒業までに習得する必要があるかを医学部の2年生で体験することで、今後の学習の指針とする。</p> <p>本講座では、1) 疾患のリスク要因を評価するための観察研究論文、2) 症例報告に関して実習形式で扱う。</p>
到達目標	<p>□疾患のリスク要因を評価するための観察研究論文（コホート研究）を通読し、概要を説明できる。</p> <p>□症例報告を通読し、概要を説明できる。</p>

授業回	各回の授業内容	アクティビティ・ラーニング	事前・事後学習の内容
第1回 10/15・1限	林 朝茂	2	Moodle から事前に配布資料を入手し、通読する。
第2回 10/15・2限	佐藤 恭子		
第3回 10/15・3限	宮川 秀男 柴田 幹子		
第4回 10/16・1限	首藤 太一 並川 浩己	2	Moodle から事前に配布資料を入手し、通読する。
第5回 10/16・2限	林 朝茂 佐藤 恭子 宮川 秀男 柴田 幹子		

成績評価方法	<p>□レポートによって学修達成度を測る。</p> <p>□原則としてすべて出席しなければ、評価資格はない。なお、30分以上の遅刻は出席とは認めない。</p> <p>□授業中に配布する出席カードに、与えられた問題や課題などについて回答し、提出したものを出席とする。なお、出席を座席表や口頭で確認することもある。</p> <p>□原則、レポートの内容で成績評価をする。</p> <p>□合格には、総合して60%以上の成績が必要である。</p>
履修上の注意	<p>態度も評価対象であり、必要に応じて加点・減点する。</p> <p>電子辞書や英和辞典を持参すること。</p>
教科書	必携 特になし
参考文献	中村好一著：基礎から学ぶ楽しい疫学 第4版、2020.8
オフィスアワー	10:00-16:00 (会議や出張で対応できない場合があるので、急用でない限り事前にアポイントメントをとること)
教員への連絡方法	Moodle 上のメッセージ機能を使って教員に連絡すること
その他	<p>●コアカリキュラムへの対応</p> <p>旧 (H28) : A -2-2)-①, A -4-1)-①, A -8-1)-①, A -9-1)-①, B -1-3)-③</p> <p>新 (R4) : LL-01-01-01, RE-02-01-01, RE-02-02-01, SO-02-02-05</p> <p>●該当するコンピテンスおよびマイルストーンへの対応</p> <p>2. 医学知識と問題対応能力 (智・仁・勇) level 1</p> <p>8. 科学的探究 (智) level 1</p> <p>9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 (智・仁・勇) level 1</p>

【科目情報】

授業コード			科目ナンバリング	AMABAM2111-J4
授業科目名	運動器系			
担当教員氏名	【基礎】◎近藤 誠、甲斐 理武、河合 洋幸（脳神経機能形態学）、松原 勤（機能細胞形態学）、【臨床】豊田 宏光（総合医学教育学）、真本 建司、新谷 康介、飯田 健、箕田 行秀（整形外科学）、堀内 大右（放射線診断学）			
開講年度・学期	2026	通年	曜日・時限	その他
授業形態	混合			
科目分類				
配当年次	2年		単位数	1.6

※垂直統合型講義を実施しています

【シラバス情報】

授業概要	基礎と臨床（整形外科、放射線科）の視点から運動器の構造と機能を学習する。骨学では標本を観察する。
到達目標	1. 骨、関節、筋の構造と機能を説明できる。 2. 体幹、上肢、下肢、頭頸部の運動器の構造と機能を説明できる。

授業回		各回の授業内容		アクティビティ・シグ	事前・事後学習の内容
第1回	7/24・3限	近藤 誠	運動器の基礎 1	1	教科書などで予習・復習を行う。
第2-3回	7/24・4-5限	近藤 誠	運動器の基礎 2	1	
第4-6回	8/31・1-3限	近藤 誠 甲斐 理武 河合 洋幸	骨学 1	1	
第7-9回	9/1・1-3限	近藤 誠 甲斐 理武 河合 洋幸	骨学 2	1	
第10-12回	9/2・1-3限	近藤 誠 甲斐 理武 河合 洋幸	骨学 3	1	
第13回	9/2・4限	堀内 大右	運動器の画像診断（放射線科）	1	
第14回	9/2・5限	真本 建司	運動器の臨床 1（整形外科）	1	
第15-16回	9/3・1-2限	近藤 誠 甲斐 理武 河合 洋幸	骨学 4	1	
第17回	9/3・3限	豊田 宏光	運動器の臨床 2（整形外科）	1	
第18-19回	9/4・1-2限	近藤 誠 甲斐 理武 河合 洋幸	骨学 5	1	
第20回	9/4・3限	新谷 康介	運動器の臨床 3（整形外科）	1	
第21回	XXXX限	飯田 健 甲斐 理武 松原 勤	臨床解剖 1（上肢）	1	
第22回	XXXX限	箕田 行秀 甲斐 理武 松原 勤	臨床解剖 2（下肢）	1	
第23回	XXXX限	豊田 宏光 甲斐 理武 松原 勤	臨床解剖 3（股関節）	1	
第24回	9/16・1-2限	脳神経機能形態学	試験		

成績評価方法	試験及び実習で評価する。合格には総合 60% 以上の成績が必要。
履修上の注意	第1～3回授業にて、骨学実習、肉眼解剖実習に関する重要説明を行う。
教科書	骨学実習の手びき（南山堂）、解剖実習の手びき（南山堂）、グレイ解剖学（エルゼビア）、ソボッタ解剖学アトラス（丸善出版）、ネッター解剖学アトラス（南江堂）
参考文献	特になし
オフィスアワー	10:00-16:00（事前にアポイントメントを取る）
教員への連絡方法	学舎 12 階研究室
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●コアカリキュラムへの対応 H28(旧) : D-4-1) R4(新) : PS-02-05 ●該当するコンピテンスおよびマイルストーンへの対応 <ol style="list-style-type: none"> 1. プロフェッショナリズム（智・仁・勇） level 1 2. 医学知識と問題対応能力（智・仁・勇） level 1 3. 診療技能と患者ケア（智・仁・勇） level 1 8. 科学的探究（智） level 1 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢（智・仁・勇） level 1

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMABAM2112-J1
授業科目名	血液・造血器系		
担当教員氏名	◎大谷 直子（病態生理学）、中前 美佳（臨床検査・医療情報医学）		
開講年度・学期	2026	曜日・時限	その他
授業形態	講義		
科目分類			
配当年次	2年	単位数	0.4

※垂直型講義を実施しています

【シラバス情報】

授業概要	<p>血液は全身を循環して酸素や物質の運搬と熱の配分を行っている。そのため、血液の組成と機能は恒常的に維持されなければならない。血液の機能はその構成成分の複雑さを反映して多岐にわたっている。細胞成分である赤血球、白血球、血小板はすべて血液幹細胞から分化したものであるが、その機能はそれぞれ酸素運搬、生体防御と免疫、止血と分化している。液体成分にいたっては、各臓器機能の影響を受けて成分濃度が臓器機能検査のための重要な情報となる。これらの理解のため、本コースでは、造血器・リンパ網内系の構造を理解し、造血機構、造血因子、血球（赤血球、白血球、血小板）機能、血漿タンパク質および止血・凝固・線溶機構を学ぶ。</p>
到達目標	<p>第1回</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 循環血液量と末梢血液成分の組成を説明できる。 2. 血漿タンパク質の種類と機能を説明できる。 3. 末梢血血球成分の種類、形態、数を説明できる。 4. 骨髄の構造を説明できる。 5. 造血幹細胞の性質と機能を理解し、造血幹細胞から各血球への分化と成熟の過程を説明できる。 6. 造血細胞の増殖・分化機構を説明できる。 7. 主な造血因子（エリスロポエチン、顆粒球コロニー刺激因子（granulocyte-colony stimulating factor）、トロンボポエチン）を説明できる。 <p>第2回</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 白血球（好中球、好酸球、好塩基球、単球、リンパ球）の種類と機能を説明できる。 2. 血小板の機能を説明できる。 3. 脾臓、胸腺、リンパ節、扁桃と Peyer 板の構造と機能を説明できる。 4. 胸腺の機能を説明できる。 5. リンパ網内系の機能を説明できる。 <p>第3回</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 免疫反応に関わる組織と細胞について理解している。 2. 補体および自然免疫細胞が病原体により活性化し、炎症を引き起こす仕組みについて理解している。 <p>第2回</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 赤血球の産生と機能を説明できる。 2. ヘモグロビンの構造と機能を説明できる。 3. 鉄代謝を説明できる。 <p>第5,6回</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 止血機構を説明できる。 2. 凝固機構を説明できる。 3. 線溶機構を説明できる。

授業回		各回の授業内容		アクティブラーニング	事前・事後学習の内容
第1回	8/25・2限	大谷 直子	血液総論	1	毎回の講義内容を「講義主題」にて把握し、教材の目次を用いて該当する内容を検索し、講義内容に関する項目を事前に学習しておくこと。既習の内容については、関連科目の授業内容を振り返り確認をしておくこと。各自講義の要点をまとめるなど、事前・事後学習を欠かさないようすること。
第2回	8/25・3限	大谷 直子	白血球・リンパ網内系	1	
第3回	8/26・2限	大谷 直子	免疫機能	1	
第4回	8/26・3限	中前 美佳	赤血球	1	

第5回	8/27・2限	大谷 直子	血小板・止血・凝固線溶系 1	1	毎回の講義内容を「講義主題」にて把握し、教材の目次を用いて該当する内容を検索し、講義内容に関する項目を事前に学習しておくこと。既習の内容については、関連科目の授業内容を振り返り確認をしておくこと。各自講義の要点をまとめるなど、事前・事後学習を欠かさないようにすること。
第6回	8/27・3限	大谷 直子	血小板・止血・凝固線溶系 2	1	
第7回	9/28・3限	大谷 直子	試験		

成績評価方法	アクティブラーニング、出席、小テストおよび試験で評価する。60点以上（100点満点）を合格とする。
履修上の注意	事前学習を行うことで次の講義の予習をし、毎回の講義後、復習を行うこと。アクティブラーニングとして、事前にMoodleで配布された課題を使って事前学習を行う。
教科書	必携テキスト 標準生理学 第8版（医学書院） 参考書 ガイドン生理学（Elsevier）、 ギャノン生理学（丸善）、
参考文献	講義資料をプリントで配布、スライドで講義
オフィスアワー	9時～17時 会議や出張で対応できない場合があるので、急用でない限り事前にアポイントメントをとること
教員への連絡方法	Moodle上のメッセージ機能を使って教員に連絡すること
その他	<p>● コアカリキュラムへの対応</p> <p>H28 コアカリキュラム</p> <p>D 人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療</p> <p>D-1 血液・造血器・リンパ系</p> <p>D-1-1) 構造と機能</p> <p>D-1-2) 診断と検査の基本</p> <p>R4 コアカリキュラム</p> <p>PS-02: 人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療</p> <p>人体各器官の構造と機能を理解し、主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療の知識を臨床的に使用できる。</p> <p>PS-02-02: 血液・造血器・リンパ系（表2-1）</p> <p>PS-02-02-01 血液・造血器・リンパ系の構造と機能について基本的事項を理解している。</p> <p>PS-02-02-02 血液・造血器・リンパ系でみられる症候について理解している。</p> <p>PS-02-02-03 血液・造血器・リンパ系で行う検査方法について基本的事項を理解している。</p> <p>PS-02-02-04 血液・造血器・リンパ系疾患に特異的な治療法について基本的事項を理解している。</p> <p>PS-02-02-05 血液・造血器・リンパ系の疾患・病態について病因、疫学、症候、検査、診断、治療法を理解している。</p> <p>● 該当するコンピテンス</p> <p>1. プロフェッショナリズム （智・仁・勇） level1</p> <p>2. 医学知識と問題対応能力 （智・仁・勇） level1</p> <p>3. 診療技能と患者ケア （智・仁・勇） level1</p> <p>4. コミュニケーション能力 （智・仁・勇） level1</p> <p>8. 科学的探究 （智） level1</p> <p>9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢（智・仁・勇） level1</p>

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMABAM2113-J1
授業科目名	循環器系		
担当教員氏名	【基礎】◎近藤 誠、甲斐 理武、河合 洋幸（脳神経機能形態学）、水関 健司、藤田 寿一（神経生理学）、【臨床】福田 大受（循環器内科学）、高橋 洋介（心臓血管外科）、江原 省一（集中治療医学）		
開講年度・学期	2026	前期	曜日・時限
授業形態	講義		
科目分類			
配当年次	2年	単位数	1.5

※垂直統合型講義を実施しています

【シラバス情報】

授業概要	循環器系は体液を全身に循環させるシステムである。身体の基盤をなす細胞が必要とする酸素や栄養分を供給し、代謝の結果生じた二酸化炭素や老廃物を除去している。本コースでは循環器系の構造を理解し、心臓の機能、血液循環および血圧調節機構を学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 循環器系の構造と機能を説明できる。 2. 心臓の構造と機能を説明できる。 3. 血管系の構造と機能を説明できる。 4. 胎児循環を説明できる。 5. 心筋細胞の機能と特性を説明できる。 6. 心電図の原理を説明できる。 7. 体循環、肺循環、および冠状循環を説明できる。 8. 心周期にともなう血行動態について説明できる。 9. 心拍出量の調節と主要臓器の循環調節、血流の局所調節およびリンパ管の機能を説明できる。 10. 運動時の循環反応とその機序、体液の全身的調節について説明できる。 11. 血圧調節のメカニズムを説明できる。

授業回	各回の授業内容	アクティブラーニング	事前・事後学習の内容
第1-2回 4/24・4-5限	江原 省一 循環器の臨床（集中治療医学）	1	教科書などで予習・復習を行う。
第3-5回 4/27・4-6限	藤田 寿一 心筋細胞の電気現象と刺激伝導、心筋細胞の機能と特性	1	標準生理学 第9版、第10編 循環「34章～37章」、ギャノン生理学 第25版、第V編 心血管の生理学「29章～32章」、ガイトン生理学 第13版 第3部 心臓・第4部 循環で該当する内容の箇所を熟読し、学習内容の知識を定着させる。
第6-8回 5/7・4-6限	藤田 寿一 心電図の原理、体循環、肺循環、冠状循環および心周期	1	Essential 細胞生物学 11, 12章、標準生理学 第9版、第10編 循環「34章～37章」で該当する内容の箇所を熟読し、学習内容の知識を定着させる。
第9-11回 5/22・1-3限	水関 健司 膜電位 循環器系の細胞生物学 中枢神経系の循環調節	1	Essential 細胞生物学 11, 12章、標準生理学 第9版、第10編 循環「34章～37章」で該当する内容の箇所を熟読し、学習内容の知識を定着させる。
第12-14回 5/25・1-3限	近藤 誠 甲斐 理武 河合 洋幸 組織学実習（循環器系）	1	教科書などで予習・復習を行う。
第15-17回 5/25・4-6限	藤田 寿一 心拍出量の調節と主要臓器の循環調節、血流の局所調節およびリンパ管の機能	1	標準生理学 第9版、第10編 循環「34章～37章」、ギャノン生理学 第25版、第V編 心血管の生理学「29章～32章」、ガイトン生理学 第13版 第3部 心臓・第4部 循環で該当する内容の箇所を熟読し、学習内容の知識を定着させる。
第18回 5/26・2限	福田 大受 循環器の臨床（循環器内科）	1	教科書などで予習・復習を行う。
第19回 5/27・4限	近藤 誠 循環器の解剖・まとめ	1	教科書などで予習・復習を行う。
第20回 5/27・6限	高橋 洋介 循環器の臨床（心臓血管外科）	1	教科書などで予習・復習を行う。

第 21-23 回	6/4・1-3 限	藤田 寿一	運動時の循環反応とその機序、体液の全身的調節および血圧調節のメカニズム	1	標準生理学 第 9 版、第 10 編 循環「34 章～ 37 章」、ギャノン生理学 第 25 版、第 V 編 心血管の生理学「29 章～ 32 章」、ガイトン生理学 第 13 版 第 3 部 心臓・第 4 部 循環で該当する内容の箇所を熟読し、学習内容の知識を定着させる。
第 24 回	6/16・1-3 限	脳神経機能形態学 神経生理学	試験 9:00-10:30 解剖学分野 10:50-12:20 生理学分野		

成績評価方法	(解剖学分野：脳神経機能形態学) 試験及び実習で評価する。 (生理学分野：神経生理学) 試験で評価する。 (配点) 解剖学分野 50 点、生理学分野 50 点の合計 100 点満点で、60 点以上を合格とする。
履修上の注意	教科書、講義資料などで予習・復習を行うこと。
教科書	解剖学分野: グレイ解剖学 (エルゼビア)、Ross 組織学 (南江堂)、ソボッタ解剖学アトラス (丸善出版)、ネッター解剖学アトラス (南江堂) 生理学分野: 標準生理学、第 9 版、(医学書院); ギャノン生理学 第 25 版 (丸善)、Review of Medical Physiology (Ganong, 26th ed., McGraw-Hill); ガイトン生理学 第 13 版 (エルゼビア・ジャパン), Textbook of Medical Physiology (Guyton & Hall, 13th ed., W.B. Saunders), Essential 細胞生物学 原書第 5 版 (南江堂)
参考文献	特になし
オフィスアワー	10:00-16:00 (事前にアポイントメントを取ることに)
教員への連絡方法	Moodle のメッセージ機能による。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●コアカリキュラムへの対応 H28(旧): D-5-1) R4(新): PS-02-06 ●該当するコンピテンスおよびマイルストーンへの対応 <ol style="list-style-type: none"> 1. プロフェッショナリズム (智・仁・勇) level 1 2. 医学知識と問題対応能力 (智・仁・勇) level 1 3. 診療技能と患者ケア (智・仁・勇) level 1 8. 科学的探究 (智) level 1 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 (智・仁・勇) level 1

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMABAM2114-J1
授業科目名	神経解剖		
担当教員氏名	【基礎】◎近藤 誠、甲斐 理武、河合 洋幸（脳神経機能形態学）、 【臨床】伊藤 義彰（脳神経内科学）、松下 周（放射線診断学）、鶴川 真也（名古屋市立大学）		
開講年度・学期	2026	曜日・時限	その他
授業形態	混合		
科目分類			
配当年次	2年	単位数	1.3

※垂直統合型講義を実施しています

【シラバス情報】

授業概要	基礎と臨床（神経内科、放射線科）の視点から脳神経系の構造と機能を学習する。脳実習では脳を観察する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 脳神経系の概観を説明できる。 2. 脳の血管、髄膜、脳脊髄液を説明できる。 3. 脊髄の構造と機能を説明できる。 4. 主要伝導路（神経回路）を説明できる。 5. 延髄、橋、中脳の構造と機能を説明できる。 6. 小脳の構造と機能を説明できる。 7. 辺縁系、大脳基底核の構造と機能を説明できる。 8. 大脳皮質、視床、視床下部の構造と機能を説明できる。 9. 脳神経の神経核、走行、分布、機能を説明できる。

授業回		各回の授業内容		アクティブラーニング	事前・事後学習の内容
第1回	10/8・4限	近藤 誠	脳神経系の概観、脳の血管、髄膜と脳脊髄液、脊髄	1	教科書などで予習・復習を行う。
第2回	10/14・1-3限	鶴川 真也	延髄、橋、中脳、小脳、視床下部	1	
第3回					
第4回					
第5回	10/21・4-6限	近藤 誠	辺縁系、大脳基底核、視床、大脳皮質	1	
第6回					
第7回					
第8回	10/27・4限	松下 周	脳の画像診断（放射線科）	1	
第9回	10/27・5限	伊藤 義彰	脳神経の臨床（神経内科）	1	
第10回	10/28・4-6限	近藤 誠	末梢神経系	1	
第11回					
第12回					
第13回	10/29・3-6限	近藤 誠	主要伝導路	1	
第14回					
第15回					
第16回					
第17回	11/5・1-6限	近藤 誠 甲斐 理武 河合 洋幸	脳実習	1	
第18回					
第19回					
第20回					
第21回					
第22回					
第23回	11/16・1-3限	脳神経機能形態学	試験		

成績評価方法	試験及び実習で評価する。合格には総合 60% 以上の成績が必要。
履修上の注意	講義日程などは変更となる場合があるが、詳細は第 1 回授業にて説明する。
教科書	神経解剖学講義ノート（金芳堂）、ハインズ神経解剖アトラス（MEDSi）、臨床のための神経機能解剖学（中外医学社）、カンデル神経科学（MEDSi）
参考文献	特になし
オフィスアワー	10:00-16:00（事前にアポイントメントをとること）
教員への連絡方法	学舎 12 階研究室
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●コアカリキュラムへの対応 H28(旧) : D-2-1) R4(新) : PS-02-03 ●該当するコンピテンスおよびマイルストーンへの対応 <ol style="list-style-type: none"> 1. プロフェッショナリズム（智・仁・勇） level 1 2. 医学知識と問題対応能力（智・仁・勇） level 1 3. 診療技能と患者ケア（智・仁・勇） level 1 4. コミュニケーション能力（智・仁・勇） level 1 5. チーム医療の実践（仁） level 1 8. 科学的探究（智） level 1 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢（智・仁・勇） level 1

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMABAM2115-J1
授業科目名	脳機能系		
担当教員氏名	◎水関 健司、松本 英之、宮脇 寛行、瀬戸川 将、黒木 暁、岩瀬 元貞(神経生理学)		
開講年度・学期	2026	曜日・時限	その他
授業形態	講義		
科目分類			
配当年次	2年	単位数	2.1

【シラバス情報】

授業概要	神経科学の研究を基盤として、精神・神経疾患に対して優れた治療法や予防法を開発することが期待されている。本コースは解剖学・組織学・生化学・遺伝学・細胞生物学・発生学などの知識を土台にして、感覚・運動・記憶・情動・報酬・睡眠・覚醒・本能行動・自律機能などの基盤となる神経回路の動作原理について学ぶ。
到達目標	感覚・運動・記憶・情動・報酬・睡眠・覚醒・本能行動・自律機能などの脳機能の基盤となる神経回路の動作原理を説明できる。神経科学の基本用語を英語・日本語の両方で身につけ、説明できる。

授業回		各回の授業内容		アクティブラーニング	事前・事後学習の内容
第1回	5/28・1限	水関 健司	神経科学総論	1	事前学習：公開可能な過去の講義資料や試験問題をMoodle上で閲覧可能にするので、それらに目を通しておく。その際、分からない英単語は辞書で調べておく。自分の持っている教科書/参考図書で、講義に関連する箇所を読んで理解する。 事後学習：講義資料を隅々まで熟読する。自分の持っている教科書/参考図書の関連する箇所をよく読んで理解する。過去の試験問題で講義に関連する問題を自分で解く。生理学の問題集に掲載されている神経科学に関連する問題を解いて理解を深める。講義を欠席した学生や講義が理解できない学生に講義内容を教えて、自分の理解をさらに深める。教科書や参考図書を1人で読んで理解することが難しい場合は、学生同士で輪読会を行うことを勧める。 以上のように、事前・事後学習において十分にアクティブラーニングを行うこと。自学自習こそが真のアクティブラーニングである。
第2回	5/28・2限		神経系の細胞生物学		
第3回	5/28・3限		神経細胞とグリア細胞		
第4回	6/3・1限	水関 健司	感覚総論	1	
第5回	6/3・2限		聴覚・音源定位		
第6回	6/3・3限		平衡感覚		
第7回	6/5・1限	水関 健司	視覚	1	
第8回	6/5・2限				
第9回	6/5・3限				
第10回	6/10・1限	水関 健司	体性感覚	1	
第11回	6/10・2限				
第12回	6/10・3限				
第13回	6/11・2限	松本 英之	嗅覚と味覚	1	
第14回	6/11・3限				
第15回	6/12・1限	水関 健司	運動	1	
第16回	6/12・2限		筋と運動ニューロン		
第17回	6/12・3限		脊髄・脳幹		
第18回	6/17・1限	水関 健司	大脳皮質運動野	1	
第19回	6/17・2限		大脳基底核		
第20回	6/17・3限		小脳		
第21回	6/19・1限	水関 健司	自律神経系・本能行動	1	
第22回	6/19・2限		摂食・飲水・性行動		
第23回	6/19・3限				
第24回	6/22・1限	水関 健司	海馬と記憶	1	
第25回	6/22・2限				
第26回	6/22・3限				
第27回	6/23・1限	水関 健司	海馬と扁桃体	1	
第28回	6/23・2限		情動と記憶		
第29回	6/23・1限				

第30回	6/24・2限	松本 英之	報酬系	1
第31回	6/24・3限			
第32回	6/25・1限	水関 健司	神経系の発達と可塑性	1
第33回	6/25・2限			
第34回	6/25・3限			
第35回	6/26・1限	水関 健司	睡眠・覚醒・概日リズム 脳のリズムと同期活動	1
第36回	6/26・2限			
第37回	6/26・3限			
第38回	8/29・ 1～3限	水関、松本 宮脇、黒木 瀬戸川、岩瀬	試験（150分間） 集合 午前9時40分 開始 午前9時50分	

成績評価方法	試験で到達目標の達成度を評価する。試験は日本語または英語で行う。専門用語は英語名も覚えることを求める。原則、試験100%で成績評価を行う。合格には60%以上の成績が必要である。
履修上の注意	高校の「生物」の教科で神経科学に関わる分野、並びにM1の細胞生物学コースの水関担当の講義の分野は理解しているものとして講義と試験を行う。講義中に携帯電話を使用する者や態度の悪い者には退室を命ずる。講義中に積極的に質問することを求める。学生が理解すべき内容は年々増えている一方で、基礎系の講義時間は年々減らされているため、自学自習の必要性が益々高まっている。事前・事後学習でアクティブラーニングを十分に行うこと。教員に指示されなくても自分で考えて実行するのが真のアクティブラーニングである。本学医学部の卒業生がアメリカの医師免許を取得可能にするために、多くの教職員が膨大な時間を使って「医学教育分野別評価」に対応していることはFD講習会で何度も紹介された通りである。学部生の中にアメリカの医師国家試験に合格するつもりでしっかり勉学に励むこと。
教科書	推薦する教科書を挙げておく。教科書（または参考文献に掲載する参考図書でもよい）は、最新版である必要はなく古本で十分であり、日本語訳版でも良いので、いずれか1～2冊を必ず手元において熟読すること。講義だけで神経科学の全分野を網羅することはできないため、必ず自分で教科書を読んで体系的に学習することを勧める。 (1) Principles of Neurobiology, Liqun Luo, 2nd edition, Garland Science, 2020. (2) Principles of Neural Science, 6th edition. ER Kandel, JD Koester, SH Mack, SA Siegelbaum, Mc Graw Hill, 2021. (3) Neuroscience, Exploring the Brain, 5th edition. MF Bear, BW Connors, MA Paradiso Eds., Wolters Kluwer, 2026. (4) 標準生理学、第10版、医学書院、2025。 (5) ニューロンの生物物理、第3版、宮川博義、井上雅司、毛内拓、丸善書店、2025
参考文献	(6) Neuroscience, 6th edition. Purves, Augustine, Fitzpatrick, Hall, LaMantia, Mooney, Platt, White. Sinauer Associates Inc. 2018. (7) Neurobiology, A functional approach, Georg F. Striedte, Oxford Univ Pr, 2015. (8) From Neuron to Brain, 6th edition. A. Robert Martin, David A. Brown, Mathew E. Diamond, Antonio Cattaneo, Francisco F. De-Miguel. Sinauer Associates Inc. 2020. (9) The Neurobiology of Learning and Memory, JW Rudy, Sinauer Associates Inc, 2020
オフィスアワー	12:00-18:00（会議や出張で対応できない場合があるので、急用でない限り事前にアポイントメントをとること）
教員への連絡方法	Moodle上のメッセージ機能を使って教員に連絡すること
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● コアカリキュラムへの対応 H28(旧) C-2-3)-(1), C-2-3)-(2), C-2-3)-(4), C-5-1), C-5-2), C-5-3), C-5-4), C-5-5), D-2-1), D-13-1), D-14-1) R4(新) PR-03-01-01, RE-01-01-01, RE-01-01-02, RE-01-02-01, RE-01-02-02, PS-01-02-01, PS-01-02-02, PS-01-02-03, PS-01-02-04, PS-01-02-05, PS-01-02-06, PS-01-02-13, PS-01-02-17, PS-01-02-18, PS-01-02-19, PS-01-02-20, PS-02-03-01, PS-02-15-01, PS-02-16-01, PS-02-17-01, IT-01-01-01 ● 該当するコンピテンス PR-03-01-01 人の生命に深く関わる医師に相応しい教養を身につける。 <ol style="list-style-type: none"> 1. プロフェッショナルリズム（智・仁・勇） level 1 2. 医学知識と問題対応能力（智・仁・勇） level 1 8. 科学的探究（智） level 1 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢（智・仁・勇） level 1

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMABAM2117-J1
授業科目名	呼吸器系		
担当教員氏名	◎吉川 貴仁、野村 奈穂（運動生体医学）、栗屋 智就、松原 勤、宇留島 隼人、湯浅 秀人（機能細胞形態学）、田北 大昂（放射線診断学）、宗 淳一（呼吸器外科学）		
開講年度・学期	2026	通年	曜日・時限
授業形態	講義		
科目分類			
配当年次	2年	単位数	1.4

※垂直統合型講義を実施しています

【シラバス情報】

授業概要	我々は炭水化物や脂肪などの栄養素を酸化分解することによって必要なエネルギーを獲得する。この代謝過程に必要とされる酸素は外呼吸により大気中から体内に取り入れられ、体内で産生された二酸化炭素は外呼吸により大気中に放出される。本コースでは呼吸器系の構造を理解し、呼吸運動、呼吸機能、ガス交換、酸塩基平衡、呼吸調節を学ぶ。
到達目標	呼吸器系の構造（気道、肺葉、肺区域、肺門、縦隔、胸膜腔）を説明できる。 呼吸筋・呼吸運動と気流発生メカニズムを説明できる。 気道・肺の防御機構と代謝機能を説明できる。 酸素・二酸化炭素分圧と肺泡気-動脈血酸素分圧差を理解し、それらが具体的な症例の呼吸状態に及ぼす影響や酸素吸入の必要性を説明できる。 肺気量分画、換気、死腔について理解し、呼吸機能検査の結果から具体的な症例の呼吸状態を説明できる。 肺・胸郭の構造・機能から、胸腔内圧、弾性とコンプライアンスが具体的な症例の呼吸状態に与える影響を説明できる。 肺循環・体循環の違いを説明できる。 肺の換気・血流の構造・機能から、シャント効果、肺の換気血流比、クロージングボリュームが具体的な症例の呼吸状態に与える影響を説明できる。 血液による酸素・二酸化炭素の運搬、ヘモグロビンとの関係、酸素飽和度について理解し、具体的な症例の呼吸状態を説明できる。 呼吸と代謝による酸塩基平衡について理解し、具体的な症例の酸・塩基平衡の状態を説明できる。 呼吸中枢を介する呼吸調節や咳・痰が生じる機序から、具体的な症例の呼吸状態を説明できる。 呼吸器系・胸腹部の解剖・生理学の知識が臨床現場でどのように応用されているかを理解する。

授業回		各回の授業内容		アクティブラーニング	事前・事後学習の内容
第1回	4/21・4限	湯浅 秀人	呼吸器構造1（鼻腔・喉頭） 呼吸器構造2（気管・肺）	1	●事前学習 1. 人体の正常構造と機能「1 呼吸器」 2. 配布資料（Moodle）
第2回	4/21・5限				
第3回	4/21・6限				
第4回	4/22・1限	栗屋 智就 松原 勤 宇留島 隼人 湯浅 秀人	組織実習1（喉頭・気管）	1	●事前学習 1. 第1, 2, 3回講義内容の復習 2. Ross 組織学（呼吸器系） 3. 標準組織学 各論（呼吸器系） ●事後学習 1. 配布資料（Moodle）
第5回	4/22・2限				
第6回	4/22・3限				
第7回	5/12・4限	吉川 貴仁 野村 奈穂	気道・肺胞、胸膜腔の構造、 気道・肺の防御機構と代謝 機能、呼吸筋・呼吸運動と 気流発生	1	事前・事後に e-learning の資料をみて、 小テスト問題を解くこと。事前・事後学 習を欠かさないようにすること。
第8回	5/12・5限				

第9回	5/13・4限	栗屋 智就 松原 勤 宇留島 隼人 湯浅 秀人	組織実習2(気管支・肺)	1	●事前学習 1. 第1, 2, 3回講義内容の復習 2. Ross 組織学(呼吸器系) 3. 標準組織学 各論(呼吸器系)
第10回	5/13・5限				
第11回	5/13・6限				●事後学習 1. 配布資料(Moodle)
第12回	5/15・4限	吉川 貴仁 野村 奈穂	酸素・二酸化炭素分圧と肺胞でのガス交換 肺気量分画、死腔	1	事前・事後にe-learningの資料をみて、小テスト問題を解くこと。事前・事後学習を欠かさないようにすること。
第13回	5/15・5限				
第14回	5/15・6限				
第15回	5/18・1限	吉川 貴仁 野村 奈穂	肺循環と体循環との違い、肺血流のシャント効果、換気血流比、クロージングボリューム	1	事前・事後にe-learningの資料をみて、小テスト問題を解くこと。事前・事後学習を欠かさないようにすること。
第16回	5/18・2限				
第17回	5/18・3限				
第18回	5/18・4限	吉川 貴仁 野村 奈穂	酸素・二酸化炭素の運搬、呼吸と酸塩基平衡	1	事前・事後にe-learningの資料をみて、小テスト問題を解くこと。事前・事後学習を欠かさないようにすること。
第19回	5/18・5限				
第20回	5/18・6限				
第21回	5/21・2限	吉川 貴仁 野村 奈穂	肺・胸郭の弾性とコンプライアンス、胸腔内圧との関係	1	事前・事後にe-learningの資料をみて、小テスト問題を解くこと。事前・事後学習を欠かさないようにすること。
第22回	5/21・3限	吉川 貴仁 野村 奈穂	呼吸中枢を介する呼吸調節のメカニズム、咳・痰の生じるメカニズム	1	事前・事後にe-learningの資料をみて、小テスト問題を解くこと。事前・事後学習を欠かさないようにすること。
第23回	5/29・6限	宗 淳一	外科から見た呼吸器の解剖生理学	1	第22回までの授業資料を事前に復習するとともに、事後にも当日の資料をみてe-learningでの小テスト問題を解くこと。
第24回	6/9・1~3限		試験		
第25回	6/10・4限	田北 大昂	放射線診断からみた胸腹部の解剖	1	胸・腹部の解剖生理に関するこれまでの授業資料を事前に読んでおくこと。事後にも当日の資料をみて、e-learningでの画像診断の小テスト問題を解くこと。
第26回	6/10・5限				

成績評価方法	(1) 小テスト(事前・事後学習)を含む試験ならびにレポートによって、到達目標の達成度について評価する。特に、本講座で学習した内容を基に、具体的な患者症例について呼吸状態を説明できるかを重視する。 (2) 評価方法は下記のとおりとする。 解剖学(本試験 70%、組織学実習レポート・小テスト 30%) 生理学(本試験 50%、事前・事後の小テスト 50%) 配点:解剖学 50点、生理学 50点の合計100点満点で、60点以上が合格
履修上の注意	医学部規則により、原則すべての実習に参加しない限り、単位認定されない。 学修態度が著しく悪い時、その授業への参加を認めないため、不合格になる場合がある。
教科書	<input type="checkbox"/> 人体の正常構造と機能(日本医事新報社)、Ross 組織学(南江堂)、標準組織学(総論・各論)(医学書院)、 (教科書; 選択して必携) <input type="checkbox"/> Drake グレイ解剖学(エルゼビア・ジャパン) <input type="checkbox"/> 高野 解剖学講義(南山堂) (アトラス; 選択して必携) <input type="checkbox"/> Netter ネットター解剖学アトラス(南江堂) <input type="checkbox"/> 坂井 プロメテウス解剖学 コアアトラス(医学書院) <input type="checkbox"/> 標準生理学(医学書院)
参考文献	分担解剖学(第1・2・3巻)第11版(金原出版)

オフィスアワー	10:00-16:00 (会議や出張で対応できない場合があるので、急用でない限り事前にアポをとること)
教員への連絡方法	Moodle 上のメッセージ機能を使って教員に連絡すること
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●コアカリキュラムへの対応 H28 (旧) : D-6-1 R4 (新) : PS-02-07-01 ●該当するコンピテンスおよびマイルストーンへの対応 <ul style="list-style-type: none"> 1. プロフェッショナリズム (智・仁・勇) level 1 2. 医学知識と問題対応能力 (智・仁・勇) level 1 3. 診療技能と患者ケア (智・仁・勇) level 1 8. 科学的探究 (智) level 1 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 (智・仁・勇) level 1

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMABAM2118-J1
授業科目名	免疫系		
担当教員氏名	【基礎】◎植松 智、植松 未帆、宮岡 大知、平野 雄大（ゲノム免疫学）、宇留島 隼人（機能細胞形態学）【臨床】橋本 求（膠原病内科学）		
開講年度・学期	2026	曜日・時限	その他
授業形態	講義		
科目分類			
配当年次	2年	単位数	2

※垂直統合型講義を実施しています

【シラバス情報】

授業概要	<p>本コースでは、感染が起こってから自然免疫が発動し、獲得免疫が誘導される基本的な免疫応答を軸として、免疫現象全体を細胞レベル、分子レベルで理解を図る。前半では、総論として免疫細胞の分化と機能、エフェクター分子と機構、自然免疫受容体の機能、抗原提示、獲得免疫の多様性の獲得と誘導、エフェクター細胞の機能、さらに粘膜免疫機構、免疫制御機構、免疫記憶を詳細に学ぶ。また、機能細胞形態学の宇留島先生との連携のもと、免疫応答が起こる場として免疫関連組織、臓器の学びを行い、水平講義を展開し免疫応答の時空間的な理解を深める。後半では、総論で学んだ生理的、正常状態での免疫応答に関する基礎知識を基盤として、炎症、アレルギー、癌、免疫不全といった免疫疾患の病態機構を一緒に考えつつ、治療法も含めた学びを深めていく。さらに、膠原病内科学の橋本先生との連携の元、基礎と臨床の橋渡しとなる膠原病の講義を展開し、病態機構、治療、さらには最先端の分子標的薬の紹介も含めた垂直講義を実践する。最後の授業では、再度、感染が起こってから自然免疫が発動し、獲得免疫が誘導される免疫応答に関して、コース全体のダイジェスト、総まとめの講義を行い、各回の要点をピンチアウトしながら、全体を理解しつつも細部との連関をきっちり再確認してもらう。</p>
到達目標	<p>免疫系の仕組みを細胞レベル、分子レベルで深く理解し、感染が起こってから自然免疫が発動し、獲得免疫が誘導され病原体を排除するまでを説明できる。この感染に対する基本的な免疫応答を軸に、炎症、アレルギー、癌、免疫不全といった免疫関連疾患の病態機構を考え、最先端の分子標的治療も含めた治療法とその機構についても理解し、解説できる。臨床講義に向けて、免疫機構における「生理的」な状態が如何なるものかを体得し、その知識を基盤として逸脱した疾患状態に関して適切に病態機構を思考し、治療法を考えることができる。将来の国家試験、専門医試験に向けて免疫関連疾患の重要なキーワード群に関しては、先取的に小テストを介して体得する。</p>

授業回		各回の授業内容		アクティブラーニング	事前・事後学習の内容
第1回	6/3・4時限	植松 智	免疫機構概論	1	<p>知識の定着のため、授業支援システム moodle 上に掲載する各回の小テストを活用してください。また、関連事項も含めてよく学習して作成し、知識の整理、定着を図る。</p>
第2回	6/3・5時限	植松 未帆	補体、NK細胞、貪食細胞	1,2	
第3回	6/3・6時限	植松 未帆	自然免疫受容体と認識機構	1	
第4回	6/5・4時限	植松 智	遺伝子再構成、BCR/抗体の認識	1	
第5回	6/5・5時限	植松 智	MHCの構造と機能、樹状細胞、抗原提示	1,2	
第6回	6/5・6時限	宮岡 大知	TCRの認識	1,2	
第7回	6/9・4時限	宮岡 大知	造血系	1	
第8回	6/9・5時限	宮岡 大知	T細胞の発生と選択、NKT細胞	1	
第9回	6/9・6時限	宮岡 大知	B細胞分化	1	
第10回	6/12・4時限	植松 智	ヘルパーT細胞、自然リンパ球	1,2	
第11回	6/12・5時限	植松 智	細胞傷害性T細胞	1	
第12回	6/12・6時限	宮岡 大知	B細胞と抗体	1	

第13回	6/16・4時限	宇留島 隼人	構造講義1 免疫組織の概要	1	人体の正常構造と機能 第4版「7. 血液、免疫 p.480-534」ならびにエルゼビア e-laearning ClinicalKey Student Foundation Japan ウィーター 図説で学ぶ組織学 「11. 免疫系」で、学習内容の知識を定着させる	
第14回	6/16・5時限	宇留島 隼人	構造講義2 1次リンパ組織	1		
第15回	6/16・6時限	宇留島 隼人	構造講義3 2次リンパ組織	1		
第16回	6/17・4時限	宮岡 大知	免疫細胞の動態	1		
第17回	6/17・5時限	植松 智	免疫制御と制御性T細胞	1,2		
第18回	6/17・6時限	植松 智	免疫記憶とワクチン	1		
第19回	6/18・1時限	平野 雄大	粘膜免疫1(粘膜免疫機構)	1,2		
第20回	6/18・2時限	平野 雄大	粘膜免疫2(常在菌叢)	1,2		
第21回	6/18・3時限	宮岡 大知	生殖免疫と移植免疫	1		
第22回	6/19・4時限	宮岡 大知	急性炎症と慢性炎症	1		
第23回	6/19・5時限	宮岡 大知	アレルギー1(メカニズム、喘息、鼻炎)	2,3		
第24回	6/19・6時限	宮岡 大知	アレルギー2(アトピー性皮膚炎、食物アレルギー)	2,3		
第25回	6/22・4時限	解剖1	組織学実習1 (扁桃、リンパ節、脾臓、胸腺)	1		人体の正常構造と機能 第4版「7. 血液、免疫 p.480-534」ならびにエルゼビア e-laearning ClinicalKey Student Foundation Japan ウィーター 図説で学ぶ組織学 「11. 免疫系」で、学習内容の知識を定着させる
第26回	6/22・5時限					
第27回	6/22・6時限					
第28回	6/23・4時限					
第29回	6/23・5時限					
第30回	6/23・6時限	解剖1	組織学実習2 (扁桃、リンパ節、脾臓、胸腺)	1		
第31回	6/24・4時限	橋本 求	自己免疫疾患1(自己免疫と破綻、遺伝因子など)	1	知識の定着のため、授業支援システム moodle 上に掲載する各回の小テストを活用してください。また、関連事項も含めてよく学習し、知識の整理に役立ててください。	
第32回	6/24・5時限	橋本 求	自己免疫疾患2(自己免疫疾患と治療)	1		
第33回	6/26・4時限	植松 智	腫瘍免疫と癌免疫療法	1,2		
第34回	6/26・5時限	植松 智	原発性免疫不全と後天性免疫不全	1		
第35回	6/26・6時限	植松 智	免疫機構まとめ	1		
第36回	7/23・1~3時限	植松 智 植松 未帆 宮岡 大知 平野 雄大	試験		試験は小テスト、レポートに関連した内容から主に出题されます。	

成績評価方法	成績評価は、ゲノム免疫学担当の講義各回の小テスト(10%、moodleに掲載、受講が重要、点数は勘案しない)、構造講義の実習レポート(10%)、コース終了後に行われる筆記試験の成績(80%)を総合して行います。
履修上の注意	免疫系は、非常に複雑精緻な機構です。推薦教材を参考にし、moodleにアップロードされる講義スライドを使って全体像を捉えつつ、細部も理解してください。第21回までに、基本的な免疫応答、解剖学的知識の基礎事項を網羅します。第22回以降の講義では実際の疾患を学習しますので、個々の免疫細胞、機構がどの様に働くか、治療法も含めて総合的に学習してください。
教科書	授業、各回の予習、復習のため、標準免疫学(医学書院)を日本語の教科書と指定します。免疫学は非常に複雑なので教科書をしっかり読んで包括的な理解をすることを勧めます。
参考文献	より発展的な内容を英語で学習したい人には、Janeway's Immunobiology 9th ed(南江堂)を推薦します。
オフィスアワー	10:00-16:00(会議や出張で対応できない場合があるので、急用でない限り事前にアポイントメントをとること)
教員への連絡方法	Moodle上のメッセージ機能を使って教員に連絡すること

<p>その他</p>	<p>●コアカリキュラムへの対応 H28(旧) : C-3-2), C-4-2), C-4-5), D-1-1), E-4 R4(新) : PS-02-02, PS-03-02, PS-03-03, PS-03-04</p> <p>●該当するコンピテンス</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 医学知識と問題対応能力 (智・仁・勇) level1 3. 診療技能と患者ケア (智・仁・勇) level1 7. 社会における医療の実践と大阪住民の幸福に貢献する力 (智・仁・勇) level1 8. 科学的探究 (智) level1 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 (智・仁・勇) level1
------------	---

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMABAM2119-J1
授業科目名	消化器系		
担当教員氏名	【基礎】◎大谷 直子、神谷 知憲（病態生理学）、栗屋 智就、松原 勤、宇留島 隼人、湯浅 秀人（機能細胞形態学） 【臨床】前田 清（消化器外科学）		
開講年度・学期	2026	曜日・時限	その他
授業形態	混合		
科目分類			
配当年次	2年	単位数	1.4

※垂直統合型講義を実施しています

【シラバス情報】

授業概要	食物には、私たちの身体を構築するための材料や活動のためのエネルギー源などが含まれている。食物に含まれるこれらの栄養素を体細胞で利用可能な大きさまで分解する過程を消化といい、消化器系で行われる。消化器系は消化管とその付属器官から構成される。消化管は口から肛門までの1本の管であり、消化・吸収が行われる。付属消化器官には唾液腺、肝臓、胆嚢、膵臓があり、消化液を産生・貯蔵し消化管内に分泌する。消化された栄養素は吸収後、合成・分解・解毒され、細胞が利用できる形にかえられる。吸収されなかったものは便として排出される。消化器系コースでは消化器系の正常構造や機能、栄養の消化・吸収の仕組みについて学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 各消化器官の位置、形態と関係する血管を図示できる。 ② 腹膜と臓器の関係を説明できる。 ③ 食道・胃・小腸・大腸の基本構造と部位による違いを説明できる。 ④ 消化管運動の仕組みを説明できる。 ⑤ 消化器官に対する自律神経の作用を説明できる。 ⑥ 肝の構造と機能を説明できる。 ⑦ 胃液の作用と分泌機序を説明できる。 ⑧ 胆汁の作用と胆嚢収縮の調節機序を説明できる。 ⑨ 膵外分泌系の構造と膵液の作用を説明できる。 ⑩ 小腸における消化・吸収の仕組みを説明できる。 ⑪ 大腸における糞便形成と排便の仕組みを説明できる。 ⑫ 主な消化管ホルモンの作用を説明できる。 ⑬ 歯、舌、唾液腺の構造と機能を説明できる。 ⑭ 咀嚼やくと嚥下の機構を説明できる。 ⑮ 消化管の正常細菌叢（腸内細菌叢）の役割を説明できる。

授業回		各回の授業内容		アクティブラーニング	事前・事後学習の内容
第1回	4/10・4限	松原 勤	消化器構造 1 (消化器系の概要、 口腔・咽頭)	1	下記参照
第2回	4/10・5限	松原 勤	消化器構造 2 (食道・胃)		
第3回	4/21・1限	松原 勤 栗屋 智就 宇留島 隼人 湯浅 秀人	組織学実習 1 (舌、唾液腺)	1	<ul style="list-style-type: none"> ●事前学習 Ross 組織学や人体の正常構造と機能など教科書で「舌および唾液腺の組織学」についての学習 ●事後学習 1. 配布資料 (Moodle など)
第4回	4/21・2限				
第5回	4/21・3限				

第6回	4/23・1限	松原 勤	組織学実習2 (食道、胃)	1	●事前学習 Ross 組織学や人体の正常構造と機能など教科書で「食道および胃の組織学」についての学習 ●事後学習 配布資料 (Moodle など)
第7回	4/23・2限	栗屋 智就 宇留島 隼人			
第8回	4/23・3限	湯浅 秀人			
第9回	5/1・2限	松原 勤	消化器構造3 (小腸・大腸、腹膜)	1	下記参照
第10回	5/1・3限	松原 勤	消化器構造4 (肝臓、胆嚢・膵臓)	1	
第11回	5/19・1限	大谷 直子	消化器系の一般的性質	1	下記参照
第12回	5/19・2限	大谷 直子	口腔、食道の生理	1	
第13回	5/19・3限	大谷 直子	胃の生理	1	
第14回	5/20・1限	大谷 直子	肝臓の生理	1	下記参照
第15回	5/20・2限	大谷 直子	胆嚢・膵臓の生理		
第16回	5/20・3限	大谷 直子	消化管ホルモン、腸脳相関		
第17回	5/20・4限	松原 勤	組織学実習3 (小腸、大腸)	1	●事前学習 Ross 組織学や人体の正常構造と機能など教科書で「小腸および大腸の組織学」についての学習 ●事後学習 配布資料 (Moodle など)
第18回	5/20・5限	栗屋 智就 宇留島 隼人			
第19回	5/20・6限	湯浅 秀人			
第20回	5/22・4限	松原 勤	組織学実習4 (肝臓、膵臓)	1	●事前学習 Ross 組織学や人体の正常構造と機能など教科書で「肝臓および膵臓の組織学」についての学習 ●事後学習 配布資料 (Moodle など)
第21回	5/22・5限	栗屋 智就 宇留島 隼人			
第22回	5/22・6限	湯浅 秀人			
第23回	5/26・3限	神谷 知憲	消化管免疫と腸内細菌叢	1	下記参照
第24回	5/26・4限	大谷 直子	小腸・大腸の生理、栄養素の消化と吸収	1	下記参照
第25回	5/27・2限	松原 勤	消化器演習	3	●事前学習 生理学・解剖学で配布された資料等で、消化器の内容を復習すること ●事後学習 スライドを参考にして、消化器の内容を復習すること
第26回	5/27・3限	松原 勤			
第27回	5/29・3限	前田 清	消化器外科学	0	下記参照
	6/2・2-3限		試験		

事前・事後学習の内容	<p>全般</p> <p>事前学習：「細胞と組織の基本構造と機能コース」で学んだ組織の成り立ち、「生体物質代謝・生化学コース」で学んだ糖質・脂質・タンパク質・酵素に関して復習しておくこと。生理学分野では、アクティブラーニングとして、事前に Moodle で配布された課題を使って事前学習を行う。</p> <p>事後学習：配布された資料と推奨テキストをもとに講義内容の復習をすること。また、消化器系は腹部の循環器系と関係しているので「循環器系コース」との統合的な理解をすること。生理学分野では、講義内容の確認テストを行う。</p>
------------	--

成績評価方法	コース終了時の試験ならびに組織学実習レポート、学修態度 や小テストの成績も加味し、総合して、60点（100点満点）以上を合格とする。（解剖学分野と生理学分野の割合は50%：50%）
履修上の注意	講義の内容確認のため講義終了時に小テストを行う場合がある。
教科書	Ross 組織学（南江堂）、人体の正常構造と機能（日本医事新報社）、グレイ解剖学（Elsevier）、「標準生理学」（医学書院）
参考文献	ガイドン生理学（Elsevier）、ギャノン生理学（丸善）
オフィスアワー	会議や出張で対応できない場合があるので、急用でない限り事前にアポイントメントをとること
教員への連絡方法	Moodle 上のメッセージ機能を使って教員に連絡すること
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● コアカリキュラムへの対応 R4（新）：PS-02-08-01 ● 該当するコンピテンス <ol style="list-style-type: none"> 1. プロフェッショナリズム（智・仁・勇） level 1 2. 医学知識と問題対応能力（智・仁・勇） level 1 3. 診療技能と患者ケア（智・仁・勇） level 1 4. コミュニケーション能力（智・仁・勇） level 1 8. 科学的探究（智） level 1 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢（智・仁・勇） level 1

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMABAM2120-J4
授業科目名	感覚器・皮膚		
担当教員氏名	【基礎】◎近藤 誠、甲斐 理武、河合 洋幸（脳神経機能形態学）、松原 勤、宇留島 隼人、湯浅 秀人（機能細胞形態学）、【臨床】鶴田 大輔（皮膚病態学）、角南 貴司子（耳鼻咽喉病態学）、本田 茂（視覚病態学）		
開講年度・学期	2026	曜日・時限	その他
授業形態	混合		
科目分類			
配当年次	2年	単位数	0.5

※垂直統合型講義を実施しています

【シラバス情報】

授業概要	基礎と臨床（皮膚科、耳鼻咽喉科、眼科）の視点から感覚器・皮膚の構造と機能を学習する。組織学実習では標本を観察する。
到達目標	1. 皮膚、付属器の構造と機能を説明できる。 2. 聴覚器、前庭器の構造と機能を説明できる。 3. 視覚器の構造と機能を説明できる。

授業回		各回の授業内容		アクティブラーニング	事前・事後学習の内容
第1回	9/11・3限	鶴田 大輔	感覚器の臨床（皮膚科）	1	教科書などで予習・復習を行う。
第2-4回	9/14・1-3限	近藤 誠 甲斐 理武 河合 洋幸	組織学実習（感覚器・皮膚）	1	
第5回	9/16・3限	本田 茂	感覚器の臨床（眼科）	1	
第6回	9/18・1限	角南 貴司子	感覚器の臨床（耳鼻咽喉科）	1	
第7-8回	10/8・5-6限	近藤 誠	感覚器・皮膚まとめ	1	
第9-11回	10/20・1-3限	松原 勤 宇留島 隼人 湯浅 秀人	臨床解剖1（耳鼻咽喉科）	1	
第12-14回	10/27・1-4限	松原 勤 宇留島 隼人 湯浅 秀人	臨床解剖2（耳鼻咽喉科）	1	
第15回	10/26・1-3限	脳神経機能形態学	試験		

成績評価方法	試験及び実習で評価する。合格には総合 60% 以上の成績が必要。
履修上の注意	教科書、講義資料などで予習・復習を行うこと。
教科書	Ross 組織学（南江堂）
参考文献	特になし
オフィスアワー	10:00-16:00（事前にアポイントメントをとること）
教員への連絡方法	学舎 12 階研究室、電話：06-6645-3706
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●コアカリキュラムへの対応 H28（旧）：D-3-1）、D-13-1）、D-14-1） R4（新）：PS-02-04、PS-02-15、PS-02-16 ●該当するコンピテンスおよびマイルストーンへの対応 <ol style="list-style-type: none"> 1. プロフェッショナルリズム（智・仁・勇） level 1 2. 医学知識と問題対応能力（智・仁・勇） level 1 3. 診療技能と患者ケア（智・仁・勇） level 1 4. コミュニケーション能力（智・仁・勇） level 1 8. 科学的探究（智） level 1 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢（智・仁・勇） level 1

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMABAM2121-J1
授業科目名	内分泌・代謝		
担当教員氏名	◎大谷 直子、山岸良多(病態生理学)、栗屋 智就、松原 勤、宇留島 隼人、湯浅 秀人 (機能細胞形態学)		
開講年度・学期	2026	曜日・時限	その他
授業形態	講義		
科目分類			
配当年次	2年	単位数	0.6

【シラバス情報】

授業概要	<p>内分泌腺は化学的伝達物質であるホルモンを産生分泌し、ホルモンは血流により、標的器官へ特異的に作用し、神経系と共に生体機能を協調し、統合する働きを有する。本講義では内分泌腺のなかで、器官として存在する下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、副腎をとりあげ、各器官の正常形態・構造と機能を理解する。また内分泌機能の生理についての一般的知識を得て、体内のホメオスタシス保持機構について、各器官の機能と全身代謝調節におけるそれぞれのホルモンの機能的役割を理解することを目標とする。これらの理解のため、本コースでは、内分泌器官の正常形態・基本的な機能についての講義とともに、光学顕微鏡を用いた組織学実習を並行して行う。</p>
到達目標	<p>第1,2回</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 内分泌系の概念、分類と特性を理解する。各内分泌器官の位置を図示し、そこから分泌されるホルモンを列挙できる。 2. 下垂体の発生、構造（前葉、中間部、後葉）とホルモンについて説明できる。 3. 松果体、甲状腺、上皮小体の構造とホルモンについて説明できる。 4. 副腎の発生、構造（皮質、髄質）とホルモンについて説明できる。 5. パラガングリオンの概念、構造と機能について説明できる。 <p>第3回</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 内分泌系の主な働きとその作用機構、フィードバック機構の全体像を説明できる。 2. 全身代謝調節について説明できる。 3. 内分泌系による全身代謝調節機構について説明できる。 4. ホルモンを構造から分類し作用機序と分泌調節機能を説明できる。 <p>第4,5,6回</p> <p>以下の内分泌系組織を観察し、構造を説明できる。 下垂体（HE染色）、甲状腺（HE染色）、副腎（HE染色）</p> <p>第7,8回</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各視床下部－下垂体前葉系ホルモンと標的内分泌腺の作用、フィードバック機構を説明できる。 2. 各内分泌器官の機能異常を説明できる。 <p>第9回</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 下垂体後葉ホルモンと体液調節について説明できる 2. レン－アンジオテンシン－アルドステロン系による体液・血圧調節について説明できる。 3. 副腎髄質ホルモンと血圧調節について説明できる。 4. 各内分泌器官の機能異常を説明できる。 <p>第10回</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 膵島ホルモンについて説明できる。 2. 膵島ホルモンの機能について説明できる。 3. 血糖を調節する消化管ホルモンについて説明できる。 4. 血糖調節機構について説明できる。 5. 血糖調節機構の異常について説明できる。 <p>第11回</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 上皮小体ホルモンの産生と機能について説明できる。 2. ビタミン D の機能について説明できる。 3. 全身のカルシウムホメオスタシスについて説明できる。 4. 骨の役割を理解し、骨形成・骨粗しょう症などの機能異常を説明できる。

授業回		各回の授業内容		アクティブラーニング	事前・事後学習の内容
第1回	4/3・4限	松原 勤	内分泌腺の組織形態とホルモン	2	●事前学習 人体の正常構造と機能など教科書で「内分泌」についての学習 ●事後学習 1. 配布資料 (Moodle など)
第2回	4/3・5限				
第3回	4/3・6限	大谷 直子	内分泌総論・全身代謝調節	1	毎回の講義内容を「講義主題」にて把握し、教材の目次を用いて該当する内容を検索し、講義内容に関する項目を事前に学習しておくこと。既習の内容については、関連科目の授業内容を振り返り確認をしておくこと。各自講義の要点をまとめるなど、事前・事後学習を欠かさないようにすること。
第4回	4/6・4-6限	松原 勤 栗屋 智就 宇留島 隼人 湯浅 秀人	組織学実習 (内分泌腺)	1	●事前学習 Ross 組織学や人体の正常構造と機能など教科書で「下垂体、甲状腺および副腎の組織学」についての学習 ●事後学習 1. 配布資料 (Moodle など)
第5回					
第6回					
第7回	4/7・1限	大谷 直子	視床下部ー下垂体前葉系ホルモンと標的内分泌腺の機能 1	1	毎回の講義内容を「講義主題」にて把握し、教材の目次を用いて該当する内容を検索し、講義内容に関する項目を事前に学習しておくこと。既習の内容については、関連科目の授業内容を振り返り確認をしておくこと。各自講義の要点をまとめるなど、事前・事後学習を欠かさないようにすること。
第8回	4/8・1限	大谷 直子	視床下部ー下垂体前葉系ホルモンと標的内分泌腺の機能 2	1	
第9回	4/9・1限	大谷 直子	体液量や血圧を調節するホルモン (下垂体後葉ホルモン、副腎髄質ホルモン等)	1	
第10回	4/10・1限	大谷 直子	膵島ホルモンと血糖調節	1	
第11回	4/20・3限	山岸 良多	上皮小体とカルシウムホメオスタシス	1	
第12回	4/30 2-3限		試験		

成績評価方法	成績評価はコース終了時に行われる筆記試験の成績による。普段の出席点、小テストも加味する。解剖学分野と生理学分野の割合は50%：50%とする。合格には、総合して60%以上の成績が必要である。
履修上の注意	事前学習を行うことで次の講義の予習をし、毎回の講義後、事後学習として復習を行うこと。生理学分野では、アクティブラーニングとして、事前にMoodle上で配布された課題を使って事前学習を行う。また、事後学習として講義後に確認テストを行う。
教科書	Ross 組織学 第7版 (南江堂)、人体の正常構造と機能 (日本医事新報社)、「標準生理学」(医学書院)、その他、配布した講義資料
参考文献	ガイドン生理学 (Elsevier)、ギャノン生理学 (丸善)、「人体組織学」A. Stevens & J. Lowe (南江堂)、「機能を中心とした図説組織学(Functional Histology, A text and colour atlas by P.W. Weather)」山田英智 訳、(医学書院)
オフィスアワー	会議や出張で対応できない場合があるので、急用でない限り事前にアポイントメントをとること

教員への連絡方法	Moodle 上のメッセージ機能を使って教員に連絡すること
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● コアカリキュラムへの対応 R4 (新) : PS-01-02-04, PS-01-02-19, PS-01-02-20, PS-01-02-21, PS-01-02-36 PS-02-14-01 ● 該当するコンピテンス 1. プロフェッショナリズム (智・仁・勇) level 1 2. 医学知識と問題対応能力 (智・仁・勇) level 1 3. 診療技能と患者ケア (智・仁・勇) level1 4. コミュニケーション能力 (智・仁・勇) level 1 8. 科学的探究 (智) level 1 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 (智・仁・勇) level 1

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMABAM2122-J1 AMABAM2123-J4
授業科目名	腎・泌尿器系・生殖器系		
担当教員氏名	◎大谷 直子（病態生理学）、粟屋 智就、松原 勤、宇留島 隼人、湯浅 秀人（機能細胞形態学）、柳田 素子、金子 恵一（京都大学大学院医学研究科）、木村 友則（大阪大学大学院医学系研究科腎臓内科）、田中 智章（市立吹田市民病院）		
開講年度・学期	2026	曜日・時限	その他
授業形態	混合		
科目分類			
配当年次	2年	単位数	11.3

【シラバス情報】

授業概要	<p>腎・泌尿器系コース 身体の基盤となる細胞は、酸素や栄養分を取り込み、それらを代謝することで活動している。腎臓は血液を濾過し尿を生成することで、代謝の結果生じた老廃物を除去するための臓器であり、また、身体の約60%を占める水分の量を調節する役割も担っている。さらに、血液の電解質やpHの維持、また血圧の調節など体内環境を整えるのも腎臓の役割である。膀胱は、腎臓で生成され尿管を通して運ばれた尿が一時的に貯留する袋状の臓器である。腎臓および泌尿器系の構造を理解し、腎臓の糸球体と尿細管の機能、腎臓による体液と酸塩基平衡の維持、および排尿のメカニズムを学ぶ。</p> <p>生殖器コース 男性生殖器と女性生殖器の正常構造と基本的な機能について学ぶ。また、産婦人科・泌尿器科より臨床の観点から解剖生理学を学ぶ。さらに光学顕微鏡を用いた生殖器の組織学実習を並行して行い理解を深める。</p>
到達目標	<p>腎・泌尿器系コース 腎・尿路系の位置・形態と血管分布・神経支配を説明できる。 体液の量と組成・浸透圧を小児と成人を区別して説明できる。 腎の機能の全体像やネフロン各部の構造と機能を概説できる。 腎糸球体における濾過の機序を説明できる。 腎で産生される又は腎に作用するホルモン・血管作動性物質（エリスロポエチン、ビタミン D、レニン、アンギオテンシン II、アルドステロン）の作用を説明できる。 尿細管各部における再吸収・分泌機構を説明できる。 腎・泌尿器組織を図示説明できる。 水電解質、酸・塩基平衡の調節機構を説明できる 尿の濃縮機序を説明できる。蓄排尿の機序を説明できる。</p> <p>生殖器系コース 男性生殖器組織（精巣・精巣上体、精索、前立腺、陰茎）の図示説明ができる。 女性生殖器（卵巣、卵管、子宮）の図示説明ができる。 テストステロンを中心とした精巣の内分泌機能について理解し、説明できる。 陰茎の構造と勃起のメカニズムについて説明でき、その異常である勃起不全（ED）についても病態を理解する。 子宮動静脈・卵巣動静脈の血流について説明できる。 妊娠・分娩の概要を説明できる。</p>

授業回		各回の授業内容		アクティブラーニング	事前・事後学習の内容
第1回	9/29 1限	柳田 素子	腎糸球体における濾過の機序	1	下記参照
第2回	9/29 2限	田中 智章	体液の量・組成 腎機能の全体像	1	下記参照
第3回	9/29 3限	鞍作 克之	臨床機能形態学 (男性生殖器領域)	1	人体の正常構造と機能 「6 生殖器系」で、学習内容の知識を定着させる

第4回	10/1	1限	木村 友則	尿細管各部における再吸収・分泌機構	1	下記参照
第5回	10/1	2限		尿細管上皮細胞の機能	1	下記参照
第6回	10/1	3限	安井 智代	臨床機能形態学 (女性生殖器領域)	1	人体の正常構造と機能 「6 生殖器」で、学習内容の知識を定着させる
第7回	10/2	2限	宇留島 隼人	腎・泌尿器の組織学1	1	人体の正常構造と機能 第4版「5. 腎・泌尿器 p.326-409」で、学習内容の知識を定着させる
第8回	10/2	3限		腎・泌尿器の組織学2	1	
第9回	10/2	4限	宇留島 隼人 粟屋 智就 松原 勤 湯浅 秀人	組織学実習 (腎・泌尿器)	1	人体の正常構造と機能 第4版「5. 腎・泌尿器 p.326-409」で、学習内容の知識を定着させる
第10回	10/2	5限				
第11回	10/2	6限				
第12回	10/7	1限	金子 恵一	酸塩基平衡の調節機構	1	下記参照
第13回	10/7	2限		水・電解質の調節機構	1	下記参照
第14回	10/7	3限	大谷 直子	腎に作用するホルモン・血管作働性物質の作用	1	下記参照
第15回	10/8	1限	仲谷和記 粟屋 智就 松原 勤 宇留島 隼人 湯浅 秀人	組織実習 (女性生殖器)	1	人体の正常構造と機能 「6 生殖器」で、学習内容の知識を定着させる
第16回	10/8	2限				
第17回	10/8	3限				
第18回	10/14	4限	湯浅 秀人 粟屋 智就 松原 勤 宇留島 隼人	組織実習 (男性生殖器)	1	人体の正常構造と機能 「6 生殖器」で、学習内容の知識を定着させる
第19回	10/14	5限				
第20回	10/14	6限				
第21回	10/16	3限	大谷 直子	尿の濃縮機序・蓄排尿のメカニズム	1	下記参照
第22回	11/4	2,3限		試験		

事前・事後学習の内容	<p>全般</p> <p>事前学習:「細胞と組織の基本構造と機能コース」で学んだ組織の成り立ち、「生体物質代謝・生化学コース」で学んだ糖質・脂質・タンパク質・酵素に関して復習しておくこと。生理学分野では、アクティブラーニングとして、事前にMoodle上で配布された課題を使って事前学習を行う。</p> <p>事後学習: 配布された資料と推奨テキストをもとに講義内容の復習をすること。</p>
------------	--

成績評価方法	<p>学修態度、小テスト、レポートおよび試験 尚、評価方法の詳細については、学習開始時に提示する。 (配点:腎・泌尿器系分野は生理学80%、解剖学20%で評価し、100点満点中60点以上が合格とする。生殖器系分野は別に評価し、100点満点中60点以上が合格とする。)</p>
履修上の注意	<p>講義・実習中に携帯電話を使用する者や態度の悪い者には退席を命ずる。 必ず教材の関連する箇所を必ず読んで事前学習してから講義・実習に出席すること。</p>

教科書	<p>必携 Ross 組織学 (南江堂)、標準組織学 (総論・各論) (医学書院)、標準生理学 (医学書院)、人体の正常構造と機能 (日本医事新報社)、組織学カラーアトラス (ガートナー/ハイアット) 第3版 (メディカルインターナショナル)</p> <p>参考書 Review of Medical Physiology (Ganong, 25th ed., McGraw-Hill)、ギャノン生理学 第24版 (丸善)、Textbook of Medical Physiology (Guyton & Hall, 13th ed., W.B. Saunders)、ガイトン生理学 第11版 (エルゼビア・ジャパン)</p>
参考文献	特になし
オフィスアワー	会議や出張で対応できない場合があるので、急用でない限り事前にアポイントメントをとること
教員への連絡方法	Moodle 上のメッセージ機能を使って教員に連絡すること
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● コアカリキュラムへの対応 R 4 (新) : PS-02-09-01, PS-02-09-05, PS-02-10-01 ● 該当するコンピテンス 1. プロフェッショナルリズム (智・仁・勇) level 1 2. 医学知識と問題対応能力 (智・仁・勇) level 1 3. 診療技能と患者ケア (智・仁・勇) level 1 4. コミュニケーション能力 (智・仁・勇) level 1 8. 科学的探究 (智) level 1 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 (智・仁・勇) level 1

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMABAM2116-J4
授業科目名	医学研究推進コース 2 (基礎コース、蛋白質・酵素コース、遺伝子コース)		
担当教員氏名	◎金子幸弘 (細菌学)、松原 勤 (細胞機能制御学)、広常 真治、王 晟明、上垣 哲心、笠井 大司 (細胞機能制御学)、及川 大輔、清水 康平、永井 正義、池島 裕子 (医化学)、塩田 正之 (分子制御生物学)、小島 裕正、國本 浩之 (免疫制御学) 坂井 建雄 (順天堂大学)		
開講年度・学期	2026	前期	曜日・時限
授業形態	混合		
科目分類			
配当年次	2年	単位数	1.3

【シラバス情報】

授業概要	<p>基礎コース 大学院医学研究科の講義を聴講し、研究の基本的な考え方ならびに分子生物学の解析に汎用されている実験系を学習し、レポートを作成することにより理解を深める。 分子系実習 (蛋白質・酵素コースと遺伝子コース) は第1週と第2週はローテーションで行う。 (第1週) 遺伝子コース あるいは蛋白質・酵素コース (第2週) 蛋白質・酵素コース あるいは遺伝子コース</p> <p>蛋白質・酵素コース 酵素の物性と触媒機能を生化学的に解析することにより、生体代謝の原理を理解する。疑問を解決する科学的方法を学習し、身につけることを目標とする。また、これらの解析法を面白く理解させ、将来の研究に意欲をもたせる。 ラット組織を用いて酵素の精製、タンパク質の定量、ウェスタンブロッティング法によるタンパク質の特異的検出、酵素反応特性の解析の3つの項目について乳酸脱水素酵素に着眼し、3日間通しの実習で取得する。</p> <p>遺伝子コース 現在の医学研究には分子生物学的な研究手法は不可欠なものとなっている。本実習では4日間の限られた時間ではあるが、細胞からのゲノム DNA の抽出、PCR による標的遺伝子の増幅、大腸菌を用いた遺伝子組換え、プラスミド調整及び制限酵素消化などの実験を行い、基本的な遺伝子解析手技を習得する。また、二本鎖 DNA の特性を確認し、ヒト遺伝子研究を目指した基礎となることを目標とする。</p>
到達目標	<p>基礎コース</p> <ul style="list-style-type: none"> 分子生物学の解析に汎用されている実験系を列挙することができる。 論文形式にそったレポートを作成することができる。 <p>蛋白質・酵素コース</p> <ul style="list-style-type: none"> アフィニティークロマトグラフィーによる乳酸脱水素酵素の精製と定量解析 乳酸脱水素酵素 (LDH) およびアルカリフォスファターゼの酵素反応速度論 ウェスタンブロッティング法による乳酸脱水素酵素の検出同定 <p>遺伝子コース</p> <ul style="list-style-type: none"> ゲノム DNA の抽出法を理解し、実際に抽出できる PCR 法の原理を理解し、遺伝子断片を増幅できる 遺伝子組換え法の基本を理解し、簡単な遺伝子組換えができる 制限酵素の塩基認識原理を理解し、遺伝子上の配置を決定できる

基礎コース

授業回		各回の授業内容		アクティブラーニング	事前・事後学習の内容
第1回	4/2・3限	松原 勤	概論	0	別紙
第2回	5/12・1-3限	松原 勤	ワークショップ 1	1	
第3回	5/13・1-3限	松原 勤	ワークショップ 2	1	
第4回	5/14・1-3限	松原 勤	ワークショップ 3	1	
第5回	5/15・1-3限	松原 勤	ワークショップ 4	1	
第6回	未定	坂井 建雄	医学史	0	

	11/9・1-3 限		予備日		
第7回	11/10・1-6 限	松原 勤	合同発表会の聴講 まとめ	3	

蛋白質・酵素コース

授業回		各回の授業内容		アクティブラーニング	事前・事後学習の内容
第1回	6/29, 7/6 1-6 限	広常 真治 王 晟明 上垣 哲心 笠井 大司	酵素タンパクの精製	3	事前の実習書を精読し、操作手順を把握すること、また事後には当日の実習内容をレポート作成のため、まとめることで、学習内容の知識を定着させる。
第2回	6/30, 7/7 1-6 限	広常 真治 王 晟明 上垣 哲心 笠井 大司	酵素反応速度論	3	
第3回	7/1, 7/8 1-6 限	広常 真治 王 晟明 上垣 哲心 笠井 大司	ウェスタンブロッティング法	3	

遺伝子コース

授業回		各回の授業内容		アクティブラーニング	事前・事後学習の内容
第1回	6/30, 7/7 1-6 限	清水 康平 及川 大輔 永井 正義 國本 浩之 池島 裕子 塩田 正之	培養細胞からゲノム DNA 抽出・濃度測定及びPCR 反応	3	事前の実習書を精読し、操作手順を把握すること、また事後には当日の実習内容をレポート作成のため、まとめることで、学習内容の知識を定着させる。
第2回	7/1, 7/8 1-6 限	國本 浩之 小島 裕正 及川 大輔 清水 康平 永井 正義 池島 裕子 塩田 正之	PCR 産物のクローニング	3	
第3回	7/2, 7/9 1-3 限	永井 正義 及川 大輔 清水 康平 國本 浩之 池島 裕子 塩田 正之	PCR 産物のクローニング	3	
第4回	7/3, 7/10 1-6 限	及川 大輔 清水 康平 永井 正義 國本 浩之 池島 裕子 塩田 正之	DNA 抽出及び制限酵素消化・電気泳動	3	

成績評価方法	<p>成績は基礎コース (10%)、蛋白質・酵素コース (45%)、遺伝子コース (45%) で付けられる。ただし、すべてのコースで 60%を越えなければ合格できない。</p> <p>基礎コース レポート・プレゼンテーションで評価を行う。</p> <p>蛋白質・酵素コース 学修態度、レポートおよび試験 講義は 2/3 以上、実習は 4/5 以上出席しなければ、受験資格はない。到達目標の達成度について評価を行う。</p> <p>遺伝子コース 実習中の理解度・議論の内容、及びレポートによって学修達成度を測り、原則として実習態度 (10%)、成果 (10%)、およびレポート (80%) で評価する。合格には、総合して 60%以上の成績が必要である。</p>
履修上の注意	<p>基礎コース 大学院講義の聴講が確認されない場合、合格できない。</p> <p>蛋白質・酵素コース 授業の細胞生物学の中における位置づけを理解するため細胞生物学の教科書を通読すること。個別の事前学習・事後学習については講義毎に指示する。</p> <p>遺伝子コース 実習中の態度も評価対象であり、必要に応じて加点・減点する。</p>
教科書	<p>基礎コース 論文図表を読む作法 (羊土社)</p> <p>蛋白質・酵素コース ヴォート 生化学 (東京化学同人)</p> <p>遺伝子コース 実習書を配布する。</p>
参考文献	<p>蛋白質・酵素コース</p> <ul style="list-style-type: none"> □ ハーパー・生化学 (丸善) 講義. 第一版. □ ヒトの分子遺伝学 (MEDSi) □ Essential 細胞生物学 (南江堂) <p>遺伝子コース Essential 細胞生物学 (南江堂)</p>
オフィスアワー	<p>10:00-16:00 (会議や出張で対応できない場合があるので、急用でない限り事前にアポイントメントをとること)。</p>
教員への連絡方法	<p>蛋白質・酵素コース 遺伝子コース Moodle 上のメッセージ機能を使って教員に連絡すること。</p>
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● コアカリキュラムへの対応 R4 (新) RE-03-03-01、PS-01-01-01、PS-01-01-02、PS-01-01-09、PS-01-01-10 ● 該当するコンピテンスおよびマイルストーンへの対応 <p>2. 医学知識と問題解決能力 (智・仁・勇) level1 8. 科学的探究 (智) level1</p>

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMABAM2125-J4
授業科目名	機能系実習		
担当教員氏名	◎大谷 直子、山岸 良多、神谷 知憲、越前佳奈恵、程 禱（病態生理学）、水関 健司、宮脇 寛行、松本 英之、瀬戸川 将、黒木 暁、岩瀬 元貞（神経生理学）、松本 弦、梅田 知宙（神経疾患制御学）		
開講年度・学期	2026	曜日・時限	その他
授業形態	実習		
科目分類			
配当年次	2年	単位数	0.6

【シラバス情報】

授業概要	生理学の講義で学習した内容のなかで研究・臨床で有用なものを実習して理論と実際を学ぶ。得られたデータの解析法を学び、結果を考察する訓練を行う。それぞれの測定に関する問題点を考察する。
到達目標	<p>主要な到達目標は以下の通りである。個別の到達目標については機能系実習テキストに記載する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 脳の学習機能に関する実験を行い、データについて討論できる。 2. 筋電図を測定し、データについて討論できる。 3. 血液検査を行い、データについて討論できる。 4. 常在細菌叢検査のデータを解析し、討論できる。 5. 内分泌系検査を行い、データについて討論できる。

授業回		各回の授業内容	アクティビティ・シラバス	事前・事後学習の内容
第1回	7/13・3限	水関健司、宮脇寛行、松本英之、瀬戸川将、黒木暁、岩瀬元貞（神経生理学）、大谷直子、山岸良多、神谷知憲、越前佳奈恵、程 禱（病態生理学）、松本弦、梅田知宙（神経疾患制御学） 実習講義（概要説明）	2	詳細については実習講義（概要説明）の際に指示する。大阪公立大学大学院医学研究科 機能系実習テキスト（2025年度版）を熟読して事前学習を十分に行うこと。
第2～4回	7/13・4,5,6限	水関健司、宮脇寛行、松本英之、瀬戸川将、黒木暁、岩瀬元貞（神経生理学）、大谷直子、山岸良多、神谷知憲、越前佳奈恵、程 禱（病態生理学）、松本弦、梅田知宙（神経疾患制御学） ①脳の学習機能 ②筋電図 ③血液検査 ④常在細菌叢 ⑤血糖の調節	2	

第5～7回	7/14・4,5,6限	水関健司、 宮脇寛行、 松本英之、 瀬戸川将、 黒木暁、 岩瀬元貞 (神経生理学)、 大谷直子、 山岸良多、 神谷知憲、 越前佳奈恵、 程 禱 (病態生理学)、 松本弦、 梅田知宙 (神経疾患制御学)	①脳の学習機能 ②筋電図 ③血液検査 ④常在細菌叢 ⑤血糖の調節	2	詳細については実習講義（概要説明）の際に指示する。大阪公立大学大学院医学研究科 機能系実習テキスト（2025年度版）を熟読して事前学習を十分に行うこと。
第8～10回	7/15・4,5,6限	水関健司、 宮脇寛行、 松本英之、 瀬戸川将、 黒木暁、 岩瀬元貞 (神経生理学)、 大谷直子、 山岸良多、 神谷知憲、 越前佳奈恵、 程 禱 (病態生理学)、 松本弦、 梅田知宙 (神経疾患制御学)	①脳の学習機能 ②筋電図 ③血液検査 ④常在細菌叢 ⑤血糖の調節	2	
第11～13回	7/17・4,5,6限	水関健司、 宮脇寛行、 松本英之、 瀬戸川将、 黒木暁、 岩瀬元貞 (神経生理学)、 大谷直子、 山岸良多、 神谷知憲、 越前佳奈恵、 程 禱 (病態生理学)、 松本弦、 梅田知宙 (神経疾患制御学)	①脳の学習機能 ②筋電図 ③血液検査 ④常在細菌叢 ⑤血糖の調節	2	
第14～16回	7/21・4,5,6限	水関健司、 宮脇寛行、 松本英之、 瀬戸川将、 黒木暁、 岩瀬元貞 (神経生理学)、 大谷直子、 山岸良多、 神谷知憲、 越前佳奈恵、 程 禱 (病態生理学)、 松本弦、 梅田知宙 (神経疾患制御学)	①脳の学習機能 ②筋電図 ③血液検査 ④常在細菌叢 ⑤血糖の調節	2	

成績評価方法	各実習の評価は、到達目標に達したものが20点満点で12点以上になるようにレポートを採点し、実習への取り組み方や実習中の態度で加点・減点する。5つの実習の合計100点満点で60点以上の者を合格とする。正当な理由がない限り、全ての実習・講義に出席し、かつ全てのレポートを提出期限までに提出しなければ評価資格はなく、不合格となる。																				
履修上の注意	<p>実習に持参する物（ノートパソコン等）や必要な事前準備をMoodleに掲載するので、実習の2週間前に必ず確認すること。実習の各主題の実施場所は以下を予定している。実施場所を変更する場合はMoodleや第1回の実習講義等で連絡する。</p> <table border="0" data-bbox="403 421 1177 577"> <tr> <td>①</td> <td>学習機能（神経生理学）</td> <td>学舎6階</td> <td>グループ学習室</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>筋電図（神経生理学）</td> <td>学舎5階</td> <td>生理学実習室</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>血液検査（病態生理学）</td> <td>学舎5階</td> <td>生理学実習室</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>常在細菌叢（病態生理学）</td> <td>学舎6階</td> <td>講義室等</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>血糖の調節（神経疾患制御学）</td> <td>学舎5階</td> <td>生理学実習室</td> </tr> </table> <p>担当教員の話をよく聞き、怪我をしない・させないように細心の注意を払うこと。実習に使用する器機は高価なので、使用法に関して担当教員の話をよく聞き、取り扱いには十分に気をつけること。</p>	①	学習機能（神経生理学）	学舎6階	グループ学習室	②	筋電図（神経生理学）	学舎5階	生理学実習室	③	血液検査（病態生理学）	学舎5階	生理学実習室	④	常在細菌叢（病態生理学）	学舎6階	講義室等	⑤	血糖の調節（神経疾患制御学）	学舎5階	生理学実習室
①	学習機能（神経生理学）	学舎6階	グループ学習室																		
②	筋電図（神経生理学）	学舎5階	生理学実習室																		
③	血液検査（病態生理学）	学舎5階	生理学実習室																		
④	常在細菌叢（病態生理学）	学舎6階	講義室等																		
⑤	血糖の調節（神経疾患制御学）	学舎5階	生理学実習室																		
教科書	大阪公立大学大学院医学研究科 機能系実習 2026年度版 標準生理学 第9版 小澤滯司・福田 康一郎（監修） 2019. 医学書院 ISBN-13: 978-4260017817																				
参考文献	特になし																				
オフィスアワー	12:00～17:00（会議や出張で対応できない場合があるので、急用でない限り事前にアポイントメントをとること）																				
教員への連絡方法	Moodle上のメッセージ機能を使って教員に連絡すること																				
その他	<p>● コアカリキュラムへの対応 全体を通じた対応は以下の通りである。 R4 コアカリキュラム PS-01-03: 個体の反応 PS-01-03-07 生体各部の細菌叢（マイクロバイオーーム）の構成菌、細菌叢の機能について概要を理解している。 PS-02-02: 血液・造血器・リンパ系（表2-1） PS-02-02-03 血液・造血器・リンパ系で行う検査方法について基本的事項を理解している。 PS-02-03: 神経系（表2-2） PS-02-03-01 神経系の構造と機能について基本的事項を理解している。 PS-02-03-03 神経系で行う検査方法について基本的事項を理解している。 PS-02-05: 運動器（筋骨格）系 PS-02-05-01 運動器（筋骨格）系の構造と機能について基本的事項を理解している。 PS-02-05-03 運動器（筋骨格）系で行う検査方法について基本的事項を理解している。 PS-02-14: 内分泌・栄養・代謝系（表2-13） PS-02-14-03 内分泌・栄養・代謝系で行う検査方法について基本的事項を理解している。</p> <p>● 該当するコンピテンス 2. 医学知識と問題対応能力（智・仁・勇）level1 8. 科学的探究（智）level1</p> <p>● その他 医学部医学科の学生として恥ずかしくないレポートを作成すること。提出期限までに提出されなかったレポートは、正当な理由がない限り受理しない。全ての実習に出席し全てのレポートを期限内に提出しても、5つの実習の採点結果の合計が60点未満の者は不合格とする。全ての実習・講義に遅刻することなく出席できるように、自己管理を徹底することを求める。</p>																				

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMABAM2124-J4
授業科目名	肉眼解剖（マクロ）実習		
担当教員氏名	◎近藤 誠、甲斐 理武、河合 洋幸（脳神経機能形態学） 粟屋 智就、松原 勤、宇留島 隼人、湯浅 秀人（機能細胞形態学） 一ノ瀬 努（脳神経外科学）		
開講年度・学期	2026	曜日・時限	その他
授業形態	実習		
科目分類			
配当年次	2年	単位数	3.9

【シラバス情報】

授業概要	肉眼解剖学実習は4～5人が1グループとなり献体された御遺体を解剖し、人体の構造と機能を学習する。実習中に疑問点や問題点を抽出し、討論と自己学習により解決する。また、安全面への配慮や、チームワーク、コミュニケーション、プレゼンテーション能力を向上させる。御遺体に敬意をはらい、解剖体慰霊祭、みおつくし会総会、遺骨返還式に参加し、倫理観の自己形成を養う。必ず予習をしてから臨むこと。
到達目標	1. 人体の構造と機能を形態学観点から局所的、系統的に説明できる。 2. 生命の尊厳についての深い認識を有し、行動できる。 3. チームの構成員として、相互の尊重のもとに適切な行動をとることができる。 4. 安全面への配慮や、対処ができる。 5. 情報の守秘義務を理解し、適切な取扱ができる。

授業回		各回の授業内容		アクティブラーニング	事前・事後学習の内容
第1回	8/31・4-7限	脳神経機能形態学 機能細胞形態学	開始式 くびと体幹1	2	『解剖学実習の手びき』 § 1-4
第2回	9/1・4-7限	近藤 誠 甲斐 理武 河合 洋幸	くびと体幹2	2	『解剖学実習の手びき』 § 5-7
第3回	9/3・4-7限	近藤 誠 甲斐 理武 河合 洋幸	くびと体幹3	2	『解剖学実習の手びき』 § 8-10
第4回	9/4・4-7限	近藤 誠 甲斐 理武 河合 洋幸	上肢1・下肢1	2	『解剖実習の手びき』 § 11-15, 53
第5回	9/7・4-7限	近藤 誠 甲斐 理武 河合 洋幸	上肢2・下肢2	2	『解剖実習の手びき』 § 16-20, 54-57
第6回	9/8・4-7限	近藤 誠 甲斐 理武 河合 洋幸	上肢3・下肢3	2	『解剖実習の手びき』 § 21-25, 58-63
第7回	9/10・1-3限	近藤 誠 甲斐 理武 河合 洋幸	まとめ1	2	『解剖実習の手びき』 § 1-25, 53-63
	9/10・4-7限	近藤 誠 甲斐 理武 河合 洋幸	マクロ実習試験1 口頭試問1 (くびと体幹・上肢・下肢)	2	『解剖実習の手びき』 § 1-25, 53-63
第8回	9/11・4-7限	近藤 誠 甲斐 理武 河合 洋幸	体壁1	2	『解剖学実習の手びき』 § 26-29
第9回	9/14・4-7限	近藤 誠 甲斐 理武 河合 洋幸	体壁2	2	『解剖学実習の手びき』 § 30-34

第10回	9/15・4-7限	近藤 誠 甲斐 理武 河合 洋幸	胸腔1	2	『解剖学実習の手びき』 § 35-38
第11回	9/16・4-7限	近藤 誠 甲斐 理武 河合 洋幸	胸腔2	2	『解剖学実習の手びき』 § 39-42
第12回	9/17・1-3限	近藤 誠 甲斐 理武 河合 洋幸	まとめ2	2	『解剖実習の手びき』 § 26-42
	9/17・4-7限	近藤 誠 甲斐 理武 河合 洋幸	マクロ実習試験2 口頭試問2 (体壁・胸腔)	2	『解剖実習の手びき』 § 26-42
第13回	9/18・2-3限	近藤 誠 甲斐 理武 河合 洋幸	まとめ3	2	
第14回	9/18・4-7限	近藤 誠 甲斐 理武 河合 洋幸	まとめ4・清掃	2	Moodle 参照
	10/1・4-7限	機能細胞形態学 脳神経機能形態学	解剖体慰霊祭	3	Moodle 参照
	10/5・1-3限	脳神経外科学 機能細胞形態学 脳神経機能形態学	垂直統合型実習	2	Moodle 参照
第15回	10/5・4-7限	栗屋 智就 松原 勤 宇留島 隼人 湯浅 秀人	腹膜腔と腹部内臓の神経・ 血管・リンパ管	2	『人体解剖学実習：要点と指針』-14章 『解剖実習の手びき』 § 43-45
第16回	10/6・4-7限	栗屋 智就 松原 勤 宇留島 隼人 湯浅 秀人	腹部内臓	2	『人体解剖学実習：要点と指針』-15章 『解剖実習の手びき』 § 46-49
第17回	10/7・4-7限	栗屋 智就 松原 勤 宇留島 隼人 湯浅 秀人	腎・副腎、後腹壁	2	『人体解剖学実習：要点と指針』-16章 『解剖実習の手びき』 § 50, 51
第18回	10/9・4-7限	栗屋 智就 松原 勤 宇留島 隼人 湯浅 秀人	横隔膜、腰神経叢、膀胱と その周辺	2	『人体解剖学実習：要点と指針』 17, 21-1章 『解剖実習の手びき』 § 52, 64
第19回	10/13・ 4-7限	栗屋 智就 松原 勤 宇留島 隼人 湯浅 秀人	外陰部、会陰部	2	『人体解剖学実習：要点と指針』21章 『解剖実習の手びき』 § 65, 66
第20回	10/15・ 4-7限	栗屋 智就 松原 勤 宇留島 隼人 湯浅 秀人	骨盤内臓とその支配血管・ 神経	2	『人体解剖学実習：要点と指針』22章 『解剖実習の手びき』 § 67-70
第21回	10/16・ 4-7限	栗屋 智就 松原 勤 宇留島 隼人 湯浅 秀人	骨盤壁、股関節	2	『解剖実習の手びき』 § 71
第22回	10/19・ 4-7限	栗屋 智就 松原 勤 宇留島 隼人 湯浅 秀人	脳出し、頭蓋底	2	『人体解剖学実習：要点と指針』19, 20 章

第 23 回	10/20・4-7 限	栗屋 智就 松原 勤 宇留島 隼人 湯浅 秀人	顔浅層、深頸部、舌骨上筋群、 頭部離断	2	『人体解剖学実習：要点と指針』25、 27-1 章 『解剖実習の手びき』 § 72, 73
	10/22・1-3 限	栗屋 智就 松原 勤 宇留島 隼人 湯浅 秀人	マクロ実習試験 3 筆記試験 1		第 16 回から第 21 回の内容
第 24 回	10/23・4-7 限	栗屋 智就 松原 勤 宇留島 隼人 湯浅 秀人	甲状腺、咽頭、喉頭、気管	2	『人体解剖学実習：要点と指針』27 章 『解剖実習の手びき』 § 74-76
第 25 回	10/26・4-7 限	栗屋 智就 松原 勤 宇留島 隼人 湯浅 秀人	咀嚼筋、顎関節	2	『要点と指針』26, 28-1 章 『解剖実習の手びき』 § 81, 82
第 26 回	10/30・4-7 限	栗屋 智就 松原 勤 宇留島 隼人 湯浅 秀人	口腔、鼻腔、舌、口蓋、 翼口蓋神経節	2	『人体解剖学実習：要点と指針』28 章 『解剖実習の手びき』 § 79, 80, 83, 84
第 27 回	11/2・4-7 限	栗屋 智就 松原 勤 宇留島 隼人 湯浅 秀人	眼窩、眼球、外中耳	2	『人体解剖学実習：要点と指針』29 章 『解剖実習の手びき』 § 85-87
第 28 回	11/4・4-7 限	栗屋 智就 松原 勤 宇留島 隼人 湯浅 秀人	内耳、舌下神経管、 頸静脈孔	2	『人体解剖学実習：要点と指針』30 章 『解剖実習の手びき』 § 88-91
第 29 回	11/6・4-7 限	栗屋 智就 松原 勤 宇留島 隼人 湯浅 秀人	まとめ 5、清掃	1	Moodle 参照
	11/19・1-3 限	栗屋 智就 松原 勤 宇留島 隼人 湯浅 秀人	マクロ実習試験 4 筆記試験 2		第 22 回から第 28 回の内容
	11/20・4 限	機能細胞形態学 脳神経機能形態学	修了式		
	2027 年 1/23	機能細胞形態学 脳神経機能形態学	遺骨返還式・感謝状授与式	3	Moodle 参照

成績評価方法	(1)脳神経機能形態学と機能細胞形態学の成績を総合し評価される。 (2)脳神経機能形態学：原則として、口頭試問で評価する。 (3)機能細胞形態学：原則として、マクロ試験 3, 4 (口頭試問または筆記試験) で評価する。
履修上の注意	(1) 実習は長期にわたるので、健康管理に十分留意すること。 (2) 履修規程により、原則すべての実習に参加しない限り単位認定されない。 (3) 原則、指定日時までにレポートや感想文等を提出しなかった場合、不合格とする。
教科書	実習書：解剖実習の手びき (南山堂)、人体解剖学実習：要点と指針 (南江堂) 教科書：グレイ解剖学 (エルゼビア)、解剖学講義 (南山堂) アトラス：ネッター解剖学アトラス (南江堂)、プロメテウス解剖学アトラス (医学書院)
参考文献	分担解剖学 (金原出版)
オフィスアワー	10:00-16:00 (事前にアポイントメントを取る)
教員への連絡方法	脳神経機能形態学：内線 3706、機能細胞形態学：内線 3701

その他

- 実習に必要なもの
 - ・ 解剖器具セット（生協で予約販売）
 - ・ マスク、手術用手袋
 - ・ 実習専用白衣（背中に学籍番号と氏名を大きく記入する）
 - ・ 安全ゴーグル（眼の事故を防ぐため必ず着用。ホームセンターや生協で入手）
- 草履、サンダル等の足先が露出する履物は禁止。
- コアカリキュラムへの対応
 - R4（新）：PS-02-02-01, PS-02-03-01, PS-02-04-01, PS-02-05-01, PS-02-06-01, PS-02-07-01, PS-02-08-01, PS-02-09-01, PS-02-10-01, PS-02-11-01, PS-02-13-01, PS-02-14-01, PS-02-15-01, PS-02-16-01, PR-03-01-01, RE-01-01-01, RE-01-01-02
- 該当するコンピテンスおよびマイルストーンへの対応
 - 2. 医学知識と問題対応能力（智・仁・勇） level 1
 - 8. 科学的探究（智） level 1
 - 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢（智・仁・勇） level 1

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMABAM3126-J1
授業科目名	生体と薬物		
担当教員氏名	<p>【基礎】◎富田修平（分子病態薬理学）、松永慎司（分子病態薬理学）、本間拓二郎（分子病態薬理学）、大野行弘（大阪医科薬科大学）、寒川慶一（同源院薬局）、塩田正之（分子制御生物学）、高橋克之（近畿大学）、立石千晴（健康・医療イノベーション学）、西村有平（三重大学）、山口雄大（国立健康危機管理研究機構 / 国立感染症研究所）、柳田俊彦（宮崎大学）</p> <p>【臨床】浅井一久（呼吸器内科学）、泉康雄（高石病院）、盛岡与明（代謝内分泌病態内科学・腎臓病態内科学）、角谷佳則（代謝内分泌病態内科学）、武田憲彦（東京大学）、長沼俊秀（泌尿器病態学）、金田裕靖（臨床腫瘍学）、森隆（麻酔科学）</p>		
開講年度・学期	2026	曜日・時限	その他
授業形態	混合		
科目分類			
配当年次	3年	単位数	3.8

※垂直統合型講義を実施しています

【シラバス情報】

授業概要	これまでに学習した解剖学、生理学、生化学などの知識を基盤にして、薬と生体との相互作用をもとに薬物治療に必要な基本的事項や概念を学習する。さらに、薬物の創薬から臨床治験と臨床応用されたときの問題点まで広く学習する。
到達目標	<p>薬物・毒物の生体への作用について、個体・細胞・分子のレベルにおける作用機序と、生体と薬物分子との相互作用を理解し、的確な薬物療法を行うための基本（考え方、薬理作用、副作用）を学ぶ。</p> <p>【薬理作用の基本について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 薬物・毒物の濃度反応曲線を描き、その決定因子を説明できる。 <input type="checkbox"/> 薬物の受容体結合と薬理作用との定量的関連性および活性薬・拮抗薬と分子標的薬を説明できる。 <input type="checkbox"/> 薬物・毒物の用量反応曲線を描き、有効量・中毒量・致死量の関係を説明できる。 <p>【薬物の動態について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 薬物・毒物の吸収、分布、代謝と排泄を説明できる。 <input type="checkbox"/> 薬物の生体膜通過に影響する因子を説明できる。 <input type="checkbox"/> 薬物投与方法を列挙し、それぞれの薬物動態を説明できる。 <input type="checkbox"/> 年齢や臓器障害などに応じた薬物動態の特徴を説明できる。 <input type="checkbox"/> 薬物動態的相互作用について例を挙げて説明できる。 <p>【薬物の評価について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 薬物の評価におけるプラセボ効果の意義を説明できる。 <p>【薬物治療の基本について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 中枢神経作用薬、自律神経作用薬、循環器作用薬、呼吸器作用薬、消化器作用薬、利尿薬、ステロイド薬および非ステロイド性抗炎症薬、抗腫瘍薬の薬理作用を説明できる。 <input type="checkbox"/> 漢方医学の特徴や和漢薬（漢方薬）使用の現状について概説できる。 <input type="checkbox"/> 薬物の蓄積、耐性、タキフィラキシー、依存、習慣性や嗜癖を説明できる。 <input type="checkbox"/> 主な薬物の有害作用（副作用）を概説できる。 <input type="checkbox"/> 主な薬物アレルギーを列挙できる。

授業回		各回の授業内容		アクティブラーニング	事前・事後学習の内容
第1回	1/6・1限	富田 修平	総論 薬理学とは、基本原理	1	<p>受講するに当たり、必ず推奨テキストを使って事前に内容を確認し授業に臨むこと。また、講義内容について必要に応じてMoodleでの小テストを実施する。各自講義の要点をまとめるなど、準備を欠かさないようにすること。</p>
第2回	1/6・2限	塩田 正之	受容体と薬物 1	1	
第3回	1/6・3限	塩田 正之	受容体と薬物 2	1	
第4回	1/7・1限	富田 修平	薬物の吸収と分布	1	
第5回	1/7・2限	富田 修平	薬物の代謝と排泄	1	
第6回	1/7・3限	富田 修平	薬物動態学・薬物相互作用	1	
第7回	1/13・1限	松永 慎司	薬物の有害作用	1	

第 8 回	1/13・2 限	立石 千晴	治験・臨床試験	1
第 9 回	1/13・3 限	富田 修平	ケミカルメディエーターと自律神経系	1
第 10 回	1/20・1 限	富田 修平	ノルアドレナリン作動性神経伝達 1	1
第 11 回	1/20・2 限	富田 修平	ノルアドレナリン作動性神経伝達 2	1
第 12 回	1/20・3 限	富田 修平	アセチルコリン性伝達 1	1
第 13 回	1/22・1 限	富田 修平	アセチルコリン性伝達 2	1
第 14 回	1/22・2 限	森 隆	全身麻酔薬と局所麻酔薬 1	1
第 15 回	1/22・3 限	森 隆	全身麻酔薬と局所麻酔薬 2	1
第 16 回	1/28・4 限	富田 修平	泌尿器系に作用する薬物	1
第 17 回	1/28・5 限	西村 有平	個体差・薬理ゲノミクス・個別化医療	1
第 18 回	1/28・6 限	西村 有平	個体差・薬理ゲノミクス・個別化医療	1
第 19 回	1/30・5 限	泉 康雄	虚血性心疾患治療薬	1
第 20 回	1/30・6 限	泉 康雄	心不全治療薬	1
第 21 回	2/3・1 限	盛岡 与明	糖尿病治療薬	1
第 22 回	2/3・2 限	大野 行弘	中枢神経作用薬 1	1
第 23 回	2/3・3 限	大野 行弘	中枢神経作用薬 2	1
第 24 回	2/3・4 限	武田 憲彦	降圧薬	1
第 25 回	2/3・5 限	武田 憲彦	抗不整脈薬	1
第 26 回	2/10・1 限	富田 修平	血液作用薬	1
第 27 回	2/10・2 限	大野 行弘	中枢神経作用薬 3	1
第 28 回	2/10・3 限	大野 行弘	中枢神経作用薬 4	1
第 29 回	2/10・4 限	松永 慎司	生理活性ペプチドなど	1
第 30 回	2/10・5 限	浅井 一久	呼吸器に作用する薬物	1
第 31 回	2/17・2 限	寒川 慶一	和漢薬 1	1
第 32 回	2/17・3 限	寒川 慶一	和漢薬 2	1
第 33 回	2/18・1 限	大野 行弘	中枢神経作用薬 5	1
第 34 回	2/18・2 限	大野 行弘	中枢神経作用薬 6	1
第 35 回	3/19・4, 5 限	富田 修平	試験（前期）	
第 36 回	3/31・2 限	富田 修平	腎臓作用薬 1	1
第 37 回	3/31・3 限	富田 修平	腎臓作用薬 2	1
第 38 回	4/13・1 限	高橋 克之	抗炎症薬と鎮痛薬 1	1
第 39 回	4/13・2 限	高橋 克之	抗炎症薬と鎮痛薬 2	1
第 40 回	4/13・3 限	長沼 俊秀	腎移植における免疫抑制薬	1
第 41 回	4/17・1 限	松永 慎司	消化器作用薬	1
第 42 回	4/21・4 限	金田 裕靖	抗腫瘍薬・分子標的薬・支持療法	1
第 43 回	4/21・5 限	本間 拓二郎	骨代謝およびプリン代謝関連治療薬	1
第 44 回	4/21・6 限	角谷 佳則	脂質異常症治療薬	1
第 45 回	4/22・4 限	本間 拓二郎	生理活性アミンなど 1	1
第 46 回	4/22・5 限	本間 拓二郎	生理活性アミンなど 2	1
第 47 回	4/22・6 限	山口 雄大	ホルモン・内分泌系治療薬	1

受講するに当たり、必ず推奨テキストを使って事前に内容を確認し授業に臨むこと。また、講義内容について必要に応じて Moodle での小テストを実施する。各自講義の要点をまとめるなど、準備を欠かさないようにすること。

第48回	5/8・1限				
第49回	5/8・2限	富田 修平 松永 慎司 本間 拓二郎 山口 雄大	薬理学実習 1	3	受講するに当たり、必ず推奨テキストを使って事前に内容を確認し授業に臨むこと。また、講義内容について必要に応じてMoodleでの小テストを実施する。各自講義の要点をまとめるなど、準備を欠かさないようにすること。
第50回	5/8・3限				
第51回	5/8・4限				
第52回	5/8・5限				
第53回	5/8・6限				
第54回	5/15・1限	富田 修平 松永 慎司 本間 拓二郎 山口 雄大	薬理学実習 2	3	
第55回	5/15・2限				
第56回	5/15・3限				
第57回	5/15・4限				
第58回	5/15・5限				
第59回	5/15・6限				
第60回	5/29・1限	富田 修平 松永 慎司 本間 拓二郎 山口 雄大	薬理学実習 3	3	
第61回	5/29・2限				
第62回	5/29・3限				
第63回	5/29・4限				
第64回	5/29・5限				
第65回	5/29・6限				
第66回	6/5・1限	柳田 俊彦 富田 修平 松永 慎司 本間 拓二郎	薬理学実習 4	3	
第67回	6/5・2限				
第68回	6/5・3限				
第69回	6/5・4限				
第70回	6/5・5限				
第71回	6/5・6限				
第72回	6/15・2限	富田 修平 松永 慎司 本間 拓二郎	実習発表	3	
第73回	6/15・3限				
第74回	6/23・ 2、3限	富田 修平	試験（後期）		

成績評価方法	本コースの講義と実習の筆記試験（定期試験および小テスト）およびレポート内容にて評価する。原則、筆記試験95%、レポート5%で成績評価する。総合して60%以上の成績を合格とする。
履修上の注意	医学部規則により、原則すべての実習に参加しない限り、単位認定されない。学修態度が著しく悪い時、その授業への参加を認めないため、不合格になる場合がある。
教科書	NEW 薬理学（南江堂、第8版、ISBN:978-4-524-23377-9）、ラング・デール薬理学（丸善出版、原書8版、ISBN:978-4-621-30170-8）、カッツング薬理学エッセンシャル（丸善出版、原著12版、ISBN:978-4-621-30636-9）
参考文献	カッツング薬理学（丸善出版、原書10版、ISBN:978-4-621-08073-3）、臨床薬理学（丸善出版、原書3版、ISBN:978-4-621-08916-3）、エース薬理学（南山堂、ISBN:978-4-525-14071-7）、新しい薬理学（西村書店、ISBN:978-4-89013-485-4）
オフィスアワー	10:00-16:00 （会議や出張で対応できない場合があるので、急用でない限り事前にアポイントメントをとること）
教員への連絡方法	Moodle上のメッセージ機能を使って教員に連絡すること

その他

● コアカリキュラムへの対応

H28 (旧) : A 医師として求められる基本的な資質・能力、6 医療の質と安全の管理、(1) 安全性の確保、④医療の安全性に関する情報(薬剤等の副作用、薬害や医療過誤等の事例(経緯を含む)、やっではいけないこと、優れた取組事例等)を共有し、事後に役立てるための分析の重要性を説明できる。C 医学一般、3 個体の反応、(3) 生体と薬物 の全ての項目。D 人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療、に関する、各臓器・組織および疾患別に記載されている (4) 疾患 の薬物治療に関わる項目。F 診療の基本、2 基本的診療知識、(8) 薬物治療の基本原則 の全ての項目。E 全身におよぶ生理的変化、病態、診断、治療、4 免疫・アレルギー疾患、(3) 病態と疾患、⑥アレルギー疾患の薬物治療と薬物アレルギーに関する項目。

R4 (新) : PR プロフェッショナリズム : PR01 信頼、PR02 思いやり、PR03 教養、PR04 生命倫理。

GE 総合的に患者・生活者をみる姿勢 : GE01 全人的な視点とアプローチ。LL 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 : LL01 生涯学習、LL02 医療者教育。RE 科学的探求 : RE01 リサーチマインド、RE02 既知の知、RE03 研究の実施、RE04 研究の発信、RE05 研究倫理。PS 専門知識に基づいた問題解決能力 : PS01 基礎医学、PS02 人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療、PS03 前身に及ぶ生理的変化、病態、診断、治療。IT 情報・科学技術を活かす能力 : IT01 情報・科学技術に向き合うための倫理観とルール、IT02 医療とそれを取り巻く社会に必要な情報・科学技術の原理、IT03 診療現場における情報科学技術の活用。S0 社会における医療の役割の理解 : S002 疫学・医学統計。

● 該当するコンピテンス

1. プロフェッショナリズム (智・仁・勇) level1
2. 医学知識と問題対応能力 (智・仁・勇) level1
3. 診療技能と患者ケア (智・仁・勇) level1
6. 医療の質と安全の管理 (智・仁・勇) level1
8. 科学的探究 (智) level1
9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 (智・仁・勇) level2

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMABAM3127-J1
授業科目名	原因と病態 1		
担当教員氏名	基礎：◎鈴木 周五、梯 アンナ、藤岡 正喜、大石裕司（分子病理学）、魏 民（環境リスク評価学）、奥野 高裕（診断病理・病理病態学）、山本 雅大（熊本大学大学院生命科学研究部腫瘍病理解析学） 臨床：福島 裕子（大阪市立十三市民病院病理診断科）、石井 真美（大阪市立総合医療センター病理診断科）		
開講年度・学期	2026	通年	曜日・時限
授業形態	混合		
科目分類			
配当年次	3年	単位数	3.7

※垂直統合型講義を実施しています

【シラバス情報】

授業概要	<p>[疾病の成り立ちについて学ぶ]</p> <p>病理学とは「病（やまい）」の「理（ことわり）」を「学（まな）」ぶものであり、本コースでは主に総論では病因論、腫瘍、遺伝子異常について、各論では腎泌尿器、中枢神経、血液、消化器、内分泌、皮膚の疾患について学習する。本コースを通じて病気が発生する基本的なメカニズムを理解し、病因に基づいた疾病の分類を把握する。医師として働き患者を治療する際には、疾病が生じるメカニズムを理解しておくことで、患者に身体に何がどのように起こっているのかを論理的に解釈し、正しい治療方法を選択することが可能となる。すなわち、病理学は基礎医学と臨床医学の懸け橋であり、病理学の知識は将来必ず役立つものとなるため、学生の間で系統的に学ぶことが望まれる。</p> <p>授業は総論と各論より構成される。総論では疾病が発生する基本原理を整理する。炎症あるいは腫瘍といった疾患の基本概念は、様々な臓器に共通しており本質的には同じであることを理解する。各論ではそれぞれの臓器ごとに、総論で学んだ病態によって具体的にどのような疾患が生じるかを学習する。また、病気が生じる際には形態的に種々の異常が起こり、各疾病に特徴的な肉眼像、組織像が観察されるため、講義にて疾患の成り立ちを学んだ後に、実習では各疾患の組織像を実際に観察することで、形態的側面から疾病の本態を理解できるよう指導を行う。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・病因に基づく疾患の分類を説明できる。 ・外因と内因について説明できる ・腫瘍の概念、成り立ちについて説明できる ・遺伝子や染色体の異常に基づく疾患について説明できる ・主要な腎、泌尿器、精巣疾患の分類、成り立ちについて説明できる ・主要な神経疾患の分類、成り立ちについて説明できる ・主要な血液疾患の分類、成り立ちについて説明できる ・主要な消化器疾患の分類、成り立ちについて説明できる ・主要な内分泌、皮膚疾患の分類、成り立ちについて説明できる

授業回		各回の授業内容		アクティブラーニング	事前・事後学習の内容
第1回	1/6・4限	鈴木 周五	病因論	0	講義資料事前配布
第2回	1/6・5限				
第3回	1/6・6限	藤岡 正喜	腫瘍総論Ⅲ	0	
第4回	1/7・4限	魏 民	腫瘍総論Ⅰ	0	
第5回	1/7・5限				
第6回	1/7・6限	大石 裕司	毒性病理学入門	0	
第7回	1/9・4限	魏 民	環境因子 (講義および実習)	1	
第8回	1/9・5限				
第9回	1/9・6限				
第10回	1/13・4限	鈴木 周五	遺伝子の異常と疾患	0	
第11回	1/13・5限				

第12回	1/16・1限	魏 民	腫瘍総論Ⅱ	0	講義資料事前配布
第13回	1/16・2限				
第14回	1/16・4限	魏 民	腫瘍の病理組織実習	1	
第15回	1/16・5限				
第16回	1/16・6限	梯 アンナ	視床・下垂体・甲状腺疾患 (講義および実習)	1	
第17回	1/27・4限				
第18回	1/27・5限				
第19回	1/27・6限	奥野 高裕	腎疾患Ⅰ・Ⅱ	0	
第20回	2/13・2限				
第21回	2/13・3限	梯 アンナ	膵島疾病 (講義および実習)	1	
第22回	2/13・4限				
第23回	2/13・5限				
第24回	2/13・6限	奥野 高裕	腎疾患Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ	0	
第25回	2/16・1限				
第26回	2/16・2限				
第27回	2/16・3限	鈴木 周五	前立腺疾患 (講義および実習)	1	
第28回	2/17・4限				
第29回	2/17・5限				
第30回	2/17・6限	奥野 高裕	腎疾患の病理組織実習	1	
第31回	3/2・1限				
第32回	3/2・2限	魏 民	下部尿路疾患 (講義および実習)	1	
第33回	3/2・3限				
第34回	3/3・1限				
第35回	3/3・2限	梯 アンナ	副腎疾患 (講義および実習)	1	
第36回	3/3・3限				
第37回	3/10・1限				
第38回	3/10・2限	教員全員	前期試験		
第39回	3/10・3限				
第40回	3/18・4限	鈴木 周五	神経系疾患Ⅰ (講義および実習)	1	
第41回	3/31・4限				
第42回	3/31・5限				
第43回	4/3・1限	福島 裕子	赤血球・凝固線溶系疾患、 脾臓疾患 (講義および実習)	1	
第44回	4/3・2限				
第45回	4/3・3限				
第46回	4/6・1限	福島 裕子	赤血球・凝固線溶系疾患、 脾臓疾患 (講義および実習)	1	
第47回	4/6・2限				
第48回	4/6・3限				
第49回	4/10・1限	鈴木 周五	神経系疾患Ⅱ (講義および実習)	1	
第50回	4/10・2限				
第51回	4/10・3限				
第52回	4/20・1限	福島 裕子	造血器疾患、胸腺疾患 リンパ球・組織球系疾患1	0	
第53回	4/20・2限				
第54回	4/20・3限				
第55回	4/24・4限	山本 雅大	腫瘍遺伝子と病理形態	1	
第56回	4/24・5限				
第57回	4/24・6限				

第 58 回	5/11・1 限	石井 真美	精巣疾患 (講義および実習)	1	講義資料事前配布
第 59 回	5/11・2 限				
第 60 回	5/11・3 限	魏 民	胃疾患	0	
第 61 回	5/12・4 限				
第 62 回	5/12・5 限	鈴木 周五	神経系疾患 III (講義および実習)	1	
第 63 回	5/18・1 限				
第 64 回	5/18・2 限				
第 65 回	5/18・3 限	藤岡 正喜	皮膚疾患 (講義および実習)	1	
第 66 回	5/18・4 限				
第 67 回	5/18・5 限	魏 民	神経変性疾患	0	
第 68 回	5/18・6 限				
第 69 回	5/19・4 限	藤岡 正喜	小腸・大腸疾患 I (炎症性疾患)	0	
第 70 回	5/19・5 限				
第 71 回	6/3・4 限	梯 アンナ	口腔・唾液腺・食道疾患	0	
第 72 回	6/3・5 限				
第 73 回	6/8・2 限	藤岡 正喜	食道・胃の病理組織実習	1	
第 74 回	6/8・3 限				
第 75 回	6/12・1 限				
第 76 回	6/12・2 限	魏 民	小腸・大腸疾患 II (腫瘍)	0	
第 77 回	6/12・3 限				
第 78 回	6/16・4 限	藤岡 正喜	小腸・大腸疾患の病理組織実習	1	
第 79 回	6/16・5 限				
第 80 回	6/17・1 限				
第 81 回	6/17・2 限	奥野 高裕	ミクロ試験 - 説明	1	
第 82 回	6/17・3 限				
第 83 回	6/17・4 限	教員全員	後期試験 (筆記試験)		
第 84 回	6/17・5 限				
	6/29・2 限	教員全員	後期試験 (実習試験)		
	6/29・4 限	教員全員	後期試験 (実習試験)		

成績評価方法	(1) 小テストを含む試験、実習試験およびレポートによって各単元の学習達成度を測る。 (2) 原則、試験 80% および実習 20% で成績評価をする。 (3) 合格には、総合して 60%以上の成績が必要である。
履修上の注意	医学部規則により、原則すべての実習に参加しない限り、単位認定されない。
教科書	解明病理学 第 4 版 (医歯薬出版)
参考文献	ロビンス基礎病理学 第 11 版 (丸善出版)、組織病理アトラス 第 6 版 (文光堂)、病理組織の見方と鑑別診断—カラーアトラス 第 7 版 (医歯薬出版)
オフィスアワー	10:00-16:00 (会議や出張で対応できない場合があるので、急用でない限り事前にアポイントメントをとること)
教員への連絡方法	Moodle 上のメッセージ機能を使って教員に連絡すること

その他	<p>●コアカリキュラムへの対応</p> <p>H28(旧)</p> <p>B-1-5), B-1-6)</p> <p>C-2-2), C-4-1), C-4-3), C-4-6)</p> <p>D-1-1), D-1-4), D-2-1), D-2-4), D-3-1), D-3-4), D-7-1), D-7-4), D-8-1), D-8-4), D-9-1), D-9-4), D-12-1), D-12-4)</p> <p>E-1-1), E-2-1), E-2-4), E-3-1), E-3-2), E-3-5), E-4-3), E-5-3)</p> <p>F-2-4)</p> <p>R4(新)</p> <p>RE-02-01, PS-01-01, PS-01-03, PS-01-04</p> <p>PS-02-01, PS-02-02, PS-02-03, PS-02-04, PS-02-08, PS-02-09, PS-02-10, PS-20-14, PS-02-17</p> <p>PS-03-01, PS-03-02, PS-03-03, PS-03-04</p> <p>●該当するコンピテンス</p> <p>2 医学知識と問題対応能力(智・仁・勇) 1) level 1, 4) level 1</p> <p>4 コミュニケーション能力(智・仁・勇) 3) level 1, 4) level 1</p> <p>8 科学的探究(智) 1) level 1, 2) level 1</p> <p>9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢(智・仁・勇) 1) level 1, 2) level 1</p>
-----	--

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMABAM3128-J1
授業科目名	原因と病態 2		
担当教員氏名	◎孝橋 賢一、奥野 高裕、塩原 正規（診断病理・病理病態学）、福島 裕子（大阪 市立十三市民病院病理診断科）		
開講年度・学期	2026	曜日・時限	その他
授業形態	混合		
科目分類			
配当年次	3年	単位数	4

【シラバス情報】

授業概要	本コースではヒトの病気の成り立ちを学ぶ。総論では、疾病時にひきおこる変化の一般原則、特に疾病時の肉眼的、組織学的変化や細胞小器官の変化について学習する。各論では、それぞれの臓器にみられる主要な疾患について、病因、病態、肉眼・組織所見や遺伝子・分子レベルの異常について系統的に学ぶ。これらを学ぶためには、前年度に学んだ知識、特に、解剖学・組織学に関する基礎的な知識が必須である。また、病理学は、診断学という側面を持ち、病院業務においては疾病の診断をする・病理解剖を担当する等、重要な役割を担っている。その目的や意義について、実際の診断を例に学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞の正常構造と機能や細胞の種類について復習し、知識を再確認する。 2. 細胞の傷害や変性の多様性、およびその原因や意義を理解し説明できる。 3. ネクロシスとアポトーシスの違いを説明できる。 4. 炎症の定義を説明できる。 5. 炎症の分類、組織病態学的変化と経時的変化を説明できる。 6. 循環障害でみられる病態をあげ、説明できる。 7. 組織傷害後の組織修復のメカニズムについて説明できる。 8. 循環器、肝臓、胆嚢・胆管、膵臓、乳腺、女性生殖器、呼吸器、骨軟部、胎盤などに発症する主要な疾患をあげ、その病因、病態、臨床病理所見について概説できる。 9. 小児に特有の疾患をあげ、その病因、病態、臨床病理所見について概説できる。 10. 病理診断の目的と意義を説明できる。 11. 病理解剖の目的と意義を説明できる。

授業回		各回の授業内容		アクティブラーニング	事前・事後学習の内容
第1回	1/9・1限	孝橋 賢一	病理学序論	0	講義時間に限りがあるため重要な疾患を中心に講義を行うので、自学自習も必須である。下にあげたテキストを1つ選び、講義実習までに講義主題の範囲を読んでおくこと。また、講義後復習も必須である。
第2回	1/9・2-3限	奥野 高裕	病理医の役割	0	
第3回					
第4回	1/15・1-3限	奥野 高裕	循環障害	0	
第5回					
第6回	1/19・1-3限	奥野 高裕	循環障害の病理組織実習	1	
第7回					
第8回					
第9回	1/23・1-3限	奥野 高裕	障害と適応	0	
第10回					
第11回					
第12回	1/29・1-3限	塩原 正規	免疫と疾患 アミロイドーシス サルコイドーシス	0	
第13回					
第14回					
第15回	1/30・1-3限	塩原 正規	免疫と疾患の病理組織実習	1	
第16回					
第17回					
第18回					

第19回					
第20回	2/2・1-3限	福島 裕子	炎症・感染	0	講義時間に限りがあるため重要な疾患を中心に講義を行うので、自学自習も必須である。下にあげたテキストを1つ選び、講義実習までに講義主題の範囲を読んでおくこと。 また、講義後復習も必須である。
第21回					
第22回					
第23回	2/12・1-3限	塩原 正規	組織修復と再生	0	
第24回					
第25回					
第26回	3/4・1-3限	塩原 正規	障害と適応の病理組織実習 炎症・感染の病理組織実習 組織修復と再生の病理組織実習	1	
第27回					
第28回					
第29回	3/30・ 4-6限	奥野 高裕	呼吸器疾患	0	
第30回					
第31回					
第32回	4/10・4-6限	奥野 高裕	呼吸器疾患の病理組織実習	1	
第33回					
第34回					
第35回	4/13・4-6限	孝橋 賢一	骨軟部疾患 1	0	
第36回					
第37回					
第38回	4/20・4-6限	孝橋 賢一	骨軟部疾患 2	0	
第39回					
第40回					
第41回	4/24・1-3限	孝橋 賢一	骨軟部疾患の病理組織実習	1	
第42回					
第43回					
第44回	5/13・4-6限	孝橋 賢一	小児疾患	0	
第45回					
第46回					
第47回	5/22・1-3限	孝橋 賢一	小児疾患の病理組織実習	1	
第48回					
第49回					
第50回	5/22・4-6限	塩原 正規	婦人科疾患	0	
第51回					
第52回					
第53回	6/2・1-3限	塩原 正規	婦人科疾患の病理組織実習	1	
第54回					
第55回					
第56回	6/10・1-3限	塩原 正規	肝胆膵疾患、腎癌	0	
第57回					
第58回					
第59回	6/11・1-3限	塩原 正規	肝胆膵疾患、腎癌の病理組織実習	1	
第60回					
第61回					
第62回	6/15・4-6限	奥野 高裕	乳腺疾患・胎盤病理	0	
第63回					
第64回					

第 65 回	6/16・1-3 限	塩原 正規	循環器疾患	0	講義時間に限りがあるため重要な疾患を中心に講義を行うので、自学自習も必須である。下にあげたテキストを1つ選び、講義実習までに講義主題の範囲を読んでおくこと。 また、講義後復習も必須である。
第 66 回					
第 67 回					
第 68 回	6/18・1-3 限	塩原 正規	循環器疾患の病理組織実習	1	
第 69 回					
第 70 回	6/22・5 限	孝橋 賢一	試験（後期）		
第 71 回					

成績評価方法	(1) 試験や実習でのスケッチ、実習時の討論での発言有無によって学習達成度を測り、総合的に評価する。試験では筆記試験に加え、実習に関連した内容についての試験も行う。 (2) 評価方法（前期および後期試験の点数により実施する） (3) 合格には、総合して60%以上の成績が必要である。但し、試験点数で60%に満たない場合には、出席や小テスト、レポートの評価を加味することがある。
履修上の注意	医学部規則により、原則すべての実習に参加しない限り、単位認定されない。 学修態度が著しく悪い時、その授業への参加を認めないため、不合格になる場合がある。 講義・実習中の態度も必要に応じて加点・減点する。
教科書	【講義】 Kumar V, et al. Robbins & Cotran Pathologic Basis of Disease, 10th ed. Elsevier-Saunders Strayer DS. Rubin's Pathology Clinicopathologic foundations of medicine 8th ed. Walters Kulwer 豊國伸哉ら監訳 ロビンス基礎病理学 原著10版 丸善出版 鈴木利光ら訳 ルービン病理学 臨床医学への基盤 西村書店 青笹克之ら監修 解明病理学 第4版 医歯薬出版 【病理組織実習】 赤木忠厚監修 カラーアトラス病理組織の見方と鑑別診断 第6版 医歯薬出版 小田義直ら編集 病理組織アトラス 第6版 文光堂
参考文献	特になし
オフィスアワー	10:00-15:00（事前にアポイントを取る事）
教員への連絡方法	学務課 (gr-a-gakumu-med@omu.ac.jp)
その他	●コアカリキュラムへの対応 H28(旧): C-1-1), C-2-1), C-2-2), C-4-1), C-4-2), C-4-3), C-4-4), C-4-5), C-4-6) D-1-1), D-1-4), D-4-1), D-4-4), D-5-1), D-5-4), D-6-1), D-6-4), D-7-1), D-7-4), D-9-1), D-9-4), D-10-1), D-10-4), D-11-1), D-11-4), D-13-1), D-13-4), D-14-1), D-14-4) E-2-1), E-3-1), E-3-2), E-3-5) F-2-4) R4(新): RE-02-01, PS-01-01, PS-01-02, PS-01-03, PS-01-04 PS-02-01, PS-02-05, PS-02-06, PS-02-07, PS-02-08, PS-02-10, PS-02-11, PS-02-13, PS-20-15, PS-02-16, PS-03-01, PS-03-02, PS-03-03, PS-03-04 IP-01-03 ●該当するコンピテンスおよびマイルストーンへの対応 1. プロフェッショナルリズム (智・仁・勇) level2 2. 医学知識と問題対応能力 (智・仁・勇) level1 3. 診療技能と患者ケア (智・仁・勇) level1 8. 科学的探究 (智) level1 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 (智・仁・勇) level2

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMABAM3129-J1
授業科目名	細菌・真菌感染症		
担当教員氏名	【基礎】 ◎金子 幸弘、仁木 満美子、坪内 泰志、老沼 研一（細菌学）、 吉川 貴仁（運動生体医学） 【臨床】 掛屋 弘、井本 和紀（臨床感染制御学） 柳原 克紀（長崎大学）、宮崎 義継、阿戸 学（国立感染症研究所）		
開講年度・学期	2026	通年	曜日・時限
授業形態	混合		
科目分類			
配当年次	3年	単位数	2

※垂直統合型講義を実施しています

【シラバス情報】

授業概要	<p>[細菌および真菌による感染症について学ぶ]</p> <p>感染症は、将来医師として必ず遭遇する疾患であり、感染症と立ち向かうには、まず敵を知ることが重要である。細菌学は、感染症の病態・診断・治療を理解するための要となる学問であり、感染症学の入り口でもある。そして、感染症は、病原体、宿主、治療の3つの因子とそれぞれの関係性を考慮しなければ理解できない。細菌学（微生物学）の対象は、前述の病原体の部分に相当する。なぜ細菌の種類によって異なる病気（つまり感染症）を起こすのか？そもそも、細菌が本当に病気を起こしているのか？これらの疑問に、基礎的視点から答えようとするのが細菌学である。つまり、感染症を理解するために細菌学を学ぶのである。進学、卒業、そして医師になり感染症の勉強をする機会は今後もあると思うが、細菌学を体系的に学ぶ機会はおそらくこの先少ないことが予想される。したがって、この学年の間に細菌学の基盤をしっかり作ってほしい。</p> <p>また、オンラインでの学習プログラム（Moodle等）、統合型講義、グループワーク、相互授業等、協動的かつ主体的に学べる体制を導入している。さらに、次学年以降の臨床的な感染症学へのスムーズな移行を目指して、カリキュラムの後半では、臨床の第一線で活躍している感染症専門医による講義を予定している。なお、大阪公立（市立）大学感染症医療人材養成プログラムの感染症基盤プログラムⅠの内容と連携させている。</p>
到達目標	<p>主要な到達目標は以下の通りである。個別の到達目標については、別途記載する。</p> <p>[1] 細菌・真菌の各病原体の微生物学的特徴を説明できる。 [2] 代表的な病原体を列挙し、各病原体が引き起こす感染症の病態を説明することができる。 [3] 微生物学的検査の手順と原理を説明できる。 [4] 微生物学的検査のための検体の採取、保存、運搬を適切に実施し、グラム染色を含む基本的な微生物学的検査を実施できる。 [5] 抗微生物薬を分類し、その作用機序・スペクトルについて説明できる。 [6] 主要な耐性菌とその耐性機構について説明できる。 [7] 滅菌と消毒の違い、および、それぞれの適応について説明できる。 [8] 標準予防策、感染経路別予防策について説明し、適応となる病原微生物について説明できる。 [9] 手指消毒・必要な个人防护具（PPE）の装着等の感染対策手技を正しく実施できる。 [10] シミュレータ等を用いて、感染対策を考慮したうえで、検体採取などの手技を実施できる。 [11] ワクチンの種類およびワクチンにより予防可能な疾患（VPD）を列挙できる。 [12] 感染症法の概要（類型）および届出義務について説明できる。 [13] 世界規模での感染症対策について説明できる。</p>

授業回		各回の授業内容		アクティブラーニング	事前・事後学習の内容
第1回	1/5・4限	金子 幸弘	序論、微生物学概論と細菌学の基礎 肺炎球菌と溶連菌、腸球菌 黄色ブドウ球菌	1	事前資料の閲覧、小テスト実施
第2回	1/5・5限				
第3回	1/5・6限				
第4回	1/8・1限	金子 幸弘	抗菌薬概論	1	事前資料の閲覧、小テスト実施
第5回	1/8・2限				
第6回	1/8・3限				

第7回	1/14・4限	宮崎 義継	真菌と真菌症	1	事前資料の閲覧、小テスト実施
第8回	1/14・5限	金子 幸弘	抗菌薬各論	1	
第9回	1/14・6限				
第10回	1/23・1限	金子 幸弘	臨床細菌学	2	事前資料の閲覧、小テスト実施
第11回	1/23・2限				
第12回	1/23・3限				
第13回	1/26・1限	老沼 研一	インフルエンザ菌 緑膿菌とアシネトバクター 梅毒と淋菌およびクラミジア感染症	1	事前資料の閲覧、小テスト実施
第14回	1/26・2限				
第15回	1/26・3限				
第16回	1/26・4限	仁木 満美子	腸内細菌科とビブリオ科 芽胞形成菌、嫌気性菌 結核の基礎と臨床、非結核性抗酸菌症	1	事前資料の閲覧、小テスト実施
第17回	1/26・5限				
第18回	1/26・6限				
第19回	2/2・4限	阿戸 学	感染免疫とワクチン	1	事前資料の閲覧、小テスト実施
第20回	2/2・5限				
第21回	2/2・6限	金子 幸弘	振り返り	1	
第22回	2/5・1限	金子 幸弘	臨床細菌学	2	事前資料の閲覧、小テスト実施
第23回	2/5・2限				
第24回	2/5・3限				
第25回	2/16・4限	金子 幸弘	統合型グループワーク	2	事前資料の閲覧、小テスト実施
第26回	2/16・5限	掛屋 弘			
第27回	2/16・6限	吉川 貴仁 井本 和紀			
第28回	5/11・4限	金子 幸弘	相互授業説明	1	事前資料の閲覧、小テスト実施
第29回	5/11・5限				
第30回	5/11・6限				
第31回	5/20・4限	金子 幸弘	相互授業	3	事前に発表資料を提出する 事後に投票と質問に対する回答をする
第32回	5/20・5限	仁木 満美子 坪内 泰志 老沼 研一			
第33回	5/20・6限	掛屋 弘 井本 和紀			
第34回	6/4・1限	金子 幸弘	相互授業結果発表、 総括、講評 臨床細菌学 グループワーク	2	
第35回	6/4・2限	掛屋 弘 井本 和紀			
第36回	6/4・3限	柳原 克紀	診断	1	
第37回	6/8・4限	金子 幸弘	細菌学実習	3	事前資料の閲覧、小テスト実施
第38回	6/8・5限	仁木 満美子			
第39回	6/8・6限	坪内 泰志 老沼 研一			
第40回	6/9・4限	金子 幸弘	細菌学実習	3	事前資料の閲覧、小テスト実施
第41回	6/9・5限	仁木 満美子			
第42回	6/9・6限	坪内 泰志 老沼 研一			
第43回	6/10・4限	金子 幸弘	細菌学実習	3	事前資料の閲覧、小テスト実施
第44回	6/10・5限	仁木 満美子			
第45回	6/10・6限	坪内 泰志 老沼 研一			

第46回	6/12・4限	金子 幸弘			
第47回	6/12・5限	仁木 満美子 坪内 泰志	細菌学実習	3	事前資料の閲覧、小テスト実施
第48回	6/12・6限	老沼 研一			
第49回	7/1・2限	金子 幸弘	感染症統合型試験		自己採点・自己評価
成績評価方法	<p>(1) Moodleによる小テスト、授業参加度（質問・発表等）、相互授業および実習により総合的に評価する。</p> <p>(2) 原則、小テスト80%、その他20%で成績評価をおこなう。</p> <p>(3) 合格には総合して60%以上の成績が必要である。</p>				
履修上の注意	<p><input type="checkbox"/> 個別の事前学習・事後学習については講義毎に指示する。</p> <p><input type="checkbox"/> 相互授業（3年生で実施）では、班毎に使用する資料を準備すること。</p> <p><input type="checkbox"/> Moodleによる小テストなどの課題は期限までに終了すること（特段の断りがない場合は、課題の締め切りは1週間後の正午とする）</p> <p><input type="checkbox"/> 知識の教授よりも、考え方の教授を中心とした講義形態をとっている。教え切れない知識は、Moodle等にて各自で補うこと。</p> <p><input type="checkbox"/> 臨床への知識の連結を目指している。個々の知識の積み重ねだけでなく、連続性を意識すること。</p> <p><input type="checkbox"/> 講義・実習中の態度も評価対象であり、必要に応じて加点・減点する。</p> <p><input type="checkbox"/> 実習は18時過ぎまでかかることがあるので、必ずスケジュールを空けておくこと。</p>				
教科書	<input type="checkbox"/> 標準微生物学．15版（錫谷達夫、松本哲哉）2024．東京 医学書院 ISBN: 978-4-260-05344-0.				
参考文献	<p>【参考文献】</p> <p><input type="checkbox"/> 戸田新細菌学．35版（柳 雄介、林 哲也、山崎 晶）2025．東京 南山堂 ISBN:978-4-525-16115-6.</p> <p><input type="checkbox"/> イラストレイテッド微生物学．原書3版（Cynthia Nau Cornelissen、Bruce D. Fisher、Richard A. Harvey 著：松本 哲哉、館田 一博監訳）2014．東京 丸善出版 ISBN:978-4-621-08675-9.</p> <p><input type="checkbox"/> 染方史郎の楽しく覚えず好きになる 感じる細菌学 x 抗菌薬 2020．東京 じほう ISBN:978-4-8407-5264-0.</p> <p><input type="checkbox"/> 染方史郎の 続 感じる細菌学 耐性菌&真菌編 2024．東京 じほう ISBN: 978-4-8407-5598-6.</p> <p>【推奨ウェブサイト等】</p> <p><input type="checkbox"/> 世界保健機関：http://www.who.int/en/</p> <p><input type="checkbox"/> 米国疾病管理予防センター：http://www.cdc.gov/</p> <p><input type="checkbox"/> 厚生労働省：http://www.mhlw.go.jp/</p> <p><input type="checkbox"/> 国立感染症研究所：http://www.niid.go.jp/niid/ja/</p> <p><input type="checkbox"/> 国立感染症研究所感染症情報センター：http://www.niid.go.jp/niid/ja/from-idsc.html</p> <p><input type="checkbox"/> 大阪公立大学大学院医学研究科細菌学：https://www.omu.ac.jp/med/bacteriology/</p>				
オフィスアワー	10:00-16:00 (会議や出張で対応できない場合があるので、急用でない限り事前にアポイントメントをとること)				
教員への連絡方法	Moodle上のメッセージ機能を使って教員に連絡すること				
その他	<p>●コアカリキュラムへの対応 旧 A-6-1) ⑦, A-6-3) ②③, B-1-8) ⑪, C-3-1)-(4), C-3-2)-(4) ①, D-2, D-3, D-5, D-6, D-7, D-8, D-9, E-2 新 CS-02-02-02, CS-02-03-03, CS-02-03-07, CS-02-04-08, CS-02-04-22, CS-03-01-01, CS-03-02-01, CS-03-05-02, CS-05-02-01, CS-05-04-01, CS-05-04-02, CS-05-05-01, GE-02-02-05, GE-03-02-05, GE-03-05-04, GE-03-05-05, GE-04-01-05, PS-01-02-21, PS-01-03-02, PS-01-03-04, PS-01-03-05, PS-01-03-06, PS-01-03-07, PS-01-03-09, PS-01-03-12, PS-01-03-13, PS-01-03-15, PS-01-03-26, PS-01-04-16, PS-02-04-05, PS-02-06-05, PS-02-07-05, PS-02-08-01, PS-02-08-05, PS-02-10-05, PS-02-14-05, PS-02-15-05, PS-03-01-08, PS-03-03-01, PS-03-03-02, PS-03-03-03, PS-03-03-04, PS-03-03-05, PS-03-03-06, PS-03-03-07, PS-03-03-09, PS-03-03-10, PS-03-03-11, PS-03-03-16, PS-03-03-17, PS-03-03-18, S0-01-01-03, S0-01-05-02, S0-05-02-02, S0-05-02-03</p> <p>●該当するコンピテンスおよびマイルストーンへの対応</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 医学知識と問題対応能力（智・仁・勇）level1 3. 診療技能と患者ケア（智・仁・勇）level1 4. コミュニケーション能力（智・仁・勇）level1 8. 科学的探究（智）level1 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢（智・仁・勇）level2 				

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMABAM3130-J1
授業科目名	ウイルス感染症		
担当教員氏名	◎城戸 康年、加来奈津子、中釜 悠、中釜 瞬、Evariste Tshibangu(ウイルス学)、皆川 昇(長崎大学)、山本拓也(医薬基盤・健康・栄養研究所)、安達 英輔(東京大学)、入谷 展弘(大阪健康安全基盤研究所)、榎本 大(肝胆臓病態内科学)		
開講年度・学期	2026	曜日・時限	その他
授業形態	混合		
科目分類			
配当年次	3年	単位数	2.3

※垂直統合型講義を実施しています

【シラバス情報】

授業概要	<p>ウイルス学は、細菌学や寄生虫学とともに感染症の基礎となる学問である。ウイルスは細菌とは異なり、通常の顕微鏡で観察できず、宿主に寄生しなければ自己増殖ができないという特徴のほか、宿主特異性・臓器特異性が高いといった性質がある。2020年には、COVID-19が世界を席卷し、海外で発生したウイルス性疾患も、グローバル化によって瞬く間に世界に拡大することが明らかとなった。このような中で、適切な対応ができるように、ウイルスとそれによって起こる疾患を科学的に理解し、正しい知識を身につけることが重要である。講義では、基本的なウイルスの知識を習得し、臨床で重要な個々のウイルスについて知識を習得する。また、実習においては、ウイルスの分離と増殖、定量法、ウイルス感染に伴う細胞の種々の形態変化や細胞内の構造変化の観察を実施することにより、ウイルスの特性、無菌操作、ウイルス感染症の病態、診断法に対する理解を深める。</p> <p>また、オンラインでの学習プログラム(Moodle等)、統合型グループワーク等、協調的かつ能動的に学べる体制を導入している。</p>
到達目標	<p>主要な到達目標は以下の通りである。個別の到達目標については、別途記載する。また、細菌・真菌感染症コースの到達目標も確認しておくこと。</p> <p>[1] ウイルス・プリオンの各病原体の微生物学的特徴を説明できる。 [2] ウイルスの基本的性状(構造、ゲノムの特徴、感染・増殖様式)を理解し、説明できる。 [3] 構造と性状により、ウイルスを分類できる。 [4] 代表的な病原体を列挙し、各病原体が引き起こす感染症の病態を説明することができる。 [5] 微生物学的検査の手順と原理を説明できる。 [6] 微生物学的検査のための検体の採取、保存、運搬を適切に実施し、グラム染色を含む基本的な微生物学的検査を実施できる。 [7] 抗生物薬を分類し、その作用機序・スペクトルについて説明できる。 [8] 標準予防策、感染経路別予防策について説明し、適応となる病原微生物について説明できる。 [9] 手指消毒・必要な個人防護具(PPE)の装着等の感染対策手技を正しく実施できる。 [10] ワクチンの種類およびワクチンにより予防可能な疾患(VPD)を列挙できる。 [11] 感染症法の概要(類型)および届出義務について説明できる。 [12] クラスターなどの用語を列挙し、説明することができる。 [13] 世界規模での感染症対策について説明できる。</p>

授業回		各回の授業内容		アクティブラーニング	事前・事後学習の内容
第1回	1/19・4限	城戸 康年	ウイルス学・総論1	1	授業までに教科書、事前資料などの該当箇所の問題をひと通り読んでおくこと。また、学習内容を理解し、身に着けるために、事前資料などを用いた予習・復習を求める。適宜、レポート提出、発表準備、プレゼンテーションを求め、小テストや試問を行う
第2回	1/19・5限				
第3回	1/19・6限				
第4回	1/27・1限	城戸 康年	ウイルス学・総論2	1	
第5回	1/27・2限				
第6回	1/27・3限				
第7回	3/5・1限	中釜 瞬他	実習1:ウイルス観察	2	
第8回	3/5・2限				
第9回	3/5・3限				

第 10 回	3/6・1 限				
第 11 回	3/6・2 限	中釜 瞬他	実習 2 : ウイルス定量	1	授業までに教科書、事前資料などの該当箇所の問題をひと通り読んでおくこと。また、学習内容を理解し、身に着けるために、事前資料などを用いた予習・復習を求める。 適宜、レポート提出、発表準備、プレゼンテーションを求め、小テストや試問を行う
第 12 回	3/6・3 限				
第 13 回	3/9・1 限				
第 14 回	3/9・2 限	加来 奈津子他	実習 3 : HA 価	2	
第 15 回	3/9・3 限				
第 16 回	3/9・4 限				
第 17 回	3/9・5 限	加来 奈津子他	実習 4 : HI 価	2	
第 18 回	3/9・6 限				
第 19 回	3/10・4 限				
第 20 回	3/10・5 限	中釜 悠他	グループ学習 1	2	
第 21 回	3/10・6 限				
第 22 回	3/11・1 限				
第 23 回	3/11・2 限	中釜 悠他	グループ学習 2	2	
第 24 回	3/11・3 限				
第 25 回	3/13・1 限				
第 26 回	3/13・2 限	中釜 悠他	グループ学習 3	2	
第 27 回	3/13・3 限				
第 28 回	3/13・4 限				
第 29 回	3/13・5 限	榎本 大	肝炎ウイルス	2	
第 30 回	3/13・6 限				
第 31 回	5/25・1 限				
第 32 回	5/25・2 限	中釜 悠	ウイルス各論	1	
第 33 回	5/25・3 限				
第 34 回	5/25・4 限				
第 35 回	5/25・5 限	山本 拓也	ウイルス感染と免疫 / ワクチン開発	1	
第 36 回	5/25・6 限				
第 37 回	5/26・1 限	安達 英輔	HIV/AIDS、臨床ウイルス学	2	
第 38 回	5/26・2 限				
第 39 回	5/26・3 限	入谷 展弘	腸管ウイルス	1	
第 40 回	6/24・3 限	城戸 康年他	試験		

成績評価方法	授業参加度（発言、発表、小テストなど）、レポート提出、グループワーク、試験等により総合的に評価する。
履修上の注意	講義は 2/3 以上、実習は 4/5 以上出席しなければ、受験資格はない。 試験は適宜、筆記および Moodle 上での試験を実施する。 講義・実習中の態度も評価対象であり、必要に応じて加点・減点する。特に実習中は感染病原体を扱うことから、注意事項を良く守って事故の無いように作業に集中すること。実習は 18 時間過ぎまでかかることがあるので、必ずスケジュールを空けておくこと。
教科書	【指定テキスト】 □標準微生物学．14 版（神谷 茂、錫谷達夫、松本哲哉）2021．東京 医学書院 ISBN：978-4-260-04331-1.

<p>参考文献</p>	<p>【推奨テキスト】</p> <p>□戸田新細菌学．34版（吉田眞一、柳 雄介、吉開泰信）2013．東京南山堂 ISBN: 978-4-525-16114-9.</p> <p>□イラストレイテッド微生物学．原書3版（Cynthia Nau Cornelissen、Bruce D. Fisher、Richard A. Harvey 著：松本 哲哉、館田 一博監訳）2014．東京 丸善出版 ISBN: 978-4-621-08675-9</p> <p>□生命科学のためのウイルス学．（原著：VIRUSES. David R. Harper 著；下遠野邦忠、瀬谷司監訳）2015．東京 南江堂 ISBN: 978-4-524-26837-5</p> <p>□医科ウイルス学．改訂第3版（高田賢蔵 編集）2009．東京 南江堂 ISBN: 978-4-524-24022-7</p> <p>□病原細菌・ウイルス図鑑．（新居志郎、倉田毅、林英生、本田武司著・編集） ISBN-13: 978-4832982291</p> <p>【推奨ウェブサイト等】</p> <p>□世界保健機関：http://www.who.int/en/</p> <p>□米国疾病管理予防センター：http://www.cdc.gov/</p> <p>□厚生労働省：http://www.mhlw.go.jp/</p> <p>□国立感染症研究所：http://www.niid.go.jp/niid/ja/</p> <p>□国立感染症研究所感染症情報センター：http://www.niid.go.jp/niid/ja/from-idsc.html</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>10:00-16:00 （会議や出張で対応できない場合があるので、急用でない限り事前にアポイントメントをとること）</p>
<p>教員への連絡方法</p>	<p>Moodle 上のメッセージ機能を使って教員に連絡すること</p>
<p>その他</p>	<p>●コアカリキュラムへの対応 旧 (H28):A-6-1) ⑦, A-6-3) ②③, B-1-8) ⑩, C-3-1)-(1)(2)(3), C-3-2)-(4) ①, D-2, D-3, D-5, D-6, D-7, D-8, D-9 新 (R4):RE-01, RE-02, RE-03, RE-04, PS-01-03, PS-02-01-01, PS-03-02, PS-03-03, IT-01-01, IT-02, SO-01, SO-04-03, SO-04-04, SO-04-05, SO-04-06, SO-04-07, SO-05-02</p> <p>●該当するコンピテンス 2. 医学知識と問題対応能力（智・仁・勇）level1 3. 診療技能と患者ケア（智・仁・勇）level1 4. コミュニケーション能力（智・仁・勇）level1 8. 科学的探究（智）level1 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢（智・仁・勇）level2</p> <p>●その他 インターネットに接続可能な端末およびQRコードが読める端末を使用することがあるので準備しておくこと。ただし、目的外に使用しないこと。また、端末が準備できない場合には、事前に申し出ること。</p>

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMASOM3134-J1
授業科目名	メディカル・データ・サイエンス 2		
担当教員氏名	◎新谷歩、河合稜太（医療統計学教室）		
開講年度・学期	2026	通年	曜日・時限
授業形態	混合		
科目分類			
配当年次	3年	単位数	1.5

【シラバス情報】

授業概要	医師は臨床での診察のみならず、日常臨床の疑問に応えるための研究能力を身に着けることが求められている。臨床研究を行う際に、多くの医師の壁となっているのが医療統計学である。この授業ではデータ解析などの実習を織り交ぜ、難解な数式を使わない「使える」医療統計学を身につける。
到達目標	実際に臨床研究に用いられたデータを汎用の統計ソフトを用いて解析するプロセスを通して、データ解析の楽しさや意義を実感できる。

授業回	各回の授業内容	アクティブラーニング	事前・事後学習の内容
第1-3回 1/14・1-3限	新谷歩 河合稜太 Rのプログラミング1	1	課題提出
第4-6回 1/21・1-3限	新谷歩 河合稜太 Rのプログラミング2	1	課題提出
第7-9回 1/28・1-3限	新谷歩 河合稜太 単変量解析レビュー 多変量解析導入（交絡とインターアクション）	1	課題提出
第10-12回 2/4・1-3限	新谷歩 河合稜太 2値アウトカムの解析と一般化線形モデル	1	課題提出
第13-15回 4/8・1-3限	新谷歩 河合稜太 生存率解析 応用	1	課題提出
第16-18回 4/15・1-3限	新谷歩 河合稜太 繰り返しデータ	1	課題提出
第19-21回 4/22・1-3限	新谷歩 河合稜太 欠損値補完	1	課題提出
第22-24回 5/13・1-3限	新谷歩 河合稜太 予測の解析	1	課題提出
第25-27回 5/20・1-3限	新谷歩 河合稜太 多変量解析と傾向スコア	1	課題提出
第28-30回 5/27・1-3限	新谷歩 河合稜太 メタ解析	1	課題提出
第31回 6/3・1-3限	新谷歩 河合稜太 試験		

成績評価方法	(1) 課題・試験によって各単元の学修達成度を測る。 (2) 課題・出席 30%、試験 70% (3) 原則、合格には、総合して 60%以上の成績が必要である。（追試は試験のみ）
履修上の注意	講義への対面参加を必須とし、参加しない、参加態度が悪い場合、単位認定を行わない。事前に配布する受講手順書等の指示を遵守しない場合は単位認定を行わない。講義は対面で実施する。 コンピュータ・R Studio・EZR を用いた実習を行うため、事前指示に従って準備すること。学修態度が著しく悪い時（パソコン上で関係のないページを閲覧するなどを含む）その授業への参加を認めないため、不合格となることもある

教科書	必携：新谷歩著『みんなの医療統計 12 日間で基礎理論と EZR を完全マスター！』 講談社 新谷歩著『みんなの医療統計 多変量解析編 10 日間で基礎理論と EZR を完全マスター！』
参考文献	新谷歩著『今日から使える医療統計』 医学書院 新谷歩著『あなたの臨床研究応援します』 羊土社 Diederick E. Grobbee (著), Arno W. Hoes (著), 福井 次矢 (監修) 『臨床疫学』インターメディカ社
オフィスアワー	講義のある日の午後 (会議等もあるので、その日に教室で秘書に時間確認すること) その他の日は事前にメール等で予約すること
教員への連絡方法	教室メールを使用 med-statacademy@ml.omu.ac.jp
その他	授業内容は一部変更することがあります ● コアカリキュラムへの対応 H28(旧): B-1-1) 統計の基礎 B-1-2) 統計手法の適用 R4(新): S0-02-02) 疫学 S0-02-03) データ解析と統計手法 ●該当するコンピテンスおよびマイルストーンへの対応 8. 科学的探究(智) level 1 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢(智・仁・勇) level 2

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMASOM3135-J1
授業科目名	産業医学 1		
担当教員氏名	◎林 朝茂、佐藤 恭子、宮川 秀男、柴田 幹子（産業医学）、萩原 聡（萩原労働衛生コンサルタント事務所）、林田 純人（大阪消防振興協会）、石本 知子（大阪市水道局水質管理研究センター）、久保 とし子（久保労働衛生コンサルタント事務所）、島田 卓（大阪市建設局 下水道部）、濱田 千雅（大阪ガス株式会社人事部）、中村 俊一（大阪広域環境施設組合）		
開講年度・学期	2026	曜日・時限	その他
授業形態	講義		
科目分類			
配当年次	3年	単位数	2

【シラバス情報】

授業概要	<p>本コースは、ヒトの健康に影響を与える自然、生活および労働環境などの要因を理解し、疾病の予防、健康保持、増進を図るための手法を学習する。</p> <p>環境保健の内容としては、主に生活環境における物理的要因、化学的要因、電離放射線などによる健康障害を学習する。生活にかかわる上水道、下水道、廃棄物処理行政や救急行政を学習する。</p> <p>産業保健の内容としては、労働環境における健康障害、労働衛生管理や産業医の職務を学習する。</p> <p>さらに、将来臨床医として必要な Evidence Based Medicine (EBM) について学習する。</p> <p>行政官や、臨床の第一線で活躍している産業医を非常勤講師として招いての講義も予定している。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 日本における公害と地球環境が健康に及ぼす影響について説明できる。 <input type="checkbox"/> 物理的要因、化学的要因による健康障害について説明できる。 <input type="checkbox"/> 食品の安全性に関して説明できる。 <input type="checkbox"/> 上水、下水、廃棄物の処理およびそれらの行政について説明できる。 <input type="checkbox"/> 日本の救急業務と医療機関との連携について説明できる。 <input type="checkbox"/> 臨床医として必要な Evidence Based Medicine の知識について説明できる。 <input type="checkbox"/> 産業保健について説明できる。 <input type="checkbox"/> 労働災害、長時間労働による健康障害やメンタルヘルス対策について説明できる。 <input type="checkbox"/> 産業医学におけるリスクマネジメント、職場における感染症とその対策について説明できる。 <input type="checkbox"/> 産業医の職務について説明できる。

授業回		各回の授業内容		アクティブラーニング	事前・事後学習の内容
第1回	4/8・4限	林 朝茂	環境保健概論	1	Moodle から事前に配布資料を入手し、通読する。 事後に Moodle の小テストを行い、学習内容の知識を定着させる。
第2回	4/8・5限	佐藤 恭子	化学的要因による健康障害(1)	1	
第3回	4/8・6限	宮川 秀男	化学的要因による健康障害(2)	1	
第4回	4/9・1限	佐藤 恭子	産業保健概論	1	
第5回	4/9・2限	柴田 幹子	物理的要因による健康障害	1	
第6回	4/9・3限	柴田 幹子	電離放射線、その他の要因による健康障害	1	
第7回	4/14・1限	佐藤 恭子	職場における健康診断と事後措置	1	
第8回	4/14・2限	林 朝茂	EBM 概論 (1)	1	
第9回	4/14・3限	林 朝茂	EBM 概論 (2)	1	
第10回	4/15・4限	林 朝茂	EBM 概論 (3)	1	
第11回	4/15・5限	林 朝茂	EBM 概論 (4)	1	

第12回	4/15・6限	宮川 秀男	労働災害・業務上疾病と作業関連疾病	1	Moodle から事前に配布資料を入手し、通読する。 事後にMoodleの小テストを行い、学習内容の知識を定着させる。
第13回	4/21・1限	林 朝茂	EBM 概論 (5)	1	
第14回	4/21・2限	林 朝茂	EBM 概論 (6)	1	
第15回	4/21・3限	佐藤 恭子	石綿関連疾患とじん肺	1	
第16回	4/23・1限	萩原 聡	産業医学におけるリスクマネジメント	1	
第17回	4/23・2限	林 朝茂	EBM 概論 (7)	1	
第18回	4/23・3限	久保 とし子	職場巡視	1	
第19回	5/12・1限	石本 知子	水の衛生と水道技術 (1)	1	
第20回	5/12・2限	石本 知子	水の衛生と水道技術 (2)	1	
第21回	5/12・3限	宮川 秀男	長時間労働による健康障害、メンタルヘルス対策	1	
第22回	5/12・6限	濱田 千雅	職場における感染症対策	1	
第23回	5/19・1限	島田 卓	下水道行政および下水処理 (1)	1	
第24回	5/19・2限	島田 卓	下水道行政および下水処理 (2)	1	
第25回	5/19・3限	柴田 幹子	食の安全と栄養	1	
第26回	5/19・6限	佐藤 恭子	産業医業務	1	
第27回	5/26・1限	林田 純人	消防と医療の連携について	1	
第28回	5/26・2限	中村 俊一	廃棄物処理の最近の動向および環境行政 (1)	1	
第29回	5/26・3限	中村 俊一	廃棄物処理の最近の動向および環境行政 (2)	1	
第30回	7/3・6限	全員	産業医学 1 試験		

成績評価方法	<input type="checkbox"/> 小テストおよび筆記試験によって学修達成度を測る。 <input type="checkbox"/> 講義は 2/3 以上出席しなければ、筆記試験の受験資格はない。なお、30 分以上の遅刻は出席とは認めない。 <input type="checkbox"/> 講義中に配布する出席カードに、与えられた課題について回答し、提出したものを出席とする。なお、出席を座席表や口頭で確認することもある。 <input type="checkbox"/> 原則、小テストの成績 (5%)、筆記試験の成績 (95%) で成績評価をする。 <input type="checkbox"/> 合格には、総合して 60%以上の成績が必要である。
履修上の注意	講義中の態度も評価対象であり、必要に応じて加点・減点する。
教科書	必携 特になし
参考文献	1) 厚生労働統計協会：国民衛生の動向 2025/2026、2025. 8 2) 辻 一郎監修：シンプル衛生学公衆衛生学、南江堂、2025. 3 3) 医療情報科学研究所：公衆衛生がみえる 2024-2025、メディックメディア、2024. 3 4) 中央労働災害防止協会編：労働衛生のしおり、中央労働災害防止協会、2025. 8 5) 医療情報科学研究所：職場の健康がみえる 産業保健の基礎と健康経営、メディックメディア、2019. 12 6) Raymond S. Greenberg 編著：第 3 版 医学がわかる疫学、新興医学出版、2004. 4 7) 中村好一著：基礎から学ぶ楽しい疫学 第 4 版、医学書院、2020. 8 8) 福原俊一著：臨床研究の道標 第 2 版 (上下巻)、2017. 7
オフィスアワー	10:00-16:00 (会議や出張で対応できない場合があるので、急用でない限り事前にアポイントメントをとること)
教員への連絡方法	Moodle 上のメッセージ機能を使って教員に連絡すること

その他	<p>●コアカリキュラムへの対応</p> <p>H28 (旧) : A -1-3)-⑤, A -2-2)-①, A -6-3)-①、⑤, A -8-1)-①～③, A -9-1)-① B -1-2)-⑥, B -1-3)-①～③、⑦, B -1-4)-④～⑤, B -1-5)-①～⑥ B -1-6)-③～④, B -1-7)-⑤, B -1-8)-④、⑦、⑪, B -4-1)-⑬ C -3-3)-②)-①, C -5-4)-②～④, D -6-4)-③)-⑦ E -5-3)-①)-①～⑤, E -5-3)-②)-①～④, E -6-1)-①～④、⑥、⑦ E -6-2)-③、④, E -6-4)-②, F -2-3)-④</p> <p>新 (R4) : PR-03-01-01, GE-01-04-01, GE-01-04-02, GE-01-04-05, GE-01-04-06, GE-03-01-02, GE-03-04-04, GE-04-01-03, GE-04-01-05, GE-04-01-06, LL-01-01-01, RE-02-01-01 PS-03-05-01, PS-03-05-08, PS-03-05-09, PS-03-05-10, PS-03-05-11, PS-03-06-01, PS-03-06-02, PS-03-06-03, PS-03-06-04, PS-03-06-06, PS-03-06-07 CS-05-02-01, CS-05-02-02 SO-01-01-03, SO-01-01-04, SO-01-03-02, SO-01-04-01, SO-01-04-02, SO-01-04-03, SO-01-04-04, SO-01-05-01, SO-01-05-02, SO-02-02-01, SO-02-02-02, SO-02-02-03, SO-02-02-05, SO-02-03-01, SO-02-03-05, SO-04-03-01</p> <p>●該当するコンピテンスおよびマイルストーンへの対応</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プロフェッショナリズム (智・仁・勇) level 1 2. 医学知識と問題対応能力 (智・仁・勇) level 2 6. 医療の質と安全の管理 (仁) level 2 8. 科学的探究 (智) level 1 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 (智・仁) level 1
-----	---

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMASOM31037-J1
授業科目名	公衆衛生学 1		
担当教員氏名	◎福島 若葉、大藤 さとこ、松浦 知香、小西 絢子、加瀬 哲男（公衆衛生学） 外部講師：下内 昭（結核予防会ネパール事務所）、六車 一哉（大阪社会医療センター 附属病院）、森 裕（大阪市こころの健康センター）、田端 信忠（大阪市健康局）、柴 田 敏之（大阪府健康医療部保健医療室）、伊藤 一弥（大阪公立大学看護学部）、生 野 淑子（大阪市健康局）、吉田 英樹（大阪市健康局）、市川 昌孝（西日本成人矯 正医療センター）、山岸 義晃（大阪大学医学部附属病院未来医療開発部未来医療セン ター）		
開講年度・学期	2026	曜日・時限	その他
授業形態	講義		
科目分類			
配当年次	3年	単位数	2.3

【シラバス情報】

授業概要	本コースは、「公衆衛生分野における疾病対策や保健・福祉対策の現状と仕組み」および「疫学の基礎理論」に重点を置いて講義を進める。また知識が比較的定着していると考えられる疾病について特別講義を行う。なお、感染症関連の講義については、大阪公立（市立）大学感染症医療人材養成プログラムの感染症基盤プログラム II の内容と連携させている。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公衆衛生の定義と位置づけ、および公衆衛生学における疫学の役割について説明できる。 ・ 疫学研究で用いられる主要指標や疫学研究デザインを説明できる。 ・ 疫学研究の結果の解釈に影響を与える交絡、誤分類、バイアスを説明できる。 ・ 我が国の疾病構造を理解し、疾病対策や保健・福祉対策の現状と仕組みを説明できる。 ・ 地域や集団の特性を踏まえた社会医療・福祉について説明できる。

授業回	各回の授業内容	アクティビティ・ラーニング	事前・事後学習の内容
第1回	4/2・1限 福島 若葉 公衆衛生学序論	2	すべての講義について、講義毎に指示をするため、講義前にMoodleの確認が必要。
第2回	4/2・2限 福島 若葉 疫学序論	2	
第3回	4/2・3限 福島 若葉 疫学研究デザイン概論	2	
第4回	4/7・1限 福島 若葉 疾病の頻度	2	
第5回	4/7・2限 松浦 知香 相対危険と寄与危険	2	
第6回	4/7・3限 松浦 知香 予防の概念とスクリーニング	1	
第7回	4/7・4限 伊藤 一弥 交絡調整	1	
第8回	4/7・5限 伊藤 一弥 介入研究	1	
第9回	4/7・6限 伊藤 一弥 生存分析	1	
第10回	4/14・4限 山岸 義晃 臨床試験	2	
第11回	4/14・5限 柴田 敏之 公衆衛生と自治体	2	
第12回	4/14・6限 小西 絢子 疫学と保健統計	1	
第13回	4/16・1限 下内 昭 世界の結核・日本の結核	1	
第14回	4/16・2限 大藤さとこ 観察研究（1）	1	
第15回	4/16・3限 大藤さとこ 観察研究（2）	2	
第16回	5/7・1限 森 裕 精神保健	1	
第17回	5/7・2限 加瀬 哲男 食品衛生	1	
第18回	5/7・3限 加瀬 哲男 人獣共通感染症		
第19回	5/14・1限 大藤さとこ 交絡因子と誤分類、バイアス	1	

第22回	5/14・2限	大藤さとこ	介護保険	2	すべての講義について、講義毎に指示をするため、講義前にMoodleの確認が必要。
第23回	5/14・3限	松浦 知香	公衆衛生学1 まとめ・演習①	2	
第24回	5/21・1限	小西 絢子	学校保健・国際保健	1	
第25回	5/21・2限	田端 信忠	母子保健	1	
第26回	5/21・3限				
第27回	5/27・4限	吉田 英樹	感染症サーベイランス	1	
第28回	5/27・5限				
第29回	5/27・6限	六車 一哉	あいりん地域とその社会医療の実際	1	
第30回	5/28・1限	松浦 知香	公衆衛生学1 まとめ・演習②	2	
第31回	5/28・2限	生野 淑子	成人保健・高齢者保健	1	
第32回	5/28・3限				
第33回	6/9・1限	小西 絢子	公衆衛生学1 まとめ・演習③	2	
第34回	6/9・2限	市川 昌孝	矯正医療とその実際	1	
第35回	6/9・3限				
第36回	6/30・2限	大藤さとこ	公衆衛生学考査	1	

成績評価方法	(1) 考査試験 (100%) により評価する。 (2) 合格には 60%以上の成績が必要である。
履修上の注意	講義は原則としてすべて出席すること (15分以上の遅刻は出席と認めない)。 出席は授業毎の小テストによって確認する。 出席状況、学修態度が不良の場合は、減点対象となる場合がある。
教科書	特に定めていない。
参考文献	1. 医療情報科学研究所、公衆衛生がみえる (最新のもの)、メディックメディア 2. 日本疫学会、はじめて学ぶやさしい疫学 改訂第4版、南江堂 3. 中村好一著：基礎から学ぶ楽しい疫学 第4版、医学書院 4. 国試対策問題編集委員会、クエスチョン・バンク (最新のもの)、メディックメディア ※講義で使うことはないが、基礎知識として講義の前後に読んでおくことが望ましい。
オフィスアワー	10:00-16:00 (会議や出張で対応できない場合があるので、急用でない限り事前にアポイントメントをとること)
教員への連絡方法	Moodle上のメッセージ機能を使って教員に連絡すること
その他	●コアカリキュラムへの対応 H28 (旧) : A-1, A-2, A-7, A-9, B-1, B-3, B-4 R4 (新) : RE-03, S0-01, S0-02 ●該当するコンピテンスおよびマイルストーンへの対応 1. プロフェッショナリズム (智・仁・勇) 2) level 1 2. 医学知識と問題対応能力 (智・仁・勇) 3) level 1 7. 社会における医療の実践と大阪住民の幸福に貢献する力 (智・仁・勇) 1) level 1, 3) level 1 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 (智・仁) 1) level 1, 2) level 1

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMABAM3131-J1
授業科目名	原虫・寄生虫感染症		
担当教員氏名	◎城戸 康年、中釜 悠、加来奈津子、中釜 瞬、Evariste Tshibangu、安木 真世（獣医学部）、金子 修（長崎大学）、柴田 和直（国際協力機構）、皆川 昇（長崎大学）、安達 英輔（東京大学）、齋藤 智也（国立感染症研究所）、上村 尚人（大分大学）		
開講年度・学期	2026	曜日・時限	その他
授業形態	混合		
科目分類			
配当年次	3年	単位数	1.8

【シラバス情報】

授業概要	国内感染症としてのみならず、Global health の観点から熱帯感染症としての寄生虫感染症を理解することを究極的な目標とする。人体に病害を与える原虫および蠕虫（線虫、吸虫、条虫）の種類、形態学的特徴、人体への感染経路、宿主の防御反応、寄生虫の免疫回避機構、および寄生虫症における診断、治療、予防法を学ぶ。また、疾病媒介動物（昆虫、ダニ類）についてその役割および生態について学習する。特に人類にとって重要な感染症であるマラリアについてはその生物学、疫学、臨床のみならず人類との共進化の歴史、アジア・太平洋およびアフリカ等流行地における対策、撲滅への取り組みの実際、その社会・経済的意義について理解する。また、国際感染症に対する医薬品開発、世界機関などによる対策および援助などの社会的意義についても理解を深める。実習では、原虫、蠕虫の虫卵、幼虫、成虫のプレパラート標本を顕微鏡で観察し、同定を行う。また、人体症例での原虫、寄生虫による寄生状態、組織変化の特徴について理解する。
到達目標	<input type="checkbox"/> Global health における寄生虫症を説明できる <input type="checkbox"/> 本邦における寄生虫症の意義を説明できる <input type="checkbox"/> 人体寄生虫分類の概略を説明できる <input type="checkbox"/> 寄生虫感染症の病態・診断・治療について説明できる <input type="checkbox"/> 寄生虫の生活史、ヒトへの感染経路および予防法について説明できる <input type="checkbox"/> 国際感染症に対する国際的な取り組み（医薬品開発、対策、援助）の現状について説明できる

授業回	各回の授業内容	アクティブラーニング	事前・事後学習の内容
第1回	2/4・4限	1	授業までに教科書、事前資料などの該当箇所の問題をひと通り読んでおくこと。また、学習内容を理解し、身に着けるために、事前資料などを用いた予習・復習を求める。適宜、レポート提出、発表準備、プレゼンテーションを求め、小テストや試問を行う
第2回	2/4・5限		
第3回	2/4・6限		
第4回	2/18・4限	1	
第5回	2/18・5限		
第6回	2/18・6限		
第7回	3/2・4限	2	
第8回	3/2・5限		
第9回	3/2・6限		
第10回	3/3・4限	2	
第11回	3/3・5限		
第12回	3/3・6限		
第13回	3/4・4限	2	
第14回	3/4・5限		
第15回	3/4・6限		
第16回	3/6・4限	2	
第17回	3/6・5限		
第18回	3/6・6限		

第19回	3/11・4限				
第20回	3/11・5限	中釜 悠他	グループ学習 1	2	授業までに教科書、事前資料などの該当箇所の問題をひと通り読んでおくこと。また、学習内容を理解し、身に着けるために、事前資料などを用いた予習・復習を求める。適宜、レポート提出、発表準備、プレゼンテーションを求め、小テストや試問を行う
第21回	3/11・6限				
第22回	3/12・1限				
第23回	3/12・2限	中釜 悠他	グループ学習 2	2	
第24回	3/12・3限				
第25回	6/1・1限	安木 真世	人獣共通感染症	1	
第26回	6/1・2限	安達 英輔	臨床寄生虫学	1	
第27回	6/1・3限	齋藤 智也	感染危機管理	1	
第28回	6/1・4限				
第29回	6/1・5限	金子 修	マラリア感染の細胞生物学	1	
第30回	6/1・6限				
第31回	6/2・4限	柴田 和直	国際援助機関		
第32回	6/2・5限	皆川 昇	医用昆虫学	1	
第33回	6/2・6限	上村 尚人	国際医薬品開発	1	
第34回	6/24・2限	城戸 康年他	試験		

成績評価方法	授業参加度（発言、発表、小テストなど）、レポート提出、グループワーク、試験等により総合的に評価する。
履修上の注意	講義は2/3以上、実習は4/5以上出席しなければ、受験資格はない。 試験は適宜、筆記およびMoodle上での試験を実施する。 講義・実習中の態度も評価対象であり、必要に応じて加点・減点する。特に実習中は感染病原体を扱うことから、注意事項を良く守って事故の無いように作業に集中すること。実習は18時過ぎまでかかることがあるので、必ずスケジュールを空けておくこと。
教科書	吉田、有菌： 図説人体寄生虫学、改訂第9版 南山堂 2016
参考文献	上村ほか、寄生虫学テキスト、改訂第3版 文光堂 2010 Cook GC (ed), Manson's Tropical Diseases, 21st ed. London: Saunders, 2002 Strickland GT (ed), Hunter's Tropical Medicine and Emerging Infectious Diseases, 8th ed. Philadelphia: W.B. Saunders, 2000. Warrell DA, Gilles HM (eds). Essential Malariology, 4th ed. London:Arnold, 2002 Kathryn H. Jacobsen, Introduction to GLOBAL HEALTH 2nd ed. Jones & Bartlett Learning 2014. Richard Skolnik, Global Health 101 3rd ed. Jones & Bartlett Learning 2016.
オフィスアワー	10:00-16:00 (会議や出張で対応できない場合があるので、急用でない限り事前にアポイントメントをとること)
教員への連絡方法	Moodle上のメッセージ機能を使って教員に連絡すること
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● コアカリキュラムへの対応 旧 (H28):A-7-2), A-8-1), B-1-9), B-1-8), C-1-2)-(1), C-3-1), C-3-2)-(4) ①D, Eのうち寄生虫症に関連する領域 新 (R4):RE-01, RE-02, RE-03, RE-04, PS-01-03, PS-02-01-01, PS-03-02, PS-03-03, IT-01-01, IT-02, SO-01, SO-04-03, SO-04-04, SO-04-05, SO-04-06, SO-04-07, SO-05-02 ● 該当するコンピテンス 2. 医学知識と問題対応能力 (智・仁・勇) level1 3. 診療技能と患者ケア (智・仁・勇) level1 4. コミュニケーション能力 (智・仁・勇) level1 7. 社会における医療の実践と大阪住民の幸福に貢献する力 (智・仁・勇) level1 8. 科学的探究 (智) level1 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 (智・仁・勇) level2 ● その他 インターネットに接続可能な端末およびQRコードが読める端末を使用することがあるので準備しておくこと。ただし、目的外に使用しないこと。また、端末が準備できない場合には、事前に申し出ること。

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMACLM3146-J1
授業科目名	医学英語		
担当教員氏名	Dr. Vijay Kharbas、教務委員会		
開講年度・学期	2026	曜日・時限	木曜
授業形態	講義		
科目分類			
配当年次	3年	単位数	1.5

【シラバス情報】

授業概要	将来、医師もしくは研究者として必要な医学英語の基礎を学習する。 3年生を約30名ずつ、3クラスに編成する。授業時間は木曜日午後の90分
到達目標	実用医学英語の訓練を行い、将来の目標は、 1) 英文教科書・医学論文などを読む 2) 医学論文を書く 3) 国際学会などで研究を発表する 4) 国際学会などで討論をする ことである。

授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・前もって自習した内容を基に実践的な医学英語を行う。 ・英語で行われる医学部での講演会及びセミナーに参加し、評価対象とする。 学生は教務委員会で指定した講演会に2回以上出席しなければならない。 医学部学務課は少なくとも1週間前には学生に掲示して通知する。 講演会に出席後1週間以内にレポート（様式：A4用紙1枚）を学務課に提出する。 レポートの評価は学年末に集計し進級判定の資料とする。
事前・事後学習の内容	英文教科書を listening (hearing) を含めて前もって自習する。

成績評価方法	授業参加度、プレゼンテーション、レポート提出等により総合的に評価を行う。 正当な理由がない欠席は原則として認めない。 医学部で行う講演会及びセミナー（英語）への参加義務があり、評価対象。
履修上の注意	授業中の態度や参加状況が悪い場合、単位認定を行わない。
教科書	教科書：The Anatomy and Physiology Learning System(4th Edition) ※英和辞典、和英辞典およびノートを持参すること。 ○ステッドマン医学大事典 ○Medical Dictionary
参考文献	特になし
オフィスアワー	9:00-17:00
教員への連絡方法	学務課 (gr-a-gakumu-med@omu.ac.jp)
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●コアカリキュラムへの対応 H28 (旧): A 医師として求められる基本的な資質・能力 A-2 医学知識と問題対応能力 A-2-2) 学修の在り方 R4 (新): PS-01, 02, 03 RE-01, 02 <ul style="list-style-type: none"> ●該当するコンピテンスおよびマイルストーンへの対応 4. コミュニケーション能力 (智・仁・勇) level2 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 (智・仁・勇) level2

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMABAM3132-J4
授業科目名	医学研究推進コース 3		
担当教員氏名	◎金子 幸弘（教務委員会 副委員長）他		
開講年度・学期	2026	曜日・時限	
授業形態	実習		
科目分類			
配当年次	3年	単位数	11.9

【シラバス情報】

授業概要	<p>小グループ（2～10人程度）で各教室に一定期間（約3ヶ月）所属し、担当教員の指導の下、研究に従事する。また、担当教員の裁量により、海外での実習も可能となっている。</p> <p>【目的】</p> <p>医学部生の卒業生の多くが臨床医となることを考えれば、在学中に臨床的能力を向上させることは当然であるが、一方で、医療を支える医学の発展に寄与する能力を育むことも同程度に重要である。科学的な視点を持つことは、基礎研究者だけでなく、日常診療に当たる医師にも期待されるものであり、根拠に基づいた医療（evidence based medicine, EBM）の実践にも必須である。探究心を持つことの重要性は、医学教育モデル・コア・カリキュラムでも述べられており、課題を発見し、批判的に吟味し、自分で適切な解決方法を導き出す能力・態度を養成する医学プログラムの提供は、大学としての使命でもある。</p> <p>医学研究推進コース3は、本学医学部の独自のプログラムとして、コンピテンス（卒業時までに身に着けるべき能力）の一つである「科学的探究心」の育成を目指す。また、時間をかけて基礎研究に携わる数少ない機会であり、実体験を通じて、基礎研究の魅力を味わってほしい。</p>
到達目標	<p>研究結果をレポートとして提出する。尚、教室毎の個別の到達目標については、担当教員の指示に従うこと。</p>

授業内容	<p>マッチングにて配属先教室を決定し、配属教室の各担当教員の指示に従って、調査、研究、発表、レポート作成を実施する。授業内容および授業計画は、事前に各教室が準備した資料で連絡するとともに、Moodleに掲載する。配属する教室・教員リストおよび定員は別途記述する。共通項目として、文献検索法実習、動物実験・病原体等の取扱・遺伝子組換え講習会が別途開催される。</p> <p>8月24日（月）～11月13日（金）まで、各教室で実習を行う。授業計画は、担当教員に事前に確認すること。</p> <p>期限までにレポートを作成し、担当教員のチェックを受け、提出する。</p> <p>【海外での実習について】</p> <p>海外での実習に関しては、パスポート及びビザ等の取得、ワクチン接種等、準備が必要な場合があるため、通常よりも先にガイダンスを実施するが、遺漏のないように、海外での実習を希望する場合には事前に担当教員に確認しておくこと。</p>
事前・事後学習の内容	<p>各担当教員の指示に従うこと。</p>

成績評価方法	<p>医学研究推進コース3における共通規則および評価基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> オリエンテーションなどの定められた講習会等には必ず出席すること <input type="checkbox"/> 各教室の規則に則って指導を受け、真摯に取り組むこと。 <input type="checkbox"/> 実習終了後、提出期限までにレポートを提出すること。 <input type="checkbox"/> 実習中の態度、レポート、発表などを含めて、以下の基準で毎月評価を受ける。 <p>1か月ごとに担当教員がA～Dの4段階で学生を評価する（担当教員は翌月5日までに提出）。各評価結果を記録し、3か月間の実施期間内に合計点を算出する。基準は以下の通りとする。</p> <p>【評価基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> A：優れている（+1点） B：標準的である（0点） C：劣っている（-1点） D：著しく劣っている（-2点） <p>月ごとの評価は委員会や教授会で情報共有するが、学生には原則として非公開とする。</p>
--------	---

成績評価方法	<p>最終評定は、合計点によって以下のように算出する。 2点以上：AA 1点：A 0点：B -1点：C -2点以下：D 最終評定のDは不合格とする。 最終評定は教務委員会・教授会を経て、進級判定とともに学生に開示する。</p>
履修上の注意	<p>実習先の選定に際しては、実習内容を十分に吟味すること。実習内容によっては、海外での実習や危険物の取り扱い、動物の取り扱い等を含む場合があるため、事前資料およびガイダンス説明に十分留意すること。可能な限り、事前に各担当教員に相談することが望ましい。</p>
教科書	<p>各担当教員に確認し、必要に応じて事前に準備すること。</p>
参考文献	<p>各担当教員に確認し、必要に応じて事前に準備すること。</p>
オフィスアワー	<p>9:00-17:00</p>
教員への連絡方法	<p>学務課 (gr-a-gakumu-med@omu.ac.jp)</p>
その他	<p>● コアカリキュラムへの対応 旧：選択的な大学独自のカリキュラムの設定（「各大学における具体的な医学教育は、学修時間数の3分の2程度を目安にモデル・コア・カリキュラムを参考とし、授業科目等の設定、教育手法や履修順序等残りの3分の1程度の内容は各大学が自主的に編成するものとする。この際、卒前の研究室配属などの学生時代から医学研究への志向を涵養する教育や、医療関係者以外の方の声を聴くなどの授業方法の工夫など、各大学において特色ある取組や授業内容の改善に加え、これらの実現に向けた教（職）員の教育能力の向上を進めることが望まれる。」） R4（新）：RE-01-01-01、RE-01-01-02、RE-01-02-01、RE-01-02-02、RE-02-01-01、RE-02-02-01、RE-03-01-01、RE-03-02-01、RE-03-03-01、RE-03-03-02、RE-03-03-03、RE-03-04-01、RE-04-01-01、RE-04-01-02、RE-04-01-03、RE-05-01-01、RE-05-02-01、RE-05-02-02、S0-02-02-05</p> <p>● 該当するコンピテンス</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プロフェッショナリズム（智・仁・勇） level2 2. 医学知識と問題対応能力（智・仁・勇） level1 4. コミュニケーション能力（智・仁・勇） level2 5. チーム医療の実践（仁） level2 8. 科学的探究（智） level2 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢（智・仁・勇） level2

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMACLM3144-J4
授業科目名	早期臨床実習3（医学科生による附属病院外来初診患者の院内ガイド実習）		
担当教員氏名	教務委員会		
開講年度・学期	2026	曜日・時限	
授業形態	実習		
科目分類			
配当年次	3年	単位数	0.2

【シラバス情報】

授業概要	<p>「患者の立場で物事を考えられる医療人の育成」が求められている。高齢化社会を迎え、医療人が対応しなければならない患者の年齢層はますます上昇している。</p> <p>一方、少子化、核家族化世代である現代の医学科生は、きわめて狭いcommunityでしか社会と接していないため、高齢者や本学附属病院を受診するさまざまな社会背景を有する患者とコミュニケーションする機会がほとんどないまま医師となり、卒後に多くの問題と直面することとなる。</p> <p>そのような医学科生が卒前に、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 将来、患者の立場や目線を少しでも感じられるようになるため 2) 将来、患者とのコミュニケーションをスムーズに行えるようになるため 3) 本学の立地条件を活用した地域医療実習に取り組めるよう本実習を実施する
到達目標	附属病院を受診する初診患者に帯同することで、患者目線を体感する。

授業内容	学年を5グループに分け、各グループ1日ずつ附属病院を受診する初診患者を対象として、受付から診察、会計までの全ての流れに付き添い、患者の視点で外来受診の流れ、病院の仕組みを体験し、外来診療における各職種の関わりを学ぶ。
事前・事後学習の内容	事前ガイダンスにて指示する

成績評価方法	実習前課題レポート、事前チェックリスト、学生・患者評価表の提出 患者用評価表及び実習態度（実習前後の成績状況、生活態度等も含む）
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 挨拶をきちんとすること。 2. 身だしなみ 将来医師となる者として、ふさわしい身なり（服装、頭髪、装飾品） 清潔な白衣・名札 【禁止：デニムパンツ（ジーンズ）、ハーフパンツ（ショートパンツ）、ヒール、サンダル、派手な色のズボン、ネイル、香水、アクセサリ（指輪、ピアス等）】 3. その他 手荷物はロッカーに置いておく。携帯電話についても院内の持ち込みは禁止とする。 欠席、遅刻、早退は原則として修了と認めない。 <p>※将来医師になる者、また医学科生として求められる基本的な資質・能力に疑義がある場合は、実習参加を認めない。</p>
教科書	特になし
参考文献	特になし
オフィスアワー	9:00-17:00
教員への連絡方法	学務課（gr-a-gakumu-med@omu.ac.jp）

<p>その他</p>	<p>1年生で看護師業務、2年生で大学病院勤務医師業務の実際を体験しており、本実習は早期臨床実習の総まとめとも位置づける。</p> <p>● コアカリキュラムへの対応</p> <p>H28 (旧):</p> <p>A 医師として求められる基本的な資質・能力</p> <p>A-3 診療技能と患者ケア</p> <p>A-4 コミュニケーション能力</p> <p>A-5 チーム医療の実践</p> <p>R4 (新):</p> <p>CS-01, 02, 03, 04</p> <p>CM-01, 02, 03</p> <p>IP-01, 02</p> <p>● 該当するコンピテンスおよびマイルストーンへの対応</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プロフェッショナリズム (智・仁・勇) level2 3. 診療技能と患者ケア (智・仁・勇) level1 4. コミュニケーション能力 (智・仁・勇) level2 5. チーム医療の実践 (仁) level2 6. 医療の質と安全の管理 (仁) level2 7. 社会における医療の実践と大阪住民の幸福に貢献する力 (智・仁・勇) level1
------------	---

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMACLM3147-J1
授業科目名	ユニット型臨床臓器別講義		
担当教員氏名	◎首藤太一（教務委員長） 各コースの担当教員（別紙 学習ガイド参照）		
開講年度・学期	2026	曜日・時限	その他
授業形態	講義		
科目分類			
配当年次	4年	単位数	19.2

【シラバス情報】

授業概要	<p>モデルコアカリキュラムに記載のある内容を中心に、臨床実習前に習得すべき各臓器の構造、機能、症候、検査法および治療法について学習すること目的としている。</p> <p>臨床臓器別講義では、内科、外科等の講座毎ではなく消化器、循環器、内分泌・代謝等の臓器別のコースを複数の講座で横断的に統合して講義を行っている。社会医学や法医学の視点から社会における医療の役割についても本コースで学習する。また、PBL /TBL 教育を取り入れることで、“知っている知識” から臨床の現場で”活用できる知識”へ昇華を目指す。</p> <p>さまざまな疾患の病態生理から医療面接、診断そして検査、治療までを系統的に学習し、各領域の最先端の研究や最新のEBMを学習することで、全人的に患者を評価しケアを行うための基本的臨床能力の獲得を目指す。</p>
到達目標	<p>医学知識と問題対応能力</p> <p>①各器官の正常な構造・機能とその成立・維持に関わる情報伝達機構を説明できる。病気の発症と進展に関わる病因・病態生理を説明できる</p> <p>②モデルコアカリキュラムに記載のある主な疾患については病因、病態生理のみならず、症候と診断、治療法についても理解することができる。各分野の知識を統合し、症候・病態から疾患への適切な臨床推論を行うことができる</p> <p>③社会医学領域の基礎的知識を有し、関連する法則や理論を説明することができる。</p> <p>④生命科学、行動科学などの関連知識をもとに症状・疾患を理解、説明することができる</p> <p>診療技能と患者ケア</p> <p>①診療に必要な病歴を構成する要素を提示できる。身体所見から得られる情報を病態を踏まえて説明できる。</p> <p>②主な症候の鑑別診断リストを挙げることができる。</p> <p>③提示された臨床事例に対して臨床推論、判断、治療計画の立案を行うことができる。</p> <p>④臨床手技を行う適応と禁忌を挙げ、基本的な手技についての実施方法を述べることができる。</p> <p>医療の質と安全管理</p> <p>①医療の質と患者安全確保のための基礎知識を説明できる。一般的な医療事故の発生のメカニズムと防止策を説明できる。</p> <p>科学的探究</p> <p>①提示された課題について図書館およびデータベースを利用して関連する文献の収集を適切に行うことができる。</p> <p>②事例学習を通じて、教科書・論文等から最新の情報を検索・整理統合し、疾患の理解・診断・治療にの理解の深化につなげることができる。</p> <p>生涯にわたって共に学ぶ姿勢</p> <p>①生涯学習の重要性を説明できる。各分野における国内外の最先端の研究について学び、生涯にわたる継続的学習に必要な情報を収集できる。</p> <p>②同級生とのグループ学習において、自分の考えをメンバーに向けて提示することができる。また、自分の考えに対する他のメンバーからの指摘や意見を受け入れ、尊重することができる。</p> <p>プロフェッショナリズム</p> <p>①最新・最善の医療の提供を社会から必要とされていることを理解できる。膨大な医学知識の中から専門的な知識を入手でき、問題解決型の学習を行うことができる</p> <p>②規則的な生活習慣、時間管理を行うことができ、他者に対して感謝と敬意を払うことができる。</p>

授業内容	Moodle 上の各コースの日程表参照
事前・事後学習の内容	Moodle 上の各コースの事前・事後学習や参考資料を参照

成績評価方法	筆記試験を各コース毎に行います。 総合結果 60%未満の点数もしくは各コース 60%未満の点数のとき再試験を行うが、不合格コース（欠席コース含む）が 10 コース以上あった場合、コース再試験を受けることができません。体調不良による試験欠席は、診断書を添え、「欠席届」・「追試願」を試験日より 1 週間以内に学務課へ提出してください。
履修上の注意	やむを得ない理由による欠席を除き、各科目の講義は 2/3 以上出席しなければ、当該科目の試験を受けることが出来ない。PBL においては実習中の態度も評価対象であり、学修態度が著しく悪い時は減点の対象となる場合がある。
教科書	Moodle 上の各講座の教材を参照
参考文献	Moodle 上の各講座の教材を参照
オフィスアワー	9:00-17:00（診療や出張、研究等に対応できない場合があるので、急用でない限り事前にアポイントメントをとる事）
教員への連絡方法	学務課 (gr-a-gakumu-med@omu.ac.jp)
その他	<p>医療系大学間共用試験実施機構が行う共用試験（CBT、OSCE）で問われる内容を含め、間もなく始まる参加型臨床実習に必要な基礎知識となります。今後、国家試験、研修医そして医師になっても必要な知識の習得をする大切な講義です。また、一部では各コースでの最先端の話題に触れることになり、「科学的探究心」を培うことにもつながります。</p> <p>● コアカリキュラムへの対応</p> <p>H28（旧）： A-6 医療の質と安全の管理 B のすべて 社会と医学・医療 D のすべて 人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療 E のすべて 全身におよぶ生理的变化、病態、診断、治療 F-1 症候・病態からのアプローチ F-2 基本的診療知識</p> <p>R4（新）： PR のすべて プロフェッショナリズム 信頼 思いやり 教養 生命倫理 GE のすべて 総合的に患者・生活者をみる姿勢 全人的、地域、人生、社会の視点とアプローチ</p> <p>PS-02 人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療 IT-01 情報・科学技術に向き合うための倫理観とルール IT-02 医療とそれを取り巻く社会に必要な情報・科学技術の原理 CS のすべて 患者ケアのための診療技能 患者の情報収集 患者情報の統合、分析と評価、診療計画 治療を含む対応の実施 医療の質と患者安全 IP のすべて 多職種連携能力 連携の基盤 協働実践 S0 のすべて 社会における医療の役割の理解 社会保障 疫学・医学統計 法医学 社会の構造や変化から捉える医療 国内外の視点から捉える医療 社会科学の視点から捉える医療 別表 1、2、3、5、6、7</p> <p>● 該当するコンピテンスおよびマイルストーンへの対応</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プロフェッショナリズム（智・仁・勇） level2 2. 医学知識と問題対応能力（智・仁・勇） level1 3. 診療技能と患者ケア（智・仁・勇） level1 6. 医療の質と安全の管理（仁） level2 8. 科学的探究（智） level2 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢（智・仁・勇） level2

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMACLM3148-J4
授業科目名	臨床スターター実習		
担当教員氏名	<input type="checkbox"/> 各臨床診療科教員および医師 <input type="checkbox"/> 非常勤講師 新藤 光郎（南大阪病院教育研修センター長） 池邊 孝（東住吉森本病院 副院長 兼 救急・総合診療センター長） 谷口 恭（太融寺町谷口医院 院長） 竹中 裕昭（竹中医院 院長） 森村 美奈（なにわ生野病院 婦人科） 則岡 直樹（のりおかクリニック 院長） 衣畑 成紀（阪神野田駅前ファミリークリニック 院長）		
開講年度・学期	2026	曜日・時限	その他
授業形態	混合		
科目分類			
配当年次	4年	単位数	12.4

【シラバス情報】

授業概要	臨床スターター実習では、診療参加型臨床実習（Clinical Clerkships : CC）開始までに修得しておくべき医学的知識をより実践的に活用できるよう講義、シミュレーター実習など活用し、小人数で知識を実際に応用して学習する機会を盛り込むようにプログラムされている。
到達目標	<p>《一般目標》 診療参加型臨床実習に必要な態度・技能・知識を習得する。</p> <p>《到達目標》</p> <p>(1) 診察技法 以下の項目の要点を説明して模擬患者もしくはシミュレーターで実施できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療面接 2) 全身状態の把握 3) バイタルサインの測定 4) 頭頸部診察 5) 胸部診察 6) 腹部診察 7) 神経診察 8) 四肢と脊柱 9) 救急 <p>(2) 治療手技 以下の手技の要点を説明して実施できる（一部はシミュレーター）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 簡単な診察器具の使用（聴診器、打腱器、血圧計、舌圧子、眼底鏡、耳鏡、心電図、エコー） 2) 採血、注射、点滴 3) 縫合結紮 4) 手洗い、ガウンテクニック 5) 救急蘇生、BLS、気道確保、人工呼吸法、体外心臓マッサージ法 6) 感染対策 <p>(3) 態度 臨床実習に必要な態度・マナーについて説明し実施できる。</p>
授業内容	<p>診療参加型臨床実習に参加する学生に必要とされる技能と態度の習得を目的とする。具体的には、共用試験（Objective Structured Clinical Examination : OSCE）に準じ、医療面接、全身状態とバイタルサイン、頭頸部、胸部、腹部、神経、四肢と脊柱、基本的臨床手技、救急、感染症の各分野を専門医師の指導のもとに学習する。また、医療面接実習においては、学習者同士に留まらず、“模擬患者”にも参加していただき、実践的な学習、患者目線からのフィードバックが受けられるようになっている。その他、採血実習や超音波実習では、シミュレーター実習の後、医師の指導のもと学習者同士での実習へと段階的に進めていく。</p> <p>※臨床スターター実習時間割の詳細については別紙を参照</p>

事前・事後学習の内容	臨床スターター実習では、実習での学習成果向上のために e-learning システム (Moodle) を用いた事前学習システムを導入している。具体的には、学習者は実習前に共用試験 OSCE 教育・学習用 DVD を視聴し、内容の理解度を e-learning システム (Moodle) を用いた小テストを用いて確認する事ができるようになっている。また、事後学習として修了テストが用意され、Moodle を用いて試験を受けることができる。
成績評価方法	小テストおよびその他の授業内評価をもとに評価を行う。
履修上の注意	特になし
教科書	OSCE 学習者用資料 共用試験 OSCE 教育・学習用 DVD 人体部分模型、シミュレーター、診察器具、医療機器 学生同士のロールプレイ、模擬患者を交えたロールプレイ
参考文献	Moodle 上の各動画
オフィスアワー	9:00-17:00
教員への連絡方法	学務課 (gr-a-gakumu-med@omu.ac.jp)
その他	<p>医師に求められる資質として、知識、技能、態度の3つがよく挙げられます。本コースでは、これまでの知識重視、講義中心の学習形態から、技能や態度重視な学習形態に変わっていきます。医師としての基盤が萌芽される重要な実習期間ですので、来るべき共用試験 CBT、OSCE に合格する事に留まらず、医師として働く自分をしっかりと意識して参加してもらいたいと思います。</p> <p>● コアカリキュラムへの対応</p> <p>A 医師として求められる基本的な資質・能力(プロフェッショナリズム、医学知識と問題対応能力、診療技能と患者ケア、コミュニケーション能力、医療の質と安全の管理、生涯にわたって共に学ぶ姿勢)</p> <p>F 診療の基本 (基本的診療知識、基本的診療技能)</p> <p>G 臨床実習 (基本的臨床手技)</p> <p>● 当するコンピテンスおよびマイルストーンへの対応</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プロフェッショナリズム (智・仁・勇) level2 2. 医学知識と問題対応能力 (智・仁・勇) level2 3. 診療技能と患者ケア (智・仁・勇) level2 4. コミュニケーション能力 (智・仁・勇) level3 7. 社会における医療の実践と大阪住民の幸福に貢献する力 (智・仁・勇) level3 8. 科学的探究 (智) level3 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 (智・仁・勇) level3 <p>当科目の習得 (見込みを含む) は、臨床実習前 OSCE の受験資格として共用試験実施評価機構が定めている。</p>

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMACLM3149-J1
授業科目名	プライマリケア医学		
担当教員氏名	教務委員会 外来診療学 / 家庭医療学：医学部同窓会依頼医師（非常勤講師） 板金 広（いたがねファミリークリニック 院長） 奥 知久（おく内科・在宅クリニック 院長） 佐田 竜一（大阪大学大学院医学系研究科）小林 正宜（葛西医院 院長）		
開講年度・学期	2026	曜日・時限	その他
授業形態	講義		
科目分類			
配当年次	4年	単位数	2.1

【シラバス情報】

授業概要	<p>プライマリケアとは、家族及び地域という枠組みの中で、緊急の場合の対応から健康診断の結果についての相談まで幅広く行う医療のことである。本コースでは、診療参加型臨床実習（Clinical Clerkships：CC）開始前までに修得しておくべきプライマリケアに必要な知識を包括的かつ実践的に活用できるよう、プライマリケアの最前線を担う医師が中心になり行われる。具体的には、全体講義ならびに小グループによる問題基盤型学習（Problem Based Learning：PBL）、症例基盤型学習を実施し課題探求・解決能力の身につける。</p>
到達目標	<p>《一般目標》 プライマリケアに必要な態度・知識、問題解決能力を習得する。 自分の力で課題を発見し、自己学習によってそれを解決するための能力を身につける</p> <p>《到達目標》</p> <p>(1) 態度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) プライマリケアに必要な態度・マナーについて説明し実施できる。 2) プライマリケアの必要性を理解し、説明できる。 3) 地域医療連携、機能分担について説明できる。 <p>(2) 知識</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 経験すべき主な症候・病態の原因、分類、診断と治療の概略を発達、成長、加齢ならびに性別と関連付けて述べる事が出来る。 ショック、発熱、けいれん、意識障害・失神、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、肥満・やせ、黄疸、発疹、貧血、出血傾向、リンパ節腫脹、浮腫、動悸、胸水、胸痛、呼吸困難、痰・咳、血痰・喀血、めまい、頭痛、運動麻痺、腹痛、悪心・嘔吐、嚥下困難・障害、食思不振、便秘・下痢、吐血・下血、腹部膨満・腫瘤、蛋白尿、血尿、尿量・排尿の異常、月経異常、関節痛・関節腫脹、腰背部痛 2) 得られた情報をもとに、その症例の問題点を抽出できる 3) 医療安全管理について説明できる。 4) 代替医療（東洋医学を含む）について説明できる。 5) Evidenced Based Medicine（EBM）について説明できる。 6) 医学文献を検索することができる。 <p>(3) 問題解決能力</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 自学自習により情報を収集することができる。 2) 科学的根拠に基づいた論理的思考を身につける。 3) プレゼンテーション技能およびコミュニケーション技能を身に付ける。 4) 問題点を説明できる。 5) 問題解決のための方策を説明できる。
授業内容	<p>大学病院や大規模総合病院では経験することが少ない common disease に対するプライマリケアについて症候学の観点から学習する。つまり、“病院医療”とは異なった“地域医療”の目線から、疾患の病態生、診断そして治療までを系統的に学習することを目的としている。また、グループ学習で行うため、将来のチーム医療に欠かすことのできないコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を向上の習得も目指す。</p> <p>また、医療安全、医学文献検索、代替医療（東洋医学を含む）についても実践的に学習できる内容を盛り込んでいる。</p>
事前・事後学習の内容	臓器別講義で修得した内容について復習しておく。

成績評価方法	試験およびその他の授業内容をもとに評価を行う。
履修上の注意	特になし
教科書	スライド、症例提示
参考文献	特になし
オフィスアワー	9:00-17:00
教員への連絡方法	学務課 (gr-a-gakumu-med@omu.ac.jp)
その他	<p>本コースでは、これまで臓器別に学習してきた疾患概念を症候学別に捉えなおし、より実践的な力を身につけることを目標とします。</p> <p>● コアカリキュラムへの対応</p> <p>H28(旧) : A 医師として求められる基本的な資質・能力 (医師としての責務と裁量権、医学的知識と問題対応能力、学修の在り方、チーム医療の実践、社会における医療の実践、科学的探究、生涯にわたって共に学ぶ姿勢)</p> <p>F 診療の基本 (症候・病態からのアプローチ、基本的診療知識)</p> <p>R4 (新) :</p> <p>PR-01, 02, 03, 04 GE-02 LL-01, 02 PS-01, 02, 03 CS-01, 02, 03 IP-01, 02</p> <p>● 該当するコンピテンスおよびマイルストーンへの対応</p> <p>2. 医学知識と問題対応能力 (智・仁・勇) level1</p> <p>3. 診療技能と患者ケア (智・仁・勇) level1</p> <p>7. 社会における医療の実践と大阪住民の幸福に貢献する力 (智・仁・勇) level2</p>

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	-
授業科目名	漢方医学入門		
担当教員氏名	◎幕内 安弥子（総合医学教育学） 河邊 讓治（医誠会国際総合病院） 森村 美奈（なにわ生野病院） 中本 佳代子（大阪漢方医学振興財団附属診療所）		
開講年度・学期	2026	曜日・時限	その他
授業形態	講義		
科目分類			
配当年次	4年	単位数	

【シラバス情報】

授業概要	西洋医学とは異なる医学体系である漢方医学の概略を学ぶコースである。二千年以上の伝統がある漢方医学に触れ、西洋医学とは違った視点の臨床診療に役立つ診断法、薬剤があることを学ぶのが目的である。
到達目標	漢方医学の成り立ちがわかるようになる。 漢方医学と西洋医学の大きな違いを理解し、言及できる。 漢方薬に用いられる代表的生薬について名称や働き、副作用について言及できる。 代表的漢方薬と処方すべき病態について理解し言及できる。

授業内容	○漢方医学総論（陰陽気血水などベースとなる考え方）疾病の考え方（虚実について）と具体的疾患（気滞・瘀血）の診断治療 ○婦人科漢方を中心に（三大漢方婦人薬の発想からの臨床応用について） ○実臨床に役に立つ弁証と治方（舌診・脈診／生薬について、を含む） ○症例に基づいた代表的漢方薬の活用例
事前・事後学習の内容	河邊の講義に関しては、講義の1週間前までに授業で用いるレジメの pdf を moodle で告知するので授業までに準備すること。

成績評価方法	出席を重視して評価（4年次は小テストを行う場合もあり）
履修上の注意	医学部規則により、原則すべての実習に参加しない限り、単位認定されない。 学修態度が著しく悪い時、その授業への参加を認めないため、不合格になる場合がある。
教科書	スライド、プリント、pdf 等
参考文献	日本漢方医学教育協議会編．基本がわかる 漢方医学講義．羊土社，2020年．
オフィスアワー	9:00-17:00
教員への連絡方法	学務課 (gr-a-gakumu-med@omu.ac.jp)
その他	まず漢方に興味を持ち、漢方を知ると臨床医として治療の幅が広がることを理解してほしいと思います。 H28(旧)： A 医師として求められる基本的な資質・能力（医師としての責務と裁量権、医学的知識と問題対応能力、学修の在り方、科学的探究） F 診療の基本（症候・病態からのアプローチ、基本的診療知識（薬物治療の基本原理）） R4(新)： PR-01, 02, 03 CS-01, 02 (CS-02-04-14) CM-01, 02, 03 GE-01, 02 ● 該当するコンピテンスおよびマイルストーンへの対応 2. 医学知識と問題対応能力（智・仁・勇）level1 3. 診療技能と患者ケア（智・仁・勇）level1

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMASOM3136-J1
授業科目名	産業医学 2		
担当教員氏名	◎林 朝茂、佐藤 恭子、宮川 秀男、柴田 幹子（産業医学）、浦上 年彦（ゆうあいクリニック）、山口 浩光（大阪労働局労働基準部）		
開講年度・学期	2026	曜日・時限	その他
授業形態	講義		
科目分類			
配当年次	4年	単位数	0.4

【シラバス情報】

授業概要	産業保健・根拠に基づいた医療（EBM）に関する講義および実習を行う。 非常勤講師による特別講義を実施する。
到達目標	<input type="checkbox"/> 産業保健の歴史や労働衛生管理について説明できる。 <input type="checkbox"/> 職場におけるメンタルヘルスの現状と対策について説明できる。 <input type="checkbox"/> 産業医に必要なエビデンスとなる英語論文の内容を説明できる。
授業内容	学習ガイドを参照のこと。 アクティブ・ラーニング：EBMに関する講義および実習はレベル2、非常勤講師による特別講義はレベル1
事前・事後学習の内容	個別の事前・事後学習については学習ガイドを参照のこと。

成績評価方法	<input type="checkbox"/> 小テスト、レポートおよび筆記試験によって学修達成度を測る。 <input type="checkbox"/> 2/3以上出席しなければ、筆記試験の受験資格はない。なお、30分以上の遅刻は出席とは認めない。 <input type="checkbox"/> 授業中に配布する出席カードに、与えられた問題や課題などについて回答し、提出したものを出席とする。なお、出席を座席表や口頭で確認することもある。 <input type="checkbox"/> レポートの提出は必須で、未提出の場合は筆記試験の受験資格はない。 <input type="checkbox"/> 原則、小テストの成績（5%）、レポートの内容（25%）、筆記試験の成績（70%）で成績評価をする。 <input type="checkbox"/> 合格には、総合して60%以上の成績が必要である。
履修上の注意	態度も評価対象であり、必要に応じて加点・減点する。
教科書	必携 特になし
参考文献	1) 中央労働災害防止協会編：労働衛生のしおり、中央労働災害防止協会、2025.8 2) 医療情報科学研究所：職場の健康がみえる 産業保健の基礎と健康経営、メディックメディア、2019.12 3) Raymond S.Greenberg 編著：第3版 医学がわかる疫学、新興医学出版、2004.4 4) 中村好一著：基礎から学ぶ楽しい疫学 第4版、医学書院、2020.8 5) 福原俊一著：臨床研究の道標 第2版（上下巻）、2017.7
オフィスアワー	10:00-16:00（会議や出張で対応できない場合があるので、急用でない限り事前にアポイントメントをとること）
教員への連絡方法	Moodle上のメッセージ機能を使って教員に連絡すること
その他	●コアカリキュラムへの対応 旧（H28）：A -1-3)-⑤, A -2-2)-①～③, A -8-1)-①～③, A -9-1)-① B -1-2)-⑥, B -1-3)-①～③、⑦, B -1-4)-④～⑤, B -1-5)-④、⑥, B -1-6)-③～④, B -1-8)-④ B -4-1)-⑬, C -5-4)-② 新（R4）：PR-03-01-01, GE-01-04-01, GE-01-04-02, GE-01-04-04, GE-03-01-01, GE-03-01-02, GE-03-04-04, GE-04-01-05, LL-01-01-01, RE-02-01-01, RE-02-02-01, SO-02-02-01, SO-02-02-02, SO-02-02-03, SO-02-02-05, SO-02-03-01, SO-02-03-05 ●該当するコンピテンスおよびマイルストーンへの対応 1. プロフェッショナルリズム（智・仁・勇）level 2 2. 医学知識と問題対応能力（智・仁・勇）level 2 8. 科学的探究（智） level 2 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢（智・仁） level 2

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMASOM31038-J1
授業科目名	公衆衛生学 2		
担当教員氏名	◎福島若葉、大藤さとこ、松浦知香、小西絢子、加瀬哲男（公衆衛生学）、松尾恵太郎（愛知県がんセンター）、田淵貴大（東北大学）、神谷元（三重大学）、高岡志帆（厚生労働省）、伊藤一弥（大阪公立大学看護学部）		
開講年度・学期	2026	前期	曜日・時限
授業形態	講義		
科目分類			
配当年次	4年	単位数	0.8

【シラバス情報】

授業概要	公衆衛生学や疫学の理論に基づく疾病対策、社会における保健医療政策、健康格差、行動変容といった課題について、行動科学的知見を踏まえた講義を行う。なお、感染症関連の講義については、大阪公立（市立）大学感染症医療人材養成プログラムの感染症基盤プログラム II の内容と連携させている。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 公衆衛生学や疫学の理論に基づく疾病対策の例を列挙できる。 社会における保健医療政策の現状、健康格差の実態、行動変容の方法を説明できる。

授業内容	学習ガイドを参照のこと。
事前・事後学習の内容	個別の事前学習・事後学習については講義毎に指示する。

成績評価方法	<p>(1) 考査試験（100%）により評価する。</p> <p>(2) 合格には60%以上の成績が必要である。</p>
履修上の注意	<p>講義は原則としてすべて出席すること（15分以上の遅刻は出席と認めない）。</p> <p>出席は授業毎の小テストによって確認する。</p> <p>出席状況、学修態度が不良の場合は、減点対象となる場合がある。</p>
教科書	特に定めていない。
参考文献	<ol style="list-style-type: none"> 岸玲子編：NEW 予防医学・公衆衛生学 南江堂 2018 医療情報科学研究所：公衆衛生がみえる（最新のもの）、メディックメディア 中村好一著：基礎から学ぶ楽しい疫学 第4版 医学書院 2020 国試対策問題編集委員会、クエスチョン・バンク（最新のもの）、メディックメディア <p>授業で使うことはないが、基礎知識として講義の前後に読んでおくことが望ましい。</p>
オフィスアワー	<p>10:00-16:00</p> <p>（会議や出張で対応できない場合があるので、急用でない限り事前にアポイントメントをとること）</p>
教員への連絡方法	Moodle 上のメッセージ機能を使って教員に連絡すること
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● コアカリキュラムへの対応 <p>H28（旧）：A-2、A-7、A-8、A-9、B-1、B-4</p> <p>R4（新）：GE-02、RE-03、LL-01、PS-03、S0-01、S0-02、S0-06</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 該当するコンピテンスおよびマイルストーンへの対応 <ol style="list-style-type: none"> 社会における医療の実践と大阪住民の幸福に貢献する力（智・仁・勇） level 2 科学的探究心（智） level 2 生涯にわたって共に学ぶ姿勢（智・仁・勇） level 2

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMASOM3139-J1
授業科目名	法医学		
担当教員氏名	◎石川 隆紀、谷 直人（法医学）		
開講年度・学期	2026	前期	曜日・時限
授業形態	講義		
科目分類			
配当年次	4年	単位数	

【シラバス情報】

授業概要	<p>法医学は基礎医学ではなく、応用医学として社会と密接なかかわりをもった医学分野である。特に近年、医療事故・医事紛争など医療にかかわる社会問題の増加傾向がみられ、医師としての社会的責務をどのように果たしてゆくべきかを十分に理解・認識しておくことが必要である。臨床医にとって、法医学的視点を持ち、問題意識をもって医療を行なっていくことが重要であると考える。これらの問題について、社会医学系法医学の素養の重要性を、事例をあげて興味を持たせつつ示し、知識向上をはかる。そのなかには将来の実務上に有意な内容を盛り込み、基礎から実地応用へと発展させつつ、法医学を十分理解認識させて行くように心がけながらすすめていく。</p>
到達目標	<p>主要な到達目標は以下の通りである。個別の到達目標については、別途記載する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 法医学の定義を理解する <input type="checkbox"/> 法医学の社会的役割について説明できる <input type="checkbox"/> 死の判定の意義を説明できる <input type="checkbox"/> 死体現象について説明できる <input type="checkbox"/> 人の死の社会的認定の医学的、社会的意義について説明できる <input type="checkbox"/> 脳死の定義、判定条件および判定基準を説明できる <input type="checkbox"/> 個人識別および物体検査の目的について説明できる <input type="checkbox"/> 医療を取り巻く法的問題について説明できる <input type="checkbox"/> 損傷の種類とその成傷機転について説明できる <input type="checkbox"/> 窒息・溺死について説明できる <input type="checkbox"/> 交通事故損傷について説明できる <input type="checkbox"/> 集団災害について説明できる <input type="checkbox"/> 異常環境による死亡（熱中症、凍死、火災死など）について説明できる <input type="checkbox"/> 内因性急死とその問題点について説明できる <input type="checkbox"/> 死後画像検査の利点と欠点について説明できる <input type="checkbox"/> アルコール・薬毒物が人体に及ぼす影響について説明できる <input type="checkbox"/> 被虐待児症候群・老人虐待・嬰兒殺・墮胎について説明できる

授業内容	<p>学習ガイドを参照のこと。 アクティブ・ラーニング：レベル1</p>
事前・事後学習の内容	<p>個別の事前学習・事後学習については講義ごとに指示する。</p>

成績評価方法	<p>(1) 授業後の小テストおよび試験によって各単元の学習達成度を測る (2) 原則、試験 80% ならびに小テスト 20% で成績評価する (3) 合格には、総合して 60% 以上の成績が必要である</p>
履修上の注意	<p>講義中に行われる小テストも評価対象であり、必要に応じて加点・減点する。</p>
教科書	<p>特になし</p>
参考文献	<p>1) 検死ハンドブック（南山堂） 2) 標準法医学（医学書院） 3) 死体検案ハンドブック（金芳堂） 4) NEW エッセンシャル法医学（医歯薬出版） 5) 死亡診断書（死体検案書）記入マニュアル（厚生統計協会）</p>
オフィスアワー	<p>10:00 - 16:00 （会議や出張、解剖業務などで対応できない場合があるので、急用でない限りアポイントメントをとること）</p>

教員への連絡方法	大阪公立大学大学院医学研究科法医学教室 Mail: gr-med-legalmed@omu.ac.jp
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●コアカリキュラムへの対応 H28(旧): A-7-1), B-2-1), B-2-2) R4(新): GE-03, GE-04, CS-02, CS-03, S0-03 ●該当するコンピテンスおよびマイルストーンへの対応 <ol style="list-style-type: none"> 7. 社会における医療の実践と大阪住民の幸福に貢献する力 (智・仁・勇) level2 8. 科学的探究 (智) level2 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 (智・仁・勇) level2

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMA4150-J4
授業科目名	外来型 CC		
担当教員氏名	各臨床診療科教員および医師（別紙：学習ガイド参照）		
開講年度・学期	2026	曜日・時限	その他
授業形態	実習		
科目分類			
配当年次	5年	単位数	1.8

【シラバス情報】

授業概要	診療参加型臨床実習（Clinical Clerkships：CC）の導入として、外来診療を行っている現場において実習を行う。実際の患者さんを相手にした診療業務を通じて、どの診療科の医師になるとしても必要な医療面接、診療記録とプレゼンテーションを実践的に身につけることを目標とする。
到達目標	<p>到達目標の詳細は別紙、診療参加型臨床実習のための学習ガイドに記載している。すべてのコンピテンシーには関連するが、特に以下の項目を重視する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プロフェッショナリズム 医療専門職としての自己の役割を理解し、高いモラルを持って患者中心の医療を実践できる。 1) 患者および家族のニーズを認識し、患者中心の医療を提示、実践することができる。 2) 医療専門職として社会における自己の役割を理解し、継続的に学修することができる。 3) 高いモラルを持ち、品性のある行動をとることができる。 3. 診療技能と患者ケア 患者の苦痛や不安感に配慮し、診療、臨床手技を実践することができる。 1) 論理的で体系的な医療面接、身体診察を行うことができる。 2) 頻度の高い疾患に関して、適切な鑑別診断と治療戦略を立てることができる。 3) 基本的な臨床手技や緊急救命処置を安全に実践することができる。 4. コミュニケーション能力 患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築くことができる。 1) 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援することができる。 2) 患者や家族の抱える問題を身体・心理・社会的側面から把握することができる。 3) 適切な症例プレゼンテーションを行える。 4) 患者の状態について、報告・連絡・相談ができる。 5. チーム医療の実践 医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携できる。 1) 医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。 2) チームの各構成員と情報を共有し、連携を図る。 8. 科学的探究 医学及び医療における科学的アプローチを理解できる。 1) 医学及び医療上の疑問点を挙げることができ、適切にエビデンスを収集できる。 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 生涯にわたって自律的に学び、共に研鑽し、相互に教育することができる。 1) 国際的な広い視野をもち、急速に変化・発展する医学知識を学び、吸収できる。 2) 同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあうことができる。
授業内容	事前に学務課より配属された外来部署にて外来実習を行う。配属先や期間については別紙を参照の事。本実習では、割り当てられた患者に付き添い、予診（問診）を行う。その後、初診担当医師に情報収集した内容を簡潔にプレゼンテーションし担当医師の診療に参加、診療内容をカルテに記載する。その他の時間帯は、外来部署の一員として、医療職の監督のもと外来業務の補助につく。担当した患者については、原則、午後から行われる症例検討会でプレゼンテーションを行う。
事前・事後学習の内容	症例検討会に向けて、担当患者の病歴、身体所見、各種検査結果、鑑別診断、治療方針等の知識整理を行うこと。事前準備にあたってはグループ全体で行うことを推奨する。チーム基盤型学習（Team-Based Learning）を行うことで、多くの症例を間接的にも経験できること、多くの気づきが得られること、コミュニケーション力やプレゼンテーション力の向上につながる。

成績評価方法	①外来型 CC 症例リスト（指導医師による評価表付）、②自己評価表、③指導体制評価、④看護師評価をもとに評価を行う。①は必ず担当医師からの評価（署名）を受け、学務課に提出すること。②-③は REDCap から提出、④は指定の用紙を実習初日に外来看護師主任に渡し、評価（Web アンケート形式）を行ってもらえるように依頼して下さい（上手に依頼できることも重要な要素となります。依頼しなければ評価を受けられないので注意して下さい）。
履修上の注意	（別紙：学習ガイド参照）
教科書	学習ガイド
参考文献	特になし
オフィスアワー	9:00-17:00（診療や出張、研究等に対応できない場合があるので、急用でない限り事前にアポイントメントをとる事）
教員への連絡方法	学務課（gr-a-gakumu-med@omu.ac.jp）
その他	<p>コアカリキュラムへの対応 H28（旧） A-1～9：医師として求められる基本的な資質・能力（プロフェッショナリズム、医学知識と問題対応能力、診療技能と患者ケア、コミュニケーション能力、チーム医療の実践、医療の質と安全の管理、社会における医療の実践、科学的探求、生涯にわたって共に学ぶ姿勢） F-1～3：診療の基本（症候・病態からのアプローチ、基本的診療知識、基本的診療技能）G-1～4：臨床実習（診療の基本、臨床推論、基本的臨床手技、診療科臨床実習）R4（新） PR-01～04：プロフェッショナリズム（信頼、思いやり、教養、生命倫理） GE-01～04：総合的に患者・生活者をみる姿勢（全人的な視点とアプローチ、地域の視点とアプローチ、人生の視点とアプローチ、社会の視点とアプローチ） LL-01～02：生涯にわたって共に学ぶ姿勢（生涯学習、医療者教育） RE-01～05：科学的探求（リサーチマインド、既知の知、研究の実施、研究の発信、研究倫理） PS-02～03：専門知識に基づいた問題解決能力（人体各器官の正常構造と機能・病態・診断・治療、全身に及ぶ生理的变化、病態、診断、治療） IT-01～03：情報・科学技術を活かす能力（情報・科学技術に向き合うための倫理観とルール、医療とそれを取り巻く社会に必要な情報・科学技術の原理、診療現場における情報・科学技術の活用） CS-01～05：患者ケアのための診療技能（患者の情報収集、患者情報の統合・分析と評価・診療計画、治療を含む対応の実施、診療経過の振り返りと改善、医療の質と患者安全） CM-01～03：コミュニケーション能力（患者に接する言葉遣い・態度・身だしなみ・配慮、患者の意思決定の支援とそのため情報収集・わかりやすい説明、患者や家族のニーズの把握と配慮） IP-01～02：多職種連携能力（連携の基盤、協働実践）</p> <p>● 該当するコンピテンスおよびマイルストーンへの対応</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プロフェッショナリズム（智・仁・勇） level2 2. 医学知識と問題対応能力（智・仁・勇） level2 3. 診療技能と患者ケア（智・仁・勇） level2 4. コミュニケーション能力（智・仁・勇） level3 5. チーム医療の実践（仁） level3 6. 医療の質と安全の管理（仁） level3 7. 社会における医療の実践と大阪住民の幸福に貢献する力（智・仁・勇） level3 8. 科学的探究（智） level3 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢（智・仁・勇） level3

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMACLM4151-J4
授業科目名	ユニット型 CC(ユニット型クリニカルクラークシップ)		
担当教員氏名	各臨床診療科教員および医師		
開講年度・学期	2026	曜日・時限	その他
授業形態	実習		
科目分類			
配当年次	5年	単位数	40

【シラバス情報】

授業概要	<p>医学教育の最終段階における本臨床実習では、卒後には医師としての第一歩を踏み出すことができるよう、診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら、医学知識・臨床推論法、技能、態度などを実践的に修得し、さらに全人的な視点とアプローチを獲得することで、総合的に患者・生活者を診る姿勢を身に着けることを目標とする。医師という専門性の高い職種の社会的責任を意識し、十分な実務経験を重ねることを望む。</p>
到達目標	<p>大阪公立大学医学部の卒業時コンピテンシーを以下に示す。本実習終了時点で下記のコンピテンシーが習得できるように努める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プロフェッショナリズム <ol style="list-style-type: none"> 1) 患者および家族のニーズを認識し、患者中心の医療を提示、実践することができる。 2) 医療専門職として社会における自己の役割を理解し、継続的に学修することができる。 3) 高いモラルを持ち、品性のある行動をとることができる。 2. 医学知識と問題対応能力 <ol style="list-style-type: none"> 1) 診療や研究の基盤となる基礎医学の領域の基礎的知識を修得し、応用することができる。 2) 診療や研究の基盤となる臨床医学の領域の基礎的知識を修得し、応用することができる。 3) 診療や研究の基盤となる社会医学の領域の基礎的知識を修得し、応用することができる。 4) 医療の基盤である生命科学、行動科学などの関連領域の知識と原則を理解し、医療の現場で実施することができる。 3. 診療技能と患者ケア <ol style="list-style-type: none"> 1) 論理的で体系的な医療面接、身体診察を行うことができる。 2) 頻度の高い疾患に関して、適切な鑑別診断と治療戦略を立てることができる。 3) 基本的な臨床手技や緊急救命処置を安全に実施することができる。 4. コミュニケーション能力 <ol style="list-style-type: none"> 1) 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援することができる。 2) 患者や家族の抱える問題を身体・心理・社会的側面から把握することができる。 3) 適切な症例プレゼンテーションを行うことができる。 4) 患者の状態について、報告・連絡・相談ができる。 5. チーム医療の実践 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。 2) チームの各構成員と情報を共有し、連携を図る。 6. 医療の質と安全管理 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療の質と患者安全の重要性を理解する。 2) 医療事故等の予防と事後の対応を知る。 3) 医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む。）を理解し、自らの健康に努める。 7. 社会における医療の実践と大阪住民の幸福に貢献する力 <ol style="list-style-type: none"> 1) 保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。 2) 大阪の地域医療に携わり、指導/監督のもと診療に参加できる。 3) 大阪の医療の現状、課題を理解する。 8. 科学的探究 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医学及び医療上の疑問点を挙げることができ、適切にエビデンスを収集できる。 2) 科学的研究方法を理解する。 3) 研究の意義を理解し、参加、協力できる。 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 <ol style="list-style-type: none"> 1) 国際的な広い視野をもち、急速に変化・発展する医学知識を学び、吸収できる。 2) 同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあうことができる。

授業内容	<p>本実習では以下のユニットに8週間ずつ配属される。</p> <p>ユニットA：循環器内科、心臓血管外科、膠原病・リウマチ内科、呼吸器内科、呼吸器外科、感染症内科、総合診療科</p> <p>ユニットB：消化器内科、肝胆膵内科、消化器外科、肝胆膵外科、放射線科・放射線治療科・核医学、患者安全学</p> <p>ユニットC：代謝内分泌・腎臓内科、乳腺外科、泌尿器科、皮膚科、形成外科、整形外科</p> <p>ユニットD：神経精神科、脳神経内科、眼科、耳鼻咽喉科、脳神経外科</p> <p>ユニットE：産婦人科、小児科、小児外科、血液内科、麻酔科、救命救急センター</p> <p>各ユニットの授業内容や授業計画については、別紙（学習ガイド）を参照のこと。</p>
事前・事後学習の内容	<p>別紙（学習ガイド）に各診療科の到達目標が明記されている。</p> <p>実習内容を事前に把握できるようにしているため、各ユニット、各診療科の実習前には必ず読んでおくようにする。</p>

成績評価方法	<p>「ユニット型CC（クリニカルクラクシップ）評価基準」に基づいて評価する。</p> <p>また、スチューデントドクターの総合能力を評価する目的として実施する、簡易版臨床能力評価法（mini-CEX：mini-Clinical Evaluation eXercise）も評価の一つとする。</p>
履修上の注意	特になし
教科書	診療参加型臨床実習のための学習ガイド
参考文献	特になし
オフィスアワー	9:00-17:00（診療や出張、研究等で対応できない場合があるので、急用でない限り事前にアポイントメントをとる事）
教員への連絡方法	学務課（gr-a-gakumu-med@omu.ac.jp）
その他	<p>医師になる前の重要な実習です。可能な限りチームの一員として診療に携わり、これまでの講義で学んできた知識が、実際の医療現場でどのように生かされているのかを実感してもらいたいです。</p> <p>コアカリキュラムへの対応 H28（旧） A-1～9：医師として求められる基本的な資質・能力（プロフェッショナリズム、医学知識と問題対応能力、診療技能と患者ケア、コミュニケーション能力、チーム医療の実践、医療の質と安全の管理、社会における医療の実践、科学的探求、生涯にわたって共に学ぶ姿勢） F-1～3：診療の基本（症候・病態からのアプローチ、基本的診療知識、基本的診療技能）G-1～4：臨床実習（診療の基本、臨床推論、基本的臨床手技、診療科臨床実習）R4（新） PR-01～04：プロフェッショナリズム（信頼、思いやり、教養、生命倫理） GE-01～04：総合的に患者・生活者をみる姿勢（全人的な視点とアプローチ、地域の視点とアプローチ、人生の視点とアプローチ、社会の視点とアプローチ） LL-01～02：生涯にわたって共に学ぶ姿勢（生涯学習、医療者教育） RE-01～05：科学的探求（リサーチマインド、既知の知、研究の実施、研究の発信、研究倫理） PS-02～03：専門知識に基づいた問題解決能力（人体各器官の正常構造と機能・病態・診断・治療、全身に及ぶ生理的变化、病態、診断、治療） IT-01～03：情報・科学技術を活かす能力（情報・科学技術に向き合うための倫理観とルール、医療とそれを取り巻く社会に必要な情報・科学技術の原理、診療現場における情報・科学技術の活用） CS-01～05：患者ケアのための診療技能（患者の情報収集、患者情報の統合・分析と評価・診療計画、治療を含む対応の実施、診療経過の振り返りと改善、医療の質と患者安全） CM-01～03：コミュニケーション能力（患者に接する言葉遣い・態度・身だしなみ・配慮、患者の意思決定の支援とそのための情報収集・わかりやすい説明、患者や家族のニーズの把握と配慮） IP-01～02：多職種連携能力（連携の基盤、協働実践）</p> <p>● 該当するコンピテンスおよびマイルストーンへの対応</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プロフェッショナリズム（智・仁・勇） level3 2. 医学知識と問題対応能力（智・仁・勇） level3 3. 診療技能と患者ケア（智・仁・勇） level3 4. コミュニケーション能力（智・仁・勇） level3 5. チーム医療の実践（仁） level3

その他	<ul style="list-style-type: none">6. 医療の質と安全の管理 (仁) level37. 社会における医療の実践と大阪住民の幸福に貢献する力 (智・仁・勇) level38. 科学的探究 (智) level39. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 (智・仁・勇) level3
-----	--

ユニット型 CC（クリニカルクラークシップ）評価基準

承認 令和元年11月28日教授会

ユニット型クリニカルクラークシップ(CC)の評価は、学生評価リストとユニット型 OSCE により行う。

1. 学生評価リスト

1) 学生評価リストは、次の6項目からなる。

評価は指導医が実施する。また、責任者は担当科の長とする。

- ① 知識：臨床医学全般に関する常識、専門用語の理解、症状・診断・治療に関する知識
- ② 技能：患者面接の技能、病歴を聴取し記載する技能、診療技術全般
- ③ 態度：見学中の態度、実習生としての服装、時間の厳守、患者に対する態度、指導医・看護師・同僚に対する態度
- ④ 総合評価
- ⑤ 学生に対するコメント
- ⑥ 出席日数・遅刻日数

2) 知識、技能、態度の3項目及び総合評価は次の5段階評価する。基本的な考え方は、優秀な学生を評価することよりも、3項目に関して（とりわけ態度面で）進級させるべきでない学生の検出にある。

5：優秀なもの（優）

4：平均的な能力を示すもの（良）

3：能力はやや劣るが進級させても良いもの（可）

2：能力に問題があり進級は慎重に判断する必要があるもの（進級判定保留）

1：能力に著しく問題があり進級させるべきでないもの（不可）

多数の指導医で評価されるため、5～1各段階の比率は規定しない。

3) 学生に対するコメントは自由記入とし、知識、技能、態度の3項目及び総合評価のいずれかに1または2がある場合には必ず記入する。

4) 出席日数は医学部履修規程に定めるとおりとする。遅刻日数は前項2)の評価の判断に含める。

5) 学生評価は各担当科ユニット型 CC 終了後、1週間以内に入力し学務課に提出する。

2. ユニット型 OSCE

ユニット型 OSCE は、ユニット A、B、C、D 及び E のすべてに合格しなければならない。ただし、5年次においてすべてに合格しなかった場合は、次年度に受験しなければならない。

3. 最終評価

総合評価で2が2個以上または態度・技能・知識の3項目いずれかの2が5個以上ある者か、1が1個以上ある者は、進級保留者とし教務委員長を含む教務委員3名と面接を行う。

附則 この基準は令和2年1月1日以降の履修学生に適用する。

「5年次学生の進級判定基準」（平成16年4月8日教授会承認）は廃止する。

附則 この基準は令和4年1月1日以降の履修学生に適用する。